

日本水泳連盟
機 関 誌

水泳

第 101・102 号
昭和 29 年 8 月

水



日本水泳連盟創立三十周年記念

"SUIEI" Nos. 101・102 AUGUST 1954

NIPPON SUIEI RENMEI
AMATEUR SWIMMING FEDERATION OF JAPAN

昭和29年度主要水上競技会日程予定

(◎印 N. S. R. 直轄事業)

- ◎4月3日(土)・4日(日)
第2回アジア大会最終予選会出場選手選考会……………東大プール
- ◎4月10日(土)・11日(日)
第2回アジア大会最終予選会……………東大プール
- 5月1日(土)ヨリ10日(月)マデ
第2回アジア競技大会……………マニラ
- 6月6日(日)
第26回早慶対抗水上競技大会……………神宮プール
- 6月13日(日)
第19回立・日・明三大学対抗水上競技大会……………神宮プール
- ◎6月21日(月)ヨリ27日(日)マデ
水泳指導者講習会,並に検定試験……………国民体育館
- ◎6月～7月 強化指導会
- 7月24日(土)・25日(日)
第22回日本高等学校選手権水上競技大会地方予選会
- 7月31日(土)・8月1日(日)
昭和29年度日本選手権水上競技大会地方予選会
第5回全国勤労者大会水上競技大会地方予選会
- ◎8月4日(水)ヨリ8日(日)マデ 水泳教室
- 8月7日(土)・8日(日)
北海道高等学校選手権水上競技大会……………小樽市 伊達高校プール
東北 〃……………山形県 米沢松ヶ岬プール
関東 〃……………茨城県 水戸新設プール
中部 〃……………岐阜県 県営プール
近畿 〃……………大阪府 大阪プール
中国 〃……………広島県 呉市営プール
四国 〃……………徳島県 城南高校プール
九州 〃……………鹿児島県 伊集院高校プール
- ◎8月12日(木)ヨリ15日(日)マデ
昭和29年度日本選手権水上競技大会……………神宮プール
- ◎8月18日(水)・19日(木)
国際水上競技大会……………大阪プール
- ◎8月20日(金) 国民皆泳大会
- ◎8月20日(金)ヨリ22日(日)マデ
第22回日本高等学校選手権水上競技大会……………神宮プール
- 8月28日(土)・29日(日)
第5回全国勤労者大会水上競技大会……………高知市プール
関西・中部・西部学生選手権水上競技大会……………未定
- 9月4日(土)・5日(日)
第27回関東学生選手権水上競技大会……………神宮プール
第9回国民体育大会水上競技大会地方予選会
- 9月10日(金)ヨリ12日(日)マデ
第30回日本学生選手権水上競技大会……………神宮プール
- ◎9月19日(日)ヨリ22日(水)マデ
第9回国民体育大会水上競技大会……………天理プール

日本水泳連盟創立三十周年記念

日本水泳連盟
機 関 誌

水 泳

第 101・102 号
昭 和 29 年 8 月

目

次

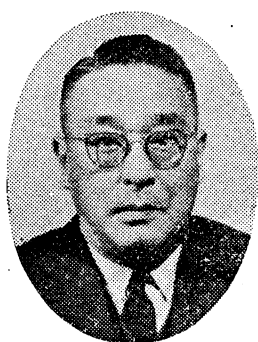
“三十周年を迎えて”	田 畑 政 治	(2)
“メルボルンへの道”(—中間展望—)	藤 田 明	(4)
“各国水連の人達”	安 部 輝太郎	(6)
“想 い 出”	顧 問・評議員	(12)
“想い出と希望”	著 名 選 手	(17)
“泳法の解説”	強 化 委 員 会	(24)
競泳のスピードと足首の柔軟性	宮 畑 虎 彦	(28)
プール公認		(31)
女子水泳について	杉 本 伝	(32)
クロールの体型について	斎 藤 武五郎	(34)
考える練習	木 村 象 雷	(35)
“水球競技小史”	水 球 委 員 会	(36)
国際的水球競技の新動向とその対策	時 任 巖	(45)
水泳誌創刊号より		
東京—横浜 OB 水球戦を見て		(58)
シンクロナイズド・スウィム	白 山 源三郎	(59)
水泳の身体的障害の有無について	鞆 田 幸 徳	(61)
“10傑表グラフと所感”	川 田 友 之	(62)
“日本競泳 100 傑表”	島 田 桃一郎	(67)
プール 40 年	深 谷 俊 明	(81)
“アンケート”		
加盟団体の声		(87)
編集後記		(90)

◎ 表紙写真は昭和29年度日本選手権水上競技大会入賞者に贈る記念メダル，彫刻は朝倉文夫氏による。

“30周年を迎えて”

日本水泳連盟会長

田 畑 政 治



日本水泳連盟も創立30周年を迎えるに至った。吾々は本連盟の組織と発展に渾身の努力を払われた今は亡き末弘、梅沢、飯田、石本諸先生を初め、全国各地の諸先輩に心からなる感謝の念を捧げなければならない。連盟の本部事務所も、本郷区西片町1番地ほ4号飯田光太郎方から、代々木山谷田畑政治方を経て、大東京の中心、丸ビルに安定し、今や“NIPPON SWIM”で世界に通用するようになった。又競技場も日本選手権大会やオリンピック予選の度毎に、今日は生麥、明日は調布、去年は玉川、今年は芝公園とあちらこちらの貸プールを捜し求めてさまよい歩いたのが、明治神宮外苑に世界一流のホーム・プールを持って、誰に遠慮することもなく、いつでも安心して競技会を開けるようになり、一方、競技的レベルも、外国の女子選手にさへ及ばなかったのが、ロサンゼルス・オリンピック大会を機として、世界最高の地位にまで押し上げた今日から、歩いて来た跡を省みると、よくぞここまで来たものだと感慨にふけざるを得ない。これも全ては、全日本水泳関係者の情熱の結晶によるものである。

日本の水泳がここまで来たのは、水連歴史前の

長い伝統と、全国各地の水泳競技者諸氏の隠れた努力が非常に大きい背景と素地を作っていることはいうまでもないことであるが、その直接の原因は、日本水泳界が日本水泳連盟の旗の許に単一組織化されて、その普及、発展に強力にして迅速、且つ計画的に遂行された所にあると確信する。そのため、まづ日本水泳連盟と対立関係にあった日本遊泳連盟を解消させ、次に日本水泳連盟の生みの親である全国学生水上競技連盟が学生水泳を代表して、日本水連の組織の中に加わり、その推進隊となったことが、日本水泳界を今日あらしめた最大の原因であると信ずる。ロサンゼルス・オリンピック大会の直後、米国オリンピック・チームのヘッド・コーチ、キップス君が、米国水泳界は組織が日本のように統一、且つ単一化しておらず、ばらばらに勝手に動いており、米国としての計画的施策が行われていないのが敗戦の最大の原因である。要するに米国の水泳界の組織が、日本の組織に負けたのだといったのを見ても明かである。分派活動は弱体活動以外の何物でもなく、協力と団結による単一組織と単一活動のみが強化発展への唯一の途である。これが日本水泳連盟の最大の強みであって、これを棄てた時は、水連、否日本水泳界自滅の時である。

大学正科体育教師の一部が意図している大学スポーツ統合の動きは、結果に於ては大学競技者を一般組織から引放すこととなって、スポーツ界の

混乱と低調を来す以外の何の効果もない。大学当局の意向を反映せしめるためには、学生部会の中に大学水泳部長たる教師を加えれば充分目的は達せられる。大学スポーツ統合の動きは、日本スポーツ界の主動権を握ろうとする一部野心家の憎むべき策謀以外の何物でもない。吾々は飽くまで分派行動を排撃し、大学水泳部長、高体連、中体連の水泳担当諸氏と手を握って、水泳界の大同団結を益々完成して、日本水泳界の向上発展に邁進しなければならない。

従来の世界水泳界は、日、米両国が断然支配的地位に立っていた。チックがオリンピック100米に優勝しようが、又世界記録を破る者が2人や3人、日、米両国以外から出ようとも、日、米両国の王座は微動もすることはなかった。それが現在の庭球界における濠、米両国の地位と同様であった。併し終戦後、古橋、橋爪君らがロサンゼルス of 全米選手権大会で、ロサンゼルス・オリンピック大会の盛事を再現して以来、世界水泳界の様相は全く変貌した。全世界水泳界のレベルは巨人古橋の出現で、急激、且つ飛躍的に引上げられ、群雄活抛の戦闘時代を現出し、仏、独、ハンガリー、スウェーデンを初め、全欧洲、ならびに濠洲の躍進は実に目覚しいものがある。特に恐るべきはソ連の進出である。もしメルボルン・オリンピック大会で優勝を失すれば、日本は世界水泳界の主動的地位から追落される恐れは非常に強い。幸いに1500米には山下、新宅君ら初め、新進の強豪が輩出する気運にあり、短距離も鈴木、谷川、後藤君等のベテランに対し、谷、古賀君らの新進が着々主動的地位に押し上がろうとしているし、ウィーク・ポイントとして、一時はあきらめざるを得まいとさへ思われた背泳も、梶浦、長谷君らの出

現で、再びロサンゼルス大会再現の期待を強めている。特に平泳とバタフライの分離は、お家芸の平泳は勿論だが、バタフライも優勝の可能性は決して少なくない。メルボルン・オリンピック大会こそは日本水泳界にとっては逸すべからざるチャンスであり、勝てば日本水泳の王座は当分揺がないであろうが、もし敗れば世界水泳界の主流から取残されてしまうという岐路に立つわけで、メルボルン・オリンピック大会は、日本水泳界にとってはまさに関ヶ原の一戦である。ただ我々が心すべきは伝統の浅いレスリングや体操は世界第2位になれば勝ったということになるが、水泳はそうはゆかない。水泳日本には優勝以外に勝利はない。世界第2位では完敗といわれる。苦しいことではあるが、水泳日本にのみ許された名誉ある特権である。

ヘルシンキ・オリンピック大会の帰途、ロンドンに立ち寄った際、英国の友人が「葉巻をくわえていないチャーチル首相は、例えそれが本人に間違いないとしても、どうしてもチャーチルらしくはない。日本のオリンピック・チームも、例えどんな種目で善戦しても、水泳は優勝しなければ、日本のオリンピック・チームらしくない。」といった言葉を今でも忘れられない。日本のオリンピック・チームを、日本のオリンピック・チームらしくするために、協力一致、総べての力を結集して、是非ともメルボルン・オリンピック大会の優勝を獲得しようではないか。

× × ×

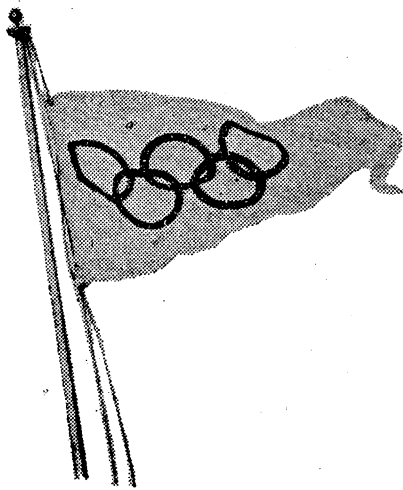
 × × ×

メルボルンへの道

— 中間展望 —

日本水泳連盟理事長

藤 田 明



ヘルシンキから戻った直後、私はメルボルン・オリンピックに対する課題として、次の四項目に挙げた。

- (1) 水泳人口の増加、殊に競技者層の開発
- (2) 強化施策の確立、並びに実践
- (3) 国際訓練の実施
- (4) 水泳施設の拡充、殊に長水路室内プールの新設

1952年から1956年までのオリンピックは、敗北に叩きのめされた日本の水泳を再建しなければならぬ最も重要な時期であり、考えようによっては日本が国際水泳界の覇者乃至一流国としての地歩を維持できるか、或いは二、三流国に転落するかの分岐点に立たされているといっても過言ではない。いつの場合でも努力を怠ることは許されないが、この4年間程切実に精進を続け、更にそれを結実させることの緊急性を要望されている時期はない。今は丁度中間年に当り、オリンピック前半の反省を試みるにふさわしい時ではあるまいか。この際、取り敢えず前掲の4課題に就いて2年間の成果を検討することは、決して無意味なことではあるまい。

(1) 水泳人口の増加、殊に 競技者層の開発

末弘前会長が「ピラミッドの頂点を高めるためには、先づ底辺を広くしなければならない」と喝破されたように、最高の水準をねらう水泳日本にとって、欠くことのできないのは、水泳人口の増加であろう。これを実現するためには、先づ指導者の養成と施設の拡充が必要で、特に前者の比重は甚だ重いとわなければならない。昨年来水連普及部と文部省との提携が実現して、指導者講習会と検定が実施せられ、殊に全国加盟団体が挙って強く要望した単位講習が実現して、学校関係者の熱意を誘発するに至ったことは喜びに堪えない。従来、指導者の検定を中央一本で施行していたのを、簡略に地方でそれぞれ実施することに改めたのが、軌道に乗ってきた向きが少くないので、更に実効が期し得られる体勢になってきた。

競技者層の開発に就いては、中学生、高校生に重点を置

いているのは論を俟たない。全国中学校選手権の復活は、水連の総意として、昨秋来、約半歳に亘って討議を続けた「学徒対外試合の基準作成協議会」に強く要望したが、遂にその成立を許されなかったのは遺憾至極であった。併し各都道府県大会は、例え宿泊を要する場合でも許されることとなったのと、水泳の特殊性が認められて、「国際水準にある者、並びに国際水準に達する見込のある者」に対しては日本選手権や国際大会に参加する道が開け、現に本年度の日本選手権大会に優秀な素質を持つ者が天下晴れて参加することになったので、水泳教室と相並んで、大きく中学生競技者の開発に役立つことと確信している。

高校生に就いては、昨年府県大会——ブロック大会——中央大会と、三段構えにインター・ハイを改組したが、第2年を迎えて本格的に効率をあげることが期待される。更に長年の懸案であった高体連との共催が実現し、高体連が競技者の動員に積極的な熱意を示しているの、基盤の拡充は期して待つべきものがある。この機会をのがさず、中央、地方一本となって、中学校、高校の開発に、一段と拍車をかけたいと願っている。

(2) 強化施策の確立、並びに実践

昨年高石勝男氏を委員長として発足した強化委員会は、組織と施策を確立すると共に、実践活動を行ったが、本年は第2年を迎えて、本格的な実践期に入った。昨年度は標準となる泳法の検討に暇取ったため、取り敢えず各地方の水泳中心地を対象としたが、本年は比較的水泳の不振な土地を多く含んだので、新しい分野の進展が見込まれる。この2年間に北海道を除く全地域を一巡したわけで、同氏の献身的労力を多としなければなるまい。

高石委員長のねらいは、中学生、高校生と、これを直接指導する人達に泳ぎと練習法を理解して貰うことが主で、各地共強化講習会と併行して行われた懇談や質疑応答が、指導者の意欲をかきたて、今後の強化指導に立派な成果を収めるに違いない。2年に亘って地方水泳界の実体にふれた高石氏は、近く資料を取りまとめて報告すると洩らされているので、大いに期待している。

6-3-3-4の新学制が、我国スポーツの健全な発達を阻害していることは明瞭で、特に従前の中等学校を3-3と中学・高校に両断したことは、致命的な支障をもたら

している。水泳日本の最も広い基盤が、往時の中学校にあったことを、何人も否定することはできまい。新しい学制のもとで考えられることは、新インター・ミドルと新インター・ハイを組織運営することだが、凡ゆる努力を傾けているにも関わらず、前者は今なお桎梏に閉じこめられたままである。水泳教室は、この開放に一步でも近づきたい悲願が結実して、昨年来実施されてきた。本年も国際水上競技大会を見学して好刺激を与えることに変わりはないが、更に正式記録会を開催して、一層の成果を挙げたいと待望している。

(3) 国際訓練の実施

戦後世界の水泳界が画期的に水準を高め、且つこれが世界の全地域に及んでいるのは、国際的な交流に負うところが甚だ多い。伝統と実績を誇る欧州選手権大会を筆頭に、汎アメリカ大会、地中海大会、アジア大会等の地域オリンピックと見做されるものの発足、永年の鎖国主義を捨て、世界スポーツ界の王座を狙うソ連、及びその共栄圏国家の競技交流、更に近代スポーツの始祖英国を核心とする全英競技大会の開設等、一連の国際活動は、切磋琢磨の機会に於て日本を孤立的立場に置いている。アジア大会の機会は与えられているが、水準の点から見て満足するに価するものではない。従って我々は自らの手で、その機会を作らなければならない苦境に置かれている。

今次オリンピックの年次計画は、当初、

- | | |
|-------|-----------------|
| 1953年 | オリンピック優勝選手招待 |
| 1954年 | 第2回アジア大会参加 |
| 1955年 | 第4回日米対抗水上競技大会開催 |
| 1956年 | メルボルン・オリンピック参加 |

であったが、1953年にはヒリッピン(2回)、ブラジルから招聘があり、1954年にもヒリッピン、ハワイから招かれ少人数乍ら国際訓練の機会を持ち得たことは喜びに堪えない。

世界水泳界は文字通り日進月歩の向上を示し、情報の的確な把握と共に、常に最高峰の水準に接することが、国際進出の二要件になるので、本年も昨年に引き続いて、欧米の最強選手を日本選手権大会に招聘することとした。白羽の矢を立てたフランスのボゾン、ポットゥと、濠州のヘンリックス、チャップマンが、夫々国際対抗競技、全英競技大会とかち合って来朝不能となったのは残念だが、平泳世界記録保持者グライエ(丁)と、短・中・長距離、及びバタフライのアメリカ最強豪が勇躍参加するので、所期の目的を達成して剩りがあろう。

来年の日米対抗は、メルボルン・オリンピックの前哨戦とも見られ、又ロサンゼルス、ベルリン、ヘルシンキの各オリンピックで、日米対抗の勝者が常に王座に就いている過去の事象に鑑み、充分な心構えと万全な競技力を持つチ

ームで制勝し、オリンピック優勝への幸先よいスタートを切りたいものである。

併し現今の世界水泳界は、日米の争覇に終始した往時の様相を一擲して「日米対抗を制するものはオリンピックを制す」といい切れぬ程の充実と向上を示している。地元濠州は若い階層の開発が徹底して、物凄い上昇線を辿っているし、ハンガリーは無敵を誇る水球、女子競泳の外、男子競泳に於ても、各種目に強豪が確実な進歩を示している。フランスはポットゥのカム・バックとボゾンの進歩に依存しているし、ソ連は着々選手養成の実を挙げているので、メルボルンでは思う存分怪物振りを発揮するに違いない。その他英国、瑞典等も侮り難い実力を包蔵している。このようにメルボルン・オリンピックは空前の混戦を予想されるが、日本も10代の鬼才が踵を接して輩出しているので、今後の進出如何によっては、制覇も、断じて夢ではない。1956年は、専ら内地で最後の仕上げに専念することとなるので、今年から来年にかけては、特に国際訓練の機を逃さず、世界の檜舞台に立つ際いささかも動じない素養を身につけてほしいものだ。

(4) 水泳施設の拡充、竝に 長水路室内プールの新設

戦後国際大会、国体、勤労者大会等を楔機として、総合水泳場が数多く建設せられた。観客席25,000を持つ大阪プールを始め、八幡、呉、天理、横浜、宇都宮、高知は既に完成し、浜松、館山、会津若松、神戸、岐阜、水戸にも立派な競泳池が整備され、夫々飛込池併設の機運にあるし、鎌倉、高岡等の国体候補地はもとより、松山、徳島にも総合水泳場設置の計画が進んでいる。終戦以来水連の公認乃至再公認したプールは、50mプール43、25mプール39で、決して少い数ではなく、小・中・高校等に建設せられたものを加算すれば、おそらく300を下るまい。

併しながら、焦眉の急を要する長水路室内プールの建造が、なかなか緒に就かないのは残念でならない。目下の計画は1960年のオリンピック東京招致に繋がるもので、最近漸く国営競技場として新設される機運が醸成され、田畑会長がN.O.C.総務主事の立場からも促進に努力を続けている。日本青年館裏の旧連隊跡と場所も内定し、1958年5月開催の第3回アジア競技大会会場として、大スタンド下に、長さ50米、巾15米、観客席3,000人程度の加温、冷却、濾過の諸装置を完備した室内プールを作ること、更にこれを明後年の夏までに完成して貰いたい旨をN.O.C.宛申し出ている。これはメルボルン・オリンピック直前の9月~11月間の練習に充てたい意図に外ならない。外貨割当の現状では、早目にチームを濠州に送ることは全く望み薄であり、最後の仕上げを成功させるためにも、欠くことのできない施設となるので、水泳人の熱意を結集して、実現に邁進したいものである。



ネグリー (アルゼンチン)



マックス・リッター (アメリカ)



デラヘー (ベルギー)



ジュリニー (フランス)

各 國 水 連 の 人 達



デヴリー (オランダ)



フライツプス (オーストラリア)



カーン (イギリス)

安 部 輝 太 郎



ルモアーン (フランス)



ザルフオア (スウェーデン)



ライキ (ハンガリー)



リンクスト (フィンランド)

○ アルゼンチン

まずフィナ [F. I. N. A. (国際アマター水連)] の会長であるアルゼンチンのネグリーですが、この人は年輩で非常に温厚で、お人柄なんですよ、実は第2次大戦以前にはお近かずきがなく、今度ヘルシンキで初めてお目にかかった。その間にフィナの会長に選任された。御身分が裕福で奥さんが若くてきれいなせいも、非常に楽天的な人です。年令も他の世界各国の水泳代表よりも幾らか上であるし、会長としてまず適任のように見受ける。

もう一つこの人の特長としては、非常に諧謔に富み、その隠し芸は自分の身近かな知人の物まねが得意で、各国役員懇親会などがあると、さっそく求めに応じてあの国のだれさんのくせはこうであるとか、この人はこうであると物まねをして万座を爆笑させる特技を持っている。彼自身の言によると、死んで花実が咲くものではないので、自分は墓場の百万長者になるよりも、生きているうちに生活を楽しみたい。これには女房も同意であると高言している。水連の会長に選ばれた経緯はよく判らないが、水連の会長になるような人は大体が水泳気狂いで、

長年水泳のために努めた人には敬意を表して、上長の席を与える慣習がある。しかるにこの人は長年務めないで会長になったのは、ぼくの考え得るところでは二つあると思う。

一つはこの人は年長であるし人格が円満である。その上諧謔に富み、生活が豊かで、頼まれればいつでも、どこへでも出むける身分であることが一つ。

もう一つは戦争中以来、南米、その他スペイン系の国の国際水連への加盟が非常に多かった。このスペインとかポルトガル系統の国を代表する人は今まで国際水連には1人もいなかった。そういう意味から彼が選ばれたのと思う。

○ アメリカ

次に一番水泳的に近親感の深い、なおかつ実力で日本と常に世界一を争っておったアメリカの水泳会の人々を少し解剖してみよう。

アメリカには水泳に関する限りおかしな組織を持っている。まずいいたいのは一事が万事アメリカの体協であるA. A. U.の支持なしには一步も動けない状態にあるのが、アメリカの水泳界だ。いいかえるならばアメリカには独立した水泳連盟という組織は

ない。A. A. U. の水泳部会長は現在 ミスター・ルーサーだ。過去においてはいろいろ顔ぶれが変わっているが、そこには日本にれっきとしてある水泳連盟という存在はない。これはアメリカ水泳界の組織力における大きな弱点だと思ふ。のみならずアメリカが日本と対抗し、あるいは打ち勝つような競技成績を残していることは、アメリカ選手の潜在実力というものが、われわれが思っているよりも非常に強いものかもしれない。いわゆるアメリカ水泳界のバック・ボーンを作っているのは、やはり大学だと思ふ。つまり端的にいうなら中央的な水泳の指導組織はないが、あんなに強いのは各個のクラブ、各大学を形成するところの選手、並びにコーチが非常にそれぞれ努力して実力がある。それが中央の指導なしに自然に集ってあれだけの力を出していることは、考え方によっては大いに恐れてもいいのじゃないか。それは長年日本に来て、日本の実情をよく知っているエール大学のキップス監督が、常にアメリカの水泳組織に欠けた点としてなげいているところだ。キップスはエール大学の体育主事を長年務めて、今は14才のところ日本に親父の助手として来たことがある息子のデレニー（予備少佐で子供もある）にエール大学体育主事のポストを譲っているが、このキップスが先年初めて日本にアメリカ・チームを率いてやって来たときに、その温厚、篤実、かつ謙虚で熱心な人柄にわれわれは接して、これあるかなと思った。由来それが彼の實力にどれだけプラスになったかどうかは知らないが、彼は常にオリンピックにおけるアメリカのヘッド・コーチのイスにあって、その間日米対抗競技などは常に彼なしには持てないというほど欠くべからざる人物になった。今は機会を他の人に譲るべく、みずからは退いた形で水泳界を見守っておるが、彼の水泳に対する情熱、日本に対する好意は、彼の實力が年とともに衰えても、衰退するどころか、ますます濃厚になっていると近信によっても承知しておる。現に第2次大戦中、彼は親日家の疑いをもって米国人の間でも白眼視された事実がある。キップスがやった一番大きなことは、アメリカの水泳がもとハワイを中心にして、いわば土人競技であったのを、大学の競技にした功績ではないかと思ふ。それは初めてキップスがハワイ選手を主力とするアメリカ・チームを率いて日本に来たとき、われわれの仲間の清水君の英語を讚えていわく「彼の英語はオレのところの選手よりうまい」といった

ぐらいで、キップスがエール大学の水準をもってみると、ハワイの選手というものはひどく恥かしいまでに思えたらしい。

その他アメリカで特筆すべき人物を挙げると、数10年来アメリカ A. A. U. の主事を務めているフェリスだ。これは有給書記であるので、厳密な意味でアマチュアではないが、A. A. U. の中心人物として、昔も今も変わらず忠実にアメリカ・スポーツの中心をつとめてくれ、かつ日本に対しては非常に友好的な人だ。

その他ドイツ系のアメリカ人であるマックス・リッターだが、ヘルシンキ・オリンピックまで国際水連名誉主事を務めて、現在フィナの副会長になっているが、非常にエネルギッシュな押しの子で、その点われわれにとっては時々邪魔になり、また頼みになる男です。その他にはジョンソンというダイビングびいきの委員もおる。又インター・カレッジについては、ジョン・カレンという先年もキップスと一緒に日本に来た男もいる。オハイオ州立大学コーチのマイク・ペペと共に、最近ブラジルに行った日本選手団を、みんなで非常に厚遇してくれたのは、われわれの多年のお付合の副産物だと思っている。

ヘルシンキ・オリンピックのアメリカ・チームのヘッド・コーチに選ばれたマットマンは、シカゴのミシガン大学のコーチだが、これも何一つ悪いところのある男でもないが、ただ今までわれわれとなじみがなかつただけのことで、その点マイク・ペペも同じです。しかし、じゃあキップス、マットマンとマイク・ペペを比べると、だれが一番好きかといわれれば、ぼくだけでなくて、おそらく日本水連の大部分の人はキップスを第一に挙げるだろうと思ふ。

しかしこのことは決してマットマンや、マイク・ペペが悪いということでは決してない。

メディアの近況は聞いていないが、ロスアンゼルスで400に勝ったあと、ターザン映画のスターとして、プロフェッショナルに転向して、ちょっとトントン拍子に行ったが、今度は水上キャバレーを組織して、アメリカではせっかくうまく行ったのに、同じことをヨーロッパへのしてえらい赤字を出して、すってんてんになった。私が一昨年ニューヨークに行ったとき、偶然同じホテルで彼がスィミング・スクールを始めるときばったり会ってびっくりしたが、どうにか同じようなことをやっている。

X もう一つ A. A. U. といふかアメリカ・スポーツ界

でブランデーという人がいる。これは事実上ではアメリカ水泳界ではないが、全体育界を代表する人物です。そして今度は I. O. C. のチェアマンに選ばれた。この人も非常に親日的です。

それからもう一つ、アメリカの話をするときに入れるのはおかしいが、われわれの昔の仲間清水治君が、今は日本人かアメリカ人が判らないが、コロンビア大学の先生をしているだけでなく、昔の仲間として始終手伝をしていることを付言しておきたい。

○ イギリス

イギリスはオリンピックにマラソンとか、水泳のほかにはアマチュアリズム競技種目ももしあったら、必ずイギリスは優勝すると思う。しかしソ連みたいな半国営的なアマチュア選手が出て来たので、イギリスのほんとうのアマチュア選手は双が立つ道理がない。あくまでジェントルマンであるが、ジェントルマンまでゆかなくても、職業人であって、その余暇をさいて練習し、オリンピックで、ソ連、アメリカ、日本選手と闘って勝とうというのはトンデモハップンだと思ふ。今度は標準記録を作って、それを突破した者を集めて、日本でいう合宿練習をやるとか、そのコーチにはミンガン大学のマッドマンを呼んで大いにメルボルンのために準備をするということで、イギリスが競技的に一步踏み出した。今までの個人主義、厳密なアマチュア規定から一步下ったのではないが、いずれにしても、まあ天才的な1、2の例外的の選手は別として、組織的な選手層というものは、イギリスからは当分生れて来ないだろうと思ふ。

ウォーター・ポロのスコットなんか熱心に動いているようですが、イギリスは、選手、役員は非常に熱心だが、彼らは常にスポーツに熱心である前に、自分の職務にまず全力を傾注して余暇でやる、自分の職務まで棒にふるまでやるという狂人じみたスポーツ・ファンはきわめて少い。

代表的な人物を挙げると、今フィナの名誉会計をしているカーン、これは以前フィナの会長をしていたこともある男です。経理事務屋で、ガン固一徹という代表的なイギリス型で、たとえば会議の席でも、フランスやスペイン、イタリーというラテン系の熱狂しやすいのは数時間にわたってとうとう懸河

の弁をふるうが、彼はパイプをくゆらせてソッポを向いている。一番終りに君の意見はどうかときかされると、さっきガヤガヤいっていたが、何をいっていたか通訳してくれという。通訳がこれまた相当長時間にわたって報告し、意見はどうかと聞かれると、ただ一言ノー (no) という。これが彼の持前を最もよく表現した一例なんで、さっき申上げたネグリ会長が物まねをする1シーン。それからウォーター・ポロの委員長スコットも、これまた彼一流の見識を持っている。その見識に追従するものが何人おるかとは別問題として考えないと、スコット個人の好みによって国際水泳連盟の動向を判断したのでは、ちょっと観測を誤るおそれがあるのではないかと思ふ。

日本の連中が非常に親しみを持っているベスフォードおばさんは、国際水連の書記として動いているが、昔の水泳選手で再婚ですが、今の夫は現役のウォーター・ポロ選手です。現役といっても、もちろんOBだが、そんな関係で水泳のことには理解が深い。そして速記ができ、たまたま女であったからフィナの書記として、フィナの会議にはチャリホラリと見える存在だ。

○ フィンランド

ダイビング選手のメルビル・クラークは全くものやわらかなおとなしい紳士で、ヘルシンキでわれわれがフィナの幹部と会ったときに、彼も一枚加えて呼んだ。あれだけの戦争のあとで、日本がヘルシンキへやって来て、世界の水泳の顔役を呼んでパーティを開くということにまずびっくりした。それに前敵国の自分が呼ばれていることにまたびっくりしたというくらいで、これはイギリス人の型だと思ふが、東洋とか日本というものに対する認識というか、その感情を理解するのがうとい。ダイビングの腕前や、指導力は大したことはない。ダイビングに関する限り断然組織力といい、実力といい、アメリカと、まあお世辞でその次に日本、フィンランドはたまたま主催国であったから、国際水連で云々された。それでなかったら、気候やその他からいっても水泳とはおよそ縁遠い国だ。ヘルシンキ総会でフィナの理事に選ばれたリンキストというのも、水泳という点からみれば、全然専門家でもなんでもない。

○ スウェーデン

われわれは今度ラルソンの出現等で認識を新たにさせられた。昔のアルネボルグの跡を継いで、水泳に対する熱意、実力はなかなか馬鹿にできないということをはっきり知らされた。今度フィナの名誉主事選ばれたザルフォアはスウェーデン人だ。しかし、組織としてのスウェーデン水連はまだ未完成なものらしく、ザルフォアとスウェーデン水連の代表として国際水連の会議に出て来るオストランドあたりとの間には、相当顕著な意見の相異がある。一国が2票持っているフィナでの投票に際し、ザルフォア、オストランドの票がイエス、ノーに分れた例があるくらいだ。

○ ドイツ

東西に分れており、東独はソ連の蔭に隠れてはつきりした事情は判らない。戦前のドイツの水泳勢力の大部分は、西独によって代表されていた。西独はウォーター・ポロとか、伝統的に強い平泳では押しも押されぬ実力を持っている。平泳のクラインや、ウォーター・ポロがオリンピックであれだけ闘ったことは、独の水泳が戦禍にもかわらず、相当な実力を今なお潜在していることの証拠だろうと思う。そのまとめ役としては以前フィナの会長をやったことがあるビンナーは、政治的な色彩からだろうと思うが、今は第一線から退いている。グレービーというアメリカのマックスリッターのいここに当る男も顔を出して来ない。いまフィナにドイツから顔を出しているのはウォーター・ポロ関係の人だけ。この点ドイツのフィナに対する戦後の復活は、大分ハンディキャップがついていて気の毒だ。

○ オランダ

アムステルダムでオリンピックをやったりして、水泳界もヨーロッパにおける名門である。しかし名門であるゆえんは男子ではなく女子で、馬肉を常食とし、腕の太さがわれわれのモモほどもある毛むくじゃらな大女が、一時は世界の女子水泳界を風靡し

たものである。いまフィナに出ているデヴリーは昔からのオランダ、或はヨーロッパ水泳界の顔役で、ことにウォーター・ポロに顔が広いということ以外にとりたてていうことは見出せない。

○ ベルギー

デラヘーはウォーター・ポロに関して永い経験があり、審判技術の上手なことでは、世界〜ヨーロッパ中のだれもが異論ないほどの第一人者である。ところが今度のヘルシンキでオランダ対ユーゴの水球試合の審判をしたとき、デラヘーがオランダに買収され、ユーゴに不利な審判をしたというかどで非常な責を負った。両方の言分を聞いてみると、それぞれ理屈があるようにもみえるが、われわれがロスアンゼルス・オリンピック以来親しく接しているデラヘーの人柄からすると、そんなインチキはしないはずだと思える。しかし彼は有罪の判決を受けた、一方多年の功績は多とすべしというので表彰も受けている。功罪半ばしたような形で、本人も割切れないらしく、ぼくらに向かってこぼし話をしていた。このような問題がありながら、なお表彰を受けたということでも、彼が押しも押されもしない第一人者であることが判ると思う。

○ フランス

ここは、ベルリンのときまでは、非常にいい記録の選手があると、新聞、その他で伝えられても、「ああ、またフレンチ・タイムか」といって誰も本気にしなかったくらいいいかげんだった。それで、今回も大したことはあるまいと、われわれは多少タカをくくっていた傾きがある。しかし御承知の通りボアトーは400米に驚異的な記録で勝つし、ボゾン、ジャーなど多くの第一線選手を出した。ヘルシンキの後、招待競技でフランスを訪れたとき、フランス水連の幹部たちと語りあい、フランス水連はいま世界中で一番日本水連に近い、そして熱心さを持った組織であるということがよく判った。以前フィナの会長だったジュリニーは引退しているが、1932年のロスアンゼルス大会のころ、ジュリニーの補佐役をしていたルモアーンが、いまフランス水連の会長をしている。名誉主事としてデュッシュマンが

主宰しているが、彼は酒も強いが、非常に実行力のある人で、フランス水連全体をギョッと引締め、一つの緊密な有機組織を作っているように見受けられた。たまたま日本水連ではどうやっているかというような話のとき、一体、君のところでは水連の幹部は幾日に1回会っているのかという話から。期せずしてシーズン中は少くとも1週間に1回は会合を催しているという点で、両国とも同じだなとって笑いあったこともある。余談になるが酒はジン、或は焼酎に相当するようなアカビツという酒をフレンチ・ココラだといってわれわれに強制したくらいである。

一般観衆の水泳に対する関心、知識は、パリの日仏対抗のときの状況を見ても、日本と同様、非常に深いのに感銘を受けた。アナンスされるラップ・タイム、或は決勝記録のタイムがいいとすぐ大かっさいが来る。タイムが悪いとスタンドがシーンとしてしまう。これだけ水泳競技に対する認識が深い観衆を持っているのは、おそらく現在世界中で日本とフランスを除けばないだろうと思う。こういう国からは、次のオリンピックにも相当おそろしい選手が出て来ると覚悟して誤りはないと思う。

○ ハンガリー

いま鉄のカーテンの向う側になっているが、前にちょっと触れたように、ソ連圏内ではスポーツ国営の傾きが強い。そうでなかったときも、ウォーター・ポロでは世界一だった。一体、山に囲まれて海のないハンガリーがなぜそんなに水泳に対する熱が高いか、われわれも判断に苦しむが、とにかく昔から熱心で、ロスアンゼルス大会のときのバーデム、ベルリンにおけるチック、ともに惑星的な存在で、オリンピックを攪乱したものだ。いまは水球は依然として世界一、女子競泳においても圧倒的にオランダその他を引離し、まず世界一は間違いないだろう。男子競泳でもまかり間違えば世界の王座に割込もうとしている。伝統的な熱心さに加え、政治的なスポーツ奨励、水泳奨励ということになれば、並たいていのことでは、ほかの国は太刀打ちできないのではないかと思う。

フィナの理事に選任されたライキは温厚な人柄でウォーター・ポロ畑の人です。ソ連圏選出の役員としては、めずらしく無口で、トツ弁だ。もっともハ

ンガリー語やロシア語でやらせれば、おしゃべりになるかもしれない。

○ ソ連

鉄のカーテンのかなたのソ連でも、実際人間対人間でつきあってみると、何も不自然を感じない。ただ言葉が全然違うので、いちいち通訳を通さなければならず、あ互いに片言で意思を通ずるといった程度だったので、あまり深くは認識できなかった。ソ連から出ていた水泳役員は、世界記録を作ったことのある平泳のピシュで、さすがに自分で実際に競技をやったことがあるだけに、専門的な事務に対しては非常に理解が深く、われわれ日本側と期せずして意見の一致をみるが多かった。思想と国家政策の障害がなければ、ソ連の水泳とは常に刺激しあうよう機会を数多くもちたい。

○ イタリア

言葉の関係からあまり深いつきあいはできなかったが、日本に対して非常に好意的であることは間違いない。名誉主事のキャサロンと打合せて、ヘルシンキの帰りに招待競技をやったときに、各地の地元役員といい、選手、一般観衆といい、非常に親日的で気持のいい旅行をさせてくれた。しかし、悪口をいっては申訳ないが、イタリアの水泳水準、組織は少しあったかいのじゃないかと思う。もう少し“サビ”をきかせたら強くなるのじゃないかという感にたえない。

○ ブラジル

ブラジル体協のパジリア少佐は、水泳のみならず、スポーツ全般に非常に貢献するところが多く、また親日的な人である。斉藤、葉室、遊佐、続いて古橋らが遠征したときも、勿論在往邦人が喜んで観迎してくれたこともあるが、ブラジル側としてもパジリア少佐が中心になって非常によく面倒をみてくれた。今後も非常に遠い国ではあるが、ブラジルへならば日本からもある程度安心して選手を送れるのではないかという気持をわれわれは持っている。

○ オーストラリア

オーストラリア水連の名譽主事をやっているフィリップスは、いまフィナの副会長をやっている、今度のメルボルン大会の主催国として重要な役割を果たすわけである。彼は屁理窟も上手だが、何よりも水泳に対して非常に熱意があり、押しが強いのが取得だ。われわれ並にフィナは彼を十分に活用することによって、今度のメルボルン大会の水泳部門をできるだけ優秀な成果をもって終りたいとねらっているのである。モリソン副会長もなかなかいい人物だが、外国に出て来ない。オーストラリアはイギリスと同じようで、アマチュアリズムが非常に高度に考えられるので、会長とか副会長とかいうものはほんとの名譽職で、くわしいことは何も知らない。知っているうちの最高峯はフィリップス位ではないか。オーストラリアの水泳組織はかなりしっかりしているが、弱点は国土が広く、お互いの距離が遠いために、一口にオーストラリアといっても、たとえばヴィクトリア州、サウス・ウェールズ州などはお互いに他国視していることだ。そういう内部相剋が、ある程度外からもうかがわれる。ヴィクトリアに古橋が行ったときも観迎しろという一派と、前敵国の選手だから放っておけという一派が抗争し、フィリップスは歓迎派の旗頭になった。そのため一部からは立てられたが、他の一部からは、たたかれたといつてこぼしていた。

○ インド

ゾンディという人が体協会長でもあり、I.O.C.のメンバーでもある。顔も古いりっぱな人であるが、水泳では何といつても最後進国である。ヘルシンキで1500米のとき、ゴールに入って、まだ50米泳いだのはインドかパキスタンか、どちらかの選手である。

東洋諸国が水泳の先進国として日本を頼りにしてくれる気持は、もちろん有難いが、時と場合によっては手足まといとなり、迷惑することもあるほど、連中は水泳の実力も経験もない。余りにも知らなすぎる。

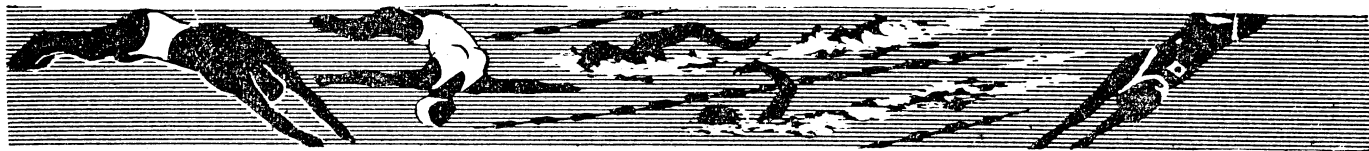
○ 香港

シンガポール、香港は、ときにウォーター・ポロでは相当やる。というのは、日本の水球の水準が低いために、ちよつとヨーロッパでかじった人が東洋へ来ればものが申せるということだ。香港のウィングリーはなかなか熱心でもあるし、理論の闘士としてもりっぱなものである。今後香港の水泳界は彼によって相当発展してもしかるべきだと思う。シンガポールのシンワットについては覚えがない。

○ フィリッピン

最後に今年アジア大会の行われたフィリッピンであるが、ここは昔から日本が極東大会でなかなか勝てなかったくらい水泳は強かった。一番頭著な選手はイルデホンゾで、平泳の一流を編み出したほどであり、かつ晩年まで世界の檜舞台で活躍した異色のある選手である。それと一般に気候的な関係もあって、水泳には熱心である。戦前の極東大会、いまのアジア大会を通じて、陸上競技と並んで水泳がメインイベントとしてフィリッピン大衆の関心の的であることは間違いない。その中心はエリサルデで、水泳だけで副会長になったといつてもよいくらいの人だ。日本の末弘先生に該当するような人が、マニラ大学の学長をしていたことのあるドクター・シオン、彼は相当の年輩だが、まだ毎朝泳いでいる。それからバルトロメー、彼は恐らく会長格の仕事をしているはずである。イランは水泳を離れて、それが何といつてもフィリッピン体協の中心人物であると思う。アメリカのフェリスにあたるような人である。日本にはそれに当るような人はいない。何の競技でも中心になるんだから……。

最近、フィリッピンでは水泳が盛んで、競技会ごとに3000人ぐらいの観衆が集まるということである。去年、日本の選手が行ったとき以来、水泳熱が盛んになっているし、コロソという女子選手は指導次第によっては、メルボルンのメイン・ポールに旗を挙げるかもしれない。歴史的に水泳に興味が高い上に、日本の少年選手や女子選手が行ったりして拍車をかけている。それによつてお互いに刺激しあうというのは喜ぶべき現象だと思う。



“ 想 い 出 ”

水泳連盟では先輩方の若い頃のお話を伺う機会が割合に多い。まして顧問や評議員の方々は連盟創設期の功労者なので、いわば神世の時代ともいえる。特に若い人達には全く縁遠い存在である。30周年記念に旧憶談をお願いした処、御多忙にもかかわらず、貴重な資料ともいわれるものが、次の通り多数寄せられた。昔話というよりは、今日の日本水泳が如何にして築き上げられたかを教えられる。そしてよい先輩を持ったことに心からの感謝を致します。

高 島 文 雄

私が正式に日本体育協会に関係するに至ったのは、1928年アムステルダムのオリンピック大会の際であるが、右大会の会期中に開かれた国際水連の会議には、故飯田光太郎君と私とが日本代表として出席したのである。

当時日本のスポーツ水準は低く、又国際会議の経験も訓練も乏しいものであった。右の会議の開会直後、座長のドナート氏が会費を滞納している国名をA.B.C.順で呼上げて督促した処、飯田君が日本も大分滞納があると私に私語するので、私は慌てざるを得なかった。日本の順が来る前に大急ぎで座長席の下の会計係へ払込んで辛うじて日本の名誉を守ることができたのである。やがて当日の議題に入ったが各議題に対する日本側の準備は全く不足しており、次に附議される議題について、日本が賛、否いづれの発言をすべきか、飯田君もなかなか決断がつかず、2、3の議題は発言の機会すら失してしまうような実情であった。今日安部輝太郎君等がF.I.N.A.の会議をリードしている実情を見ると、今昔の感に堪えないのである。しかし会議では右の如く苦労したり、冷汗をかいたが、織田君や鶴田君が初めて君が代を吹奏させた感激によって、一切を忘れることが

できた。

次のロサンゼルス大会までの4年間に、日本はスポーツの方面でも偉大な進歩を遂げ、同大会には未曾有の大デレゲーションを派遣することとなった。当時体協では故郷隆君と私と兩名が名誉主事側で仕事をしていたが、派遣準備の期間中は、派遣員数、予算、準備方法、その他の点で、水泳連盟からは痛めつけられどうしであった。田畑、野村、西本その他の諸君とは昼夜を問わず激論を闘わせ、再三喧嘩別れとなり、翌日岸体協会長から、君らに酒を飲むなどはいわないが、飲んでいる時は絶体にオリンピックの話をするなど、その都度厳命された。しかし一同は、置酒高談しながら、オリンピックの話をしていられないかといって、出発直前まで右の状態を続けたのである。私が体協に関係して来た25、6年の間で、この時期程愉快に、且つ感激をもって仕事をしたことはなく、又今日回想してこれ程なつかしい思い出はないのである。亡友郷君は不幸早逝したが、私としては幸いに今日に至るまで30年近い間、田畑君初め水連の老若多数の諸君と、最も心の通った友人として親交を重ねているのであって、これは当時の喧嘩別れの賜物であると信じている。川柳子が、「碁敵はにくさもにくしなつかしく」といっているのは、実に人生の真理であると感じているのである。

その後我国の水泳が世界の最高峰の地位を占め、水連の組織運営も讃嘆に値する域に達していることに、衷心から敬意を表するものであるが、これは田畑君初め、指導者諸君の熱意とこれに後続する有為な選手、役員諸君が一心同体となって、水泳一家の精神で努力を重ねた結果である。私は毎夏神宮プールに於ける国際競技大会の興奮のつぼの中に座っているとき、右に記したような思い出が昨日のように心に浮んで来て懐旧の情に堪えられなくなるのである。日本の水泳、及び水連が今後益々発展するこ

とを祈って筆をおくこととする。

(体育協会監事、連盟顧問)

関 屋 悌 藏

アムステルダムの前年、渡英の際、末弘さん等にしたのまれて歐洲選手の情報を提供することにして、マグデブルグのプール等を中心に視て廻った時、ラデマッヒェルやブッデイッヒの平泳は兎に角、独のハインリッヒ、瑞典のアルネホルグ等の泳ぎの足が浮いていることを印象したアムステルダムで、日本選手を欧、米、濠の選手と比較して、際立って足が沈み、腰がしっかりしていることに気が附いた。我々が日本泳法で、やかましくいわれた影響が出ていると考えられたので、当時、飯田光太郎氏や石本巳四雄氏等にその感想を洩らしたことがある。

その後日本の競泳が進歩し、世界の王座を占めるに至って優れた泳手を輩出したが、そのいづれも足を沈め、腰を固めることに苦勞し、その結果、手のレンジが長くなり、有効な推進力を發揮していることを觀て来た。

日本元来の泳法の伝える処は、根本的に欧米の教科書と違う点がある。キッパースが嘗て「何故日本の泳ぎ手は鞭の如く泳ぎ得るか」といった疑問は当然であったろう。ワン・ストロークに全霊を打ち込むというようなメンタルな目標の下に精進した結果、足も沈み、手も長く、腰も固く、ピチッと極まったものになったはずなのであろう。この要諦を身につけて、クロール・ストロークに苦心したから優れた泳手が出たのであろう。

ところが最近になって、久し振り日本の選手を見ると、非常に足が浮き、腰が不安定になり、手のレンジが短くなっている。却ってコンノやマックレーンの方が、この意味に於て優れている。この点日本の水泳のために遺憾である。

日本の流派水泳術は、ワン・ストロークの充実が目標であるから、一定距離を速泳するためのクロール・ストロークとは手足の動作のフェイズムに於て相違がある。従ってなまじに日本泳法で固まった者には、本当のクロール・ストロークは泳ぎ難い。然しその「泳ぎ」というものに対する態度、手足の充実という一つ一つについては、折角日本に古来から伝える処があるのであるから、これを離れては、クロール・ストロークも弱くなるろう。

同時に日本流派水泳術中の「観せる」泳ぎ、水中の動作を軽んじて、水上の格好を裝飾するようなものは、こんなものを見て感心する昔の馬鹿殿様がなくなった以上、もうやめてしまった方が宜しい。徒らに日本泳法に誤解を招く結果となる。古来伝える要諦を真面目に掘り下げて、これを日本の「泳ぎ」が強くなるために応用してこそ、始めて日本泳法伝統の意味があるろう。(連盟顧問)

佐 々 木 救

N. S. R. 初期の主脳部は、末弘会長の下に、梅沢、飯田、石本らがあり、すべて極めて伝統的な日本泳法を、科学的に研究しつくした人々で、然も水泳の前途を達観して、革命的に競泳に突進して、ロサンゼルスへの制覇を遂げた。その間日本泳法の古きをたづねることを忘れなかった。ロサンゼルスから終戦までは、選手陣ピラミッドの頂点を高める意味を含めて、国民皆泳運動が行われた。後期の主脳部は、田畑会長の下に、旧大選手達があり、主として政治的の活動が見られ、競泳に用いる泳法の科学的研究が不充分である。しかし競泳に用いる泳法の科学的研究は、静泳法の研究よりは遙かに難しい仕事と思う。

元来水泳は、自ら泳ぐことを楽しむことを主眼とするものと思う。この觀念からすれば、見る泳ぎを盛んにすることは、自ら泳ぐことを普及する手段といえよう。

泳ぎを見る娯楽と、自ら泳ぐスポーツ兩者を、共に盛大にしたい。(連盟顧問)

杉 本 伝

① 30周年を顧みて水連の思い出

故末弘博士が熱血の30代から、会長として常に陣頭に起って、今日の水連の基礎を確立されたこと。

② 最も印象に残っていること

1936年ロスアンゼルス・オリンピックで男子競泳が優勝し、特にパリ以来の宿願であった800米リレーが当時の世界記録を破って完全に勝ってくれたこと。(連盟顧問)

後 藤 敬 三

① 水上運盟出発から見れば、今日の日本水泳連

盟は月とすっぽんほどの発達だ。

各地に公認プールを有する協会や連盟の数も数十あり、これを統率する日本水泳連盟だから大したものだ。海外にもその名を水泳日本と轟かすに至ったのも田畑会長、藤田理事長、その他当局の諸名の絶大なる活躍の然らしむる処、感謝の極みである。故本多存氏はこれ程の盛況を見ずに逝かれた。小生は70才、長生きをしてよかったと思う。

② 古橋広之進君の出現が最も印象に残っている。(連盟顧問)

野村 憲夫

◎ 一番苦しく且つ、一番楽しかった思い出

小生がYM時代の水泳に関係し、全国学生連盟ができ、日本水上競技連盟ができ、永い間学生連盟の主事をやり、日本水連の田畑専務理事や松沢君と、何んとかしてオリンピックに勝つまではと一緒に永い間苦勞して、念願かなってロスアンゼルスオリンピックで優勝するまでの永い間を振り返り、一番苦しく、且つ一番楽しかったのは、何んといってもロスのオリンピックの背泳の決勝の時のことでした。

ロスアンゼルスへ行く前の日本選手の記録の上昇や泳ぎを見て、今度こそはと、田畑、松沢君らと共に期する処はあったのです。その中で我々が一番弱いと考えていたのは背泳でした。然し幸い、清川、入江、河津の選手がそろって決勝に出場することになったので、これはなんとか優勝できないまでも、よい結果が得られるのでないかと内心喜んで決勝の日を迎えたわけでした。

出場選手3人と松沢監督、野田副監督と小生らがプールの近くに借りていた選手の休憩所に入って、出場の用意しだして、始めて出場前の選手に注射してやる強力ビタミンの薬を持って来るのを忘れてきた事に、係になっていた野田君が気付いて、とんだことになったと一同顔見合せて驚いてしまったのでした。特に選手諸君にとって、この打撃は大きかったようでした。小生は、競技場からオリンピック村まで相当に離れており、間に合うかどうかかわからぬが、なんとしても時間に間に合わせるべく決心して、直に自動車のハンドルを握ってムチャムチャに飛ばせて行きました。又悪いことにはオリンピック村の入口から我々日本チームのバンガローは一番離れて

おり、日本村でも水泳の宿舎は勝つために静かにいられるようにと、一番はずれに入っていたため、葉を取りに行く小生にとって一番苦しいことが起きたわけです。村の入口に自動車をパークするなりいきなり走りだしました。外から見ていたら、役員バッヂを付けた男が、ハハハやりながら、まるで気が狂ったように走って行くのだから、何かとあやしんだことと思います。入口から宿舎までは充分1キロはあったと思います。それを葉を取るなり又夢中で走りつづけたのでした。その時はこんな葉のことでナーバスになっている選手の気持を害して、実力を出しきれなかったら、如何にも選手に気の毒だという気持で走りつづけました。自分でもよく走ったと後で一人感心しました。やっと間に合って、注射をすませた選手諸君の一安心したような顔を見て、なんだか勝てそうな気がしてなりません。レースの結果は3本の旗を上げる大優勝をとげたのでした。

1, 2, 3, 等を日本選手が独占したプール・サイドで、小生は先程夢中で走った時が生涯で一番苦しいかと思った。これも、嬉し涙と共に最良の時を得た思いで一パイでした。永い間勝つために苦勞して来た自分に、最良の思い出をのこして、安心してバトンを後の人に渡して止められると。……

(連盟顧問)

本井 功

日本水泳連盟も今年は30周年に当たるとの事を憶えば、永い年月が経ったものだな、ああそんなになるかなと自分の年齢も考えず、感無量の気持であります。

聖人の言に「30年にして立つ」といわれたが、なる程水連も30にして立派に成人されて、世界スポーツ界の有力団体となられたことは誠に目出度いことで、心から現在の役員諸氏の精進努力を感謝し、心からお祝い申し上げます。

顧みれば水連誕生当時の創立実行委員として、故末弘先生始め、故梅沢氏、故飯田氏の両長老を向うに廻して、色々無理難題の議論を振り廻し、時には喧嘩口論など色々な創立秘話を今考え、思い出し、よくも諸先生方は怒らずに我々学生の意見を尊重理解され、採用されたものだと汗顔の至であります。

当時は全国学生水上競技連盟が水泳界の指導的立

場にあったので、我々学生連盟の松沢氏、拓大の小野田氏、慈大の土方氏、明大の和久山氏、慶応の小林氏、早大の小高氏、立教の野村氏、高師の堀氏等多士才々、その外に地方団体代表として大阪水泳界の重鎮杉本先生、浜名湾游泳協会の田畑政治氏が参加、これら元気旺盛の面々が、故末弘先生を中心として造り上げた水連だけあって、その組織や運営の構想は立派なものであったが、初代理事長になられた故先生の苦心努力はは並々ならぬものがあったのであります。この生れた許りの水連の維持発展に対し、殊に貧困なる財政に故先生は我々委員に一言の愚痴もいわれず、ただもくもくと心配され、いつも元気な笑顔を以て指導鞭撻されたことは、故先生の水連を熱愛するスポーツ精神の発露の賜であったのであります。どうか今後も益々世界スポーツ界のため日本水上連盟の伝統精神を充分発揚され、故末弘先生始め、今は亡き諸先輩の名を恥かしめぬよう発展されんことを切望してやみません。幸い田畑会長、松沢一鶴氏の如き当時の創立委員が第一線に活躍され、後輩諸氏を指導されておるので、非常に心強く感じる次第です。(連盟顧問)

沢田 武治

① 30周年を顧みて水連の思い出

その当時、私は日本学生水上競技連盟の初代主事故飯田光太郎氏から2代目の主事を引受けていたが、日本水上競技連盟設立趣意書を、北は北海道から、南は満鉄に掛けて数ヶ所に郵送した。これが間もなく仙台に転任した私が東京での最後の仕事であった。

駒込東片町のポストに投函してホッとしたのは、昨日のこのように鮮かに印象されているのに、既に30年経過した。

この頃200名を越す代議員会に出席する度毎に、今更の如く感慨を深くする。

② 最も印象に残っていること

リズムとハーモニーを持つべきものと探し求めたクロールの型が、大正10年頃松沢一鶴君によって達成されたのを喜んだが、大正13年頃、高石勝男君のアオリにアクセントの加わったのを見て、これでクロールの型は完成されたと安心した。

同年パリのオリンピックでの高石君の100米、1500米の6着は、日本の水泳界画期的の出来事として

永久に記録されねばならない。(連盟顧問)

三 上 節 造

水連過去30年の歴史を顧みると、実に隔世の感がある。大正13年といえ、第8回オリンピック大会がパリで開かれたのであるが、日本はまだその躍進途上にあつた。それを水連役員諸君、その他の人々の多大な尽力によって、神宮プールもでき、またその採った方針によって極東大会も解消して、日本の力をオリンピックに集中することができるようになった。

かくして高石君、鶴田君などの精進努力で育まれた世界水泳界に進出する機会を進め、昭和3年第9回オリンピック大会では、日本は世界優勝の足がかりを確保し、遂に昭和7年ロサンゼルスでの第10回オリンピック大会では、水泳王国の名を恣にしたのであった。そしてそれ以後、昭和11年ベルリンでのオリンピック大会では引つづきその貫祿を維持していたのであった。

ところが、これも一段落としてあの忌わしい十有五年間、日本はオリンピック不出場のギャップに遭遇し、そのうちには昭和13年の期待されていたオリンピック、東京開催返上もやむなきにいたつたこともあり、その他色々の事情もあり、それらのためかあの昭和24年ロサンゼルスで示した古橋君らの素晴らしい成績にもかかわらず、昭和27年ヘルシンキでは日本は惜しくも敗退した。と申すものの、小生は「日本は負けたが日本人は負けてはいない」などと口幅ったいことをいいながら、今ではメルボルンに期待をかけている。

併し、嘗て鶴田義行君がいったように、「私の水泳は身心鍛練のための水泳です、競泳のみに水泳練習をやっているのではありません」といった言葉は、実に玩味すべきであると思う。

(連盟評議員)

川 口 又 男

① 30年前頃の水泳界は夫々大家ばかりで、今から見ると随分幼稚なことで議論をしあつていたものですが、現在の水泳界は全く組織だって整然としてきました。故人並に現在の古い水泳家の功績をたたえずにはられません。

② (イ) 生麥の池で蛙と一緒に競泳をやった時分、役員は船みたいなもので、綱をたぐって途中審判をやっていましたね。当時有名な短距離選手で、コースが曲るのはまだしも競技場外へ出てしまった連中も相当ありました。ああいう競技会は、未来永却になくなくなると思うと一寸淋しいです。

(ロ) 浜名湾盛んなりし頃の田畑会長のスターターの面影を今でも忘れません。何かの機会に一度やってもらいましょう。(連盟評議員)

宮畑虎彦

① 当時大会は芝公園プールで行われていた。大正13年——この年連盟ができた？——までは、コース・ロープはなかった。途中でコースが曲って他人のコースに入る泳者もあった。審判員末弘先生が、曲り始めた泳者のコースの端に立って、「まだよい、まだよい」といいながら大抵のレースは、無事に終了させた。創立そろそろの水連も、多分、こんなではなかったらうか。学生であり、泳者であった自分には、まだ「組織」というものがわかっていなかったが、とにかく「ささやかな」団体であった。

それが、今のようないきな団体になり、——先日も予算千何百万円という世帯におどろいたが、——世界的な活躍をしている様を見ると、その発展振りに驚くだけである。

終戦後、国をあげて混乱している中で、いち早く立ち立ったのも水連であったことは、遠く満洲で、ラジオで知った。

② 前後7、8年、直接関係して泳いだり、監督をしたりしたことは、どれも印象に深い。

「800米リレーなら4等になれる」というので喜んで参加したパリ大会、続いて鶴田氏が優勝したアムステルダム大会。これらはどちらかといえば「予想」した成績であった。

ハワイ遠征の時だけは、そうではなかった。「800米リレーの世界記録を破った」と発表された時には、予想していなかっただけに、ワッと泣いてしまった。その夜「監督は別」というので、密造酒——当時アメリカは禁酒中——を飲まされ、酔った勢で夜中にダイヤモンド・ヘッドを廻って、「おけさ」を歌いながら、海岸道をドライブした時の印象は数ある中でも忘れられない印象の一つである。

(連盟評議員)

白山源三郎

雑誌「水泳」が最初出た時分には、たしか「テニス」と「ラグビー」が出ていたかと思います。それに負けない美しいものにしたいというので、版も大形にし、紙もそのまま写真の入るように上質紙にしました。当時今は亡き杉田忠治君が毎号腕を振ってよい表紙を考案されたので、雑誌のことを思い出すと、アノ元気な杉忠さんを思い出します。雑誌の表紙の図案がそのまま水連特製浴布地になったこともあります。第1号で印刷屋を信用しすぎて校正を充分しなかったら、できた雑誌が誤植だらけ、今でもあれを見ると冷汗が出ます。(連盟評議員)

外山高一

① 1924年(大正13年)パリの国際オリンピック競泳と馬術競技とを実見した者として、爾後不満に思う点は、競泳を行う人間と、人間に禦せられる馬匹とでは、身体の運動と技術の複雑とに多大の相違があることである。馬事思想の普及や、馬匹改良等の手段に、競馬と馬術競技とが盛大、且つ熱心に実施されているように、競泳の外、更に水術競技(仮称)があってもよかろうと思う。

② 神宮プールで100メートル以上を潜水し、3度目の折返し後、間もなく失神したのと、脛当まで施した上の甲冑游を首尾よく遂行したのを目撃したこと。(連盟評議員)

島崎保正

全く御無沙汰を続けて申し訳なく思っておりますが、仕事の都合上何とも時間がち合うので、競技会も殆ど拜見できない有様です。私が飛込関係の御手伝をしていた頃は、丁度水連が国際的に名を挙げ始めた頃で、国内的にも連盟内部が着々形が整って行く最中でした。ルール・ブックの飛込の説明図に頭をひねったりしました。水連が外国の水泳家にも有名であったのは、ロサンゼルスに行った時、外国の水泳人にN. S. R. という略号がそのまま通用していて、却ってこちらがおどろいた位でした。

(連盟評議員)

想

い

出

と

希

望

華やかな選手生活を送った先輩に、次の項目についてのアンケートを出したところ、次のように多数のお答えをいただいた。御礼と共に御健勝を祈ります。

- 問
1. あの頃の思い出
 2. 最も印象に残っていること
 3. 若い選手に望む

辻 花子 (旧姓永井)

① その頃、大正中期は、まだ外国の名選手の泳ぎに親しく接する機会もなかったので、私達は専ら「スポルディング」の口絵写真で、ボルグ、チャールトンらのフォームを見て、頭の位置がどうの、腕の抜き方がどうの、と互いに語り合って研究したものである。

② 大正11年(1922)大阪府下の茨木中学で開かれた関西最初の女子競泳大会に京都から出場した時初めてプールというもので泳いだのは忘れらい。その時のコース・ロープが水面遙か上、スタート台の高さに張られ、それに目印の布片がところどころぶら下げているという、稲田の雀おどしさながらの奇妙なものだったので、背泳以外の選手にはコースが何の役にも立たなかったのも笑えぬ思い出。

③ オリンピック優勝を目ざして、精進してほしい。(連盟理事、元自由形日本記録保持者)

入 江 稔 夫

① 夢中で泳いでいた。泳げることのみがたのしみでもあった。

② どれもがよく残っている。特にロス大会の閉会式が最初であっただけに一番印象に残っている。

③ (イ)、合理的な練習によって必要以上の精力の消耗をさげたい。

(ロ)、スポーツを通じて明るい人生観を得ていただきたい。

(元背泳日本、世界記録保持者)

菅 谷 初 穂

① (イ)、女子選手一同が姉妹のように仲良かったこと。

(ロ)、アメリカに下航したとたん、女子の方が待遇がよくて、男子の選手いわく、「日本に帰ったらおぼえていろよ」。

(ハ)、サンフランシスコの百貨店で、黄色人種として馬鹿にされた時、日本の水泳の選手だといったら売子の態度が一変して親切になり、しまってあった品物までもち出してくれた時は、競技には勝たねばならないことを異国で痛切に感じたことです。

② ロスの時の水泳のレースは次々に優勝したので、感激の連続であったが、あの広いスタジアムで、マラソン選手が拍手で入場して来る時で、その時たしか5位だった津田選手が、疲労の余り、後5米で決勝の時歩いているのか、陸を泳ぐような姿、助ければ今までの力闘が無駄になる、どうにか決勝までと手に汗をにぎって声援した。決勝に入った時に、すでに、担架にかつがれて行かれた。日本人ならばこそと、その責任感の強いことに私達は泣いて喜び、スタンドには何時までも嵐のような拍手でやむことを知らなかった。

③ 運動の選手は明朗で、しかもどのような困難な問題にあたって、突破するだけの強い信念をもっていると誰かがいったそうですが、そうありがたい。又女子の若い選手の人達には、レース以外には強い中に女らしいやさしい心の持主であってほしい。

(元オリンピック選手、現50米自由形日本記録保持者)

井 上 茂

福岡の片田舎の先生として、日本の水泳界を16年間眺めて来た。その間一貫して水泳をやり、生徒の指導をやった。感慨深いものがある。私の選手の頃に、元気にまかせて練習は不合理な点もあった。し

かし面白く泳ぐことができた。松沢氏が背泳の説明を、理論的に手振り身振りボードのオールに例え、熱心に講述された福相に満ちた顔が懐しい。国体でお会いした時は、教育委員長の肩書よりも、その老顔におどろいた。斎藤魏洋氏永眠は、何といても惜しいことだった。昭和13年福岡県下をコーチ行脚し、彼の水泳愛好の真情にうたれた。戦後の高校水泳選手は上手に練習する。又上手に水泳を愛好する。元気にまかせて練習を重ね、不合理なことも押し切る情熱をもたせたい。真の水泳愛好者がほしい。

(国学院大出、自由形短)

宮崎 康二

① 何といても、苦しくても楽しい合同の合宿練習のいろいろのことです。物凄い食欲で、大井に2、3杯も平げたようなことは、今から考えますと強いときには食の方でも強いですね。遊佐選手などはよき例だろうと思います。

② 私の場合は一番華やかな活躍舞台であるロスアンゼルスでの優勝の感激です。世界の巨人を従えて優勝の儀式台へ立ったとき、異郷の空高く国歌吹奏の瞬間こそ、永遠に忘れることのできない印象です。

③ 余り神経質にならないで荒削りの強さ、未完成の強さを望みたいと思います。一流へランクされれば、技術面に於ては一応完成されているのですから、後は逞ましい自信を、どうやって持つかということを一日も早く体得すること。

(ロスアンゼルス・オリンピック100米自由形優勝者)

梶山 悦子(旧姓鎌倉)

アジア大会に行く坂口、津谷両嬢を大阪駅まで送って行った。思えば早いものである。あの人達のように送られたのは、もう20年以上も前のことになってしまっている。あの頃はまだ女子のダイバーは殊に関西では少なかった。そして設備も殆んどないといってもよかった。練習には10米飛込台のある茨木中学へ行かねばならず、1人で男子中学校へ行くのは学校で許して貰えないので、毎日片道2時間の道を母に附添われて、茨木中学校まで通ったものである。お転婆のくせに臆病者の私を、まがりなりにもあそこまで育てて下さったのは、松本伝先生、大田

豊明先生をはじめ、私の周囲の人々の理解のおかげである。あの時代を追想して、ひどく先生方に世評を焼かせてしまって、全く冷汗三斗の思いをしている。しかし南カルフォルニアの空に、いくつも日章旗がひるがえったあの輝しいロスアンゼルス大会の生々しい思い出のかけに、私はひたむきな情熱を飛込みにかけて、焼けついたほこりっぽい道を、いそいそ練習に通ったあの頃が忘れられないのである。あれから20数年たった今日も、なお(戦争のせいでもあるが)依然として設備は貧弱だし、飛込みをする人達の何と少いことだろう。今後はもっと飛込み人口の増加に努力しなければならない。技術的にはもう時代おくれな私にでも、この方面ではなんとかお手伝いできるかと思っている。

(ロスアンゼルス・オリンピック飛込選手)

兵藤 秀子(旧姓前畑)

① 選手はつらいものであり、勝利のよろこびは一生忘れられない。苦は人生のよろこびの前にあるものであり、選手生活当時は、ただ泳いで泳いで泳ぎまくり、新レコード目指して進んだだけです。

② 私の一番印象に残っていることは、やはりメーン・マストにするすると日章旗が上り、君が代が吹奏されたことで、思い起せば短かい年月であったが悪戦苦闘の11年間は忘れようとしても忘れることのできないものがあります。ましてオリンピックのある年等は、どんなに苦しい練習をしたかわかりません。ただ勝ちたいばかりの一心でやりぬきました。

③ 女は家庭の人になると、なかなか好きな水泳も余り思うようにはできない。それ故余り若い今の選手の方々に対し、あれこれとはいえないが、私はいつもオリンピックのあの年のはりきった、あの気持で進んで頂きたいと思います。

(ベルリン・オリンピック200米平泳優勝者)

こんなこともあった

梅田 利兵衛

出発も近く甲子園のスポーツマン・ホテルでは水泳選手一同賑やかに談笑している処へ、不意にドタドタと乱れた足音、スワット一同顔を見合わせるや否や飛上った。数日前陸上の選手が襲われた後であるからスタートの速いこと。飛込みの選手に早変わりし

て2階の窓から暗夜の戸外に一気に飛降りる勇者、屋根伝いに逃げる者、こちらは落ちついていた訳ではないが、みんなの後について隣室に一步踏込んだところ、誰かが飛込んで来たので、ヒョイと振り向いたとたん、大上段に振りかぶった太刃でなくて幸い3尺の青竹をはっしと一撃、不覚にも首に受けた。暴漢もそれっきりで、一緒に屋根伝いに逃げたのが不思議であった。逃げる時床のあたりで、2、3人ごちゃごちゃいると思ったが、後から聞くと平泳の葉室君が後に2、3人かばいつつ別の暴漢の打ちおろす竹を腕で防いでいたとのことだった。

暴漢に抵抗するのでもなく、友人を助けるのでもなく、後から考えると情なかったが、どんな強者でも不意の攻撃を受けると、まづ逃げるのが原則であるといい、この事実は戦地でも体験したから、水泳の選手が臆病であった訳ではない。昭和10年、第10回極東大会の時に満洲国参加問題で日本の参加を阻止しようとした暴力団に襲われた思い出である。

(連盟理事、元自由形短)

西沢 礼子 (旧姓大沢)

① まず水連が30週年を迎えたことをお祝い申し上げます。私も水泳をはじめから21年になりました。本当に歳月流れる如くで、昨日のようなあのベルリン大会での感激が、二昔になって、ただただおどろくばかりです。1時間1銭で、1分の間も惜しく練習していて、あわてて水着のまま飛出して5銭助かり、おしるこが食べられると喜んだ時代、今の方々には、一寸ピンとしないと思います。

姉がロスアンゼルス時の最終予選に出たので、はじめて飛込なるものをみて、女のくせによくもあんな高い処から落ちられるものだと感じながら、体中のアザをやれやれと思っていました。あにはからんや次のベルリン大会で自分が代表、よくも私みたいな感のぶい運動神経のまるで0なのが行かれたものだ。多士済々の方々の中で、物の数でもありませんでしたから、山内コーチの熱心な指導と、練習量に於て真似のできない柴原さんの好リードの賜物と厚く感謝しております。

オリンピックの思い出でした。丁度時代もよかった時ですから。

朝早くから起されてねぼけ眼でならんでいると、ヒットラーの開会の言葉、感激的なタイムツ・リレ

ーの到着、あの一瞬……。

あの時の女子水泳選手12人、泣いたり笑ったり、赤毛布をふり廻したりした12人から、もう4人が亡き人の数になり、今までみんな元気でいたらとつくづく残念に思います。

白山広子先生は英語が達者で、パリパリで、女冴のために本当によく御世話下さって、オバチャンの愛称通り親切で、今いて下さったら、関東の女子ももっといい人達が出たでしょうに……。

壺井宇乃子さんは平泳選手特有(?)の悠々居士で、何事もスローモーションで、行動を起す30分前に先づ宇ちゃんからという位のスロー、前畑さんと2人の部屋で、水道の蛇口をしめ忘れて、部屋中3寸も水を張った人、体操の先生の卵のくせに、私先生になれますでしょうかという程の小心者、でも上海の女学校の先生として立派に職責をつくされ、生徒中の人気者だった由。

松村昶子さん(自由形)は候補選手でなく、最終予選で見事金的を射止めた人なので、余りみんなとも親しみがなく、いつもしょんぼりしていたし、選手の中で1人競技に出なかったの、日本へ帰りがらず、船が日本に近づくにつれて泣かれて、入港の前夜など、みんなして飛込みやしないかななどと心配させた人。

大沢政代(飛込)は、私とはけんかばかりしていたが、変人で男みたいに勝気でしたが、よく若い人の面倒はみたようで、貴女と代ればよかったなどと失礼なことをいう人もある位世話好き。以上4人が欠けてしまいました。

往路汽車2週間、復路船1カ月の旅だったので、他のチームの方々とも親しみがあって、今だにおちいさん、おばあさんになったと御目にかかった折など、話がはずみます。

② 何といっても前畑さんの優勝です。予選のタイムがゲネンガーの方がよかった。白山先生は「時計が違うから、秀ちゃん落ち着いてやれば大丈夫」といわれる。御本人も一寸も変らず、悠然としている。これならいけると私達も思った。1人でも水泳で1位になってくれれば、ロス時の仇討に皆期待していた。ドイツの応援のものすごさ、まけじと金切声をしぼる。スタート、あとはただ夢中、ワーというだけ、綱引のようにたぐりよせたい位、コースが並んでいたからよかった。向うが盛んに横を見てあせっているのがよくわかる。あんなことしたら

日本ならオミットなのに、200米の長かったこと、プールの縁を持って行きたかった。ゴール・イン、全身の力が抜けて涙がポロリ。

スポーツ最大最高の大会であるのに、民族性というか、国民性か、勝てばいいのぢゃないかで、とても露骨にいい点を出したりする。実に汚い。あの時採点競技で、ドイツがほとんどいい成績を上げたのはそのためだといわれたのも当然だ。日本の競技でも、近頃その傾向があるのが残念だが、オリンピックに参加した以上、金メダルをとらなければ何もならない。敗けるということはみじめなものだ。

③ 世界記録を作ったのも人であるから、どうか自分も必ずできるという信念をもっていただきたいと思います。そして一に練習、二に練習で、コーチのいう通りに、少く共趣味の水泳でなく、生活の水泳にして下さい。プールも恵まれた施設がありながら、もっといいレコードが出ないのは残念です。しかし単に優秀選手であるばかりでなく、立派な人格(品格)のある代表としてはづかしくない人として成長して下さい。

近頃の若い人は、何かねばりがないように思います。水泳をやり始めたからには、いいレコードを出すことに徹して下さい。

(ベルリン・オリンピック飛込選手)

白井夫佐子(旧姓香野)

① 光陰矢の如しといわれる如く、私達がベルリン大会に参加して、早や18年の才月が流れた。その間幾多の時変が起り、世界も随分変り果てたと思う。又人間の人世観も変わったことだろう。私達がオリンピックに行った時が、世界各国共に一番盛大であったと思う。特に日本は、今回は必ずや日本で開催するべく張切っていたのである。入場式の聖火陸上、水上の優勝、空高く翻る日章旗。奏でる君が代、……感慨無量の数々。

欧州各国を訪問して、実際の地理を学び、又各々の国民性のあることを学んだ。しかるにその後、後輩のために何のお役にもたたなかったことを深くお詫びする次第です。

② 私達女子水上チームにとって、最大の光栄とする前畑さんが優勝され、日の丸を世界に靡かせて下さって、日本女子水上チームの名を世界に轟かせて下さったことです。

③ 私は自分が中耳炎になったため、最善を尽すことができなかった。若い選手達には、選手自身、食物に注意し、無理をしないように身体に注意して練習に励むべきである。そうして試合には必ず自分の最上のコンディションを持って出場できるように願うものである。

(ベルリン・オリンピック飛込選手)

長久俊三

① バタフライとオーソドックス平泳の賛否が問題になった頃、米国ヒギンス選手が2度目の来日におけるオール・ジャパン参加は相当な注目をもたれたレースであったが、全日本選手の奮闘により、ヒギンスの決勝進出を阻んだことは愉快であった。

② 雌伏10数年、早慶戦、インター・カレッジに慶応が初の優勝を遂げた昭和13年秋、三田の山で泣きながら乾杯したあの夜。

③ 練習、練習、研究、研究、研究。

(慶大出、平泳)

天野富勝

試合前というのはどんなスポーツに限らず、動悸がなり、血が上り、号音が終るまでなおらないものだ。武者振いという表現をする人もありますが、私が記録をつくった時は、とてもそんなものではなかった、と記憶しています。前に19分を切ったこともありましたが、もし切れなかったら、練習が足りなかったのだ。タイムが違っていただけといわれそう、それは万感交々といった心境でした。プールから上って18分58秒8を聞いたとき、マイクをつきつけられ、皆がお目出とうと迫ったとき、記者のインタービューに迫りまくられたとき、わずか一時間足らずの出来事は、ふわりふわりと、ただついて廻った意志のない人間のようでした。それが感激というものだったのかもしれない。ただその一度を味わった私も、どうやら最近ではその感激を逃がしてしまったようです。若い選手諸君はそこでポカーとならず、その感激を追々と実社会に直結させていくように願いたい。

(元1500米自由形世界記録保持者)

平 賀 孟

① 選手生活11年、長いようでも今から考えれば早い、の一言につきる。その間何回止めようと思ったか、苦しかった。息子を水泳選手にはさせまいと心の中でよく誓ったものだ。が反面1日の練習を終えて、夕暮をプール・サイドで味う気持は恐らく選手の特権だったであろう。その時の気分は一番懐しい。

② 昭和16年1月「マニラ」における比島選手権にて、最初の800リレーを専門違いの私がアンカーをつとめて勝った時、在比邦人の涙の握手は今も頭から離れない。

③ 時代の変った今、古い選手が若い人に望むことは、往々にして喰違って生じるものだ。併し変らないことがある。それは人間が「心」の持主であること。練習にて身体を酷使しても身内にある「心」は可愛がって欲しいと思う。心が身に伴わねば、結果は破たん終る。

——自己の体験より——
(立大出、背泳)

藤 垣 亮太郎

① 昭和16年頃で(大東亜戦争前)、幾多強敵先輩に伍して行くたびに、唯ガムシヤラに泳ぎ、19才の純情さを練習に打込んでおりました。練習に、合宿に、試合に、勉学には一寸不足しておりましたが……。

② 満洲建国10週年記念「東亜大会」、及び北支遠征の旅。

③ 特に健康に留意されたい。

(現400米平泳日本記録保持者)

酒 井 孝 一

① 水泳生活10年間、その全部が思い出なので特別に書けません。

② 先輩であり、恩師である斎藤魏洋氏が亡くなられたことが一番大きい印象です。

③ 先輩になってしまったということは悲しいことです。先輩らしい仕事をしてないので面映いのですが、一言だけ「人より1米でも長く頑張っ泳ぐこと。」
(立大出、自由形長)

村 上 富 美 (旧姓 旗野)

① 私のその頃は戦争の最中でした。大会の記録放送中に戦果の発表があったりして、……檜舞台への希望もない時代ではありましたが、練習だけは今と変りなく一生懸命でした。登校前の一時を泳ぎ、頭から雫をたらして朝礼に出たことなど、よく泳ぎました。

② 勿論日本記録を作った時、又昭和18年の神宮大会の時、その年は不調で勝てる自信はなかった。でも私の得意とする400米だけは負けたくない。選手として最後のレースでもあり、これに優勝できたことは新記録樹立以上に印象深い大会でした。

③ 時代に恵まれた若い選手の皆様、頑張れ、頑張れ、心から御活躍を期待しております。

(元200、400米自由形日本記録保持者)

橋 爪 四 郎

① 終戦、最初の国際的に日本の名を世界に轟かすことの出来得たことは、私達道を同じくする人々と、又、全日本の皆様と喜び合うことができた。これが最大の思い出です。

② オリンピック前2年間、皆に見すてられた程のスランプ時代の自身の苦しみ、節制振り、又年明けてオリンピックの時の全日本、オリンピックでの敗北、この一貫した苦しい練習と最後のあわれな末路が一番印象に残っています。

③ ただ一昔前の日本水泳界を再現して欲しい。そのために全身全霊を打込んで、水泳界のために努力してほしい。

(ヘルシンキ・オリンピック1500米自由形第2位)

黒 佐 年 明

若い選手に「踏台として高きに登れ」

私の20年近い水泳生活は、無才、無努力の上に、戦争の影響を受けて、遂に「鳴かず飛ばすで」終末を告げようとしている。惜しまれつつやめる適当な引退の時期も知ってはいたし、先輩僚友の進言も理解できないことはない。しかし「老兵は死なず、又消えもせず」毎年若い選手に苦杯をなめさせられつつ泳いでいる。水泳が好きなのは勿論だが、最近では若い選手の踏台ともなれば幸と、敗れることも又楽しみとなってきた。

岩 合 伝

① 華なやかものはないけれども、合宿、練習、試合を通じて色々あります。戦時中空襲警報下、ガラ空きのスタンドの神宮プールに新人として試合に臨んだ頃、戦後混乱時に食う物も食わず、練習に明け暮れし、帰途プラットホームの階段があがれなかった頃、歓声と声援の中に世界的を目指して秒を競った頃、国際競技を前に身体を悪くして口惜しかったこと。

② 根上先輩のコーチ、それで始めて“泳ぎ”を知った気がする。

③ 細心の注意を払って身体を悪くせぬこと。心身の練磨、練習、練習。(立大出、自由形中)

西 野 恭 正

① 私が日大に再入学したのは、遊佐、村上両先輩に説得されて日大再建のために是非とのことからでした。当時は古橋君も4分45、6秒程で、これという選手もいなく、又食糧不足で、3食芋食3日間配給グリーン・ピース3食1週間という状態で、練習するにも歩くにも、たいそい程で、よく頑張って練習して来たと、当時の精神力には驚くばかりです。それもロンドン大会を目指して頑張ったものです。そして真木が1分を割り、浜口、橋爪らがぐんぐんと伸びて来ました。その頃一番楽しいのは、地方に遠征することでした。腹一杯飯を食うことができるからです。今でも芋を見るたびに当時のことが思い出されて、非常に懐しく感ぜられます。

② 古橋君のヘルシンキでの敗北の姿。第1回伊東温泉プールの合宿練習。

③ 私自身伸び盛りの19、20才頃戦争中で、水泳練習が中断され、年齢的に非常に苦労しましたのでその点今日という日、今年再び来らずで十分に練習してもらいたい。同時にチャンスは見のがしたら再び我に来たらずと思ひ、目標に向って精進努力して戴きたい。

(ヘルシンキ・オリンピック背泳選手)

東 昇

① 私は選手生活としては約14年位になり、海外遠征試合に出場したことはありませんが、昭和25年

戦後自由形の坂本と私とは、西日本の一つの目標であり、2人を敗れば、全日本の上位に入賞できた。「俺に勝て」と励まし、「未だ負けぬと」強気も張った。以来、待鳥、上村、中島、田中寧、谷川、石橋、横田、青木、後藤、久保田、古賀と著名選手を送り迎えしてきたが、彼等の活躍を見聞する度に、自分のこと以上にうれし涙を流しつつ、若かった頃の彼等とのレースと、敗れた時のほろ苦さを想い出すのである。

最近の水泳界の飛躍振りに比較して、踏台としてはいささか古びたし、低くもなったが、私は未だこれからの若い選手に、「俺達を踏台として高きに登れ」と叫び続けると共に、功あり名遂げ、若くして引退して行く選手に今少し留り、水泳日本の「踏台」となることを提唱したい。

(背泳、国体第1回よりの出場者)

宇 田 久 寿 秀

①、② その頃の思い出と一番印象に残ったことと関連していますので、同筆致します。

昭和25年全日本選手権200米平泳予選150米折返し瞬前、水中の一揺きにバタフライ転換、初出場優勝、野望の夢は空しく消え去るとともに、世界の檜舞台たる日米水上対抗出場の機会を失ったのは、当時調子のよかった私にとっては、泣いても泣ききれない程残念であった。

次の全日本学生選手権には、きっとその名誉挽回をと、秘かに熱情を燃し、又この一戦こそ学生々活最終の美を飾る競技だと思つと、更に緊張に緊張の度合を加えざるを得なく、もし努力儘きざれば気力で補うと意慾旺盛で、競技に臨んだ甲斐あってか、思いもよらぬ好調裡に希望を達成、100米平泳に日本記録を作って、無事水に暮れ、水に明けた学生生活の幕を優美で閉じた時こそ嬉しかったことはなかった。

③ 勝った時より破れた時にファイトをもって屈することなく、奮起し、敗因を念頭に浮べ、次の競技こそはと練習量を誰よりも豊富に持ち、自信をつけること、但し体力消耗に留意の上、例えば熟睡をもって疲労を補いできる範囲の最高限の練習量で、でき得る限り少しでも水にのる時の量を多くつかみ体得するよう、それには1日1万米泳ぐことを望みます。(元100米バタフライ日本記録保持者)

の第3回日米対抗に出場できたことを選手生活中一番嬉しく、又私の一生を通じて貴重な思い出となりました。これだけでも幸福者と私は思います。この試合に出られたのは、こういうことであつた。……24年の渡米候補に一応あげられて一生懸命やったのが、病気になり、残念なことをしたものだと思ひました。自分の不注意で体をこわしたからだ。……来年こそはと、今度は身体を充分大切に、頑張つたのが私の再出発の源となつたのでしよう。

② (1) 第3回日米対抗に、生れて始めて外国選手と試合をしたこと。そして始めて1500米長距離を泳がされ、アメリカのコンノとせり合つたことは一生忘れることはできないでしよう。あの当時の苦しさは初めてのレースで、ペースが分らなくて困つた。しかしコンノの18分44秒6、私の18分47秒2、共に当時の世界新と聞いた時は、涙の出る程嬉しかった。私は勿論、関係者も18分台が出るとは思ひなかつたであらう。

(2) 25年の全日本選手権に200米で短距離の王者、浜口、丸山両選手の不調に代り私が始めて優勝できた。あの当時のゴール前の苦しかったことも、又忘れられないものであつた。

③ このようなことをいっては失礼と思ひますが、現在学生選手は練習こそはやっておられるだろうが、もっと自分の身体を大切にせねばならないと思ひます。試合前は勿論、日常生活から大切にすることがスポーツマンであると思ひます。それと同時に自信を持つことを忘れてはならないと思ひます。

そして勉強だ。運動選手はどこへでも就職できると考へては困ると思ひます。芸は身を助けるの言葉もありますが、決してそうではない。優秀な選手は勉強も頑張れば優秀なはずだ。

(日大出、自由形長)

待鳥啓三

① 戦後間もない頃だったので食糧事情も悪かつたが、矢張りただ泳ぐことのみで専念できた学生時代の頃が懐しい。

② インター・カレッジで優勝した時。

③ 今後はますます競合いがはげしくなると思ひますが、各自は自分の体力を常に念頭におき、試合前にはベスト・コンディションに持つて行くよう心掛けるべきだ。

(早大出、背泳)

山本速水

① あの頃の思い出としては、大学時代色々貴連盟に御世話になり、一方ならぬ御指導により25年の日米対抗に出場できたことが、今なお思い出の一つとして残っています。そして又野沢温泉、東大、伊東温泉での合宿も深い思い出の一つでしよう。

② 印象的なものは日米対抗当時、浜名湖の夜釣、日光での米選手との柔道に一夜を過したことです。

③ 若い選手に望むことは、ただ泳ぐより他にありません。結局自信ある泳ぎにするために、泳いで泳いで、泳ぎぬくより他にないと思ひます。

以上のようなものですが、何卒今後とも宜敷しく御指導、御鞭撻下さいますようお願い致します。

(関学出、背泳)

“世界選手権水上競技大会”

4年毎に行われるオリンピック競技以外に、水泳は世界選手権大会に類する競技会の開催は許されていない。然し4年に1度というのは、熱心な者には洵に待遠しい想いをさせる。その故か、近年欧州選手権、汎米選手権、日米対抗等が定期的に行われるようになった。これは4年に1度のオリンピックだけでは物足りないことを物語っている。

世界選手権と銘うったものでなくとも、テニスのウィンブルドン、スキーのホルメンコーレン、ゴルフの全米オープン等の競技会は、事実上の世界選手権競技であることを万人が認めている。そしてこの道に入った者は、競つてこれ等の競技に参加することを非常な名誉と考へている。

これと同じ考へを水泳に及ぼすならば、最も水泳の盛んな国の選手権大会を、事実上の世界選手権大会にすることである。日本選手権大会は、毎年優秀な外国選手を招聘して行われるので、その条件が一番近いが、自費で参加する外国選手が何名か出て来れば、それでよいのであるから、もう一息という所だ。アメリカやロシヤが気着かないうちに早くしたいものだ。

(川田)

泳法の解説

強化委員会

終戦後古橋選手によって世界の水泳競技のレベルが躍進してしまった。殊に距離が長い程進歩の度が激しく、今まで想像もしなかったようなスピードで泳ぎ抜いてしまう。各ラップ間の記録の短縮であります。

こうした記録の上昇に抗するには凡ゆる泳法を通じて手足の掻き方、蹴り方が完全であって、然もその動作の速度が要求され、然もそれを最後まで持続しなければ、到底世界の第一線に乗り出し得るようになれない。

こうした厳しい競争に克つ選手を養成するには、1ストロークで進む距離を長くして、然もピッチを意の儘に速くあげられるような力強い泳ぎでなければならない。幾らピッチをあげても1ストロークで進む距離が短かいとか、その逆の場合とか、何れか一方が欠けていては、こんなに向上した世界の水泳の現状に於て、我が水泳界に役立つ選手になれないと考える。

要するにクロール、バック、ブレスト、何の泳法でも速く泳ぐために何より必要な条件は、手の掻き、足の蹴る動作が速いことで、特に後半からフィニッシュにかけて速度が陸上で思いのまま速く空掻き、空蹴りする時の速さで、水の中でも水圧に防げられることなく動かし得ればよい。但しこうした動作をすれば、自然とピッチはあがるが、ピッチを速くするという意味ではない。最も大切な部分の動作の速さのこの意味と御了解願いたい。

クロール・ストローク

“体勢”

- あごを引き、首すじを伸して、身体全体をでき

るだけ水平度を保ち、浮かせるようにする。

- 頭髮の生え際が水面に出る位に浮かせねばならない。
- 短距離の場合は特に上体を浮かせる必要がある
- 手と足のバランスは2ストローク、6ビートが原則である。

“手”

- 手の動きを分析して、キャッチ、圧え、引張り、押しに4つに区別する。
- キャッチとはストロークを終えて前方に戻して来た手が、前方で水中に突込み、肘をぐっと伸して水を把んだ処をいう。つまりストロークの第一歩である。

この場合肘が完全に伸び切らないと力強く水をつかむことができない。

- キャッチする時の手先の位置は首のつけ根と肩の中間の線上がよい。ローリングした場合の肩の線に入れるわけである。
- 掌の形は五指をつめ力強く平にした形から指先の力を抜いた時にできるほんの僅か丸みを帯びた自然の形がよい。但し水を強く圧えられるように真下に向けないといけない。
- 腕と手首から先が真直ぐでなければならない。
- キャッチした後は手首を少し下に曲げ、肘を伸したまま水を下方に圧える。
- 水を圧えている掌に身体の重さを乗せかけるような気持で圧える。
- 水の圧えが段々下方に進むにつれて手首を少しづつ余計に曲げる。
- 指先が肩の線の斜め当りまで来た時に掌が水面と直角になるまで手首をまげる。水を把んだ掌を手前に引張り、肩の線を通り過ぎてから後方に押す動作をする。この二段階が身体を前進せしめる

ための大切なストロークである。

- 愈々水を圧える段階を終えてこのストロークに移る時には、先ずぐっと力強く肘を曲げ、肘から手先まで水をかかえ込むような気持で前記のストロークを開始する。

その際特に注意すべき点は次の4点である。

① 掌が可及的にストロークの最初と同じ深度で後方に移動し得るように肘の曲げ方で調節する。

② 掌が常に水面と直角の位置を保ち得るように手首の曲げ方で調節する。最初は手首は下に曲がっていて掌が肩の下当りに来た時は、肘から指先きまでやや真直で、手首の曲は殆んどないが、それから水を後方に押しやるにつれて手首は逆に上方に曲げねばならぬ。

③ ストロークの最後は肘が完全に伸び切るまで力強く水を押し切って、ストロークを終えるフィニッシュに近づくとつれて掌の深度は段々浅くなるのは己むを得ないが、第一次の原則に従って、できるだけ最初の深度を失わない気持ちで肘を力強く伸ばし乍ら、水をぐっと押しつけてストロークを終えることが必要である。

④ 水をキャッチした処からストロークを終えるまで正常の進路は、進行方向と並行でなければならぬ瞬間から腕の力を抜いて、ストロークを終えた手を前方にもって行く。その方法は先ず肘を曲げ、肘を前方に持って行って肘が肩の線あたりに来てから肘を伸して掌をキャッチする位置に持って行く。肘をひどく曲げ、又身体に近すけ過ぎて窮屈な形をとる必要はない。できるだけ力を抜いた自然の楽な形で手を前に運ぶ。

手の動作の中で最も大切なのは、二つの手の関係である。キャッチした手が水を圧え終って、愈々力強いストロークに移る時には、片方の手が水をキャッチできる体勢にあることが絶対に必要である。水をキャッチすれば浮きがとれて身体は安定する。身体の備えが安定して初めて思い切った力強いストロークをすることが可能である。片方の手がまだ前方に運ばれている時にストロークを始めると、身体が沈み安定を失う。この場合は必然的に肘を曲げてストロークできないし、ピッチを

無暗に速くして、身体の安定を計るようになる。そのために2対6の手足の原則的なバランスを失い、いわゆるピッチの泳ぎに陥入ってしまう。こんなのは決して正しい泳法ではなく、一定の線から上は出られないし、くずれるのも早い。寧ろ逆にストロークが遅れる方がよい。ストロークが遅れると両手が水を圧えている時がある訳で、必然的にピッチがおそい泳法になるから、そうした人は片方の手を前方に運ぶ間に早く水を圧え終れるように心がければよい。要するに原則として、片方でキャッチし、片方で掻き初めるのが同時であるのが正しい。水をキャッチして身体を浮かし、安定が得られた時に、身体のローリングの力を利用して思い切り強いストロークをかかすのが手の使い方の鉄則と心得てよい。

“足”

基本体形を整えるのは足の動きである。従って足の動作の鈍いものは基本の体形ができないので、どんなに腕の力が強くても、その力は生きて来ない。よい選手になるためには、足の強さが不可欠の条件であるとの考えで、足を強くすることを第一にとりあげる必要がある。

足の力を完全に抜いて両足を伸ばすと、自然に尻首から先がやや内側にまがった形となる。その形が自然で、かつ正しいので、やや内側にまがった両足の親指がぶつからない範囲で、両足をできるだけ近づける。両足の間かくが開くことは足の効果を薄くする。足首から先を殊更に内またにすると、必然的に両足の間かくが広がるから悪い。

太腿からあげて膝を上曲げ、足首の動く巾をできるだけ大きくする。太腿を下におろす時、曲げた膝が伸び切るまで力強く下にたたきつける。膝の位置は上、下には移動するが、前後に移動しないように特に注意すること。足先を後へ伸すのでなくて、下へたたきつけなければ効果はない。選手の中にも足の動作の中に何パーセントが後へ伸ばす動作の加っているものがある。その比率の大きい程足の動作は鈍る。

足の強さは曲げた膝から足先で水を下にたたきつける時の速度で強弱ができる。

膝の曲げを大きくすれば足先の動く範囲は広がるが、そのために荷が重くなって、たたきつける速

平 泳

度が鈍れば何の効果もない。要するに曲げた膝がぐっと伸び切るまで曲げた膝をはね返して水を下にたたきつける。そのはね返す速度が、足の動作の生命であって、速度を失わない限度に於て膝の曲げを大きくすればよい。

水をたたきつけるときに最も強く働くのは足の甲である。足の甲で水を強くたたきつためには足首の柔さが絶対に必要であって、足首が硬くてはどんなに強く動かしても足の動作は死んでしまう。

足でピートする時の気持は、よくしなうむちのように柔かい足で、ますスネで水をたたき、次いで足の甲でたたき積りでやればよい。

足のたたき方は正しい間かであるのが原則であるが、必要な時にキキ足をきかしてやや不規則な間かくでたたいても差支ない。

此の場合のキキ足の入れ方は片方の手が前方で水を圧え、他方の手がフィッシュの力強い押しおさめをしている時に、特に強く速い二つのピートを加える方法である。

“呼 吸”

呼吸は速く、そして充分にすることが必要である。吸う時は口でするが、速く一気にできるような大きく口を開く、そして顔が水底に向くまで止めていて、再びロールする時に除々に吐き初め、最後に一気に吐き終えると同時に口が水面に出て吸える体勢となり、そこでできるだけ速く、しかも充分に吸う方法でよい。

“ローリング”

呼吸をするためというよりも、身体をロールする力をストロークに利用して、腕の力を補う。同様にロールした身体を正常な位置に戻す時のロールで、他の手のストロークを強くするようにする。つまりローリングでストロークの力をひねり出す積りで泳がないと力強い泳ぎはできない。

腰は安定させねばならないが、ローリングに応じてロールすることは差支えない。

どんなにロールしても身体の中心線がつねに進行の線と並行でなくてはならない。

身体の中心線が蛇のように曲がるのは絶対に避くべきで、それではローリングの効果は期待できないだけでなく、逆効果となる。

“姿 勢”

- 水中から水上に浮き出た時の姿勢が基本。
- 安定していることが一番大切で、それがためには重心を腰に置き、脚部がやや下っている。(足を引き付けた時に腰が上ることや、上下動のする泳ぎ、及び背中を丸くして泳ぐことはいけない。)

“足”

- 脚力の弱い、また技術のまずいものは致命的で平泳には適しない。
- 「引きつける動作」
膝を斜下の方向にやや広い目に引きつける。その場合足をできる丈身体に接近させるよう心掛け、足先を充分外にし、足の裏を後の方に向ける。

「蹴りの動作」

足を引きつけた位置から外方に円く蹴る。

要領は最初は蹴り、脚が伸び切る少し前から蹴り、はさみの動作に移り、最後は力一杯両足が合うまではさむ。その時足の裏はできるだけ水面に直角とし、足の裏に捕えた水を最後まで逃がさないことが大切。蹴る加減は後に行けば行く程早くする。

“腕”

「伸びた時の」

肘を落してもいけない。横に張ってもいけない。上膊部を合わすような、また首を両肩ではさむような気持で肩を充分前に出し、水平か心持下ったところへ両手先を合わし、完全に伸ばす。その場合の手先はすぐに搔けるよう斜下を向ける。

「搔き始めの動作」

足を蹴ったスピードが落ちないうちに搔き始める。

搔く要領は外の下向に腕を伸ばして搔き、45度(腕を伸ばした線と両肩を結び線との中間)あたりから肘を曲げ、丸く搔き、最後に手先のスナップを強くきかして水をはね、胸の下あたりから両

手をそろえるようにして伸ばした位置に運ぶ。

(手先は掻く程に深くなる)。力の入れ具合は肩幅よりやや広いところまでは緩く、そこから一気に力強く掻く。

“呼吸の要領”

全り身体を上下動させず、手を掻いて自然に身体が浮き上がった時に息をする。

首をなるべく上下に振らないよう、但し呼吸する場合心持首を動かすことは差支えない。

“コンビネーション”

手を掻き終った瞬間に一気に足を引きつけ、蹴る態勢に持っていく。

心持ち手が伸び始めた時に足を蹴り始め、足を蹴り終った時には手も同時に伸び切っていなければならない。

“スタートの後の水中を泳ぐ要領”

顎を引き手を伸ばした位置から除々に広げ、肩の巾で腹の下を後方に掻き、ももの所へ肘が伸びるまで掻く。掻き終った手はできるだけ身体に接近させ胸の下を通して、前に運ぶ。このため身体はやや頭が下った前傾姿勢となる。

背 泳

“姿 勢”

顎を引き、足を見通してコース番号の線を結ぶように体位を保つ。胸の部分をややそり気味にして顎を引くことによって、身体の水平度を失わないようにする。

顔は常に同じ位置に置くこと、但しローリングすることによって顔が左右に自然と向くのは差支えない。

“腰”

腰は常に正常の状態に保ち、安定させる。特に腰を持ち上げたり、反したりすることは絶対にいけない。

“腕”

(腕の入れ方)

腕は進行方向に対して肩の線からやや外側に肘を延して小指から入れる。この際僅か手首を曲げの方がよい。手を入水する時は、手先に体の重味を乗せかける気持を持つこと。

(手の掻き方)

腕を延したまま掌が常に後方を向くように手首を調節し乍ら、両肩の平行線辺りまで掻いてくる。この場合手でできるだけ多くの水を掴むような気持で掻く必要がある。深さは水面から10糎位。ストロークの後半は、多少肘を曲げて、掌で水を押すように強く掻き、最後は腕を延し、ももの外側まで一気に掻き終る。掌が両肩の線の位置まで来てから、最後までが最も進行に役立つので、その間のストロークがどの程度に速くかけかが選手としての死活を決定づけると考えてよい。深さは前半よりやや深い。抜いた腕は、力を抜き、掌をやや外側に向け、肩で水に乗りつつ、肩の線の斜め上方を通して、肘から前方へ返す。

“脚”

両脚は足先を内股にして延し、膝を大きく曲げてすねと足の甲の上の水を後方に蹴り上げる。膝の位置を一定の処に安定させて、前記の動作をすること。少しでも前後に移動することは絶対に避けないと脚の効果は得られない。

この際足首は充分延し、蹴り終った後は、足首の力を抜いて柔かくする。

「摘 要」

背泳のターニングはフリップ・ターンを採用のこと。

× × ×

× × ×

× × ×

“競泳のスピードと足首の柔軟性”

宮 畑 虎 彦

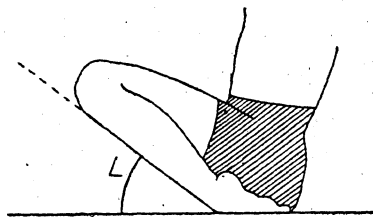
クロールにおいて、ばた足の動作は、左右交互に上から下に水を打ち、それによって前進力と浮揚力を生む。この際「最も強く働くのは足の甲である。足の甲で水を強くたたかためには、足首の柔らかさが絶対に必要であって、足首が硬くてはどんなに強く動かしても足の動作は死んでしまう。」（日本水泳連盟強化委員プリント“泳法の解説”）

また平泳のかえる足においては、キックの際「足裏はできるだけ水面に直角とし、足の裏に捕えた水を最後まで逃がさないことが大切である。」（同上泳法の解説）クロール、及び背泳において「よく伸びる足首」が、平泳においては「よく曲がる足首」が必要であることは、水泳に関係するものは経験上よく知っていることであるが、それがどの程度に必要であるかは充分明瞭に知られていない。これを知り度いと思ったのが私のこの実験的な試みである。

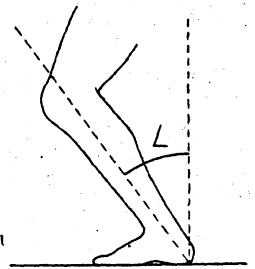
1. 足首の柔軟度の測定

被験者は、昭和28年8月、天理プールにおいて行われた「水泳教室」に参加の、20都府県中学校代表で、対照に使った「一般」というのは東京都内のある中学校3年の生徒である。前者は相当に水泳を練習し県下で優秀な成績を持つ選手たちであり、後者は水泳に関係のない集団である。

(a) 足首の伸展度 — 被験者は平らな板床に正座して両足の母指を軽く接し、足の甲を床につける。次に足の甲が床を離れない範囲内で、足首を伸ばして、できるだけ両膝をあげる、その時脛骨前縁が床面となる角度を測定し、その数字を「伸展度」とした。



(b) 屈曲度の測定 — 被験者は床上に直立する、両足を揃え、足裏が床面から離れない範囲内で、できるだけ足首を曲げて下脚を前倒し、腓骨が床面に対してなす傾斜角度を測定し、この数を90からひいたものを屈曲度とした。



2. 泳ぎの速度（足のみの動作）の測定

- (a) ばた足 — 被験者は水中でプールの壁を蹴って出発し、両腕を頭の前に伸ばし、両手を揃えてばた足で前進する。測定は、泳者の指先が壁から5メートルの点に達した時から、15メートルの点に達するまでの10メートルを進むのに要する時間を測定した。
- (b) かえる足 — ばた足の場合と、かえる足で前進すること以外は同様の方法によった。

3. 伸 展 度

「水泳教室」参加の各都府県は、原則として、自由形2名、背泳、平泳各1名、計4名を選抜して参加させていた。大体において自由形短距離、同長距離、背泳、平泳において、それぞれ県下中学校生徒中の最優秀者である。

これらの選手の足首の伸展度は表1、及び表2の通りである。

表1のとおり、一般中学生の集団では、伸展度25度位の者が多く（平均22.5°）、正座したらそれっきりで、全然膝を上げられない者が10%強（8名）もいた。これに反し選手の伸展度は平均35度位で、平泳選手の中には全然膝を上げられない者が1名いた（しかもこれは、選抜されて参加した選手でなくて、大阪近郊のある高校から特に希望参加した者で、泳ぎの記録もよくなかった）が、全般に伸展度

表 1. 足首の伸展度

区分 頻数 伸展度	非選手		選手				
	実数	%	泳ぎの種目			計	%
			自由形	背泳	平泳		
10° (12—0) 以下	13	16.5	0	0	1	1	0.1
15° (13—17)	4	5.1	2	0	1	3	3.7
20° (18—22)	16	20.2	3	0	3	6	7.4
25° (23—27)	21	26.6	5	0	3	8	9.9
30° (28—32)	12	15.2	8	4	3	18	2.2
35° (33—37)	11	13.9	11	7	6	20	24.7
40° (38—42)	2	2.5	4	2	2	11	13.6
45° (43—47)	0	0	4	5	5	11	13.6
50° (48—52)	0	0	2	0	2	2	2.5
55° (53—57)	0	0	0	0	0	0	0
60° (58—62)	0	0	0	1	0	1	0.1
	79	100.0	39	19	23	81	100.0

が非常に高い。

足首の伸展は、下脚の脛骨、及び腓骨の下端が形成している凹みに距骨が入り込んでいて、この関節の可動範囲が大体85度位といわれているから、ほぼ足の前面が下脚と直線になる程度に伸展する。更に足は多くの小さい骨からなり、屈一伸という立場からは、上述の足首の関節の外に、大体2組の関節する横列がある。これらの複雑な関節の可動性によって、足は下脚と直線を越えて伸展することができるわけである。可動範囲を決定するものは関節のみでなく、その周囲の筋系の柔軟度如何にもよる。これらのことはここでは詳細に述べない。

4. 種目別による伸展度の比較

泳ぎの性質上、背泳選手は特に足首の伸展度が大きい方がよいと考えられているが、背泳選手と平泳

表 2.

区分 伸展度	背泳選手	平泳選手	計
33° 以上	15	9	24
32° 以下	4	14	18
計	19	23	42

選手の伸展度の関連係数に特に、著しく現われている。

表 2 から関連係数は 0.707 である。

自由形選手 (39名) の足首の伸展度は、平均32.8°、背泳選手 (19名) の伸展度平均は38.4°、平泳選手 (23名) のそれは30.0° であって、背泳選手の足首の伸展度は他の種目の選手の伸展度より大きく、平泳選手の足首は他の種目の選手のよりも伸展度が小さい。

5. 種目別による足首の屈曲度の比較

足首の伸展がクロールや背泳の足の動作に必要であるのに対し、平泳においては足首がよく曲がる必要がある。それを測定の結果から見ると表 3 のとおりである。

表 3 によれば、一般中学生の集団が、選手に比べて、却って屈曲度は高い。平泳選手のみについて見ると、23名中屈曲度40度以下の者はいなくて、屈曲度の高い者が選手としてよい成績を示していることがわかる。

自由形、背泳、平泳の選手の足首の屈曲度の平均は、それぞれ43.5°、45.8、48.3° で、平泳選手の足首の屈曲度は、他の種目の選手よりも大きい。そ

表 3. 足 首 の 屈 度

屈曲度 頻度	非 選 手		選 手				
	実 数	%	自由形	背 泳	平 泳	実 数 (計)	%
30° (28-32)	0	0	2	1	0	3	3.7
35° (33-37)	1	1.3	4	4	0	8	9.9
40° (38-42)	7	8.9	14	0	2	16	19.8
45°	21	26.6	8	4	8	20	24.7
50°	24	30.4	6	7	10	23	28.4
55°	21	26.6	5	2	2	9	11.1
60°	4	5.1	0	1	1	2	2.5
65°	1	1.3					
計	79	100	39	19	23	81	100

の関連係数も表4の如くで、0.777の高さを示している。

表 4. 平泳とその他の種目の
選手の足首の屈曲度

区分 屈曲度	平 泳 選 手	そ の 他 選 手	計
43° 以上	21	33	54
42° 以下	2	25	27
	23	58	81

以上のことから、足首の伸展度は背泳選手が最も大きく、平泳選手が最も小さい。これに対し屈曲度は平泳選手が最も大きく自由形が最も小さい。

前にも述べたとおり、「水泳教室」参加者は大体において自由形短距離、及び長距離、背泳、平泳の第1位者である。

各県からの参加者(4名の県が多い)について比較してみると、東京、千葉、香川、奈良、京都、熊本、大阪、愛媛、神奈川、三重、沖縄の11都府県は何れも4名中伸展度の最大者は背泳選手であり、屈曲度の最大者は平泳選手であった。

高知、岩手、静岡、愛知の4県は自由形選手に伸展度(或は屈曲度)の最も大きい者がいたり(高知、静岡、)平泳選手で伸展度が他の種目選手より大きい者がいた(愛知、岩手)。これら特に足首の柔軟な選手は、この「教室」でも特異な存在で、恐らくやらせばどの種目にでも優秀な選手になれただ

ろうと思われる選手たちで、次のとおりである。

斉藤(高知) 伸48° 屈51° 1500m 第3位
水野(静岡) 38° 54° 400m 第1位
伊藤(福井) 43° 47° 100m 第2位
(練習50m 第1位)

鈴木(愛知) 43° 56° 平泳 第1位
大戸(岩手) 43° 50° 平泳 第2位

福井県は背泳選手がいなくて、伸度は上記伊藤が最大で、屈度は平泳選手が最大であった。大分県は背泳(木村)選手が伸・屈とも4名中最大であり、島根県は自由型(口羽)選手が伸・屈とも3名中最大であった。(残り2県広島、徳島は各1名のみ参加)

6. ばた足の速度と足首の伸展度

ばた足が有効であるためには、足首がよく伸展することが大切な要因の一つであることは、前述のとおり各県から選ばれた自由形、及び背泳選手58名中伸展度19度以下の者僅かに2名しかいない事実によってもわかる。

しからはばた足の速度が大きい程ばた足のスピードが大きいであろうか。

表5のとおりで、伸展度が大きい方が有利であることは考えられるが、伸展度とばた足速度との間に高い相関関係はない。表1に明らかな如く、一般人の中には足首の伸展度が僅めて小さい者もかなりいるので、かりにこれらの人々を選手と同じように練習させてみれば、もっと高い相関が見られるか

表 5. 足首の伸展度とばた足のスピード

伸展度	17.5°以下	18.0°-27.5°	28.0°-37.5°	38.0°以上
所要時間				
9秒				
10秒				
11秒				
12秒				
13秒				
人 員	5	6	7	8

(伸展度別の各グループの欄の太線の上端は最高、
下端は最低の成績を示す。)

も知れない。しかし現実にはこれら足首が硬くて、クロールに大切な適性の一つを欠く者は既に自然に淘汰されているのでありと考へざるを得ない。伸展度20°位から上になると、伸展度の差による以上に、他の要因——例えば脚の筋力や、足を動かす速度など——によっても、結果が左右されるものと想像される。試みに股の太さを測定して、その太さとばた足の速度の相関をみたが、ここにも大した相関はない。恐らくもっと多くの複雑な要因の総合によって結果は決定されるものと思う。

これは背泳、平泳についても大体同じような結果であった。背泳では、表1に現われているように、伸展度30°以下の選手はいなかった、これらの選手の足の動作だけによる泳ぎの速度は、伸展度と高い相関は見られなかった。しかし香川県の森江が、身長、体重、胸囲など何れも平均以上でない大きさでありながら、背泳で抜群の強さを示したことから、彼の伸展度(58°)は「水泳教室」84余名中抜群のものであったことは注目してよいと思う。

7. 要 約

20都府県下から選ばれた中学校水泳選手の足首の伸展度、及び屈曲度を測定した結果、これらの選手は一般中学生よりは足首の伸展度が高く、特に背泳選手は足首の柔軟度が高く、平泳選手は屈曲度が高い。県下で1、2位を争う位の者は、自由形では伸展度20°以上、背泳では30°以上、平泳では屈曲度40°以上の柔軟性を有すると結論しても誤っていないらしく、選手候補者を選択する時の一つの標準に用いられ得ると思う。

この柔軟度が生得的なものであるか、或は水泳練習によって獲得できるものであるかについては、別の研究を待たねばならない。

プ ー ル 公 認

昭和28年度より(本誌96号48頁発表以後)日本水泳連盟で公認したプールは次の通りである。

公認番号	名称・所在地	公称距離	加盟団体	公認番号	名称・所在地	公称距離	加盟団体
6	西京極運動公園水泳場 京都市左京区西京極	50米	京 都 水 泳 協 会	128	武義高校プール 岐阜県武義郡美濃町	25米	岐阜県水泳連盟
37	岡山総合運動場競泳池 岡山市津島	50	岡山県水泳連盟	129	佐伯鶴城高校プール 大分県佐伯市馬場区	25	大分県水泳連盟
38	栗林公園競泳池 高松市栗林町	50	香川県水泳協会	130	金沢市立工業学校プール 金沢市泉野町	25	石川県水泳協会
39	島田第一中学校プール 静岡市島田市	50	浜名湾游泳協会	131	更南プール 長野県更級郡上山田町	25	野尻湖游泳協会
40	神戸市民運動場プール 神戸市長田区蓮池町	50	兵庫県水泳連盟	132	郡山中学校プール 奈良県大和郡山市	25	奈良県水泳連盟
41	船岡町集プール 鳥取県船岡町大字見楯中	50	鳥取県水泳連盟	133	井田小学校プール 岡崎市井田町	25	愛知水泳連盟
42	宮崎県総合運動場プール 宮崎市牟田町	50	宮崎県水泳連盟	134	聖心プール 名古屋市北区上名古屋町	25	"
43	瀬高町営プール 福岡県山門郡瀬高町	50	福岡県水泳連盟	135	勝山高校プール 大阪市生野区勝山通	25	大阪水泳協会
124	小田原高等学校プール 小田原市緑	25	神奈川県水泳連盟	136	大阪消防局プール 大阪市城東区西鴨野町	25	"
125	一宮プール 山梨県東八代郡	25	山梨県水泳連盟	137	水前寺プール 熊本市出水町	25	熊本県水泳協会
126	愛知学院プール 名古屋市千種区楠元町	25	愛知水泳連盟	138	東大室内プール 東京都文京区本富士町	25	東京都水泳協会
127	伏木小学校プール 高岡市伏木一の宮	25	富山県水泳連盟	139	鳥取県立鳥取東高等学校 鳥取市立川町5の210	25	鳥取県水泳連盟

女 子 水 泳 に つ い て

杉 本 伝

現 状 と 戦 前

女子の水泳という現今の日本の状態は世界のレベルから見放された非常な下位を低迷しているというより外なからう。オリンピックに出て見ても、日本の女子選手は小さいということが第一眼に付くだろう。これからして改良して行かねばならないことは勿論であるけれども、このことは、そう早急には望めるものでもない。前畑さんがオリンピックに優勝したときは、欧米の女流選手に互して体格から視てもそう小さいとは感ぜられなかった。日本にも前畑さん以上の体格の持主は 近来多くなっているから、時期さえ待てば水泳選手の中にもそう見劣りしないものもできると思う。だが一方ベルリンの大会で小軀の小島さんが400米自由形で決勝の6位に喰い込んだことを忘れてはならない。あんな小柄でも決勝に残り得ることを証拠立てて呉れたのである。大きくなければ駄目だというと日本の女子の大きからぬ者は皆失望してしまうだろうが、私は小島さんの例を採って、大きくなくても断念して貰わなくてもよいといおう。

1932年羅府オリンピックに初めて日本から女子部が出場したが、相当の働きが見られた。乃ち200米平泳に前畑さんが2等、400米リレーが5位、高飛込で鎌倉さんが6等と入賞している。その4年後のベルリンでは前畑さんが優勝し、400米自由形で小島さんが6位。飛板飛込で大沢政代さんが6位、高飛込で大沢礼子さんが4位、同じく香野さんが6位と仲々の進出振りで、世界水泳界の一方の重鎮のようになって来た観があった。而して1940年の東京オリンピックでは、物凄しい所を見せねばと思っていた処を戦争のため立消えの状態になって了って、敗戦後初出場のヘルシンキでは優勝の望みを掛けていた男子競泳でさへ他国の進歩のため思わしい成績が見られなかった程で、女子に到っては第1回出場の羅府の場合など思いも寄らぬ有様で、その存在さえ認

められない程の敗戦振りに、今更ながら目が覚めたようにも思われる。オリンピックで男だけが強いというのは何んだか片輪のような状態で、女子の方も相当に進出が見られなければ引け目を感じることも夥しいものがある。水泳連盟としてもこの点を考慮して、何んとかしてこの方の進歩を計らねばならないと力を入れているが、一方地方の加盟団体に於ても強力にこれを推進して貰わねばその実は上らないだろう。

戦前、女子水泳は女学校の分野としてハッキリ筋が通った体形で発達して来たが、戦後男女共学で、前の中学校と女学校が合併混合され、プールの設備が在っても、男女両方の設備がなく、監督者も両方共心配せねばならない状態が、先ず男子からと多くの学校がやったのでないかと思われる。最近漸やくその辺の整備要領も次第に改善せられ、プール設備の数も戦前より比較にならぬ程増しておるので、急速な進歩が見られるようになった。N. S. R. 発表の競泳20傑表にも頭れているように、その進歩率の高いことは驚くべき程のものがあるのは、真に喜ばしい現象といわねばならない。日本記録が年々破られて行くのも、この所最近2、3年は男子のそれに較べて数からいうと多いのは、程度が低いためで、破り易い状態に置かれてあることを証明しているのであるが、斯くして一步一步世界的水準に近づくものであることは勿論である。

未 開 発 の 女 子 水 泳

日本の女子水泳は未開発の状態にあるので、その余地が男子の場合より更に多いということになる。女子競泳の20傑表を見ても判るように、或る地方に偏して極めて少数の地域だけに限られている憾みがある。この点にも開発が多い。レコードのことに就いて未開発の一例を掲げて見よう。これは私のいる所のことであるが、一昨年中学2年生の女の子が2人7月中旬から水泳を習って、やっと浮けるように

なり、その7月の終りには50米続けて泳ぎ得るようになり、8月中は毎日練習している間に2000米位いは平気でやれるようになり、その年の(昭和27年度)の日本中学校の20傑表にも下位ではあるけれども載せられる所まで来た。昨年は是れに力を得て、それ行けばばかり4月から練習を初め、28年度の表ではベスト・テンの中位まで2人とも進出して来たのである。これ等がもう1年も早くから水に入っていたら恐らくその優位の近くまで行っていたかも知れない。僅か1年半でこの程度まで2人とも来たという状態が、未開発であるからで、男子のように開発されていたら仲々困難なことであるので、一つの学校、それも定員の極めて少ない学校であることから見ると、少しの指導の要領で、現在プールを持つ学校だけでも各地で随分優秀者が生れるに極まっている。もしそうなれば前述の泳ぎ初めてから僅か1年半で日本のベスト・テンの中位まで昇った者も表には頭われないようになっていたであらう。

小・中学で水泳を指導せねばならない

中学校の先生の中にもこのように女子を仕立て上げることに興味を持っている人の在る所が、現在発達している。プールは在るが、ただ泳がすだけで、競泳に興味を持たない先生や、時間だけの責任を果したらよいという観念の先生に掛ったら、日本の水泳は何時まで待っていても進歩は見られない。幸い日本には現在の学校教員待遇問題などで教育界全体に亘っての難問題が横たわっているが、こんなことを外にして水泳発達に尽粹している指導者があることを忘れないで貰いたい。この問題は文部当局や教育委員会のことにも及んで来るが、この方面に関係する水泳愛好者の御努力に待たねばならない。

プールのある学校は皆ということは実際には無理だろうが、各加盟団体には必ず少なくとも、一校は高校、中学と連絡ある体操の水泳指導者を配する所があって欲しいのが、現在の階段に於ける日本女子水泳の希望といえよう。

男の子でもそうであるが、特に女の子は高校に入ってから泳ぎ初めたのでは、殊んど問題なしにでき上らない。それは恥かしいという気ができているので、泳ぐことだけは必ず小学校の間か、遅くとも中学の初年級の頃から初めないと、選手になることはできないだろう。斯様な期間は男女の区別がない程の身体状態である。そんな機会を外すと、最早取返

しが付かないのではないか、余程の例外者は別として。こんなことを私がこの低面に書くということは多くの水泳人からそんなことは当然なことだといわれるのであるが、それでも何回でもいおうとするのである。

中学校の水泳(競技会を持つこと)に就いては、今水泳連盟も当局と大いに闘って貰っているが、女子の体位向上という見出しで、何が一番効果があるかという「水泳である」ということを文部当局でも異議を称える人はないと思う。その水泳を奨励するためには、小、中学の期間にかけて行わねばならないのであって、「日本の女子は世界の水泳界で大いに活躍して気を吐いている」となれば、文部当局から指示されなくても、誰れも彼れも、而してお母さんは高価な水着でも、娘のために買ってやって体位向上の水泳を喜んでさせて呉れると思う。日本の女子にも誇りを持たすことが奨励上最も大切なことである。競泳が悪いとか、遠い所へ出て行くのが何うのといつて、日本の水泳発達を阻止していたり、極めて小部分の競泳を禁止することによって、日本全体の体位向上(母体の)が阻められているのは、誠に遺憾なことで、オリンピックで日本女子の体格の小さいことの見苦しさが解決される最も大きな手段を、当局が或る行きがかりのために阻止しているという甚だ皮肉な現象を呈しているのではなからうか。

指導体形を整える

現在の高校で女子が強い所は、その傘下に日本中学校競泳のベスト・テン以内を揃えている中学校を持っていることを注意して貰いたい。中学校で相当泳げても、その進学した高校では設備も不充分であり、指導者も無かったりという状態であっては、折角の芽もそこで摘まれてしまうことになる。できるならば小学校で泳ぎの基本ができ、中学で競泳の基礎が作られ、高校で伸びるだけ伸ばし、大学、或は社会人になって愈々向上せしめるという段階に置かれねばならないだろう。以上のような行方ができるように各地の加盟団体で世話をして貰うことが目下の急務と思う。

競技会には参加する

高校女子競泳の第一線に行く学校には、それぞれ後援団体ができていて経費の点に於ても後顧の憂がないように努力が常に払われている。生徒をただ泳

がせるだけでは決して進歩をするものではない。何々の競技会に出場するのだ、出て勝たねばならない、という所でその目標のために練習もでき、生徒も先生も力が入って気合も満ちて来る。だから適当にそんな競技会に進出させるように各方面の準備を整備せなければならない。競技会に出られないようでは、そこに向上を視ることは至難といわねばならないだろう。

要するに日本の女子水泳は未開発であるから、是

れを促進することである。

日本水泳連盟では猶一層当局に当って中学の競泳振興策を講じて貰いたいこと。

プール設備のある学校ではどしどし女子の泳手を作って競技会に出せるように向上の道を計って貰いたいこと。

斯くして一日も早く1936年ベルリン当時の地位を挽回一、猶進んで男子の世界制覇に同調するように向上せしめねばならない。

“クロールの体型について”

斎藤 武五郎

泳ぎ方についての実質的な研究がもっとなされるべきでないかと思ひ、憂うものであります。練習によって偶然が生んでくれることを待つよりも、理論的にも、又経験的綜合によるにしても、新しい人を仕込んでゆくためには基礎的なものを、不断の研究と努力で保持して行かねばならない。透徹した鑑識眼の養成も、この際大切なものの一つである。そうしないと最もよいと信じている形が、いつのまにか内面的な変異、変性を起して、内容のない形骸と化しておることがある。泳ぎ方とはそういうもので、日本泳法がすでにそれである。而して、実力を出せない。ヘルシンキ行きの前に練習を見て、全盛期とを比較すると、余りにも違いすぎる。そこでこれを憂いて、「日本に勝つものがあつたら、充分その泳ぎ方をよく見て下さい」といったけれども、日本の泳ぎ方が一番よいとのことで、私も同感だが、中味が違っては仕方がない。外国の泳ぎとの比較はコンノ氏が来て見せてくれたので、余りにも日本泳法の原則をとって身につけている。この差は古橋氏の全盛時代と終り頃との差にも等しい。古橋氏の場合は両足が均等でないから、手の使い方もよく、特長が出て来ますが、同氏が受手を思いきって利かせて底力のある蹴抜式の扇越をやって超スピードを出したあと、バランスを保つためにも先手を急いで抜いたまま少し高目に持って行くか、丸太棒のようにこれを前面の水にたたきつけると共に、直ちにそれに乗り移って、少しの伸びもとらずにすぐ水を押し

て掻いておる有様は、誠に雄大な力強いものであつた。近頃は手の入れようが違って楽になったけれども、威力と効力が出兼ねる。コンノ氏の場合は、私の気持で泳ぎ方を表現すれば、次の通りで、先づ体型から考えたい。

(一) 体形 手や足よりも基本的なものは体形で、これは外観的には分らないから、とかく忽にされるけれども、手や足が本当に使われているかどうかは体形で判断されます。手と足との3位1体であることは勿論であります。

泳ぎ方として具体的にいえば、上体を猫背にして胸廓を窪ませて水が胸の中へ流れ込んで来るその水に、上体が自然に浮かされてスピードと共に背中は大分露出してくる。頭は前方へ突込んで行く。常に前のめりの形で体の重心が次に示すようになる。

(二) 手(腕) 上の体型をとるためには、手を水に入れる時に腕を伸ばしたままで、これに上体の重味をかぶせるように前に乗しかかる。この体重のために伸びたままの腕が自然に水を掻く動作に変化する。水に腕が入った時が、水を掻く初めである。手先の仕事でなくてゴルフのスウィングと同じように身体で泳ぐことである。

長い水泳生活、60を越しても忘れ得ない水の楽しみと愛着に、水泳の消長に一喜一憂を禁じ得ないまま、昔を思い、今を眺めて書き綴って見ましたが、水に入って級をつけて貰ってから丁度48年になります。

“考 え る 練 習”

木 村 象 雷

“足がヒラヒラする泳ぎ、クロールというのだそ
うな”と知ったのが大正12年、同志社中2年、京都
疏水の急流でジミ取りを楽しんだころのことです。
2年下の新井信男と組んで大阪築港プールで高
石さんのクロールにお目にかかったのが関東震災の
年、このころクロールから裏返って背泳に転じ、大
正14年マニラの極東へ、15年と昭和2年にハワイ
へ、昭和3年アムステルダムのオリンピックへ、そ
れから早大卒業の年昭和5年極東オリンピックに名
をけがしたのを最後に競技から離れましたが、それ
以来すでに20数年の才月が流れている。その間スポ
ーツ記者に進んだお蔭で、我が国最高の水泳選手や
各国の名選手のフォームに次々に接する機会にも恵
まれたわけでした。

前畑、寺田のベルリンでの光栄も見たし、ヘルシ
ンキでの橋爪の悲涙をも目のあたりにした。

“どうしたらもっと速く泳げるか”夏が来るたび
に、未だにこの問題を聞いたり考えたりすることが
楽しいのは水泳に足を踏み入れた者がふり去ること
のできない宿命のようです。

水泳誌100号記念のチャンスに“どうしたら速く
泳げるか”への最近の感想を記して御参考にしてみ
たい。現代ばなれがしていて、役に立たんかも知れ
ませんが、……

◇ 練習の仕方について

ザトベックの練習、英国のピーターズの練習方法
は大分変っているようです。

こんなマラソン級の選手が、ある日は400ばかり
を全速で10回も走る、次の日は10キロ走って5キロ
歩いてまた10キロ走る。こうした一見無茶苦茶なス
ケジュールを、慎重な考えのもとに実施している。

ここで考えさせられるのは、練習の仕方につい
て、形式的な日程で済ませず、いつも自分のフォー
ムなり、体力なりを考えて“真の考える練習”とい
うことが有り得るということでした。

むかしのわれわれの練習をふりかえってみると、
随分と形式的な日程を終えることに努力を傾けてい
たものだと反省させられるのです。記録が上ったと
きの前後の状態を思い浮べてみると、練習中得た手

か足か呼吸かの僅かの「変え」から伸びたことが多
かった。

このようにヒントは、何米泳がねばならぬ、とい
う定形の練習からではなしに、ゆるめたり、速めた
り、考えながら泳いでいるときに得られることが多
いのではないか。

ザトベック、ピーターズの練習は1日の走る量は
20キロとか30キロだとかおおよそその量は決めてい
るが、その走り方に、緩急を絶えず折込んでいる。

チームとして練習するとき、とかく種目の同じも
のが同時に泳ぐことになるので競り合いに終始する
場合が多い。

レコードを試す目的の場合ならいざ知らず、練習
が競り合うことに終っては、考える練習のチャン
スがなくなる。

この意見は、かなりでき上がった選手についてのも
ので、まだ泳ぎが足りないものや、自分の泳ぎを考
えるまでに至っていないものは、この限りではない
ことをつけ加えます。

◇ 身体 の 回 復

オーバー・ワークを無理しても進歩がない。筋肉
のオーバー・ワークのみでなく、精神の方、つまり
飽く状態の判断を早く知ることが大切なことはコー
チのよく知っているところです。

1週の1日の完全な休養、その休養は、他のスポ
ーツをやるのが非常によい。猛練習をやる期間、

1日の休養で足りない場合がある。これには2日休
む積極的な考慮が要ると思います。アメリカの陸上
コーチ、クロンウェルは週5日の練習を勧めている。

冬期からはじめてその年の練習をする人がどの位
で回復するか、プロ野球のスプリング・キャンプ
(米大リーグの場合)では3週間という答が出てお
り、ボクシング、フットボールなども、そのくらい
だということです。だから練習の週期を一応20日
においてやってみて、その一つの週期の中に、気分転
換の数日を置くようなことも、6、7、8、9月とぶっ
続けに続くシーズンを効果的に過す方法ではないか
と思うのです。

水球競技小史

水球委員会

目次

序文	36
第1回対外試合 Y.A.R.C.対慶応義塾	36～37
国内ゲームの始り	37
水球の普及発達と早慶両チーム	37～38
2回のオリンピック遠征とその影響	38～39
フローティング・システムの発達	39～41
東京大会中止と戦時中の水球	41～42
終戦後の水球と社会人チーム	42～43
ロンドン・オリンピックの諸問題、及びルールの改正問題	43～44
最近の競技成績と普及問題	44
アジア大会の準備	44
あとがき	44

世界に於ける水球競技の創始は1800年代後期の英国に於てであるといわれている。それは、結局ラグビーやサッカーを水中でやったら面白からうという気運が自然に生れておったためであろう。

松沢一鶴氏の名著「水上競技」には詳しくこの間の事情が記されてある。これによると上記のような「水中フットボール」、「水上ベース・ボール」、「水上ハンド・ボール」等々が各地で行われ始め、特にグラスゴウの住人、ウィルソン氏の水上蹴球と称するものは、ゴール・ポストを建てて行ったとされ水球の前身として著名である。

そして遂にロンドンのノーチラス・クラブが1887年度の大会を開くに当り、「ウォーター・ボロ」として規則を定めたが、これをアマチュア水泳協会(A.S.A.)がとりあげ、規則を確立した。1888年第1回英国水球選手権に於ては、このノーチラス・クラブが優勝している。かくて水球は英国からベルギー、1894年にドイツ、続いてオーストリー、ハンガリー、と伝波して、特にハンガリーは水球を国技とするに至った。1900年第2回パリ・オリンピックには水泳競技の重要種目として登場し、1908年国際

アマチュア水泳連盟(F.I.N.A.)の組織ができ次いでこの内にインターナショナル・ウォーター・ボロ・ボード(国際水球局)が設けられて、ここに世界の水球の組織が確立したのである。

日本に於ける歴史も驚く程古くから試みられており、千葉県北条の一高水泳部に於ては、明治40年頃行われていたが、これは2、3年で続かなかった。然し外人のクラブ・チームは英本国の水球誕生より僅かの年月で日本でゲームを行っている。

明治31年、第1回太田水泳場対横浜外人の競技会のエキジビションとして紹介せられてから、神戸ローイング・アスレチック・クラブ(K.R.A.C.)、横浜アマチュア・ローイング・クラブ(Y.A.R.C.)等の外人チームは彼等同士でゲームを行い、附近の人々に教えもしたであろうと思われるが、結局正式に日本人と試合を行ったのは大正4年のことである。勿論これよりも前記の一高水泳部、慶応義塾等で研究せられており、慶応義塾の葉山水泳部の明治42年の日誌には、同年の水上運動会に水中蹴球をやり非常に愉快なので、毎年これをやりたいということが出ていたので、この数年後に水球のルールを手に入れたものらしく、大正4年の第1回対外試合にチームを作るに至っている。当時のY.A.R.C.の一員である慶大教授ウィード氏により正規のルールを伝えられ指導せられたのである。

第一回対外試合 Y.A.R.C. 対 慶応義塾

大正4年7月23日、慶応水泳部 葉山合宿の年中行事の一つである、江ノ島間遠泳に横浜外人が2名参加したが、この時水球試合の話がまとまって数日後メンバーを交換した。

8月15日、ウィード教授のレフェリーで試合は行われ、8対0で外人チームが完勝した。メンバー次の通り、

横浜外人 (Y.A.R.C.) 慶 応 義 塾

デピソン	RF	甲 斐 義 信
ブロックハースト	CF	後 藤 昌 次
ラフィン	LF	滝 川 純 三
ルーサー	HB	永 井 好 一 郎
ハットン	RB	高 木 福 太 郎
チャレスウォース	LB	藤 原 惣 二 郎
グレゴリー	GK	永 井 信 二 郎

このゲームの批評が翌日の ジャパン・タイムスに 次のように書かれている。

**Good game between
Keio and Yokohama**

The game was very keenly contested, Keio putting up a good fight, remarkably good when one considers that they have only taken up the sport quite lately and are practically self-taught, the match ended 8—0 in favour of the visitors, but in spite of this one side score it was no easy game for Yokohama. Keio's weakest point at present seems to be their throwing. When this is improved, and they have played a few more matches like the one on Sunday, Keio should have a first class team.

このゲームに参加した慶応チームは殆どクロールを知らず、日本泳法を以て対戦したものであり、その人々の苦心は想像に余りある。又弱点としてスローイングを挙げているが、彼等の長い手を正確なスロー、強いシュートはその後の対外試合、オリンピックに常に日本チームを悩ましたものである。

その間慶応チームは日本人チームの相手が無く、専ら外人チームとの対戦を続けていたが、次第に練習の成果があがり、大正7年の第3回対Y.A.R.C.戦には5~2と接戦を行っている。慶応のメンバーは
FW 後藤 昌次, 菅原 卓, 松永 進一,
HB 滝川 純三, FB 城田 二郎, 阿部 大六
GK 永井信二郎, の諸氏であった。

大正12年8月のゲームに於て始めて勝利を2~0で吾物とした。勝因は好連絡によりと書かれているのでチームとしてのまとまりがついて来たものと思われる。メンバーは、

FW 阿部 英児, 今村 栄三, 益田 弘,

HB 吉本 祐一, FB 岩崎 三郎, 城田 二郎
GK 菅原 浩, であつた。

国内ゲームの始り

このようなゲームを慶応チームのみが続けていたが、一般普及の導火線となったのは大正13年8月24日、府下金子プールでインター・ミドルのエキジビションとして慶応チームが紅白試合を行い、広く紹介したことであろう。又この年大日本水上競技連盟が組織され、直に水球の競技規定をとり入れ、翌14年には明治神宮大会に加えられた。この頃より各大学はチームを作り、又外人チームに刺戟されて各地方にクラブ・チームができた。

上記の第2回明治神宮大会には関東、近畿、東海の三地区予選を行い、慶応A組、帝国水友会、東京ウォーター・ポロ・クラブ、の三代表が10月12日、玉川プールに於て決勝を行い、東京ウォーター・ポロ・クラブが優勝した。

大正15年に入ると急速に早稲田大学チームが擡頭して来た。これは勿論競泳に覇をととなえていた選手がそのスピードと強い泳ぎでこの年の全日本の選手権を得た。

水球の普及発達と早慶両チーム

日本に於て水球が全国的に行われ、大学チームとしては、早、慶、日、明、商、拓、帝、立、法、といった関東勢に、京、関学、と関西勢、若い所で慶応普通部、商工部、茨木水泳団、の如き新鋭が続々と現われて来た。

これ等チームの頂点に早慶両チームが接戦を繰り返し、お互いの技術を磨くと共に、各チームと技を競い、1932年、1936年の2回のオリンピックに代表軍を送っている。

この両チームは水球の二つの型を代表し、慶は水球専門の選手を養成して、そのボール・ワークとコンビネーションに長所を示せば、早は競泳畑の選手で堅めてその優秀な泳力を縦横に駆使してチャンスをつかむという風に各々の特色を競い合った。

昭和2年のインター・カレッジは玉川プールで行われたが、早、慶は準決勝で対戦し、2~1で慶応が勝ち優勝している。昭和3年のインター・カレッジはアムステルダムのオリンピックの年である。

9月9日早大プールで行われたインター・カレッジの決勝は2～0で早稲田チームの優勝となった。

早稲田			慶応		
山本盛光	RF	清水清秋	奥野良	CF	沢海東助
藤田明	LF	榎山慶吉郎	石毛政信	HB	吉本祐一
木島小弥太	RB	平岡良二	時任厳	LB	坂倉隆吉
水野悵二郎	GK	笹島彦次郎			

続いて全日本関東予選が9月29、30日、に行われたが、1週間前にアムステルダムより帰って来た早稲田の、否、日本の強豪、高石、西本、木村の三氏を加え、中川新右衛門氏レフェリーで再び慶応と対戦した。この結果は逆に慶応の勝利となったが、メンバーは次の通りであり5～4の大接戦であった。

早稲田			慶応		
山本盛光	RF	清水清秋	奥野良	CF	木村清兵衛
石毛政信	LF	沢海東助	高石勝男	HB	吉本祐一
西本竜三	RB	平岡良二	木村象雷	LB	坂倉隆吉
水野悵次郎	GK	笹島彦次郎			

昭和4年御来朝中のグロスター公殿下の御召艦サフォーク号のチームと試合をすることとなり、ピック・アップ・チームを作り対戦したが、5～3で快勝した。ピック・アップ・チームは、早稲田より、山本、高石、時任、水野、慶応より、沢海、平岡、坂倉、の諸氏であった。

同年のインター・カレッジは同じく早、慶の対戦となり、2～1で早稲田の優勝、時のメンバーは、

早稲田			慶応		
木村象雷	RF	清水清秋	高石勝男	CF	木村清兵衛
山本盛光	LF	沢海東助	奥野良	HB	坂倉隆吉
藤田明	RB	平岡良二	時任厳	LB	大原胤政
松本隆重	GK	笹島彦次郎			

続いて神宮競技には慶応が2～0で早稲田を降している。このように早、慶両チームのシーソー・ゲ

ームは、続く昭和5年にも行われている。又帝大、明治、日大、立教等が次第に技量を向上し、ゲームは益々充実して来た。又夫々選手は専門のポジションについて研究を發表し合い、各ポジションの原則は大体この頃確立している。ただ作戦としては初期の段階にあって、ゴール前のノー・マークを作ることが攻撃の手段のすべてであったといえる。そのためシュートはゴール・キーパーに正対し、ゴールの上端隅を抜くというもので、勿論バック・シュート等も行われ、ループ・シュートもあったが、これは特殊のケースであった。従って強力なる泳者の個人技に依存するか、パス・ワークに長じて隙を見出さかして得たノー・マーク者が敵ゴール・キーパーと1対1の勝負をする場面が多かったわけであり、このため当時のゴール・キーパーの技術は非常に優れたものであった。

昭和5年度の戦績を見ると、K.R.A.C.もY.A.R.C.も共に強く、特に8月23日の全日本選手権決勝に慶応チームと対戦した。K.R.A.C.はそのバックとゴールキーパーとの絶好のコンビネーションにより慶応の攻撃を一瞬にして彼のチャンスとし、3～1で慶応を連破したのである。

早、慶の戦績はこの年の極東大会は4～2で早大6月の早慶戦は2～0で慶応、インター・カレッジは3～2で早大、と早稲田が勝ち越している。この年の早大のメンバーは、FW 阪上、高橋、木村、HB 藤田、FB 時任、土井、GK 松本、という顔ぶれで、昭和7年ロスアンゼルス・オリンピックの主力となる人々であった。又特にこの年慶応チームは関西へ遠征して関西学院と茨木水泳団と対戦しているが、前者は6～1、茨木とは2～0という接戦であって、この慶応チームを苦しめたのは、茨木のスピードとハンドリングのよさにあったと記されているが、前記2試合をレフェリーされた杉本氏の日頃のコーチが実を結びつつあったと思われる。茨木水泳団のメンバーは、FW 亦松、岸本、金森、HB 田中、FB 奥野、井上、GK 入谷、であった。

このようにして各チームが次第に実力を高めて来て、昭和7年(1932年)ロスアンゼルスオリンピックに代表を送ったのである。

2回のオリンピック遠征とその影響

このロスアンゼルスには当時最強チームになった早稲田が中心となって代表軍となり、晴れの舞台に

出場した。世界の水球界はすでに、ハンガリー、ドイツ等の中欧最高チームを頂点として広く根を下し体格に於ても見劣りのない日本最強チームも齒が立たず、彼等のハンド・ツウ・ハンドの卓越したハンドリングにより『水に濡れない得点』を見て来たのである。日本水球選手の1人が、ハンガリーの某選手に、「水球の精神は」と尋ねたところ、言下に、“Always good fight”と答えたという。当時の最強チームの気魄がうかがわれるではないか。対外戦のメンバーは次のようなものであった。

LF 阪上, CF 竹森, RF 木村, 沢海
HB 時任, LB 藤田(主将), RB 土井
GK 松本

又ドイツ・チームにはシュワルツ, ラヂマッヘル等、ハンガリーにはネメスの如き国際試合に10数年の経験を持つ名手がおったのである。

その後も早稲田チームは阪上, 高橋等の強力スタッフを揃え王座を守り続け、各チームと共に近代水球への道を進んだ。ロスアンゼルス勝利から一躍世界の水泳王国となった日本は、数々の名選手を産んだが、最早次第に競泳と水球のかけもちが難しくなり、同時に水球のテクニクも複雑さを増して来た。

1936年ベルリン・オリンピックには史上初の大遠征軍を送り、水球も、第2回目のオリンピックに勇躍出発した。同じく早稲田を中心とした代表軍は阪上, 片岡, 高橋(善), 若山, 田野, 和田, 勝久にGKとして古荘, 高橋(三)を加え、オリンピックを、そして更に各地を転戦した。ドイツ, ハンガリーには10点差を付けられたが、チェコ, その他には僅差で善戦している。シュナイダー, ネメス, 等の強豪によって演ぜられたフローティング・フォワードの威力は猛威をふるい、完成されたこの常に攻撃し得るといふシステムは世界各チームが採用しておったのである。所属チームに帰って来た代表軍はこのシステムを如何に自己のチームに生かすかに苦心した。

フローティング・システムの発達

敵方に背を向け、常に味方を見ながら、自己の位置を保ち、パスが来れば一瞬体を伸ばすと同時に反転シュートをするという、このフローティング・フォワードは、今までのノー・マーク、対面シュート

を主とした水球の様相を一変した。フローティング・システムの長所は

- ①常にフローティングは味方を見ていられる。
- ②得点圏の自分の位置を変えなければゴールを、そしてゴール・キーパーを見ないでシュートできる。このことは敵方キーパーに牽制されないと同時に、シュートのタイミングがキーパーに解らない。
- ③常に得点するチャンスがある。たとえ敵方に尾されておっても、ここまでパスをリレーできれば得点のチャンスがある。

このシステムは結果として水球を分業化することになった。例えばフローティング・フォワード, 補助のフローティング・フォワード, パスマシーン・フォワード, パスマシーン・バック, フル・バックという如きシステムに応じた個々の任務が強調せられ、その組合せで練習も行われるようになった。このことはそれまでの水球に於ける金科玉条であった。All men all position, 或は、オール・ラウド・プレーヤーたれ, という重要な素質を低下し、やがては、動きのとれないゲームの膠着化を来す遠因でもあったのである。

昭和12年の全日本選手権に長い早稲田の黄金時代に一矢酬いた慶応チームは、翌13年にはシーズン始めの早慶戦に6~0の大差を以て早稲田を破った。これは和田を中心としたフローティグ・システムが一応完成した成果に外ならぬ。この一戦から、絶えず前進しようとするフォワードと、執拗に食い下って研究を続けるバックとの激しい攻防戦が始り、これがやがて東京大会開催不能以後の対外試合に遠ざかっている間の苦しい晴中模索となった。

然し当時のフローティング・システムは夫々の選手の個性に応じて色々な形で各チームに行われた。これを防ぐ方法も、ゾーン・ディフェンス, 対人マーク, フローティングの挟打ち等と工夫せられた。慶応チームで当時のメンバーは、

フローティング・フォワード	和田
二段目のフローティング	松本(司)
パスマシーン・フォワード	名取
パスマシーン・バック	河原田
二段目のバック	中村(勇), 西谷
フル・バック	石原
ゴール・キーパー	岡田(平)

以上のような任務分担により編成されていた。又

昭和14, 15年の早稲田チームは、小野、越川の2人をフローティングにし、それへパスで連絡するよりも、バックの駿足、壺田、奥田の突込みに期待をかけ、これよりのパスをフローティングが決めるという形であった。

フローティング・フォワード	小野
ク	越川
パスマシーン・フォワード	豊島
チャンス・メーカー・バック	奥田
ク	壺田, 飯田
フル・バック	谷口, 山本
ゴール・キーパー	吉田, 川島

上記の如きポジションで主として攻撃の原動力を後方に貯えるという形である。

又急速にチームを充実して早、慶両チームを脅していた日大チームは、2人のフローティングを置き、中盤にスピードを誇る栗原、林田等がチャンス・メーカーと成り、2-2-2システムの先駆となった。

フローティング・フォワード	川田
ク	平野
パスマシーン・フォワード	栗原
パスマシーン・バック	林田
フル・バック	森田
ク	葉室(貞)
ゴール・キーパー	田口

というメンバーであった。このメンバーは数年間殆ど不変であって、川田、平野の十字砲火と、キーパー田口の奮戦はその後度々早、慶を降した。以上やや詳しく当時のメンバーを書いたが、これは上記3チームのシステムが以後の水球の三流となって、フォーメーションを決定したのである。然しこのスタイルも夫々の学校チームが固守したものではなく、お互いに色々の形を変遷している。

一方防禦のシステムもそれにつれて研究が積みれチームとしての防禦法も、マークの仕方も、幾多案出された。マークの変化は専らフローティングに対してであって、これは2米すれすれの得点圏に常位する敵に対しては勢い接触マークになり、反則気味の水テクニクへ移向せざるを得ない。一方これを振りほどいてシュートするフォワードのテクニクとともに、益々執拗なものになって行った。前述の如くこれに加えて、水球の分業傾向が、マーク・オンリーの選手を作るに至ったのである。

そしてゾーン・ディフェンスが研究せられたが、これは次の2つの必要からとられた手段である。

- ① フローティング・フォワードは少くとも1名は敵ボールの場合も敵陣に残っているので、敵方は完全なノー・マークを1名生ずること。
- ② フローティングのシュートはバック・マンとキーパーとの共同動作によってシュートのコースを一方にきめさせてしまうことが可能であり、瞬間的には他の1名のバックはゴールの他のサイドを守るためにマークを外してゾーンに入れること。又フォワードはゴールを見ないでシュートする傾向に対しても有効であること。

上記の理由から生れて、更に他のゲームの理論を借り種々のゾーン・ディフェンスが行われた。

ノー・マークの攻撃者に対するゾーン、瞬間にゴールの一方を守るゾーン等に加えて、フローティング・フォワードを挟撃するゾーンも考えられた。これはフローティング・シュートはボールを受ける側は自由に体を捌き得るスペースを必要とするから、この側からも脅威されえる位置に他のバックが戻って来るのである。この方法がやがてフローティング・フォワードを抑える最大の武器となって来るのである。

かくて早、慶、日、のビッグ・スリーは、互いに死力を尽して戦い、欧州の戦乱によってお流れとなったヘルシンキ大会に代って東京大会の準備を整えたのである。

この時世界の強豪ハンガリー・チームのコーチをしていたフロイド氏が来朝、ナショナル・チームに各チームの若干名を加えて日本青年館で合宿練習を行い、親しくコーチを受けた。個々のプレーには大いに参考となったが、国際チームとしての練磨をするに至らず、フロイド氏の左右のコーナーからするコントロールのよいバック・シュートを見て、本場チームのハンドリングを想像して個人技の一層の訓練を誓った。

一方かつてのビッグ・スリーの位置を日大に奪われたとはいえ、伝統を誇る帝大チームは、当時のオーソドックスの戦法を固守しており、FWに伊丹、図師、北村、川田、BWに河野、富田、GKに八木を有し、平均した実力を示し、立教明治も若手の一高、成城、東高とフローティング・システムを採用したチームに苦戦するなど、昭和14年の秋季トーナ

メント戦には18チームの出場を見る盛況を見たのである。一方関西学院は、茨木中学全盛期の選手を擁し、強力なるバック・マン、庄田、島田、黒川を突進させる戦法を以て善戦していた。この間全日本に優勝した慶応チームを中心としたナショナル・チームを編成し、東京大会に備えつつあった。

然し欧州の戦乱は拡大の一途を辿り、独逸軍はマデノ・ラインを突破して第二次大戦は酣となった。

東京大会中止と戦時中の水球

昭和15年5月18日、関東学生水球リーグ戦開幕に当り、末弘会長の開会の辞は、

「君方はここに於て、凡ゆる対外試合の機会を失った。然し君方が、もしそのために技術の研究、練磨に怠るようなことがあってはならぬ。他日、対外試合が復活せられた時に、その時の選手達の技術の進歩が、もし外国の選手達の進歩よりも劣るようなことがあったならば、それは君方の責任である。君方は不幸にして機会を失ったが、やがて他日の機会のために、その踏石となって頑張っていたきたい。」

と、これを聞いておったかっての選手が、終戦後学生チームが全く昔日の面影を失っていた期間に、オール・ボーイズの身に鞭打って、近水クラブの全日本三連覇、三水会の活躍となって現われ、今日の学生チームにバトンを渡したことは感慨深いものがある。

昭和15年の早慶戦には、延長2回の末、早大は2～1にて慶応を降した。早は奥田、壺田のキャッチング戦法を成功させるために、慶の中盤パス・マシーンを徹底的にマークし、慶にロング・パスを余儀なくさせ、これを果敢なカットに出て、マイ・ボールとし、長駆敵陣へ突入する戦法をとり、慶の松本兄弟の得点力を封じ、よくゾーン・ディフェンスに数回のノー・マークを無為にした慶バックも及ばず、勝利を得ている。

8月19日の全日本には、早、慶の決戦と成り、慶は名取、松本(兄)をフローティングして2-2-2システムを採り、得点力を増大し、松本(弟)、河原田の泳力をパス・マシーンに生かして4～2で復化している。

秋のトーナメント戦には、再び延長2回の混戦を行い、2～0で慶は早を降したが、この頃より余程

の決意を以てレフェリーはペナルティーをとらねばゲームの膠着を救うことができない状態となっていたのである。

昭和16年は早、慶ともに大量の選手を卒業させたが、日大は主力を存置して優勝の絶好の機会に恵まれた。殆ど3年間不変のメンバーは次の通りである

LF 栗原、CF 川田、RF 平野、HB 森田
LB 林田、RB 葉室(弟)、GK 田口

これに対して関東学生リーグ戦に於ける早大は、5月24日、神宮プールで、レフェリー、伊丹氏にて対戦し、連絡悪く、シュートもあせり気味となり、遂に3～0で敗退した。

慶応も6月1日、同じく伊丹氏の笛で戦い、1～1の延長戦となり、大量4点を奪われて日大の初優勝になったのである。当リーグ戦に於ける各チームのメンバーは、

	慶応	早稲田	東大	立教
LF	五百木	飯田	米本	平賀(白山)
CF	松本	渡辺	伊丹	本田
RF	河原田	鳴宮	勝村	岩切(大田)
HB	西谷	奥田	富田	上山
LB	岡田(久)	壺田	藺守	門屋
RB	石原	金柅	田中	本間
GK	小川	吉田	内藤	山中(大浦)

このようにして始った昭和16年のシーズンは、次の6月8日、早慶戦には3～1で慶応が勝ち、リーグ戦の成績は日大1位、慶応2位、早大3位となった。続いて8月18日、東京選手権(戦時中のため)に於ける決勝は、慶、日の間に争われ、2～1にて慶応の優勝となり、慶応チームは全日本選手権に於て五連覇を遂げたのである。更にその秋の神宮大会には再び日大は慶応を2～1で附し、この年の王者となったのである。

昭和17年度春も日大の優位は揺がず、名ゴールキーパー田口の下に、高浜、林田の活躍が光り、続く全日本は、東亜競技大会選抜を兼ねて行われ、これに慶、早、日、より次の選手が代表となった。

水球監督兼主将	田口	実	GL (日)
	塚本	太郎	〃 (慶)
	平野	亮平	FB (日)
	西谷	彬	〃 (慶)
	壺田	重三	〃 (早)
	松本	峻	WF (慶)
	奥田	精一郎	〃 (早)

五百木 貞三郎 ク (慶)

林田 陸夫 ク (日)

この東亜大会は新満州国見物といったようなもので、正式の満州代表を19~0で破り、又全朝鮮軍等と戦い、水球の紹介に勉めた。

戦争は愈々大東亜戦から次第に苛酷の度を加え、各種スポーツも制限を受け、学徒出陣等と選手は続々と戦線に向い、水球用語もFWは第一線、FBは第二線、GKは門守と、或は前衛、後衛、門衛というような名称となった。それでも水球は烈々たるファイティング・スピリットを以て、あらゆる困難を越えて競技は行われた。昭和18年は12戦12勝を以て慶応が王座を日大から奪換したものの、慶、日、早の角逐は続き、慶の松本(梭)、岡田(久)、神田塚本等が活躍し、早は、藤垣、小柳、渡辺、近藤、日大は、天野、高浜などが奮戦した。それから終戦に至るまで日毎に戦争の重圧は学生の上に覆いかぶさって、水球競技も、資材、人員、設備の不足と、僅かな残り火をかき立てるように続けられたのである。

終戦後の水球と社会人チーム

敗戦の混乱から生れた“三つのS”の内、唯一の健全なるもの、スポーツに国民の情熱が傾けられ、水泳の古橋、マラソンの田中、ボクシングの白井、と華々しいスポーツ再興の中にあって、チーム・ゲームである水球は、他のチーム・スポーツと同様、OBの活躍する時期が続いた。然し学生チームも次第にまとまりを見せ、早、慶、日はいち早く充実したゲームを行うようになった。

昭和21年7月7日、あらゆる悪条件を克服した両校の努力によって第14回水上早慶戦が東伏見早大プールで行われた。優勝トロフィーは戦災で失われてはいたが、皇太子殿下の台臨を仰ぎ、初の水球実況放送まで行われた。早大も戦前からの藤垣、小柳、秋福、塩川等を繰出し、慶応も戦前よりの神田、石原(久)、西谷(格)等で対戦したが、7~2の大差で早稲田の勝利となった。然し学生チームの最高ゲームも技術的には未だ甚だ御粗末なものであってフローティング・フォワードを持たず、シュートも未熟であり、特に慶応は泳ぎに弱く、シュートも軟弱であった。これは全く基本技を再び確立せねばならぬことを痛感したのである。

一方社会人チームは、三水会、全早大、絃泳会(関学)、全京大等と宝塚プールで行われた。国体兼全日本の試合に集り、往年の名手が顔を揃えたが、これ又未だ練習不足とチーム・ワークがとれずネーム・バリュー通りの試合は望めなかった。結局全早大の優勝となったが、各チームのOB選手の示した個人技は広く学生選手に刺戟を与え、基本練習からの水球の再建を促したのである。上記の全京大は、往年の京大チームのOBを集めているが、水球史上京大は、昭和3年に慶応と定期戦を開始し、関西学院と共に関西の雄であり、戦前チームの堤の如きその強力なるシュートを誇るフローティングとして、勇名を馳せていたのであるが、戦後はあまり振わない。これ等のOBチーム中の関西勢が、結集して京都を本拠に近水クラブを作り、全国に三連覇をなし遂げた。

近水クラブは、慶OBの松本(司)、松本(梭)の兄弟、早OBの奥田、日OBの葉室(兄)を中心とする混成軍で、これに関学の黒田、早の谷合等を加え、当時の最強力チームを編成した。松本(梭)をフローティングにし、松本(司)とのコンビを生かし、奥田を中心とする強固な、機動力あるバックと、盤石のゴール・キーパー葉室を置き、フローティング・フォワードの正攻法を採った最強チームであった。特にOBチームでは難しい平素の練習時間を充分持ち、個人技に於ては学生時代の彼等より更に上達、円熟していたのである。

一方関東に於ては慶応OBの三水会が、近水に松本兄弟を分離したが、和田、名取、神田、五百木、村上と戦前のベテランを揃え、関東OBリーグの勝者として、しばしば学生チームを苦しめていたが、これは慶応OBのみを以て編成されているため、慶応チームのバック台的性格が強く、初期の東京ウォーター・ポロ・クラブの如き、広い指導力は望めなかった。

学生チームは競泳の浜口、古橋を加え、浜口自らフローティングとして活躍した日大チームが、三連覇して、名門、早、慶をして顔色なからしめていた。早稲田は時任監督により徹底的な基礎訓練からスタートして、専門選手を養成して必勝を期し、慶応も三水会と常に接触して直接コーチを受け、再びビッグ・スリーの角逐が激しくなりつつあった。

然しこの時期のOBチームの活躍は、古くから内訌していた水球の諸問題をそのまま戦後に提出する

ととなり、新しい方向を望む声が漸く喧しく起つて来たのである。

ロンドン・オリンピックでの諸問題、及びルールの改正問題

日本は参加を許されぬ間に昭和23年(1948年)ロンドンに開かれたオリンピックに於ては、勿論水球の世界争覇が行われたが、遂きイタリーの優勝となったのであるが、この大会に於て水球競技は相当こっぴどく批判せられ、将来の方向を釈明せざるを得ない立場となった模様である。その原因となった諸点は、

- ① ゲームの中断が多く、スピーディーでないから観衆の側から見て面白くないこと。
- ② 水中テクニクが極端に研究され、ゲームが膠着化してこれ又興味を半減する。
- ③ レフェリーの判定が非常に難しくなり、このためのトラブルが起り勝ちである。

大体上記の如きものであったと想像されるのである。F.I.N.A.のウォーター・ポロ・ヴォードに於てこの解決策を真剣に考慮し、幾回もの会合を行つて来たが、結局レフェリーの判定をもっとすっきりしたものにするルールの改善を行わねばならぬとの結論に達したもので、メジャー・フアール、オーディナリィ・フアールを判断容易なものに判然区分をして、整理をし、競技時間も15分ハーフに延長し、競技中断中の移動を許し、その他ペナルティー・スロー、交代規定等の改正を行った。これは要は水球競技を他の類似球技の如く、スピーディーにし、プレーヤーが更にフェアに競技をするように改善しようとしたものであり、この改正の精神は国際水球委員会デラヘー氏の趣旨と共に、昭和25年のシーズン始めに日本の水球界にも流され、所謂ゲームの、①フェア化と②スピード化という方向を決定したのである。

新しい水球の方向は次第に各チームに滲透してゆき、特に学生チームは戦法的には全く新しい様相を示すに至った。

昭和26年関東学生水球リーグ戦には浜口なき日大チームを破つて慶応が覇権を握り、慶、早、日の順位となった。明年のヘルシンキ・オリンピックにチームを送る公算は少かったが、水球人の熱望は各ゲームを白熱化した。

近水クラブも漸く老い、三水会も実力を充実したが、全日本の選手権は慶応チームの上に輝き、その大会終了後、候補選手を決定した。

松本 稜 (慶OB) 神田 明善 (・OB)
小谷 敏二 (ク) 小谷 保二 (ク)
奥田精一郎 (早OB) 田島 直季 (慶大)
平井 顕吉 (慶大) 植中 耕一 (ク)
葉室 鉄夫 (日OB) 田代 二生 (早大)

以上10名の他に補欠8名を加えた。

昭和27年のヘルシンキ大会には、水球は代表を送ることは出来なかったが、世界の覇権を名門、ハンガリーの優勝となり、ソ連、アメリカ等の新勢力も擡頭した。

国内の水球は益々その新しい傾向を強め、特に早稲田チームは思い切った作戦をとり、著しくバスケット・ボール、或はアイス・ホッケー式の攻防に変化し、全員攻撃と完全なるゾーン・ディフェンスとを駆使して慶、日を苦しめ、目まぐるしいその攻防の逆転は極度に泳力と耐久力を要求するようになった。ヘルシンキ・オリンピックの実見談が、藤田明理事長より報告せられ、又写真、小型映画により紹介され、各チームはその新しい方向をマスターすることに懸命となった。従つてフローティング・フォワードを有するシステムを探つていっても、安穩と浮いているフォワードはなく、又これにかざり付くバック・マンも姿を消したのである。ここに再び初期の意味から一段と進歩した型で、オール・ラウンド・プレーヤーが要求され、歴史は正に繰返したのである。

然し上記のような新しいスタイルの攻防は未だほんの研究時代である。それにより決定的な得点力を有することも無く、确实なる防禦法も見出されておられない。又ルールの改善という世界的な命題も未だ解決せられておらないのである。

昭和28年のシーズンを始めるに当り、国際水球委員会から寄せられた試案、即ち4米ルールの採用を決し、又いくつかの改正ルールを決定した。

この試案はかなり大巾なる変更がなされた。オフ・サイド・ラインが2米より4米となったばかりでなく、単にシュート無効圏という意味となり、出入もパスも自由となり、ボールを保持し、ボールと共にこのラインに入ったものはシュートが有効となるというものである。従つて戦術的には大変改が現われたのである。この年のゲームを見て多くの人々、

特にOB連中は啞然としたことであろう。それは潮の如く押し寄せる相手方のGK以外の全員を自陣内に迎え撃ち、4米ラインの左右から飛ぶシュート、これをカットせんとする自軍の全員とが入り乱れ、一度自軍の手にボールが移るや、今度は全速力で全員が相手陣に殺到してシュートを繰り返し、隙を見ればドリブルで4米内に切れ込み、或は4米線内より線上に戻る一瞬にシュートをする等、誠に目まぐるしいゲームの様相を呈したのである。

ここで生れるシステムには当然、

- ①バスケット・ボールの如きゾーン・ディフェンス
- ②フローティング・キーマンの活用
- ③4米のゆさびり戦法
- ④激しい縦の動きによるピストン戦法

等が考えられる。各チームが犯した行き過ぎの点は遂次改まったが、上記の各種戦法は勢いチームのメンバーに次のことを要求する。即ち、

- ①速力
- ②シュート力の強化
- ③スローイングの強化

ということである。これ又基礎訓練の再新育に他ならない。戦後急速にチームの力を高めて来た学生チームが、ここでじっくり基礎技術の上に立たなければならない。

最近の競技成績と普及問題

関東学生水球リーグ戦が国内最高のゲームとなったのは戦前と同じで、近水クラブが全日本の覇権を譲ってから当然のことであるが、関西の学生チームは関学、京大に代って立命館大が進出して来たが、関東の優勝校と戦う学生の王座決定戦は未だ好ゲームを展開するに至らず、これに反して高校の覇権は関東の慶応高校から、済々黌高校に移り、更に近水クラブの薫陶を受けた京都勢が進出し、若い世代の水球分布が、広まっていることは誠に喜ばしい。

昭和26年に奪換した王座を慶応チームは27年も完勝して持ち続けたが、ゲームは何れも僅差で、慶、早、日の間に血戦が繰り返され、全日本に於ける社会人チームも、三水会が近水を押えたが、学生チーム慶応に勝てなくなった。全国的には社会人チームは、この三水会、と近水クラブのみであり、試合としては、OBリーグ(関東)、東西対抗(国体)、

東西社会人対抗(勤労者)であるが、国体、勤労者両大会は、招待競技を行わなくなったので、現在までに水球の戦前の技術を伝えるという前述の任務は一応終ったとはいえ、OBチーム、クラブ・チームの今後の方向を考えねばならぬと思う。

又国体の種目に高校の選手権を入れること、簡易ルールの方策など、普及面での方策は目下の急務である。

この両三年間を通じて関東学生リーグに於ては、中央、学習院の躍進、明治、法政の衰退が目立ったが、参加校は未だ戦前の数に及ばず、ビッグ・スリムの三巴戦を見守っているのみではない。

アジア大会の準備

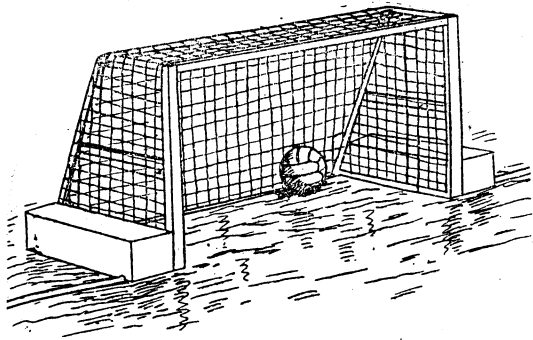
昭和28年度は、春のリーグ戦は再び日大が優勝し慶応、早稲田、中央と続き、全日本選手権では、慶応が三連覇を遂げ、三水会、日大、早大という順序となり、秋のトーナメントは、慶、日、早の順位となった。戦後始めての対外進出が期待できるアジア大会に備えるため、和田監督の下に18名の選手を候補として、Y.M.C.A. プール、東大プール、と練習を重ね、対外試合18年の空白を埋めんと猛訓練を続けている。アジア大会候補選手名は、監督和田幸一(慶OB)、コーチ鶴田武(日OB)、藤岡達昂(日OB)、GK植中耕一(慶OB)、松藤孝義(日大)、古賀伸一郎(早大)、BF田代二生(早大)、荒川八郎(慶大)、谷脇登(日大)、田島直季(慶OB)、市毛広文(慶大)、田代晃一(早大)、中島勝美(日大)、FW神田明善(慶OB)、宮部修(日大)、重俊一(日大)、管原平(日大)、藤野孝一(慶大)、佐藤孝尙(慶大)、安藤実(早OB)

あとがき

以上乏しい資料から甚だまとまりのない歴史とはなってしまったが、各所に間違いも多くあることと思われるが、各先輩より御批判を仰ぎ、修正をして次第に完全なものにしたいと思っている。

特に戦災のため殆どの資料を焼失し、筆の及ばなかった面も多かったこと、又資料が一方に偏して片手落な記述もあるが、この点も深く御詫びする次第である。

(29・3・15 水球委員、名取正也記)



國際的水球競技の

新動向とその対策

時 任 巖

【一】

久しく國際的接觸を断たれ、進歩した外国の技術を吸収できなかった我が国水球競技も、今年アジア大会へ出場が決定し、来るべきメルボルンへの道も開けて、晴の國際舞台に乗り出す機運を迎え得たことは、水球関係者の1人として誠に嬉しく思う次第である。

然し乍ら日本水球の実力を世に問うべき好機会に万一不幸にして所期の成績を挙げる事ができず、日本の水球は到底國際場裏に互して行くことが不可能であるという如き悲しむべき世評を蒙ることがあるならば、その後のオリンピック出場は困難となることを覚悟しなければならぬのであるから、我々関係者は責任の誠に重大であることを自覚しなければならない。我々は今後続けてオリンピックに出場し、國際舞台の一存在として活動するために、換言すれば後続する世代に目標を失わしめないために重大岐路に立っていることを自覚し、凡ゆる力を結集して来るべき好機会を活し、少しでも好い成績を収め得るように努力しなければならないと思う。選手訓練の目標を立てるために、國際水球の動向を検討して、これに対処する方策を研め、必要な技術を研究して万遺漏なきを期することは我々水球関係者に課せられた至上命題というべきであろう。以上の意味に於てこれ等の諸問題に関する筆者の見解を披瀝し、関係者、研究者諸賢の御批判を仰ぎたいと思う。

【二】

水球競技の國際的新動向については、藤田理事長の親しくヘルシンキのゲームを觀戦された詳細な報告もあり、大体に於てその相貌をうかがい知ることができたと思う。それは次の2点に要約される。

A 攻撃にも防禦にも全員が参加するようになり、攻防轉換に連れて全員が両ゴール間を往復するようになった。

B ゾーン・ディフェンスの普遍化と速攻の常道化これは誠に理に適ったものであると思われる。他の団体球競技の戦略、戦術、技術の進歩過程を研討するならば、当然かくなるべきであったことを発見するであろう。

水球競技は他の陸上団体球競技に比し、

(一) 陸上を走るのと異って水中を泳ぐのであるから非常に疲れる。

(二) 右と同じ理由によって身体の扱いがむずかしい。

(三) 又同じくボールの扱いがむずかしい。

(四) ボールと人との速度の差が非常に大きい。

(五) 水上に頭部が点在するのみであるから、距離の目測がむずかしい。

等の著しい特徴、技術的困難があるために、戦法、技術の進歩が明かに後れている。それ故サッカー、ホッケー、バスケット等の他の進歩した団体球競技の戦法、技術の進歩過程を分析して、水球のそれと比較するならば、水球の現在の戦法、技術がそれらのどの辺りに在るか、そして今後どの方向に進歩して行くべきであろうかが明らかに見通され得るのである。その一つの例として、前掲Aにしても、他の陸上団体球競技に於ては水球と同じ進歩過程を経過して、然も数10年前から当然の常識として行われて来たのであるが、水球は前掲(一)乃至(五)の理由によりこのような動きが困難であるために行われなかったに過ぎないのであって、國際的水球に於ては、この困難を克服したに過ぎないのである。「泳ぐよりもボールの方が速いのであるから、水球の攻撃はパスによって行うべきであって、後方より突込むのは飽まで奇襲であり、常道ではない。」という主張が藤田

理事長の婦朝報告があるまで日本水球界の一部の意見であったが、これは機動力よりも操球技術が優位に置かれていた当時の外国のプレーをその儘呑みにしていた結果であって、今少し視野を拡げて、他の陸上団体球競技との関連に於て水球を研究していたならば、体位、体力と操球技術に於ては外国選手に互することは困難であるが、機動力に於ては優位に立つ可能性のある日本水球の行くべき道として、ヘルシンキ報告を俟つまでもなく当然採り上げられて然るべきであったのである。

Bとして掲げたゾーンと速攻に関しても、右と同様のことがいえるのである。大体ゾーンはマン・ツー・マンが或るところまで達すれば当然生れて来なければならないものである。例えば特に強いフローティングは1対1のマークで完全に防ぎ切ることは困難であろう。他の点で少々勝っていても、敵フローティングの活躍を押え切れなければゲームは負けである。

如何に丈夫な繩も一ヶ所弱い所があれば其処から切れる。この部分的弱点を団体の力、組織の力で補なおうとすれば、結論はゾーンより他に方法がないのである。欧州の水球は、このフローティングの活動を防ぐため、一度反則戦法の邪道に踏み迷った後、ゾーンを発見して正道に還ったのではあるまいか。バスケットは水球のフローティングに当るポスト・マンの威力に耐えかねてゾーンを案出した。ヘルシンキに出場した優秀水球チームは当然の進歩を遂げてゾーンを採用したのであろう。

そしてゾーン採用の当然の結果は速攻の常道化であるべきである。それは相手がゾーンを敷く前に攻め込んで攻め陥してしまうのが得点の近道だからばかりでなしに、ゾーンそのものが攻防転換に際して速攻を展開するに適したシステムであるからである。

水球は此等の点でも他の団体球競技の進歩して来た経過をその儘踏んでいるのである。

【三】

以上の如く藤田理事長の報告によるヘルシンキの水球、欧州の水球は誠に理に適った進歩を遂げつつあるものである。右の他速攻と遅攻の使い分け、相手の攻撃の調子を崩し、或は特別強力な特徴を押えるためのゾーンとマン・ツー・マンの使い分け、同じく遅攻でも相手方の両防禦システムの使い分けに

対処する攻撃システム等、欧州の水球は相当進んだものでないかと信ぜられる。

我々が残された準備期間中に以上述べたところを身に着けるのは容易ならぬ大事業というべきであろう。幸いロスアンゼルス、ベルリンの体験をも採り入れて、機動力、体力に重点をおいたほぼ満足に近い選手候補が選定されているのであるから、以上記述した所謂近代水球が誤なく消化され得たならば、日本水球は相当戦えるのではないかと考えられるのである。

我々はロスアンゼルスに於てフローティングを学んで来た、にも拘らず当時の日本水球界がこれを探り入れず、その対策を怠ったばかりに、4年後のベルリンでは相当の力を持ち乍ら惨敗を重ねたのである。フローティングを持たず、従ってフローティングの防禦方法を知らないチームが強力なフローティングに蹂躪されるのは当然といわなければならない。

フローティングの出現はバスケットのポスト・マンの出現と等しく、戦略、技術上の大革命であったのであるが、新動向は水球競技の相貌を一変せしめた点に於て右に優る一大変革であるのである。これは決して担々たる道の如き進歩ではなくして、断層にも比すべき革命的変貌であるから、その対策を誤らぬためには並々ならぬ研究と努力を要するのである。ベルリンの轍を再び踏まざらんがために、日本水球が国際舞台より落伍せざらんがために、新動向であるゾーンとこれに連る問題に対して全力を尽して立向わなければならない所以である。

【四】

ゾーン・ディフェンスという言葉はバスケットに於て最初に用いられ、極度に進歩し強力化した遅攻就中ポスト・マンを軸とするスクリーニングの威力に手を焼いた結果、その対策として案出された防禦システムである。筆者がバスケットを習い始めた昭和3年頃がゾーンの採り入れられた時期に当り、この新しい防禦システムの戦略に未熟であった各チームはこれを破るに苦しみ、大学リーグ、或は全日本に於て双方が20点程度で勝敗を争ったゲームも少なく、一方の得点が40点を越えることは稀であったと記憶している。同じ競技時間で平均6、70点で勝負を争っている現在のバスケットと比べると、当時ゾーンを攻めることが如何に難かしかったかを理解することができるだろう。これは難かしいという

よりも、有効な攻め方が判らなかつたという方が当
っているのである。

その後各チームが熱心にゾーンの破り方を研究し
た結果、ゾーンは防禦システムとして幾多の長所を
持っているけれども、又それ相当の弱点もあって、
方法さえ適切であるならば、決して破り得ないもの
ではないことが實際問題として判つて来た。かくて
判然としたことは、ゾーンはマン・ツー・マンに対
すると同じ攻撃方法では破り得ないこと、ゾーンを
破るためには特別の方法を講じなければならぬとい
うことであつた。

そもそもゾーンはマン・ツー・マンに対する攻撃
方法、就中ポスト・マンの活躍を封ずるために案出
した防禦システムであるから、これに対して依然と
してマン・ツー・マンを攻めると同じ方法を用いる
ことの無理、無意味は自明な筈である。競技に於け
る攻と防の関係は泥棒と警察、病氣と医学の如きも
のである。防禦側が新しく有効な方法を講じたなら
ば、攻撃側はそれを通した新しい別な方法を講じな
くては効果の挙らないのは理の当然であろう。

右のことは今年(28年度)ゾーンを試みに早大水
球チームに対する各チームの戦績を回顧すれば、資
料として不充分とはいへ、或る程度の答がでてい
るのである。早大チームは主力5人を送り出し、昨シ
ーズンのレギュラーで残っているのは2名に過ぎな
い。然も7名の内2名は水球を始めて1年内外の者
である。このアンバランスな弱体チームの、然も不
完全なゾーンに対して、慶、日、三水の強力チーム
が果して納得のいゝ得点を挙げたであろうか。某
チームの先輩が早大のゾーンを攻めあぐんだ後輩チ
ームの戦い振りを批判して、「春から判っていたあ
の防ぎ方を依然として攻め陥し得ないのは、研究心
がなさ過ぎ、だらしが無い。」と憤慨するのを聞いた
が、これは従来通りのマン・ツー・マンに対する
と同じ方法で攻撃した点に誤があつたのである。ゾ
ーンに対するあの攻撃方法は、あの様に力が入ら
ない、だらだらした、見て面白くないゲームになる
のは当然である。然しこれは已を得ないのかも知れ
ない。バスケットではゾーンを破り得るようになる
まで数年間を要したのであるから、即ちゾーンの出
現は先に述べた通り単純な戦法の進歩でなしに、戦
の進め方を一変させた戦畧、技術上の大革命なので
あるから、その対応策が簡単に解決しなかつたのも
無理からぬことであつたのである。

【五】

然し我々水球関係者はバスケットと同じ長期間そ
の苦しみを味う必要がない。バスケット関係者がこ
の問題に関して既に明快な答を出し、我々の向うべ
き道を明示してくれているのであるから、我々はこ
れを採用咀嚼し、身に着ければ事足りるのであ
ることは幸といわなければならぬ。その結論を要約
すれば、

A ゾーンとマン・ツー・マンとは全く系列の異
つた防禦システムである。両システムの、相手
とボールの動きに対処する考え方、動き方はほ
ぼ逆であり、用いる技術も異なる。

B 従つて両システムに対する攻撃方法も考え方
の異つた。系列の異つたものでなくては効果は
挙らない。

ということである。

日本の水球はマン・ツー・マンに於ては或る点ま
で到達したものであるといふことができるであろう。今回
選出された選手候補団は適格者の選抜されたもので
あるだけに、なかなかバランスのとれた立派なもの
である。然し記述の如く戦畧技術上の一大革命であ
るゾーンに関しては、現在全く未経験と同様である
ことは遺憾乍ら認めねばなるまい。ゾーンは唯単に
形を整えて並んだだけで事足りるような簡単なもの
ではない。原則的布陣とその変化、これに要するマ
ン・ツー・マンと異なる技術という風に、従来なかつ
た新しい分野の研究、そして基礎よりチーム・プレ
ーまでの訓練等問題は多々あるのである。その上防
禦のみでなく、相手ゾーンに対する攻撃方法の問題
がある。新動向に対処することは右のように容易な
らぬことなのである。それ故指導者は謙な心構えで
知識を広め、掘り下げつつ、且つ教え、訓練に当ら
なければならぬし、又プレーヤーは名選手といわ
れる人も1年生からやり直す積りで、第一歩から教
えられ、叩かれる心構えで臨まなければ、この大変
革に従つて行けないであろう。

日本の水球といへども、従来全たくゾーンの兆が
なかつたわけではない。早大チームは不完全ながら
数年前よりこれに手を染めている。又数年前の早大
と昨シーズン慶応の意識的に行つた少数防禦は明か
にゾーンの萌芽といひ得る。関東チームに常識化し
ている二段目、三段目を潰してフローティングのマ
ークがアウトに出る防禦方法もマン・ツー・マンにし

てゾーン的である。更に三水会の加島君が昨年(27年度)頃より行って成功していた(マークを離して逃さず、フローティングを牽制する)動きは明かにゾーン的感觉と動きであって、マン・ツー・マンを脱却した進歩したものといえる。以上の如く日本の水球は既にゾーンに進むべき素地と機運が充分熟しているのである。問題は指導陣の研究と戦いの在り方、訓練の方法に関する方針の確立と実施であるというべきであらう。

第一線の強チームがゾーンを採用し、これを体得するならば、従来よりのマン・ツー・マンに対する攻撃方法のゾーンに対して無力であることが体験されるであらうし、ゾーンに対する攻撃方法も己むなく研究されざるを得なくなる、というのが自然的進歩の道順であらうけれども、かくてはメルボルン間に合わないであらう。先人の経験した結論を素直に受け入れ、これを基として次の段階に向うのではなくては進歩はあり得ない。先人の遺した経験上の明かな結論をこの上実験して確かめる無駄はこの際省くべきであらう。既に明かとなった国際水球の新動向に誤なく対処する道は、視野を拡げて進歩した他の団体球競技の貴重な経験を採り入れ、その結論であるゾーンと、これに対する新しい攻撃方法を平行的に研究実施することによってなければならないと確信する。

【六】

ゾーンの研究に入るに当って理解の便宜上、筆者がバスケットで学び、水球で手がけて到達したゾーンの原則的布陣と動きについて順を追って考察を加えて見たい。

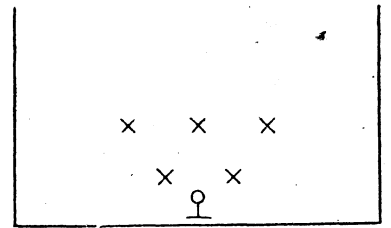
バスケットに於けるゾーンの原則的布陣には大別して第1図乃至第4図の如きものがある。第5図、第6図は第4図(1・2・2型)の変形であるが、筆者の学生時代に早大バスケットの採用していたもので、従って筆者の叩き込まれたものである。第5図はボールが(イ)にある場合に対する①、②、③、④の如きゾーン布陣であり、攻撃側は(イ)、(ロ)、(ハ)、(ニ)、(ホ)であったとする。防禦側の各人は各点線円内を担任責任区域として、ボールと敵の位置の変化に対処して緊密なコンビネーションの下に動く。この場合攻撃側ポスト・マン(ニ)は(a)によって押えられると共に、①によって中央を遮ぎられてパスをカットされ、辛うじてボールを得た場合も②、③、④、

⑤によって包囲封殺されるため、マン・ツー・マンの場合のようなポスト・マンとしての攻撃威力は殆んど失われるのである。

又(イ)より(ハ)にパスせんとすれば、①、②によってカットされ、(ロ)に対するパスは③に脅かされる。又(イ)より(ホ)に対する早い(従って低い)パスは④、或は⑤にカットされて通らず、ループ・パスはスピードがないから①の動きが充分間に合う。ボールが(ロ)にパスされれば第5図の裏返しである第6図の陣形となり、①に代って②がゴール前中央を固め、②が③に代ってゴール

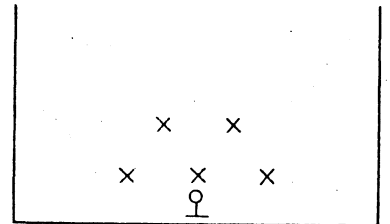
第1図

(3・2型)



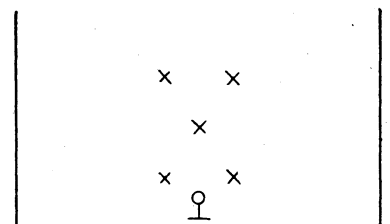
第2図

(2・3型)



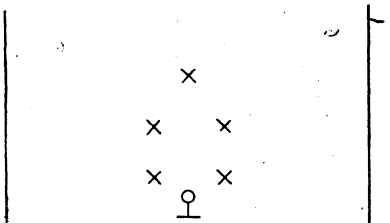
第3図

(2・1・2型)

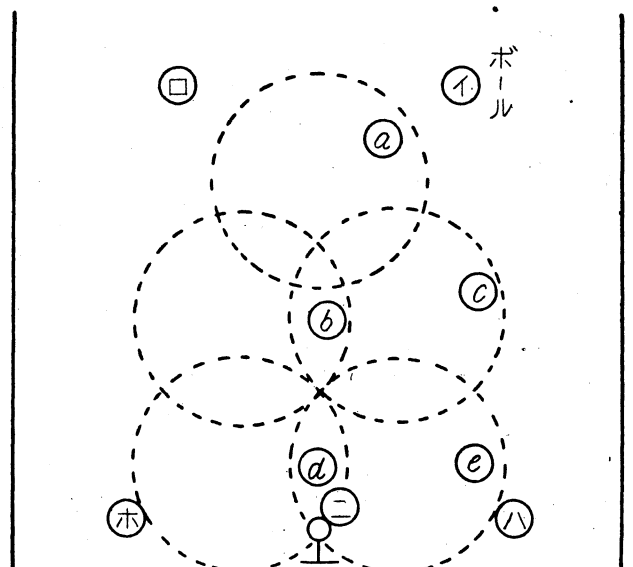


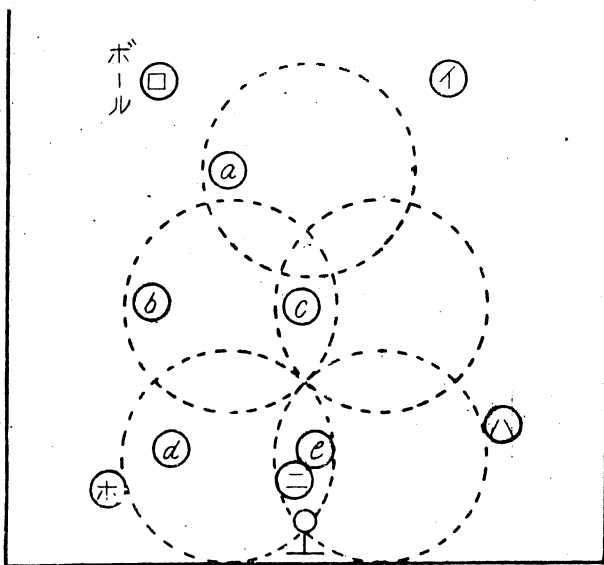
第4図

(1・2・2型)



第5図





【七】

なお、ここで昨シーズン立数バスケットの採用したゾーン・ツーマンと謂われた防禦システムについて若干の考察を加えて見たい。このシステムは前線の3名がゾーンの動きをし、後方の2名がマン・ツーマンの動きをするのである。これでは攻撃側の3名が中に入った時は1名は必ずノー・マークとなる筈であるが、立教チームは昨シーズンの戦績が示す通り、この中途半端な不完全と思われるシステムで防禦に大した破たんも来さず強豪チームをなぎ倒して、シーズンを通じて主要大会の優勝を独占する快記録を残したのである。筆者はその理由を知るために全日本の準決勝と決勝を見学したが、筆者の判断と結論は次の通りである。

ル下を固め(=)をマークする。このゾーンは一時相手ポスト・マンの活動を完封して、ポスト・マンはリバウンド・ボールを拾う以外に役立たなくなった時期があるのである。後にゾーンに対する攻撃方法が進歩して、この防禦方式も必ずしも完璧に守れるものでなくなったのであるが、これに関しては後に考察を加えることにしたい。

ここで注意しなくてはならないことは、(b)、(c)、(d)が左右前後入れ代る如きことは原則として有るべからざることである。入れ代ることの已を得なくなることは攻撃側に乗ぜられてゾーンが混乱状態に陥ったことを意味し、いわゆる防禦が攻撃に負けたことを意味するのである。ゾーンは飽まで左右前後の関係を崩さずに、ボールと相手の動きに連れて全体の有機的関連に於て整然と防禦すべきものなのである。

ラグビーに於てもTBが左右逆になるのはシーザーの場合を除きあるべからざることである。サッカーに於てもゾーン・ディフェンスに於ては左右のバックが入れ代るようなことはない。先進競技に於て右の原則が厳守されていること理由は、詳しく考察を加えるの暇はないが、何れも長年の経験上のも一致した結論であるから、水球に於て入れ代ることの失敗であるか否かを重ねて実験して見ることは全く無意味な時間と努力の労費であろう。早大の今年のゾーンが採用したばかりの春よりも、熟達した筈の夏に於て逆に効力を減じたのはにの原則に背いた故に外ならぬ。

立教チームの攻撃力の優越が好成績の最大理由であるけれども、(このシステムは特に「取られるよりも取る」積極性を重視するものであって、前線3名による速攻の威力は相手方の攻撃を消極的ならしめる程のものであった。)防禦に大した破たんを来さなかったのは、前線のカット力の優れたことにある。スピードパスは勿論のこと、バウンズ・パスすら通らないということは驚くべきことといわなければならない。ループ・パスはスピードがないから1人ノー・マークがおっても防禦に間に合うのである。ゴール真横よりの中ロングには流石に弱かったが、ここはシュート成功率の最も低いところである。立教チームのゾーン・ツーマンは前線の優れたカット力によってゴール真横の中ロングを多少犠牲にして成り立ったのであって、相手チームはこの中ロングを勝敗に響かせ得る程決め得なかつたといふべきである。

右の点はゾーンの研究のみならず、ゲームそのものの研究に誠に味のある、参考になる点と思うのである。これが水球に示唆するところの一つは、カット力の強弱がゾーン成否の鍵であるということである。ゾーンに於ては全員がキーパーのように手の届く範囲のボールを総てカットする能力を持たなければならない(常にカットし得るポジションを占むることも含めて)ということであって、これによってフローティングの位置に有効パスを通さないことができるわけである。そして今一つは「各所に備うる者は各所に敗る」の古諺の教える如く、最も痛い所は重点的に守り、影響の少ない点の防禦は多少犠牲に

しても可なりということである。

更に今一つ注意しなければならないことは、立教の昨シーズンのチーム構成員にして初めてゾーン・ツー・マンをこなし得たのであって、他チームがこれを採用して、果して効果を挙げ得たか否かは疑わしいことである。(斉藤、新井の卒業した今シーズンの立教はこのシステムを採用していない。)両新井、斉藤、紺野等素質的にこのシステムに適した人材を揃え、然も必要とする技術は各個人の基礎より叩き込まれていた。ゾーン・ツー・マンは素質と共にマン・ツー・マン、ゾーン両システムを基礎からこなしたものでして、始めて効果を挙げ得るものであることが筆者の観戦して特に痛切に感じたことであった。又このシステムを案出し、素材を選び、基礎技術より叩き、チーム・プレーにまとめ上げたのがベルリン・オリンピック出場の名選手で、研究者としての呼名も高い篤球協会技術委員長前田昌保君であることは、チーム・プレーと監督の不可分関係を雄弁に物語るものというべきだろう。因にこのゾーン・ツー・マンは「取られるよりも取る」という最近の傾向に対する努力の代表的現れの一つといえることができるのである。

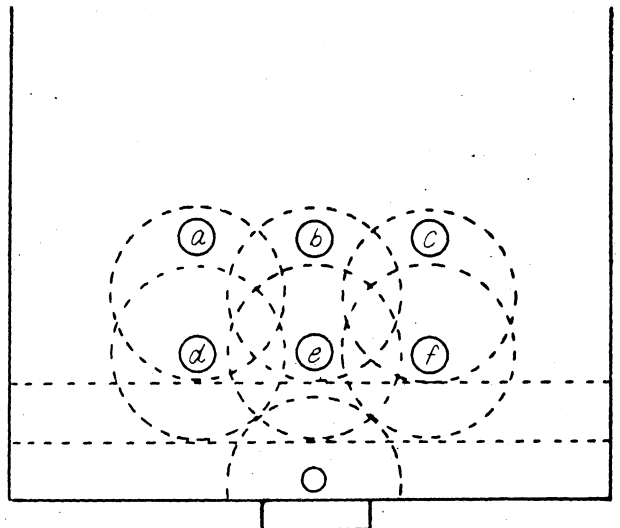
水球に於てはゾーンを掘り下げることが目下焦眉の急務であって、階段を飛ばして先のみを急ぐのは、健全な進歩を計る所ではないから、その参考となる点のみを採り上げるに止め、ゾーン・ツー・マンそのものの研究は後にゆずるべきであると思う。

【八】

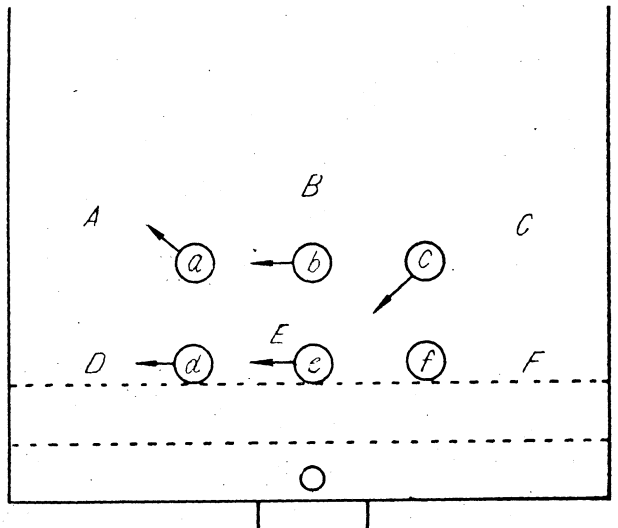
水球に於けるゾーンの布陣、並に動きとして筆者がかねがね考えていたものは、第7図、第8図、第9図の如きものである。

第7図の1は原則的布陣の一つであり、第1線と第2線の距離は大体2米半位、第2線は4米規則に於ては大体4米線上、正式規則の場合はゴール・ラインより3米の少し内側(2米線上のフローティングのすぐ外側辺り)、ゴール正面シュート圏の敵にボールを持たせないことを主眼とする。このシュート圏内に来るパスはできるだけカットし、もしここにボールが渡った時は、次のパスの行く先を警戒しつつ包圍圧封してボール奪取する。大体に於て点線円内を各人の行動責任圏として有機的關係を保って動き、原則として前後左右が入れ代らない。ゴール

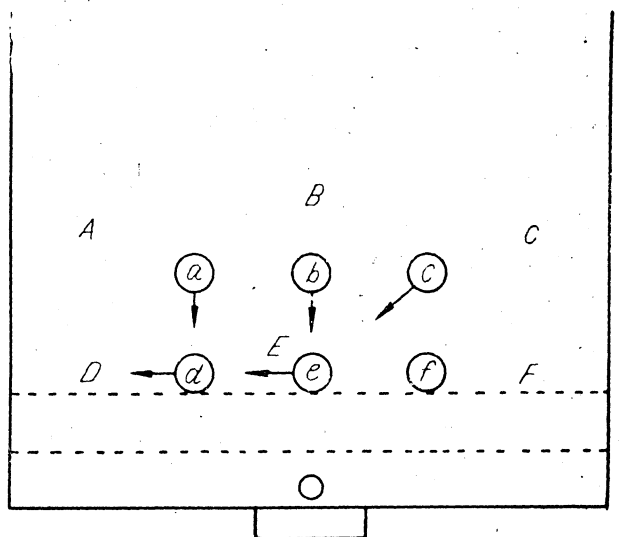
第7図の1



第7図の2



第7図の3



近くの正面にいる敵は誰かがマークするようにし、この敵の動くか、全体の状勢の変化につれ、緊密なコンビネーションの下にマークを隣の味方に引継ぐ。自分(主として㉔, ㉕, ㉖)の責任圏に2人以上の敵が入って来たとしても各人の責任圏が重複しているから、連絡を密にすれば原則的布陣の形を崩さずにマークすることができる。シュート圏に敵が沢山入って来てもこのようにしてマークすれば、ゴール前は唯混雑するのみで却って、攻め難くなるであろう。

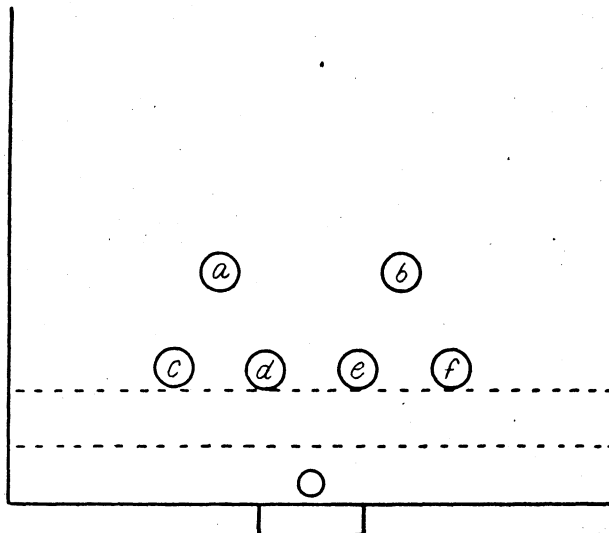
このゴール前の敵をマークすることは部分的にマン・ツー・マンのような感を呈するけれども、これは敵と味方とボールの全体の状勢に於て必要な敵(シュートさせてはキーパーの困る敵)をマークするのであって、ボールの位置、全体の形勢の変化、或はその敵が動いた場合は隣の味方にマークをリレーするのであるから、飽くまで特定の敵をマークして追いかけて廻すマン・ツー・マンとは同じマークといっても、観念的にも実際的にも大いに異なるのである。

そして第7図の2の如く、㉕地点より㉔地点にボールが移動した時は全員が大体矢印のように動き、㉔は㉔のシュートと㉕, ㉖に対する早い(従って低い)ポストをカットする体勢をとり、㉕は㉕を警戒しつつ㉔の動いた間隙を埋め、㉖は㉕にボールの渡るのを警戒し、㉔は㉕をマークし、なお余裕あれば㉔の背後を固め、㉖はフィールドの反対側を警戒して原位置附近に止まり、㉔は㉕を制圧しつつ㉔と㉖の間隙を埋める。㉔より㉕に対する早いパスはカットされて通らないだろうし、カットされないループ・パスに対しては防禦側全員がこれに対処して必要な位置をとることが可能である。

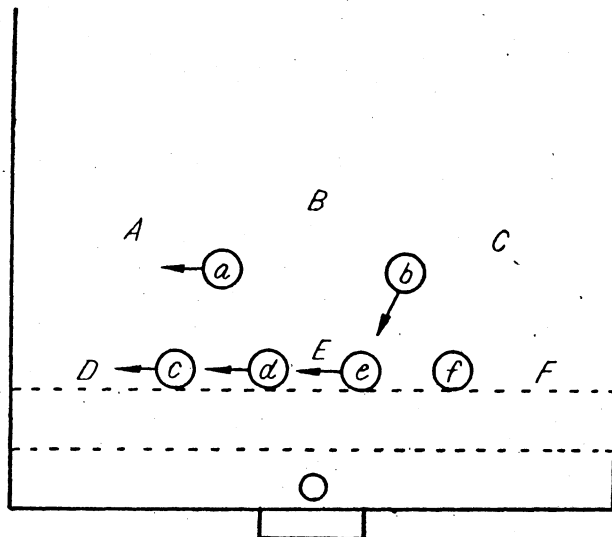
㉕より㉔にボールが渡った時は、第7図の3の如く㉔, ㉕, ㉖, ㉗の動きは第7図の2と大体同じであり、㉔, ㉕は僅かにゴール側に戻ってフローティングを警戒制圧する。ボールが㉔, 或は㉕に渡った時は、右二つの場合の裏返しであるから説明を省く。以上は原則的なものであるから、敵個々の動き体勢の変化、ボールの位置の変化に従って布陣の形個々の動き、コンビネーションに多少の変化のあるべきは当然である。

右ゾーンに於てゴール附近が手薄で不安であるならば、第8図の如く第1線を2名とし、第2線を4名とすることも考えられる。外国チームの強いフロ

第8図の1



第8図の2

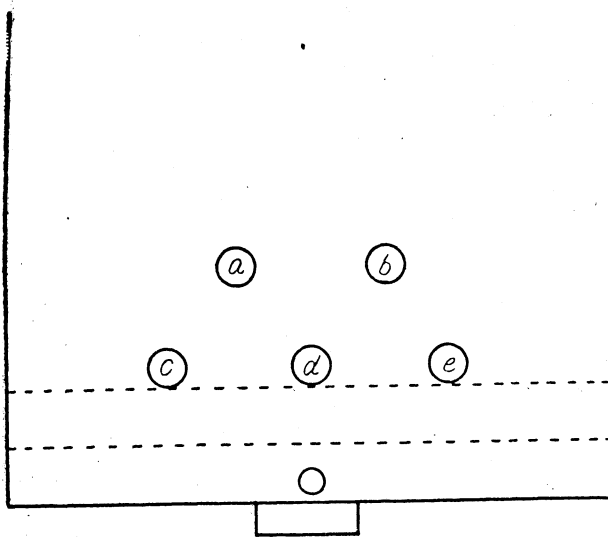


ーティングを制圧するためには、この方が適しているかも知れない。その原則的布陣は第8図の1であり、㉕より㉔にボールが移った時の原則的動きは第8図の2である。この場合㉔, ㉕はフローティングの制圧を主たる任務とする。

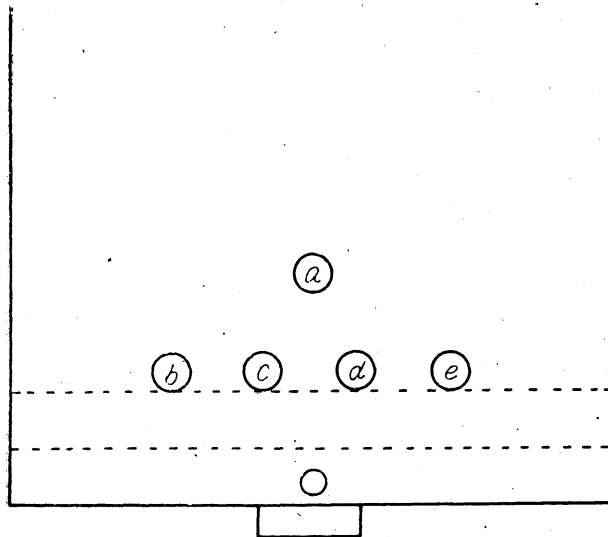
5名のゾーン布陣で守り切る確信のある時は、1名を攻撃のために敵陣に残し、第9図の1、或は2のように布陣することも考えられる。前者は㉔の負担が重いが敵は中距離シュートがやり難く、後者はフローティングに強いが、逆に㉔の負担が重くなって中距離シュートに弱い利害得失がある。これ等の場合の中距離シュートは㉕, ㉔, ㉕, ㉖の第2線がカットしなければならない。

以上で明かなように、ゾーンの狙いはマン・ツー

第 9 図 の 1



第 9 図 の 2



マンの如く特定の相手とマークし合って個人的力比べする傾向と異り、敵とボールの位置と動きに従って人間の手、足、目、耳の如く有機的関連に於て防禦の効果を挙げようとするものであって、従ってマン・ツー・マンの比較的個人的色彩が濃厚なのに比し、ゾーンはより団体的であり、且つコンビネーションを重要とするということが出来るのである。

【九】

以上はゾーンの防禦的面に考察を加えたものであるが、ゾーンが攻防轉換、即ち敵の攻撃よりボールを奪回して、攻撃に移る場合の速攻の展開に便利な防禦システムであることを見逃してはならない。凡ゆる団体球競技に於て、攻防轉換に際して速攻成功

の可能性が強いのは次の理由に因るのである。

- A 防禦側は攻防轉換に際してそのままの体勢から直ちにスタートを切り得るに反し、攻撃側は廻れ右してから引返さなくてはならない。
- B 速攻を訓練された者は攻防轉換に際し、その瞬間勇み立ち、張り切ってスタートするに反し攻撃を失敗した側はその瞬間幾分落胆してスタートが後れ勝である。

A の物理的、技術的差異に B の心理的要素が付加されて、この両者の相違は甚だ大きいものとなる。バスケットやアイス・ホッケーに於て速攻の恐ろしさが充分認識され、対策が充分構ぜられながらも、永年に亘ってその威力が衰えないのは右の理由に因るのである。ラグビーに於ては速攻とは異なるけれども右の理は極度に活用されている。就中パント、及びホイール戦法はその尤たるものというべきであろう。

そしてバスケット、水球に於けるマン・ツー・マンの場合は、攻めていた側は攻防轉換に際して、それまで自分を追いかけ廻していた敵を、逆にそのまま追いかけて行けばよいのであるから、目標があって急いで守りに帰りが易いが、ゾーンに於てはこの相手が誰であるか判らない。例え各相手を決めておいたとしても、その相手が攻防轉換の際に自分の附近にいるとは限らないので、マン・ツー・マンの場合のように目標をつけて追いかけることが難かしい。これがゾーンのマン・ツー・マンに比して速攻成功率の甚だ高い理由であって、ゾーンが速攻展開を前提とした防禦システムといわれる所以である。

以上のことも今シーズンの早大水球チームの戦績が事実を以て証明している。春の早大の防禦システムは曲りなりにも、下手ながらも純粹のゾーンであった。早慶定期戦に於て早大の速攻があわや成功しかに見えた場面が一再到止らなかったことは記憶している人もあろう。然るにリーグ戦より夏にかけて早大防禦システムは、ゾーンのようなマン・ツー・マンに変わってしまった。早大チームに速攻の片鱗すら見られなくなったのは防禦システムが右のように中途半端なものになった後のことであるのである。

バスケットに於ては速攻はゾーンの進歩に平行して威力を増し、今日益々その猛威を加えつつある。遅攻は如何に良く、又合理的に組立てられたものも相手がこれを防ぐに適した対策に熟達すれば威力を失うものである。然るに攻防轉換に際して時機を失

せず、鋭く突込むという極めて単純な速攻の威力が永く生命を失わず、年と共にその成功率を高めていることは大いに参考としなければならないことである。藤田理事長のヘルシンキ報告にあるゾーンと速攻の登場は右によっても理解される如く、欧州の水球が正に進歩すべき当然の道を着実に歩んでいることを物語るに他ならないというべきだろう。

【十】

ゾーンのための個人的基礎技術としては、体を高く保ちつつの鋭い動きと共に、手の届く範囲に於てゾーンを横切るボールをカットし、奪取しなければならないのであるから、次の基礎動作、技術が先ず第一に全員に要求される。

- A 体を高く保つ立泳ぎ
- B 立泳ぎままの前後左右への鋭い動き
- C 飛上りとカット力、捕球力

Aは踏足、Bは踏足、あふり足、抜手の混合、Cは手の力を借りない、然も何時でも瞬間的にできる足のみの飛上りとカット、捕球であって、従来キーパーのみ要求されていた技術である。A、Bに関してはマン・ツー・マンで鍛われて来た人も或る程度訓練されているが、この点に関しての重要度はゾーンとマン・ツー・マンでは雲泥の差があり、Cについては全く未訓練に等しいのであるから、新しくゾーンを学ぶ際には第一歩から叩き直される謙きよな心構えで訓練を受ける必要があるのである。

そしてこれ等の技術ができるようになったのみでゾーンは直ちに効果を挙げ得られるものではない。右の諸点に加えて、布陣の形、必要な働き、そして各人相互とゴールとの距離、角度、関係が頭に入ったところを出発点として、ここから始めてゾーンの本当の訓練が始まり得るのである。キャチ・ボールが一応出来、ナインの任務が一応頭に入って始めて野球の練習を始め得ると同じである。

ゾーンの動きは単純なように見えて、実は極めて複雑微妙、且つ難かしいものである。これは知識として理解することは左程困難なことではないかも知れないが、形の上では勿論のこと、特にタイミングのジャスト・ミートに於て有機的、且つ、円滑に総ての変化に対処し、然も激しい動きを通して原則的の体型（各人間の、そして各個人とゴールとの角度、距離）を崩さぬことは手易いことでない。筆者はバスケットに於て4年間ゾーンとマン・ツー・マンの

双方を正式に叩かれて、判って来れば来る程ゾーンの難しさ、微妙さ、奥深さに驚いた次第である。簡単だと多寡をくくっている間は、未だ本当のゾーンが判っていないのである。特定の相手をマークして追いかけて廻すマン・ツー・マンとは異り、相手方1人の一つの動き、ボールの一つの動き、ボールの一つの動きも全員に影響するゾーンの複雑微妙さ、奥深さ、難かしさは充分認識して掛かる必要があるのである。

【十一】

扱てゾーンで守る相手方を従来のマン・ツー・マンの攻撃方法で攻めた場合は、実際どのような結果になるであろうか。

フロートイングに対する早い（低い）パスは殆んどカットされるだろうし、カットされないループ・パスは落下点に待期する防禦側に捕られる公算が甚だ多い。幸にしてボールが渡ったとしても、ボールを得た瞬間直ちに周囲の防禦側に潰されてしまう。大体マン・ツー・マンに於てフロートイングが強いのは、ボールを得る前後マークする相手の意表を突いて左右に動くことができ、或は少時ボールをキープして機を覗い得る点にある。然しゾーンに対しては、右のようなことが困難というよりも、不可能になってしまうのである。ゾーンの外側面よりのシュートはキーパーに捕られ易いし、正面よりのシュートはカットされる可能性が多い。又ゾーンの中を動きまわってかき乱そうとしても相手は追いかけて来ず、陣形を崩さずに要所を押えているのであるから、ただ疲れるだけで、決してボールは渡らない。スクリーン・プレーは相手が固くマークして追いかけて来るのではないから、唯動き廻ると等しく無駄骨である。扱てそれでは敵ゴール前に強いフロートイングを1人残して、攻防転換の際にロング・パスを送ってこれに強引に腕を振わせることはどうだろう。得点をし易いようにゴール近くにいれば、ロング・パスは外側に出たマークか内側のキーパーに捕えられるだろうし、このロング・パスを受けるために迎えに出れば、ゴールから遠くなり、或は角度が悪くなって得点困難となる。それ故ゾーンに対して、従来マン・ツー・マンを攻めたような単純な方法で攻めて、勝敗に影響ある程得点を取ろうとすることは先ず以て困難といわなければならないのである。コンビネーションを以て守ろうとするゾーンに

対しては、個人的強さのみに頼ることなく、これに適した特別の方法、コンビネーションを基調とした

攻撃方法を以て当らなくては、これを破り得ないのである。

【十二】

マン・ツー・マンとゾーンを両システムの相違という点から要約すれば、

マン・ツー・マン

- A 特定の相手をマークして追いかけ廻わし、敵、味方の二人宛が組合って力比べする傾向の強い点比較的个人競技的色彩が強い。
 - B 防禦の原則と重点はインサイド・マークでありタックルである。
 - C 自分のマークする相手はパス、シュートをさせない点に重点を置く。
 - D 攻防転換に際して速攻に移りにくい。
- であり、逆にこれを攻撃する側から見れば次のようになる。
- E ボールを支配している。者は常に相手マークに追いかけられ、タックルに脅かされているのであるから、落付いてパスができない。
 - F フローティングのマークは原則として1人であるから、これに対するパスは左程難かしくない。
 - G 前項と同じ理由でフローティングは比較的活動が自由である。
 - H フローティングはボールを得た後ゆっくり細工ができる。
 - I スクリーン・プレーは効果がある。
 - J ゴール前を高速で横切るとは相手方に脅威を与え効果がある。

ゾ ー ン

特定の相手を追いかけることなく、相手方総ての位置の変化、動き、ボールの移動に連れて、全員に有機的組織体としての布陣、動きが要求される点、比較的団体競技的色彩が強い。

防禦の原則と重点はゴール正面シュート圏を中心としたパスシュートのカットである。

得点に影響の少いパス、キーパーの捕り得るシュートは自由にやらせて構わない。

攻防転換に際して速攻に移り易い。

ゾーンの外では追いかけ廻され、タックルで脅かされることが少いから落付いてパスができる。

フローティングの位置はゾーンの中心に位し、前後左右から脅かされているのであるから、ここにパスを送ることは難かしい。

前項と同じ理由でフローティングの活動は甚だ困難である。

フローティングは幸いボールを得ても、その瞬間前後左右から潰される。

スクリーン・プレーは無駄骨である。

ゴール前を高速で横切っても相手方はついて来ないのであるから無駄骨である。

【十三】

上記のように比較して見るならば、ゾーンは甚だ完全な攻め破りにくい防禦システムのように感じられるが、具さに検討して見ると、ゾーンにはゾーン

なりの弱点があって、適切な特別の方法を構するならば必ずしも攻め破り得ないものでないことが発見できるのである。

ゾーンは攻撃側が右へ左へ操返へして早いパスを何回もまわす時は、これに対応して動き切れない場

合も生じ、時には陣形が乱れ、間隙を生ずることがある。又緊張は緩めず永く続けることは甚だ難しいことであって、自分では緊張している積りであっても、段々緩んで行くものである。初めに強く感ずる奥も、少時経てば左程感じなくなるが、緊張とはこのように永続させることの困難なものなのである。それ故右へ左へ繰返えして何回も早いパスを廻す時は、防禦側はつい動きが間に合わなくなって、陣形の乱れることが有り勝なばかりでなく、うっかり緊張が緩んで必要な動きを鈍らし、間隙が生じ勝となる。これがゾーンの最大弱点であり、攻撃側の来すべき点であるのである。ゾーンを破る第一の要提は、實際攻撃の前のこの予備的行動であって、それも何処か一ヶ所で、ボールが止っては今までのパスが無駄になる。フロイド氏の遺した「ボールを焼けた火の玉と心得、火傷しないように早く次へパスせよ」と球離れの大切さを表現された言葉は、ゾーン攻撃にこそ最も適切なものといわなければならない。

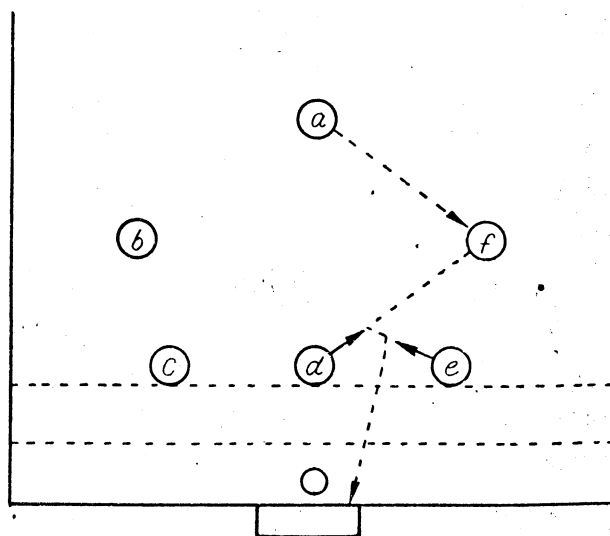
理解に便するために、バスケットに於てもパスを廻らす予備行動は絶対に必要である。これによって相手の布陣を崩しながら、時折ロング、又は中ロングで脅かせば、ゾーンはシュートを警戒するため思わず外側に拡がって中間に間隙ができ、ここに僅かながらポスト・マン活動の余地ができるから、今度はここにボールを通して活躍させる。このポスト・マンの活躍を押えるため、再びゾーンが縮まれば、又パス廻しとロング、中ロングで脅かしゾーンを拡げる。この繰返しがゾーン攻畧の定則であって、何時シュートするか、何時中に放り込むかの時機の選定が攻撃側の掌中に握られているのであるから、攻撃側は思うように相手をじらし、好む時を選んで必要な体勢に導びき、相手の緊張を緩ませ、意表を突いて攻撃効果を挙げることができるわけである。敵の緊張の頂点を避け、その緩みと間隙のできるのを待って、合理的に攻めることによって、無理な強攻では甚だ破り難いゾーンも今日では攻畧可能のものとなってしまった。然しゾーンには速攻という極めて効果的な返し技を蔵しているのであり、相手に押さえ切れぬ強者がいる時、少差で争う鏝競合、或はリードしてタイム・アップの通った場合、相手に食い下る場合等には特に有効であるのであるから、現在に於ても有力チームに採用され、使用されているのである。

【十四】

ゾーン攻畧の方法に関しては、水球に於てもバスケットの場合と全く同じである。そして繰返えして強調したことであるけれども、せっかちな無理な強攻は即ちゾーンの思う壺であるから、直接攻撃の前に、そしてその中間にパス廻しを繰返えすことの大切さは絶対に忘れてはならない。特に従来の日本の水球は強攻につぐ強攻のみの連続であって、所謂近代水球の大きな特徴である「ボールを大切にする」点に欠けるところが多い。このゲームに対する心構えを改造して、無理せずボールを大切にする習慣をつくることは現在我が国水球の重要課題の一つである。

扱て攻撃の予備行動であるパス廻しによってゾーンが拡がり、僅かながらフローティング活動の可能性が生じて来た時の簡単な攻撃フォーメーションの一つとして第10図のようなものが考えられる。予備的パス廻しによって相手の緊張が緩み、動きが鈍ってゾーンの中心にちらほら間隙のでき勝ちとなった機会に合わせて、が鋭く矢印のように動いて㊦よりのパスを受け、その瞬間タイミングを合わせて矢印の方向に動いた㊤に早い正確なパスを送ってシュートさせる。この場合㊤が動いてもパスを送ることが無理か、或はタイミングが合わない恐れがある場合は、無理にボールを送ることなく何回でもやり直すべきであり、又㊤はパスを受けても無理と感じた時は素早く㊤等の後方にボールを返えし、パス廻しの繰返えしからやり直す。

第 10 図



最も大切なことは各人の働きとパスのジャスト・ミートするタイミングであり、④より⑤へのパスは周囲に敵の充満する包囲中でのプレーであるから、素早い、且つ高い位置の正確なものであることが要求される。此の場合防禦側はに気を取られ、且つその方向に出足を付けているのであるから、④にさえ始パスが渡ったら、⑤のプレーは比較的容易なものとなるであろう。但しこの種のプレーは練習時にフォーメーションとして特にタイミングのジャスト・ミートするように充分鍛え練り上げておかななくては成功は難かしい。

又サッカーの上に掲げるセンター・リングはゾーン攻畧の一方法として見逃すべからざるものでないかと思われる。センター・リングのボールを捕りうる機会は攻防双方にとって一見五分五分の如く思われるが、時機の選定が攻撃側の掌中にあり、従って攻撃側はこれに適した状況を導き出して、防禦側の意表を突きうる故、奇襲戦法として充分成り立つのである。以前センター・リングのボールはヘディングで直接ゴールを狙うことが多かったが、近頃では防禦が進歩して得点の率が下って来たので、附近の自由な味方にヘディングでパスを送ってシュートさせる場合が多くなった。これも大いに参考とすべきことと思う。

【十五】

以上で水球競技の新しい動向と、それに連なる問題に関して大略の考察を加えたわけであるが、問題が分析綜合され、戦いの進め方、戦略、並にそれらに必要な個人技術が検討し尽され、結論が出て問題が終ったのではない。新しい動向が分明し、その対策が確立したこと、これを身に着けて円滑に実施に移しうることは別個の問題なのである。知識として明かとなって始めて新動向の運用が第一歩を踏み出しうるのであって、ここに訓練の方法が問題成否の鍵として大きくクローズ・アップされて来るのである。

同じ素質、同等の実力の高校選手が大学に進学した場合、強チームに入った者は順調に延びうるに反して、弱チームに入った者は前者程進歩しないのが大体の傾向であろう。筆者はこれを伝統なる漠然たる言葉のみで片付けることに賛成できない。強チームには強くなるような環境、雰囲気、とい練習方式が備っているものであって、弱チームにはこれが欠け

ているのであろう。又同じ10年の水球歴をもつ日本とハンガリーの選手の実力の相違は、他の色々の要素にも影響されているのであろうけれども、訓練、練習の方式の問題が大きな要素の一つであることは疑うことができないであらう。

各団体球競技には、個入的基礎技術よりチーム・プレーの完成までの諸段階にそれぞれの特殊な狙い独特な目的を持った訓練の方式、練習の型ができているのであって、野球、ラグビーのゲーム直前の練習を見るだけでもこのことは明らかに理解できる筈である。プレーヤーに必要な技術、策戦意図を理解せしめただけではゲームは決してコーチの考えのようには行われぬ。必要な技術を基礎より叩いて積み上げ、これをチーム・プレーにまとめ上げてそれぞれの機会に各個が無意識に動いて、然もチーム・メート間の動きのタイミングがジャスト・ミートするように、そしてそれが一種の癖となるまで訓練して始めてチーム・プレー、フォーメーションは円滑に行くのである。これがゲームは平素の練習の鏡といわれる所以であり、ゲームに現れたプレーの良し悪しは、即ち平素練習がその儘表現されるものといわれる所以であって、取りも直さず訓練、練習の方式の大切なこと、従ってこれを総括する監督、コーチの責任の重大なことを物語るものに他ならないのである。

技術は妥当な練習の下に於てさへ正しい点を中心として一方に行き過ぎ、これを匡正すれば正しいところを通過した後、今度は反対の方向に行き過ぎ、時計の振子のように正しい点を中心として絶えず左右に動いているものであって、これがいわゆる調子の波といわれているものなのである。この調子の波を調整するためには勿論、新しい技術、動き、チーム・プレーを訓練する場合、そしてその正確さ（個々技術の場合はフォーム、チーム・プレーの場合は上記に加えてタイミングのジャスト・ミート）を正し、且つその力とスピードを増強するためにも、例えば音楽の練習曲の如きそれぞれ特別な狙いと目的をもった訓練練習の方式と型をもたなくてはならない。現在の日本水球は確かにこの点にも欠けているのであって、先進競技に見倣わなければならないものがある。

そして水球の如き団体球技は個人競技と異って、チームが人間の如き一個の有機的組織体として活動しなければならぬのであり、構成員はチーム全体

に対して手、足、目、耳に比すべき働きであって、これらを総括する監督、コーチは頭脳の如き役割を果たさなければならないのであるから、平素は訓練練習方式の立案者であると共に、その実施者であって、然もゲーム時の策戦指導者である監督、コーチの役割は特に重要である。それ故既述の新動向に適応し得るや否やは、懸って指導陣がこれを身に着け得るや否やにあるといっても過言でないであろう。

【十六】

水球競技の新しい動向は、既述した通り、全員攻防、並にゾーンと速攻に要約できるが、マン・ツー・マンと遅攻も決して価値を失うものではない。例えばゾーンの防禦に対して敵の攻撃が調子に乗って守り難くなって来た時は、マン・ツー・マンに切りかえればその敵の調子を崩すことができる。又攻防転換に際して速攻が成功せず、敵が守を固めた後はじっくり遅攻で攻めるの他はない。そしてその遅攻も、敵がゾーンで守った時はそれに適した攻撃方法、マン・ツー・マンで守った時は、又それに適した方法と、両攻撃システムの使い分けが必要である。更にリードされてタイム・アップの迫った時に、ゾーンで守ることは首を延べて敵に斬らしむるに等しいから、どうしてもマン・ツー・マンに切り換えて全員アタックしなければならない。1点負けるも5点負けるも同じ負けであるから、このような場合には多少防禦の健全さを犠牲にしても、積極的に敵を圧迫して逆転を狙わなければならないからである。

これらはバスケットに於ては当然の常識として行われていることであって、ゾーンとマン・ツー・マン、これに対するそれぞれの攻撃方法、速攻と遅攻等その一を欠いてもバランスのとれた健全なチームということとはできないのである。

これをチーム構成員個々の訓練と完成という立場から見ても、両システムを両立させることは必要である。如何なる合理的なチーム・プレーも個人技術の力に欠けては砂上樓閣に過ぎないであろう。そしてこの個人の基礎技術の力とスピードを増強するためにはマン・ツー・マンの攻防方式が個人的色彩の濃いだけに適しているのである。これと反対にゾーンは協同動作、チーム・プレーの体得に好適である。又ゾーンと速攻、並にゾーンに対する攻撃に必要な技術はマン・ツー・マンの技術をマスターした者にして始めてでき得るわけであるから、新動向は

基礎技術に於ても、又チーム・プレーに於ても多岐多彩たらざるを得ないわけである。

【十七】

それにしてもキーパー能力の増強は急務中の急務たるを失わない。従来に於ても日本のキーパーの弱体は識者の憂慮するところであった。ところが新しい動向の一たるゾーンは、キーパーが弱体では全然成り立たないのである。ゾーンはキーパーの捕り得るような位置、角度からのシュートは寧ろ投げさせる防禦システムだからである。又攻防転換に於ける速攻の展開はキーパーの好判断、好パスよりスタートするものであるから、新動向は防禦面のみでなく攻撃部面に於てもキーパー能力の一層の増強が要求されるようになるのである。

尚バスケットに於ては近来常識的に行われていることであるが、速攻と遅攻の使い分けに際するチーム構成員の役割の配分について一言しておきたい。攻防転換より速攻を展開するに際しては、第一線の者が全速力で敵ゴールに向かって殺到して行く。この速攻が成功せず遅攻に移る場合には、これ等の者は後に下って敵防禦の外側でパスを廻す役目にまわり、後方より力を消耗せずに敵陣に達した者が代って敵防禦陣の中に入り攻撃に当る。これは平素より計画的に役割の重点を分担せしめて訓練しておくのであって、防禦の際の第一線の者は速攻要員としてその素質ある者をこれに充て、且つ速攻に重点を置いて訓練しておく、なお敵の速攻に際しては、全員が急ぎ自陣に帰って守につくのであるが、特に速攻要員は何をおいても急速自陣に帰り、味方全員の復帰まで敵攻撃を持ちこたえる任務を持たされている。かくして速攻と遅攻の要員を別にすることによって、技術の堀り下げを深くし得ると共に、精力の配分を合理化しているのである。参考とすべきことであろう。唯我々が忘れてはならないことは、右の役割のエキスパート化はオールラウンドの上に打ち建てられたものであることである。これは我々がロスアンゼルスでハンガリイ選手より教えられたことであるが、バスケットに於ては事新しくいう人もない余りにも明かな当然のことになっている。

【十八】

最後に速攻の完結について一言しておきたい。キーパーはドリブルして来た敵のシュートに対しては

好位置をとって待ち構え、緊張の極点でシュートに
対し得るから比較的強いものである。このドリブル
して突込んで来た者が、ゴール前を横切る反対側へ
パスを送ってそこにいる味方にシュートさせれば、
キーパーはポジションをとり直さねばならず、又野
球で打気に逸る打者が投手の一壘牽制に緊張をはぐ
らかされるように、気を抜かれて捕球力は極めて弱
くなるものである。これを「キーパーを振る」とい
うが、強いキーパーも振られては実に弱くなる。そ
れ故速攻完結の定則は、ドリブルする者がゴール前
で敵1人を充分引付けてノー・マークをつくり、こ
れにパスしてシュートさせるに在る。

なお、この理は遅攻にも当はまる。直線的に運ば
れてフローティングに渡ってのシュートは、キーパ
ーに捕られやすく、クロス・パス直後のシュートは
得点になりやすい。キーパーが振られるからであ
る。最近の日本に於けるゲームの実績に徹しても、

松本、神田、安藤諸君の優秀技能者がその腕に比し
て案外得点が少く、キーパーに名をなさしめたこと
が多いのに比べて、伊藤、藤野両君、宮部、菅原両
君のコンビが好成績を挙げているのは、クロス・パ
スでキーパーを振っていることがその理由の一つで
ある。

このクロス・パスは即ちフィールドを広く活用す
ることを意味し、そしてフィールドを広く活用する
ことは凡ゆる団体競技の一致した攻撃の要訣である
ことは注意する要がある。

以上しばしば水球競技の新動向と、これに連る問
題について考察を加えたが、細部や変化応用に関し
ては筆舌に現せない微妙なものがあるので、殊に禿
筆の筆者には述べ尽し難く、又問題が多岐に亘っ
ているので、個々の問題の掘り下げが充分できなかつ
た。意のあるところを汲取って載ければこの上ない
幸である。

水泳誌創刊号より抜萃

東京—横浜OB水球戦を見て

審判 杉田忠治

横 浜		東 京	
川 口 又 男	LF	和久山 修 二	
外 川 正	CF	山 崎 辰 雄	
安 部 輝太郎	RF	小 林 栄 三	
吉 本 祐 一	HB	松 沢 一 鶴	
白 山 源三郎	LB	野 村 憲 夫	
岡 田 辰 雄	RB	飯 田 光太郎	
水 野 帳次郎	GK	田 畑 政 治	

東京軍の名前を見ただけでも、コレワコレワと驚く人が
あると思います。全部が一世紀前の花形です。メンバーの
個人についていうならば、横浜軍は大正6年、芝浦オリ
ピック大会当時の勇者白山君を除いては、OBとしてのフ
レッシュマン級の人多く、商大に色の黒いので有名だった
川口の珍サンと、安部輝君、慶応前水球主将で、ヨットの
大家、ラグビー蹴球の重鎮吉本君、早大を出さされたのか
卒業したのか、ハッキリ解らぬように、ヌルヌルと大学を
出た外川君、早大水球軍の名ゴール・キーパーで、今は福
助タビでエイエイとコハゼを数えている水野君、それに極
東大会の時の名コーチ早大出の岡田君。

これに対し東京軍のセンター山崎君は、早大水泳部揺籃
時代の名選手で、左右のウィングは明大水泳部設立者の和
久山君と、慶応競泳部の創立者小林君、小林君は関東水泳
協会の理事ゆえ、競技の申込みをする人は、顔は知らなく
ても大抵名前は知っていると思います。ハーフ・バックは
帝大を出て、近頃益々太鼓腹を發育せしめ、石本、飯田河
先輩を抜かんとする鶴さんこと松沢君、左右バックは、そ
の松沢君に抜かせじと、朝晩腹をたたいて水上連盟と角力
協会とを間違えたのぢやないかと誰でもがいう。河童の中
で一番大きい部類に属する飯田光太郎氏と、怪しくも異国
情緒豊かなヒゲの持主、学生連盟主事立教の先輩野村君。

もう1人はゴール・キーパーとして心胆を寒からしめる
ような働きをした水上競技連盟専務理事の田畑君です。田
畑君は帝大出でハレー彗星の向うを張って60年目毎に1回
の入水と決めていたのですが、丁度その60年目に当た
たのか、ハレー彗星と縁を切ったのか、とにかくこの日の主
将として、久々にクロール姿を見せ、全軍の指揮は申すに
及ばず、レフリーに至るまで良く命令を発した。見物人
には観艦式の三笠艦のような感を与え喜ばせておりました。

いいかえれば、黒焼屋の株を奪って、各学校水泳部の元
祖、本家、総家の集まったのが東京軍でした。

簡単にゲームの進行を説明すれば、1分52秒、乱戦中よ
り安部(横浜)君が球を得てゴールの右上にゴール・イ
ン、続いて又中央ゴールに飛び来た球を田畑理事はアッ
サリ受けて軽く飯田顧問にパス、顧問、又軽く中央に投げ
ましたが、浅ましくも川口(横浜)君突如これを奪って中
央右に猛烈なるシュートを送り、田畑理事の少しも知らぬ
間にゴール・インということになりました。

ここで俄然緊張した東京軍は山崎船長が後に送った球を
野村主事チラッと小手をかざして和久山監督にパス、監督
声を上げて敵に弱りたる様を見せ、虚を衝いて素早く小林
理事に渡しました。小林君ドリブルにダブルを重ねて駈
進すること2尺5寸、横浜軍の啞然たる中を敵なきが如く
振舞って松沢君に送りました。花形鶴さんサラバサラバと
ゴールの左の肩に美事シュートすると、横浜の水野君(ゴ
ール・キーパー)右に体を交して球より早く身を沈め、東
京軍は貴重な1点を挙げました。

思うに水野君のこの紳士的水潜りの態度に、この後の
OB戦に美事によい例を残してくれたと、ただただ感心の
他はありません。

スコアは2-1で激戦です。プールの中央で競り合う
内タイムで前半戦は終わりました。後半は先輩の東京軍は後
進に道を譲る奥ゆかしさを見せ、2、3の競り合いはありま
したが、多くは手をふれず、吉本、外川、安部3君のゴール
を許して閉戦となりました。

“シンクロナイズド・スウィム”

Synchronized Swimming

白山源三郎

水泳競技の新種目としてシンクロナイズド・スウィムが漸く正式に登場しつつある。F. I. N. A. のルール・ブックに一項目設けられており、次のように述べている。(page 99 規則 111 ~ 127)

芸術的水泳(シンクロナイズド・スウィミング)

国際的シンクロナイズド・スウィミングは F. I. N. A. の公認の下に行われるもので、単独競技(1人)、2人組競技(2人)、団体競技(4人以上2人まで) 93種目があり、各国は単独2、2人組、団体1を出場させる。

プールは深さ5フィート以上、透明度は国際的規定以上でなければならない。

各競技者は5分以内で、音楽に合わせて自分の確定申込演技(組泳)(ルターン)を行う。陸上から始めてもよいし、水中から始めてもよいが、終りは水中で終る。陸上は20秒以内で音楽に合わせる。陸上20秒は演技時間5分内に含まれる。確定申込演技(組泳)は各種泳形(フィギュアー)、泳法、及び、或はその部分を組合せたものを組合せて作る。

確定申込演技(組泳)は少くとも7日前に申請する。一旦、申込んだ後は新泳形を加えることはできない。変更は競技の24時間以上前に審判主任と協議の上変更することができる。

音楽は競技者が自由選択による。

採点は、完遂度	0点—40点
音楽との合い方	0点—20点
演技「組泳」の構成	0点—20点
外見上の美しさ	0点—20点
合計	100点

採点方法は大体、飛込競技に同じ、団体の場合は4人以上の時は1人につき½点を増す。但し100は越えない。その他の詳細は省略。

以上で大体のことは想像がつくが、一体シンクロナイズとは調子を合わせるということで、泳ぎのピッチと音楽のタイムとが合うことをいうのであって、音楽の音律に合わせて泳ぐというのである。従って速さの問題でなく、美しさの問題であることはい

うまでもない。

1928年アムステルダムオリンピックの後ワイズミューラーがプロに転向し、映画入りをした後、まだターザン映画を作り出す前だと思うが、彼の作った映画の一騎に6人位の美しい少女が一行に並んで両脇の調子を揃えてスイスイ泳ぐ場面があった。彼の養成している水泳の弟子達であると紹介されていた。勿論そのクロールの手の動きを音楽に合わせていたのである。これにヒントを得て企てたのが、筆者が朝日新聞主催で、戦前数回毎年9月初めに行われた女子水泳大会における、音楽水泳であった。ある程度の狙いを成し遂げ得たと自負している。女子のチームを音楽のテンポに合わせて一定のホームションを作りつつ泳がせたものである。

これより先き、早くより浜寺水練学校では楽水群像というものをやっていた。時には数10名に及ぶ少女泳者に美しい水上水模様を描かせ、これを色々変化させるもので、仲々大規模な立派なものであった。名古屋の水協であったかと思うが、これに似て更に或る面では工夫され、よく訓練された、相当よいものを見せて貰ったことも覚えている。更に東京の旧府立第六には、野口さんの作られた音楽水泳が数回神宮プールで紹介されている。人数の多いことでは仲々大規模なものといわねばならない。何れもスポーツと音楽との連繫という文化的宿命(変ない方だが)の水泳における現れとして、現れるべくして現れたものであるに過ぎない。然しながら後の三つのものは大体において音楽と水泳とが密着していない、一緒に動いていない。浜寺水練学校と名古屋のとは部分的には一緒に動いていた所もあるが、府立第六に到っては音楽は伴奏ではなく、唯眠かにするだけのもので、水泳は水泳、音楽は音楽で別々である。即ちシンクロナイズではなかった。シンクロナイズは音楽の伴奏に乗って、そのテンポを取って泳ぐことでなければならない。ワイズミューラーの映画に出て来たのも、筆者が企らんだのもそれである。スケートにおけるフィギュアーに見るような

ものでなければならない。今有名なエスター・ウィリアムスが新映画で見せているのも、泳ぎは差したることはないが、よきシンクロナイズを見せているから美しく感ぜられるのである。

それでシンクロナイズド・スウィムが発達したら、さぞかしプールに真によい泳ぎと、よい音楽とがよいシンクロナイズをした美しい芸術的作品が展開される時が来るだろうと夢にみていたのである。然し考える許りで何の進歩もなく、長い年月が過ぎた。そして戦争、敗戦とブランクを通してアメリカや欧州の色々のものが再び入って来た時に、シンクロナイズド・スウィムが国際競技の一つになると知って心躍る思いをしたのであるが、扱ってその競技規程やドッドソン氏、ウェーバー氏、及びウェールス氏 (Richard J. Dodson, Ray Weber and Ellen T. Wales, Chicago Ill.) の詳細な説明を見せて貰って驚いたことは、シンクロナイズドはシンクロナイズドでも泳ぎの方が我々が想像したのと著しく違っていたことである。そして少々失望せざるを得ないのである。というのは、泳ぎはチーム (団体)、デュエット (2人1組)、及びソロ (単独) とあるが、水面でクロール、平泳、背泳、足撃、更には浮身、潜行などとりどりの泳法を色々と組合せて、泳ぎまくって、人間模様を美しく描き出すといったようなものを想像しておったのが、さにあらずであって、先ず殆ど全ては水中潜行の業であることである。水中宙返り、バレリーナーの脚のように伸したり、曲げたりした脚を空中に突出して仰向けで潜ったり、それで身体を捻ったり、水面に出たり潜ったりして前進等々で、浮身群壁、水面横体渦巻き泳ぎ等が少々ある程度である。日本では殆ど冗談半分にやる以外はやったことのない水中潜りの各種の形である。これでは日本人としては初歩から面白くもない泳形を練習しなければならず、第一シンクロナイズのための音楽のテンポを捉えるのに最も不得意な日本人が、水中に潜ってる間のテンポと音楽を耳に入れないでとらねばならないという困難もあるし、一寸手をつけられないような失望感を抱かねばならない。

これで思い出すのは1932年ロスアンゼルス・オリンピックの前後、彼地において水泳人に会い、日本の立泳などやって見せた際、彼地の水泳人が得意になって見せたのがこれであった。ドルフィン (いるか) だとか、ポーボイス (一種の鯨) とか、シャーク (鱈) だとかいって見せたものである。一向感心もい

せず、水泳術が進んでいないからこんなことを得意にし、喜んでいのだと腹で笑っていたのである。今見せて貰った競技規程にも、このような名が種目の名称として用いられている。大阪の松本檜雄氏が潜行艇といってバレー脚で仰向けで沈みながら進む泳ぎをやって見せられたことを覚えているが、彼地で勉強した人だから見て来られてのことであつたであらう。

然し、馬鹿にしたり、失望したり許りもしてられない。競泳、飛込、ボロ、と進んで将来国際競技に入るとすれば、今から研究して選手を作る必要がある。競技会の運営、採点を一切飛込競技の要領そのままであるから、これは取り付き易い。ただ問題は泳ぎの形と音楽とのシンクロナイズである。

同時に筆者の意見としては、一応これをそのまま研究すると共に、これはアメリカ式の押付けであるともいえるから、同じアメリカ式でもワイズミューラーが手をつけかけたものでもあり、スケートには立派な種目として発達していることであり、アメリカ人としても最も好きな音楽に合せる泳ぎのことであるから、水面で各種泳法を組合せて作るシンクロナイズの組織化を考え、日本から国際会議に提案する方向へ持って行ったらきっとよい結果が得られると思うので、そのことを提案するものである。

(附) もう一つ前述のスポーツと音楽の「文化的宿命」に関連して、私の夢をこの機会に附加えて置きたい。それはプールの側で夜間、照明を巧みに調節して音楽の演奏をやることである。これを烈しく行われる競泳の合間に入れたらさぞかしよかろうし、又飛込とか、リレーとかをカーニバル式に組合せ、音楽演奏を多くした特別の催しを考へてもよかろう。或はプールを野外劇場と見立てて純粹の音楽会をプールの辺で夏の夜に行うのもよかろう。1932年ロスアンゼルス大会前年、オリンピック・プール落成式の祝賀行事の日本ナイトに、私の企劃で、吉田晴風、千葉早智子でやったことがある。日本音楽に弱いのと、観衆に理解がなく、余り成功でなかったが、その後横浜で同じようなプログラムでやった時は成功であつたと思う。

昼間でも大競技会の合間に審判台で大プラス・バンドの演奏などやって見たいものである。水を渡る音楽は、古来支那でも、現代欧米でも尊ばれている。

水泳の身体的障害の有無について

徳 幸 田 軾 委員 事 務 協 会

水泳の身体的障害の有無については、従来の文献、治療としての水浴療法の価値、主として夏期のみでシーズン・オフ中はスポーツに必要な休養ができると共に、他のスポーツにも親しめること、練習、試合が野球の如く幾時間も炎天下にさらされることがないこと、小、中学校夏期水泳講習会に3年間参加して検査し得た私の経験等より、水泳連盟の他の競技団体以上のこの方面の関心と相俟って、幼児より水泳を体育の手段として奨励普及すべきであり、四面海に囲まれ、河川、湖沼の多い日本においては特に然りであると思われ、その奨励、普及の方法として中等学校全国大会を開催することは意義あることである。私は害の有無という消極的なことより、「水泳は全身的なよい運動である。」という世間一般の常識を裏付ける科学的調査をして、水泳こそは体育として用いられるべきスポーツの最上のものであり、華であるということを強調したいと常日頃思考しているが、我田引水とは誰もいいきれまい。

しかし興味を追及して筋肉的運動を行うスポーツには、その性質上随伴症状が伴うものであり、これは薬の副作用とでもいい得るものであり、薬を使用するに当り、その副作用を調べることが必要であるように、スポーツの障害について調査することも意義あることである。

偶々スポーツ医学の泰斗である恩師故齋藤一男(代演、日本医科大学整形外科教室)が、10月26日より徳島医大において開催される第8回体力医学会に「スポーツ障害について」の特別講演をされるので、私はその準備として、各スポーツ・マンのスポーツ障害を調査中であるが、水泳の障害の有無についての結果が出たので、ここに平易、且つ簡単に報告したいと思う。

被調査者は幼児より水泳を行い、中等学校入学以後直ちに選手生活に入り、幾多の対抗競技、海外遠征、オリンピック競技等の大試合に出場し、輝かしい成績を挙げ、水泳日本の名を築き上げた人達で、満25才より満49才迄、主として35才以上の往年の一流級男子競泳選手23名であって、検査方法は省略するが次の結果を得た。

1. 水泳による外傷

皆無。但し広い意味の外傷として次のものを入れると、

中耳炎 2名、外耳炎 1名、
大腿筋炎 1名、慢性結膜炎 1名、

当然起り得ると考えられる耳疾患は案外少く、又これによる聴力障害は1名も認められず、大腿筋炎は大学々生時

代過度の練習により1名起っているが、1カ月の安静加療にて治療、その後現在も社会人として水泳に活躍しているが、大腿部過労性疼痛ではないかと思われる。

2. 水泳による身体的諸種機能障害

腰痛を訴える者5名、1名は45才で普通でもありうる年齢であり、1名は24才で、残り3名は疲れた時とか、飲み過ぎた時とか、時々訴える者である。又左肘関節屈伸時雑音をきく者1名ありしも、これは柔道にて肘関節を脱臼せることあり、それ以後現われたといい、水泳によるものは考えられない。

以上により水泳による障害は腰痛位であり、野球の如き肘関節の屈伸不能等はない。

3. 内科的疾患の有無

(数字は1名にて二つ以上の疾患あるものあり重複す)

選手生活中の疾患

虫垂炎 3名、脚気 3名、
肺浸潤(16才頃) 1名、黄だん 1名、
肋膜炎 1名、

水泳中止後の疾患

虫垂炎 2名、肺浸潤(2年後) 1名、
肋膜炎 1名、黄だん 1名、
腸チフス 1名、痔核 1名、
胃潰瘍 1名、

(軍隊生治中)

マラリヤ、アメーバ赤痢、パラ-C 1名、
黄だん 1名、

選手生活中罹患せるも全員水泳続行、肺浸潤を起せる者は現在何等日常生活に差し支えなきも、左肺尖野に病的陰影を認め、現在経過観察中、肋膜炎罹患患者1名は水泳中止後2年にして肺浸潤を起すも、現在水泳しても何等差し支えなし。その他の疾患罹患者は現在影響なし。

以上の結果のみにて障害なしと断定することは早計で、女子選手、飛込選手、水球選手のこともあるが、水泳による障害は、シーズン前後の身体検査さえ行っておれば皆無といってよいと思う。最後に水連のスポーツ医学的関心の高いのを傷けないよう、直接の指導にあたる地方の人々により以上のスポーツ医学に対する知識の向上を要望する。

(日本医大第一医院整形外科勤務)

“10傑表グラフと所感”

川 田 友 之

眼新らしことではないが、グラフにして物を見ると知っていることでも、更に新しく認識や気付かなかった珍しい点が現われて、異った角度からの研究ができて面白い。

水泳連盟に保存してある記録を基礎に、水泳記録研究家の坂本亮四郎氏、水連の活字引島田桃一郎君の援助を得て、資料を整理しそれをグラフにとって見た。戦前の記録のうち、一部戦災で焼失したものがあるので若干不備な点がある。

紙面の都合で此処に発表したのは、オリンピック男子競泳個人種目の五ツに止めた。それでも日本水泳界の発展推移が一目瞭然で、夫々の時代に活躍した選手の氏名年齢が判然として、なつかしい想出を呼び起して呉れる。全種目に涉ってグラフを作ってみたらさぞ面白いことだろうと思う。

グラフの見方に就いては説明を要しないことと思うが、最近流行の数理統計的研究即ち推計学の理論

をそのままこのグラフにも応用するならば、前年迄の各記録の現す点を結ぶ線を、そのカーブに沿って延長すると、次の年、もしくは将来生れて来る記録の大略が推定できる訳である。従ってこの科学的な推計によってコーチや選手達が、次シーズンの10傑記録、全日本、学生選手権、高校選手権等の入賞記録を予知できるならば、その目的を達するために前もって周当な計画と、万全の準備を整えることができて効果的である。

更に大きな資料の集成によってグラフを作るならば、夫々の記録の限界とその到達時期が推測されるので、選手の将来性、及び水泳寿命を考えに入れてその時々状態に相当した練習方法を講ずることができる。記録を現わす点と点を継ぐ線の画くカーブが垂直線に近ければ、急激な上昇か、或いは下降を意味し、水平線に近ければ停頓か、又は限界に達したことを意味する。手近な例としては、オリンピッ

100米自由形

氏名	10傑に入った年令 (ゴジック数字は最高記録時)																	
	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
③ 宮崎康二			15															
⑤ 遊佐正憲				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25				29	
⑦ 新井茂雄					17		19	20	21	22	23	24	25					
⑥ 田口正治						18	19	20	21	22		24						
⑧ 佐々木猛					17	18	19	20	21	22								
④ 高橋成夫						18	19	20	21	22	23							
⑫ 浜口喜博								20	21	22	23	24	25	26	27			
② 片山兼吉				16	17	18	19	20										
① 高石勝男				16	17	18	19	20	21	22	23	24						
⑬ 真木昌										22	23	24	25	26				
⑩ 本田武次								20	21	22	23			26				
⑪ 太田光雄								20	21			24	25	26				
⑨ 小柳清志					17		19			22			25	26				

クの1500米自由形優勝タイムは毎回更新され向上しているに反し、陸上100米競走の優勝タイムはこの処毎回10.4秒を繰返し、回毎に10.4秒で走る者の数が増えている。即ち前者は未だ記録上昇の過程にあり、後者は殆んど限界に到達していることを如実に物語っている。

さて次に掲げた5種目のグラフは、夫々点と点を線で継いでカーブを出しておくべきであるが、読者諸氏の御研究にも御利用を願うためカーブを入れなかったもので、以下線を入れながらお読み願う手数をお許し戴きたい。

この10傑表グラフに5ヶ年以上ランクされた人達の氏名と年齢、及び最高記録時年齢を拾って別表にして見ると、5度もランクされることが如何に難事であるかということに初めて気がつく。その意味で10度も同一種目にランクされた100米自由形の高石、遊佐、400米自由形の牧野、200米平泳の小池葉室の諸先輩の傑出した力量には全く頭が下るし、その偉大さが再認識される。

100米自由形第一線の推移を見ると、高石氏の出現で世界水準に手が届き、昭和7年宮崎、河石、高橋君達のロスアンゼルス、昭和11年遊佐、田口、新

井君達のベルリンの各オリンピックの活躍によって、世界に冠たる地位を築いたが、其後戦争に災いされて、昭和17、18年頃は遂に昭和4年以前の力に退歩した。戦後浜口、真木、鈴木君の出現と活躍により急速に復旧し、特筆すべきは昭和27、28年の充実で、今までにない力を蔵しており、カーブの推定延長は今年辺り57秒を割る者の出現を示している。10傑の記録も59.4秒位が最終と思える。この儘の上昇カーブがもう1年続くとメルボルンへの道は仲々楽しみになる。

宮崎君の昭和5、6、7年、遊佐君の7、8年、田口、新井両君の9、10、11年、浜口君の21、22、23、24年を夫々線にして見ると、奇しくも皆同じようなカーブなので、短距離選手の記録上昇カーブは同一傾向をたどることが判る。そして宮崎、田口両君以外は皆相当水泳寿命が長い。従つて現在の選手達も宮崎、田口型でない限り、遊佐、新井、浜口君達のカーブを参考にできるので、メルボルン迄充分トップフォームの儘でいられる訳である。これに新人が現われて来れば決して淋しくはない。

今迄57秒台で泳いだ日本選手は、遊佐、田口、新井、浜口、鈴木君の6人丈で、そのうちベルリンの

400米自由形

氏名	10傑に入った年令 (ゴジック数字は最高記録時)															
	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23						
① 牧野正藏																
⑬ 古橋広之進																
⑭ 橋爪四郎																
② 横山隆志																
③ 田中一男																
④ 新間六炳																
⑤ 石原田愿																
⑥ 寺田登																
⑦ 田中英作																
⑧ 天野富勝																
⑨ 宮本茂																
⑮ 田中純夫																
⑪ 村山修一																
⑫ 川口義和																
⑩ 津田国男																

年に3人集っているので、今年56秒台、57秒台が何人か出て来れば、空前の充実となり、メルボルンは大変楽しみになる。

戦前400米自由形が最も充実したのは昭和10年であるが、然しこの種目は戦後の方が遙かに強く、昭和27、28年の総力と比較すると判然たるものがある。その原因は何んといっても古橋君の彗星的出现と超人的記録が刺激になって大きな役割を演じている。1人が飛抜けて飛躍し、他がこれを追いかけてその力量差が尠なくなった頃、又誰かが飛出す躍進追従の型が繰返えされて向上した跡がグラフにはよく現われている。今年辺り思わぬ選手が飛出す年に当るが誰だろうか楽しみだ。

横山君の昭和4、5、6、7、8年、牧野君の8、9、10、11、12年、宮本君の13、14、15、16、17年古橋君の21、22、23、24、25、26年等の各カーブは一樣に急上昇した後で、夫々3年間トップフォームに在ることを示している。これは400米自由形の通例と見られるので、山下君の27、28年の記録カーブが未だ上昇中なので、今年はまだもっと伸びるだろうし、トップフォームになってから3年あるとすれば、メルボルンまで心配はないが、只他の選手達が

聊か足踏みの状態なので、伝統的に不運を伴う種目だけに心細い感じがする。是非共新人の出現というか、第二の古橋君を産み出したい。そして4分35秒位のタイムをマークさせたいものだ。今年誰かが飛び出す年に当る廻り合せを楽しみにしよう。

1500米自由形は昭和7、8年の牧野、北村両君の記録が一頭地を抜き、昭和10、11年は他が頑張つてその差をつめレベルが上がった処で、昭和13年天野君が現われ、待望の18分台をマークした。同様に昭和23、24年古橋、橋爪両君の輝かしい飛躍は、吾々水泳人のみならず全国民にも力強い刺激となり、他の選手がこれを目白押しに追いかけてその差を漸くつめた昨年、山下君が素晴らしく伸びて吾々を安心させて呉れた。この種目は往々突如年少の新人が出て来てアットいわされることが多々あったので、グラフをじっと見ていると何んだか今年か来年辺りメルボルンのスターが産れ出て来そうに思われる。

牧野君の昭和4、5、6、7、8、9、10年、橋爪君の22、23、24、25、26、27年等の長年に亘る活躍は全く例外であるように、この種目では北村君の6、7、8、9年、根上君の8、9、10年、天野君の12、13、14年、古橋君の22、23、24、25年の記録カーブ

1500 米 自 由 形

氏 名	10 傑 に 入 っ た 年 令 (ゴジック数字は最高記録時)															
		14	15	16	17	18	19	20	21	22						
① 牧 野 正 藏																
③※ 北 村 久 寿 雄	13	14	15	16												
② 武 村 寅 雄			15	16	17	18	19									
④ 石 原 田 愿				16	17	18	19	20	21							
⑬※ 古 橋 広 之 進						18	19	20	21							
⑭ 橋 爪 四 郎						18	19	20	21	22	23					
⑤ 本 田 惣 一 郎							19	20	21	22		24				
⑥ 寺 田 登				16	17	18	19	20								
⑧※ 天 野 富 勝					17	18	19	20								
⑦ 本 間 俊 夫						18	19	20	21	22						
⑪ 川 口 義 和					17	18						24	25	26	27	28
⑨ 浅 野 俊 雄				16	17	18		20		22						
⑫ 村 山 修 一				16	17		19	20				24				
⑩ 片 山 崇					17	18	19	20	21	22						

(※印は5年未満)

が示すように、寿命は甚だしく短く、皆一様にトップフォームは2年位に限られている。これは牧野、橋爪、コンノ君達の例と比較して著しく差異があるので、体質、泳法、練習法等の研究をして、長距離選手の水泳寿命延長に就いて一考を要するし、且つ急務というべきである。

100米背泳第一線の入江、清川、児島、吉田、西野君等の各記録カーブは、上下動の激しい入江、清川型と、逐年確実に上昇する安定したカーブの河津、児島、西野型の二つに大別され、吉田君のは前記両者の中間型といえる。競泳一般がひどく凋落した昭利14、15、16年になって背泳だけが返って記録的に向上したのは、児島、吉田両君の目覚ましい激突から産み出された賜で、好敵手が相競うことが如何に好結果を齎らすかを如実に物語っている。その他この種目のトップフォームは水泳として最長期に亘っていて、皆6年位は第一線で活躍している。

長谷君は、今年になって既に1分7秒前後を2回もマークしているので、記録の上昇カーブは河津、児島型と同型と見られる。それから推計すると1分5秒を割るのも時期の問題であろう。メルボルンの頃は脂が乗りきった年頃になるので、悲観視されていた背泳も楽しみ種の目になって来た。ただ児島、

吉田君のように競り合う相手が欲しいことは彼のためにも、吾々のためにも切に望まれる。

200米平泳は戦前輝かしい成績を挙げているのだが、グラフにして見ると意外にも数人のかけ離れた優秀選手に代表されており、10傑全体として充実していた訳ではないことが目立つ。戦後は又バタフライ可否三転に災いされて、結果としては他種目程の進展をとげていない。然し平泳は吾国のお家芸なので、バタフライと別れたメルボルンまでには第二の鶴田、小池、葉室君達を完成したい。この種目も選手生命が長いので、現在の第一線選手は勿論メルボルンまで頑張れるし、陸続として出現して来る新人群に大きな期待が持たれる。今の処誰が平泳に残るか判らないが、今年辺り2分40秒を割る選手が何人か出て来れば、全体の記録カーブの上昇はメルボルンの年には2分35秒位が推定できるので、依然有望第一の種目である。

残念至極なのはバタフライであって、昭和25年にはじまり3年後の27年は10傑記録が2分34秒から2分41秒の間に纏っている。この記録カーブの上昇率は全く刮目すべきものであり、もし仮りに中止されることなく続けられていたなら、たった3年の資料ではあるが、資料全体の推計カーブは、今年辺りは

100米背泳

氏名	10傑に入った年令 (ゴジック数字は最高記録時)																
	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
① 入江 稔夫				17	18	19	20	21	22								
② 河津 憲太郎	14	15	16	17	18	19	20	21									
③ 清川 正二				17	18	19	20	21	22	23							
④ 吉田 喜一	14	15	16	17	18	19	20	21	22								
⑤ 児島 泰彦			16	17	18	19	20	21	22	23							
⑦ 坂本 响一					18	19	20	21		23							
⑥ 谷口 利弘				17	18	19	20	21	22								
⑫ 西野 恭正		15	16					21	22	23		25	26	27	28		
⑪ 藤井 敬次郎				17	18					23	24	25	26				
⑩ 黒佐 年明								21	22	23	24	25	26				
⑮ 芦田 拓郎				17	18	19	20	21									
⑬ 山本 速水						19	20	21	22	23							
⑧ 鷺谷 光明						19	20				24				28	29	30
⑨ 河野 道弘				17	18	19	20	21	22								

2分30秒に到達していて、2分38秒位では10傑に洩れることが推測される。立遅れたためヘルシンキでは好成績が得られなかったが、この種目も矢張り吾国の得意の中に入れられる傾向にある。今年再発足といふ乍ら、こん度はドルフィンキックを如何にマスターするかが大きなファクターになるので、今急に予測することは危険であるが、前記の推計からし

て平泳と共に吾国に有利な種目と考えられる。尠くともヘルシンキ以上の成績は予期できよう。

この方式のグラフによると、未だ色々の角度からの研究課題が見出され、私の杜撰な見方と稚拙な表現ですら以上の事項が判然としたので、読者各位の御協力を得れば、貴高な資料が更に多く出て来て、必ず吾国水泳強化のために益することを確信する。

200米 平 泳

氏 名	10 傑に入った年令 (ゴジック数字は最高記録時)																			
															25	26	27	28		
① 鶴 田 義 行																				30
② 小 池 礼 三		14	15	16	17	18	19	20	21	22										
③ 伊 藤 三 郎				16			19	20	21	22										
④ 葉 宮 鉄 夫		14	15	16	17	18	19	20	21	22								28		
⑤ 長 久 俊 三						18	19	20	21	22	23									
⑦ 大 浦 誠 一 郎					17	18	19	20	21	22										
⑥ 野 田 務					17	18	19	20	21											
⑭ 梶 川 孝 義		14	15	16	17	18														
⑫ 杉 山 祐 二					17	18	19	20	21	22										
⑧ 古 川 敏					17	18	19	20												
⑪ 藤 垣 亮 太 郎			15	16	17						22	23	24							
⑬ 宇 田 久 寿 彦						18	19	20	21	22	23									
⑨ 吉 村 喜 代 造					17	18	19	20	21											
⑩ 小 幡 令 二			15		17	18	19				22									

古橋記念トロフィー

水泳史上に画期的な足跡を印した古橋広之進選手を記念して、日本水泳連盟では彫刻界の巨星、朝倉文夫氏に依頼、古橋記念トロフィーを製作中であつたが、この程完成、昭和29年度日本選手権水上競技大会より、400米自由形優勝者に授与されることになった。

日本選手権大会メダル

日本選手権大会入賞者に授与するメダルは、今まで毎年デザインが変っていたが、本年より統一して、毎年同型のものを授与することに決定、原型を朝倉文夫氏に依頼製作した。本誌の表紙がその表で、裏は日本選手権水上競技大会の文字と飛魚が配され見事なものである。

100米自由形 I.

昭和 年度	4	5	6	7	8	9	10
64							
63							
62							
61							
60							
59							
58							
57							
56							
	高石 勝男 22 1:00.2	高石 勝男 23 1:00.4	宮崎 康二 14 59.2	宮崎 康二 15 58.0	遊佐 正憲 18 58.0	遊佐 正憲 19 58.2	遊佐 正憲 20 57.2
	佐田 徳平 20 1:01.4	横山 隆志 16 1:00.4	高橋 成夫 19 1:00.2	河石 達吾 20 58.6	阪上安太郎 21 59.6	阪上安太郎 22 59.3	志村 義久 22 58.6
	宮本 武夫 18 1:02.6	片山 兼吉 17 1:00.8	河石 達吾 19 1:00.6	高橋 成夫 20 59.2	宮崎 康二 16 59.6	高橋 成夫 22 59.8	田口 正治 19 58.8
	片山 兼吉 16 1:02.8	佐田 徳平 21 1:00.4	遊佐 正憲 16 1:00.8	片山 兼吉 19 1:00.0	高橋 成夫 21 59.6	志村 義久 21 1:00.0	新井 茂雄 19 59.0
	野田 一雄 21 1:03.4	宮本 武夫 19 1:01.6	豊田 久吉 19 1:00.8	遊佐 正憲 17 1:00.4	志村 義久 20 1:00.4	杉本 盛 19 1:00.2	平野 亮 17 59.8
	米山 弘 18 1:03.4	高橋 成夫 18 1:20.0	高石 勝男 24 1:00.8	豊田 久吉 20 1:00.4	片山 兼吉 20 1:00.6	横山 隆志 20 1:00.4	阪上安太郎 23 59.8
	鈴木 秀男 1:03.4	野田 一雄 22 1:02.2	野田 一雄 23 1:01.4	宮本 武夫 21 1:01.4	河石 達吾 21 1:00.6	豊田 久吉 22 1:00.5	片岡寅次郎 20 1:00.0
	早川 貞正 17 1:03.6	伊藤 英逸 1:02.6	佐田 徳平 22 1:01.4	新井 茂雄 17 1:01.6	長谷川卯佐美 18 1:00.6	長谷川卯佐美 19 1:00.6	宮崎 康二 18 1:00.2
	村松 正一 23 1:04.2	樋口 栄一 1:02.6	片山 兼吉 18 1:01.6	志村 義久 19 1:01.8	片岡寅次郎 18 1:01.0	田口 正治 18 1:01.0	高橋 成夫 23 1:00.4
	尻玉 博 19 1:04.4	河石 達吾 18 1:03.0	宮本 武夫 20 1:01.6	梅田利兵衛 19 1:02.2	梅田利兵衛 20 1:01.2	井上 茂 19 1:01.0	井上 茂 20 1:00.6
	松浦 武雄 20 1:04.4	宮崎 康二 13 1:03.0					
平均	1:03.7	1:01.70	1:00.84	1:00.36	1:00.12	1:00.15	59.44
記録	19.4	20.1	19.4	18.7	19.3	20.1	20.1
平均							
記録							

100米自由形 2.

13	14	15	16	17	18
新井 茂雄 22 58.0	新井 茂雄 23 57.8	遊佐 正憲 25 58.4	新井 茂雄 25 58.4	本田 武次 22 1:01.4	太田 光雄 21 1:00.6
佐々木 猛 19 58.6	佐々木 猛 20 59.5	新井 茂雄 24 58.8	佐々木 猛 22 1:00.2	伊藤 輝 1:01.6	本田 武次 23 1:01.2
遊佐 正憲 23 1:00.4	遊佐 正憲 24 1:00.4	佐々木 猛 21 59.6	本田 武次 21 1:00.2	太田 光雄 20 1:01.8	平野 亮平 1:01.6
田口 正治 22 1:00.8	杉浦 重雄 21 1:01.0	本田 武次 20 1:00.8	牧野 兵庫 18 1:00.8	小倉弥太郎 19 1:02.0	氏原 靖純 20 1:01.8
杉浦 重雄 20 1:01.0	大崎 定兼 21 1:01.2	牧野 兵庫 17 1:01.2	吉田 喜一 22 1:01.2	林田 睦夫 22 1:02.2	牧野 兵庫 20 1:02.0
宮崎 康二 20 1:01.4	杉田 芳郎 19 1:01.2	田口 正治 14 1:01.2	小倉弥太郎 18 1:01.2	川島 修 1:02.4	白山 勝三 20 1:02.0
小柳 清志 17 1:01.6	鷺谷 光明 21 1:01.2	吉田 喜一 21 1:01.4	林田 睦夫 21 1:01.6	壺田 重三 1:02.4	諸沢 健助 1:02.0
鶴岡 栄 23 1:01.8	牧野 兵庫 16 1:01.4	杉田 芳郎 20 1:01.6	白山 勝三 18 1:01.6	上藤 憲三 19 1:02.4	川島 修 1:02.4
鷺谷 光明 20 1:01.8	高尾 竜実 21 1:01.4	工藤 憲三 18 1:01.6	児島 泰彦 22 1:01.8	妙中 豊次 1:02.4	上藤 憲三 20 1:02.8
杉田 義郎 18 1:01.8	吉田 喜一 20 1:01.7	小柳 清志 19 1:01.8	杉田 芳郎 21 1:02.0	氏原 靖純 19 1:02.6	小柳 清志 22 1:02.8
1:00.72	1:00.69	1:00.64	1:00.92	1:02.12	1:01.92
20.8	20.6	22.9	20.8		

100米自由形 3.

21	22	23	24	25	26	27	28
太田 光雄 ²⁴ 1:01.2 小柳 清志 ²⁵ 1:02.0 宮本 茂 ²⁶ 1:02.2 本田 武次 ²⁶ 1:02.4 遊佐 正憲 ²⁹ 1:02.8 浜川 広海 ¹⁸ 1:03.0 真木 昌 ²² 1:03.0 白山 勝三 ²³ 1:03.2 浜口 喜博 ²⁰ 1:03.2 秋永 修 ²⁴ 1:04.0	真木 昌 ²³ 59.5 太田 光雄 ²⁵ 1:00.2 浜口 喜博 ²¹ 1:00.6 小柳 清志 ²⁶ 1:01.4 古橋広之連 ¹⁸ 1:01.6 浜川 広海 ¹⁹ 1:01.8 丸山 茂幸 ²⁰ 1:02.0 白井 孝 ¹⁷ 1:02.4 上杉 猛 ²⁰ 1:02.8 秋永 修 ²⁵ 1:02.8	浜口 喜博 ²² 58.8 真木 昌 ²⁴ 59.2 古橋広之進 ²⁰ 59.2 丸山 茂幸 ²¹ 1:00.2 上杉 猛 ²¹ 1:00.2 浜川 広海 ²⁰ 1:01.0 太田 光雄 ²⁶ 1:01.2 野間 隆彦 ¹⁹ 1:01.2 鳥居 昌夫 ¹⁹ 1:01.4 氏原 靖純 ²⁵ 1:01.4	浜口 喜博 ²³ 57.8 丸山 茂幸 ²² 59.1 真木 昌 ²⁵ 59.2 仲村 武平 ²⁰ 1:01.0 上杉 猛 ²³ 1:01.2 野間 隆彦 ²⁰ 1:01.2 村山 修一 ²⁶ 1:01.4 小池 哲夫 ²² 1:01.6 樋口 清治 ¹⁷ 1:01.8 山本 新吾 ¹⁸ 1:01.8	浜口 喜博 ²⁴ 58.1 真木 昌 ²⁶ 59.2 丸山 茂幸 ²³ 59.6 西 拡 ²³ 1:00.2 上杉 猛 ²⁴ 1:00.2 仲村 武平 ²¹ 1:00.4 谷川禎次郎 ¹⁷ 1:00.6 青山 幸郎 ¹⁷ 1:01.0 田中 武 ¹⁸ 1:01.0 山本 新吾 ¹⁹ 1:01.2	鈴木 弘 ¹⁷ 58.4 浜口 喜博 ²⁵ 59.0 後藤 暢 ¹⁶ 59.4 西 拡 ²⁴ 59.8 野間 隆彦 ²² 59.8 谷 訥 ¹⁷ 1:00.0 山本 新吾 ²⁰ 1:00.0 谷川禎次郎 ¹⁸ 1:00.2 吉村 健三 ¹⁹ 1:00.4 青山 幸郎 ¹⁸ 1:00.4	鈴木 弘 ¹⁸ 57.4 浜口 喜博 ²⁶ 58.0 後藤 暢 ¹⁷ 58.2 谷川禎次郎 ¹⁹ 58.6 山本 新吾 ²¹ 58.8 谷 訥 ¹⁸ 59.0 古賀 学 ¹⁷ 59.4 野間 隆彦 ²³ 59.4 田中 武 ²⁰ 59.6 西 拡 ²⁵ 1:00.4	鈴木 弘 ¹⁹ 57.8 古賀 学 ¹⁸ 58.0 後藤 暢 ¹⁸ 58.2 谷 訥 ¹⁹ 58.4 谷川禎次郎 ²⁰ 58.4 浜口 喜博 ²⁷ 59.4 田中 武 ²¹ 59.6 田中 純夫 ²³ 59.8 堂崎 治好 ¹⁹ 59.8 細間 輝喜 ¹⁸ 1:00.0
1:02.70	1:01.51	1:00.38	1:00.61	1:00.15	59.74	58.88	58.94
23.7	21.6	22.1	21.6	19.4	19.6	20.4	

100米背泳 1.

昭和 年度	4	5	6	7	8	9	10
17	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●			
16	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●			
15	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●		
14	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●		
13	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●
12	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●
11	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●
10	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●
9							
8							
7							
平均記録 今年	1:16.79	1:14.65	1:14.80	1:13.50	1:13.62	1:12.52	1:11.96
平均 今年			19.4	19.3		19.0	19.6

入江 稔夫 17 1:13.6	入江 稔夫 18 1:12.2	河津憲太郎 16 1:12.0	清川 正二 19 1:08.6	清川 正二 20 1:10.6	河津憲太郎 19 1:10.8	清川 正二 22 1:10.0
大槻 繁 1:15.5	河津憲太郎 15 1:13.3	清川 正二 18 1:12.2	入江 稔夫 20 1:09.8	河津憲太郎 18 1:11.2	清川 正二 21 1:11.3	児島 泰彦 17 1:11.0
松村 元義 1:16.4	片山 兼吉 17 1:14.0	入江 稔夫 19 1:13.2	河津憲太郎 17 1:10.0	入江 稔夫 21 1:12.4	吉田 喜一 15 1:11.6	吉田 喜一 16 1:11.2
片山 兼吉 16 1:16.6	大木 直正 1:14.0	鈴木 政雄 17 1:14.0	鈴木 政雄 18 1:12.2	秋吉十九夫 20 1:13.2	入江 稔夫 22 1:12.0	明 文一 18 1:11.4
三村 良雄 1:16.6	鈴木 政雄 16 1:14.4	大島 正夫 18 1:15.4	勝久 重隆 20 1:14.4	吉田 喜一 14 1:14.0	明 文一 17 1:12.0	秋吉 竜二 19 1:11.8
木村 象雷 21 1:17.4	清川 正二 17 1:14.4	豊田 久吉 19 1:15.8	柿内久寿馬 1:15.2	秋吉 竜二 17 1:14.8	勝久 重隆 22 1:12.6	河津憲太郎 20 1:12.0
河津憲太郎 14 1:17.7	松村 元義 1:15.6	田中 一夫 18 1:16.2	渡部 卓一 1:15.6	柿内久寿馬 1:14.8	児島 泰彦 16 1:12.6	山田 薫 19 1:12.4
清政 武夫 18 1:17.8	大島 正夫 1:15.8	根来 幸成 20 1:16.4	根来 幸成 21 1:16.2	勝久 重隆 21 1:14.8	秋吉十九夫 21 1:13.2	角野 二郎 1:13.2
大本 直正 1:18.0	木村 象雷 22 1:16.4	吉瀬 智雄 1:16.4	秋吉十九夫 19 1:16.4	角野 二郎 1:15.2	角野 二郎 1:14.4	豊田 久吉 23 1:13.2
鈴木 政雄 15 1:18.2	上野 大藏 1:16.4	清政 武夫 20 1:16.4	清政 武夫 21 1:16.6	若山 滝美 1:15.2	山田 薫 18 1:14.7	勝久 重隆 23 1:13.4

100 米 背 泳

11	12	13	14	15	16	17	18
清川 正二 23 1:07.2	児島 泰彦 19 1:09.2	児島 泰彦 20 1:08.6	児島 泰彦 21 1:08.2	吉田 喜一 21 1:08.0	児島 泰彦 23 1:08.2	吉田 喜一 23 1:08.8	赤峯 実 1:11.4
児島 泰彦 18 1:09.0	吉田 喜一 18 1:09.4	吉田 喜一 19 1:10.2	吉田 喜一 20 1:08.2	児島 泰彦 22 1:08.8	吉田 喜一 22 1:08.6	谷口 利弘 23 1:09.4	西野 恭正 18 1:12.6
吉田 喜一 17 1:09.5	坂本 响一 19 1:10.8	坂本 响一 20 1:10.4	谷口 利弘 20 1:09.0	谷口 利弘 21 1:09.8	谷口 利弘 22 1:10.8	鷺谷 光明 24 1:11.8	幸村 甫 1:12.8
明 文一 19 1:11.2	谷口 利弘 18 1:11.6	谷口 利弘 19 1:10.4	河野 通広 19 1:11.0	中野 太郎 19 1:11.4	中野 太郎 20 1:12.2	妙中 要造 20 1:12.2	藤井敬次郎 20 1:13.0
谷口 利弘 17 1:11.8	鷺谷 光明 19 1:12.2	河野 通広 18 1:11.2	坂本 响一 21 1:11.6	平賀 孟 18 1:12.6	西野 恭正 16 1:12.2	藤井敬次郎 19 1:12.2	妙中 要造 21 1:13.2
坂本 响一 18 1:12.0	山本恭之助 17 1:13.0	妙中 要造 16 1:12.8	平賀 孟 19 1:11.8	河野 通広 20 1:13.0	坂本 响一 23 1:12.4	黒佐 年明 17 1:12.2	清水 功 1:13.6
河津憲太郎 21 1:12.4	門屋 桂 19 1:13.4	鷺谷 光明 20 1:12.8	妙中 要造 17 1:12.8	本間 竹志 22 1:13.0	藤井敬次郎 18 1:12.4	河野 通広 22 1:12.4	山本 正尊 21 1:13.8
門屋 桂 18 1:13.0	井口 敏彦 21 1:13.4	松本 進 17 1:13.0	中野 太郎 18 1:13.0	藤井敬次郎 17 1:13.2	河野 通広 21 1:13.0	鳥居 高雄 1:12.4	稲垣 達夫 1:14.0
山田 薫 20 1:13.2	明 文一 20 1:13.6	平賀 孟 18 1:13.2	山本恭之助 19 1:13.4	大野木 弉 17 1:13.2	平賀 孟 19 1:13.3	川口 清 16 1:12.4	佐藤 哲男 1:14.4
谷口 辰三 19 1:13.4	河野 通広 17 1:13.8	服部 義治 1:13.2	松本 進 18 1:14.0	西野 恭正 15 1:13.2	福留 弘明 1:13.3	中野 太郎 21 1:13.2	江河 忠男 1:14.6
1:11.27	1:12.04	1:11.58	1:11.30	1:11.20	1:11.64	1:11.70	1:13.34
19.0	18.7	18.5	19.2	19.2	20.4	20.5	

100 米 背 泳 3.

21	22	23	24	25	26	27	28	
								17
								16
								15
								14
								13
								12
								11
								10
								9
								8
								7
西野 恭正 21 1:10.2	西野 恭正 22 1:09.8	西野 恭正 23 1:09.4	待鳥 啓三 19 1:10.8	山本 速水 21 1:09.6	西野 恭正 26 1:09.4	倉橋 範彦 18 1:09.6	梶浦 昇 19 1:08.4	
鷺谷 光明 28 1:12.8	藤井敬次郎 24 1:11.6	藤井敬次郎 25 1:11.8	山本 速水 20 1:11.0	宮田 春雄 19 1:11.0	倉橋 範彦 17 1:09.8	芦田 拓郎 20 1:09.8	長谷 景治 18 1:09.4	
妙中 要造 24 1:13.0	赤櫻 卓爾 20 1:12.8	鷺谷 光明 30 1:12.0	中島 雅好 17 1:11.8	待鳥 啓三 20 1:11.0	芦田 拓郎 19 1:10.0	上村 稔 20 1:09.8	芦田 拓郎 21 1:10.0	
鳥居章次郎 1:14.0	黒佐 年明 22 1:12.8	待鳥 啓三 18 1:12.4	黒佐 年明 24 1:12.2	黒佐 年明 25 1:11.2	山本 速水 22 1:10.8	西野 恭正 27 1:10.0	倉橋 範彦 19 1:10.0	
黒佐 年明 21 1:14.2	鳥居章次郎 1:13.0	黒佐 年明 23 1:12.4	藤井敬次郎 26 1:12.2	上村 稔 18 1:11.6	黒佐 年明 26 1:11.4	梶浦 昇 18 1:10.0	大久保憲二 20 1:10.4	
川口 清 20 1:15.2	鷺谷 光明 29 1:13.4	山本 速水 19 1:12.4	芦田 拓郎 17 1:13.0	西野 恭正 25 1:11.8	黒佐 清 18 1:11.4	長谷 景治 17 1:10.2	山下 栄隆 16 1:10.4	
藤井敬次郎 23 1:16.2	榎谷 周二 19 1:13.4	赤櫻 卓爾 21 1:12.6	木部 俊之 20 1:13.2	木部 俊之 21 1:12.2	中島 雅好 19 1:11.4	黒佐 清 19 1:11.0	西野 恭正 28 1:11.2	
山本 正尊 24 1:16.2	待鳥 啓三 17 1:13.8	榎谷 周二 20 1:13.4	白井 孝 19 1:13.4	倉橋 範彦 16 1:12.2	木部 俊之 22 1:11.6	大久保憲二 19 1:11.0	宮田 春雄 22 1:11.4	
赤櫻 卓爾 19 1:16.4	野島 宏 24 1:15.0	木部 俊之 19 1:13.8	榎谷 周二 21 1:13.4	芦田 拓郎 18 1:12.2	上村 稔 19 1:12.0	山本 速水 23 1:11.2	黒佐 清 20 1:11.6	
大橋 俊信 1:17.2	木部 俊之 18 1:15.8	杉村 了 19 1:14.2	野島 宏 25 1:13.6	中島 雅好 18 1:12.2	宮田 春雄 20 1:12.0	宮田 春雄 21 1:11.2	中島 雅好 21 1:11.8	
1:14.54	1:13.14	1:12.44	1:12.64	1:11.56	1:10.98	1:10.38	1:10.46	
22.5	21.7	21.7	20.8	20.1	20.8	20.2	20.4	

1500 米 自由 形

昭和 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
22 00											
50											
40											
30											
20											
10											
21 00											
50											
40											
30											
20											
10											
20 00											
50											
40											
30											
20											
10											
19 00											
50											
40											
30											
20											
10											
18 70											
	牧野 正藏 14 20:44.2	牧野 正藏 15 19:35.2	武村 寅雄 17 20:02.0	北村久寿雄 14 19:12.4	北村久寿雄 15 19:08.0	根上 博 22 19:16.6	石原田 愿 20 19:12.0	寺田 登 18 19:13.7	高橋 弘 17 19:17.8	天野 富勝 18 18:58.8	天野 富勝 19 19:21.8
	武村 清 17 20:54.0	横山 隆志 16 20:03.4	牧野 正藏 16 20:09.2	牧野 正藏 17 19:14.1	牧野 正藏 18 19:20.4	牧野 正藏 19 19:28.6	根上 博 23 19:13.2	鶴藤 俊平 17 19:34.5	田中 英作 18 19:50.6	高橋 弘 18 19:49.2	田中 英作 20 19:31.8
	武村 寅雄 15 20:56.8	武村 寅雄 16 20:23.6	横山 隆志 17 20:25.8	石原田 愿 17 19:57.6	本田惣一郎 19 19:39.6	本田惣一郎 20 19:33.4	牧野 正藏 20 19:21.8	石原田 愿 21 19:42.8	寺田 登 19 19:51.6	本間 俊夫 19 20:01.4	本間 俊夫 20 19:34.4
	横山 隆志 15 20:57.0	田中 一夫 17 20:34.4	鈴木 重幸 20 20:33.4	武村 寅雄 18 20:09.8	横山 清一 16 20:21.0	北村久寿雄 16 19:51.0	本田惣一郎 21 19:33.0	永見 達明 21 19:54.9	本田惣一郎 23 19:58.2	越戸 優一 18 20:05.2	片山 崇 18 19:41.8
	田中 一男 16 21:16.2	武村 清 18 20:43.0	知念 繁夫 22 20:33.6	杉本 盛 17 20:16.6	石原田 愿 18 20:28.6	石原田 愿 19 20:16.8	寺田 登 17 19:55.8	本田惣一郎 22 20:09.0	本間 俊夫 18 20:09.0	栗原 徹 18 20:05.4	宇田 守栄 17 19:43.8
	安藤 秀信 21:38.0	鈴木 重幸 19 21:13.4	北村久寿雄 13 20:42.8	赤山 弘 21 20:45.2	永見 達明 18 20:38.0	永見 達明 19 20:20.4	鶴藤 俊平 16 19:56.8	田中 英作 17 20:16.6	天野 富勝 17 20:10.0	寺田 登 20 20:11.4	越戸 優一 19 19:47.6
	高石 勝男 22 21:51.4	安田 来吉 18 21:36.6	阪上安太郎 19 20:44.6	田中 一男 19 20:46.0	田中 一男 20 20:51.6	堀 勝美 17 20:28.6	堀 勝美 18 20:23.4	牧野 正藏 21 20:18.6	河野 章 19 20:29.0	片山 崇 17 20:11.6	村山 修一 16 20:17.8
	西條 亮三 21:57.0	太田 重雄 21:36.8	石原田 愿 16 21:03.2	根来 幸成 21 21:17.4	寺崎 一夫 17 21:05.4	寺田 登 16 20:29.2	石田 賢一 17 20:24.8	寺石 延也 19 20:21.4	牧野 正藏 22 20:34.8	浅野 俊雄 17 20:16.0	高橋 弘 19 20:21.2
	西条 与修 22:15.4	西条 与修 21:37.0	根来 幸成 20 21:06.2	横山 清一 15 21:21.0	石田 賢一 15 21:13.4	寺崎 一夫 18 20:58.6	永見 達明 20 20:26.4	河野 章 18 20:22.0	栗原 徹 17 20:57.2	本田惣一郎 24 20:47.2	岩切 圭 19 20:22.4
	山本 操 17 22:16.4	永見 達明 15 21:42.6	田中 一男 18 21:34.6	松原 治郎 21:28.8	武村 寅雄 19 21:13.4	那須田 清 15 20:58.8	寺崎 一夫 19 20:29.4	岩田 務 15 20:30.0	浅野 俊雄 16 21:07.7	杉浦 重雄 21 20:52.8	浅野 俊雄 18 20:23.6
平均記録	21:28.64	20:54.60	20:41.54	20:26.89	20:23.80	21:14.20	19:53.66	20:02.35	20:16.59	20:07.90	19:54.62
平均年令		16.7	17.8	17.6	17.5	18.1	19.1	18.9	18.8	19.0	18.5

22

1500 米 自由 形

15	16	17	18	21	22	23	24	25	26	27	28
津田 国男 19 19:31.6	竹内 定夫 20 19:43.6	酒井 孝一 18 19:37.2	村山 修 21 19:43.2	古橋広之進 18 19:15.4	古橋広之進 19 18:37.0	古橋広之進 20 18:19.0	東 昇 22 18:47.2	橋爪 四郎 22 19:00.4	橋爪 四郎 23 18:32.6	山下 勝次 18 18:27.4	
田中 英作 21 19:31.6	酒井 孝一 17 19:48.4	竹内 定雄 21 19:39.8	酒井 孝一 19 19:43.0	この種目 行われず	村山 修 - 24 19:27.2	橋爪 四郎 19 18:37.8	橋爪 四郎 20 18:22.6	田中 寧夫 18 18:59.6	田造 勝美 21 19:08.2	青木 行義 18:52.0	足立 達 18:51.4
本間 俊夫 21 19:41.8	栗原 徹 21 19:50.0	天野 富勝 22 19:47.4	川口 義和 18 20:12.6		橋爪 四郎 18 19:51.4	川口 義和 24 19:24.8	田中 純夫 19 19:15.4	古橋広之進 21 19:02.2	川口 義和 27 19:12.4	北村 康雄 19 18:52.2	青木 行義 19:05.8
酒井 孝一 16 19:51.6	松山 正一 19 19:53.8	村山 修一 19 19:50.4	黒次佑一郎 20:15.0		田中 純夫 17 20:33.0	黒田 清隆 19 19:40.8	川口 義和 25 19:16.8	橋爪 四郎 21 19:06.8	石橋 明 17 19:18.2	浅野 満 19 19:04.2	石橋 明 19 19:15.2
竹内 定夫 19 19:56.2	本間 俊夫 22 19:57.5	津田 国男 21 19:54.6	片山 崇 22 20:22.0		坂本 幸盛 19 20:44.0	藤野 健三 19 19:58.2	藤野 健三 20 19:34.4	川口 義和 26 19:14.0	田中 寧夫 19 19:23.2	山下 勝次 19:05.0	北村 康雄 20 19:16.2
村山 修一 17 19:57.2	浅野 茂雄 20 20:00.4	野波 伝 20:05.2	秋永 修 20:47.2		藤野 健三 18 20:53.0	田中 純夫 18 20:10.8	川口 友平 17 19:37.6	川畑 敬 18 19:24.2	久保田 認 19:25.0	石橋 明 18 19:15.8	浅野 満 20 19:17.6
越戸 健一 20 20:02.8	宇田 守栄 18 20:05.0	片山 崇 21 20:16.4	多田 茂穂 20:49.0		柴山 太郎 21:03.2	浜田 芳夫 22 20:31.0	東 昇 21 19:49.6	田中 純夫 20 19:32.8	青木 行義 19:27.8	川口 義和 28 19:17.2	庄司 嘉宏 19:13.0
宇田 守栄 18 20:08.6	片山 崇 20 20:07.3	川口 義和 17 20:22.4	古橋広之進 14 20:50.4		藤村 恭一 21:07.4	中山 順一 20 20:38.8	田中 寧夫 17 19:54.0	北村 康雄 17 19:36.8	大野 司 14 19:34.6	金谷 雅弘 19:18.4	横田 宣明 19:24.0
片山 崇 19 20:17.6	津田 国男 20 20:10.2	河村 善平 19 20:23.0	浅野 俊雄 22 20:57.8		箱部 昭夫 21:24.2	柴山 太郎 20:46.2	本山 昌平 17 20:10.0	藤野 健三 21 19:38.6	北村 康雄 18 19:36.4	久保田 認 19:19.0	金谷 雅弘 19:27.2
天野 富勝 20 20:20.0	稲富 和雄 19 20:41.2	黒沢佑一郎 20:28.0	大崎 瑛 21:11.4		松田 武治 21:37.6	川口 友平 16 20:50.2	庄司 政雄 20:11.2	本山 昌平 18 19:39.6	安岡 信男 20 19:44.0	田中 寧夫 20 19:32.0	新宅 七郎 19:33.2
19:55.92	20:01.87	20:06.44	20:29.66		20:37.64	19:55.56	19:28.06	19:18.18	19:23.02	19:06.82	19:11.50
19.0	19.6	19.74				19.6	19.6	20.2			

400米自由形 1

昭和 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
17												
16												
15												
14												
13												
12												
11												
10												
9												
8												
7												
6												
5												
4												
3												
2												
1												
00												
59												
58												
57												
56												
55												
54												
53												
52												
51												
50												
49												
48												
47												
46												
45												
44												
43												
42												
41												
40												
39												
38												
37												
36												
35												
34												
33												
32												
31												
	佐田 徳平 20 4:58.6	武村 清 18 4:55.0	横山 隆志 17 4:56.4	大横田 勉 19 4:50.9	牧野 正蔵 18 4:46.4	牧野 正蔵 19 4:46.6	根上 博 23 4:45.4	鶴藤 俊平 17 4:45.6	牧野 正蔵 22 4:50.8	新井 茂雄 22 4:47.0	宮本 茂 19 4:47.2	宮本 茂 20 4:47.0
	横山 隆志 15 5:04.4	牧野 正蔵 15 4:56.6	武村 寅雄 17 4:57.0	横山 隆志 18 4:50.6	北村久寿雄 15 4:49.6	根上 博 22 4:47.0	牧野 正蔵 20 4:45.4	牧野 正蔵 21 4:48.1	杉浦 重雄 20 4:51.6	天野 富勝 18 4:47.4	高橋 弘 19 4:48.0	田中 英作 21 4:50.6
	井沢 和夫 5:09.0	横山 隆志 19 4:56.6	牧野 正蔵 16 4:57.4	杉本 盛 17 4:56.1	石原田 愿 18 4:51.6	新聞 六柄 18 4:52.7	石原田 愿 20 4:48.0	寺田 登 18 4:52.4	高橋 弘 17 4:53.0	高橋 弘 18 4:48.0	天野 富勝 19 4:48.0	津田 国男 19 4:51.6
	青山 茂 18 5:09.6	米山 弘 19 5:00.0	北村久寿雄 13 5:03.0	牧野 正蔵 17 4:57.2	横山 隆志 19 4:53.2	北村久寿雄 16 4:54.4	寺田 登 17 4:50.8	根上 博 24 4:53.6	石原田 愿 22 4:53.4	牧野 正蔵 23 4:52.0	田中 英作 20 4:48.4	本間 俊夫 21 4:54.0
	牧野 正蔵 14 5:10.0	武村 寅雄 16 5:02.4	大横田 勉 18 5:03.4	石原田 愿 17 4:58.2	新聞 六柄 17 4:56.8	畑 勝美 17 4:54.8	鶴藤 俊平 16 4:53.4	田中 一男 22 4:57.6	寺田 登 19 4:53.6	寺田 登 20 4:53.8	本間 俊夫 20 4:51.0	藤藤 龍美 18 4:54.2
	武村 清 17 5:11.8	松本 治一 5:10.4	知念 繁夫 22 5:06.6	新聞 六柄 16 4:59.8	大横田 勉 20 4:57.2	石原田 愿 19 4:55.2	本田徳一郎 21 4:54.8	永見 達明 21 4:59.6	田中 英作 18 4:56.0	宮本 茂 18 4:56.0	藤谷 光明 21 4:52.4	宇田 守栄 18 4:55.6
	田中 一男 15 5:12.6	田中 一男 16 5:12.6	新聞 六柄 15 5:06.8	武村 寅雄 18 5:02.2	杉本 盛 18 4:58.6	寺田 登 16 4:56.6	杉浦 重雄 18 4:54.8	石原田 愿 21 4:59.6	鶴藤 俊平 18 4:56.4	田中 英作 19 4:56.6	鶴藤 俊平 20 4:54.4	天野 富勝 18 4:56.8
	武村 寅雄 15 5:13.0	青山 茂 19 5:14.0	安田 来吉 19 5:07.0	米山 弘 21 5:03.8	片岡寅次郎 18 5:00.6	本田徳一郎 20 4:58.6	新聞 六柄 19 4:57.4	岩田 務 15 5:00.0	宮本 茂 17 5:01.0	栗原 徹 18 4:58.0	津田 国男 18 4:55.0	松山 正一 22 4:57.0
	奥野 龍蔵 5:13.0	安田 来吉 18 5:15.0	阪上安太郎 19 5:08.2	北村久寿雄 14 5:05.2	本田徳一郎 19 5:00.6	永見 達明 19 5:00.4	田端 三郎 18 4:57.4	田中 英作 17 5:00.6	本間 俊夫 18 5:04.0	新聞 六柄 22 4:58.0	片山 崇 18 4:55.8	藤谷 光明 17 4:57.8
	宮崎 正二 15 5:13.8	寺田享太郎 18 5:15.6	武村 清 19 5:08.4	武村 清 20 5:08.8	田中 一男 19 5:01.4	横山 隆志 20 5:00.9	田中 一男 21 4:58.6	本田徳一郎 22 5:01.2	天野 富勝 17 5:04.0	越戸 優一 18 4:58.2	宇田 守栄 17 4:55.8	河村 基平 17 4:59.8
平均記録	5:09.58	5:05.82	5:03.12	4:59.23	4:55.6	4:54.72	4:52.72	4:55.72	4:56.34	4:53.50	4:51.6	4:54.44
平均今年	16.2	17.2	17.5	17.0	18.1	18.6	19.3	19.8	18.8	19.6	19.1	19.4

200 米 平 泳 1.

昭和 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
59												
58												
57												
56												
55												
54												
53												
52												
51												
50												
49												
48												
47												
46												
45												
44												
43												
42												
41												
40												
39												
38												
37												
36												
35												
34												
2:30												
	鶴田 義行 25 2:45.0	鶴田 義行 26 2:53.0	小池 礼三 15 2:50.0	小池 礼三 16 2:44.9	小池 礼三 17 2:44.2	小池 礼三 18 2:43.0	小池 礼三 19 2:41.2	葉室 鉄男 18 2:42.5	葉室 鉄男 19 2:40.4	葉室 鉄男 20 2:42.2	葉室 鉄男 21 2:40.4	葉室 鉄男 22 2:43.4
	岡島 武雄 2:57.0	中村 秀吉 19 2:54.0	鶴田 義行 27 2:53.0	鶴田 義行 28 2:45.0	大崎卯藤久 18 2:50.4	葉室 鉄男 16 2:45.4	葉室 鉄男 17 2:42.4	小池 礼三 20 2:43.0	小池 礼三 21 2:44.4	小池 礼三 22 2:43.0	大浦誠一郎 19 2:44.0	大浦誠一郎 20 2:43.8
	勝田 忠祿 2:58.8	塚原 茂樹 16 2:54.2	塚原 茂樹 17 2:56.0	中川 重雄 21 2:52.4	葉室 鉄男 15 2:51.4	中川 重雄 23 2:48.8	伊藤 三郎 20 2:46.2	伊藤 三郎 21 2:45.5	野田 務 19 2:45.2	大浦誠一郎 18 2:46.6	古川 敏 18 2:47.6	吉村喜代造 18 2:47.2
	塚原 茂樹 15 2:59.0	藤本 頼広 2:55.6	山田 弘 26 2:56.4	山田 弘 17 2:55.4	奥藤 修 19 2:52.4	長久 俊三 18 2:51.6	伊藤 務 17 2:48.4	林田 睦男 21 2:46.6	大浦誠一郎 17 2:48.6	林田 睦夫 18 2:49.2	野田 務 21 2:48.2	藤垣亮太郎 16 2:47.8
	中村 秀吉 18 2:59.2	大串 泰造 2:55.8	原 毅 2:56.8	奥藤 修 18 2:55.8	高畑 秋介 16 2:52.4	伊藤 三郎 19 2:52.6	柳沢栄三郎 20 2:50.8	野田 務 18 2:48.2	伊藤 三郎 22 2:48.8	古川 敏 17 2:49.4	長久 俊三 23 2:51.0	鈴木 重一 15 2:50.4
	馬渡 勇喜 3:00.6	有方 利和 2:58.0	中川 重雄 20 2:57.0	岡田 達男 20 2:56.0	田口 正之 16 2:54.6	岡田 達男 22 2:53.6	山口 正保 17 2:51.4	山口 正保 18 2:49.0	長久 俊三 21 2:50.0	長久 俊三 22 2:50.2	藤垣亮太郎 15 2:51.2	堤 賢治 18 2:51.4
	松本 隆重 18 3:01.0	松本 隆重 19 2:59.4	小出 義彦 2:57.6	小出 義彦 2:56.6	岡田 達男 21 2:55.4	山田 弘 19 2:54.1	中川 重雄 24 2:51.6	長久 俊三 20 2:49.8	寺田 武実 17 2:50.8	野田 務 20 2:51.8	田畑 三郎 17 2:51.8	古川 敏 19 2:52.0
	藏尾 敏 3:03.0	馬渡 勇喜 3:00.2	伊藤 三郎 16 2:57.8	高畑 秋介 15 2:58.0	筒井八男治 18 2:55.8	柳沢栄三郎 19 2:54.4	長久 俊三 19 2:52.6	柳沢栄三郎 21 2:49.9	林田 睦夫 17 2:50.8	田畑 三郎 16 2:52.0	山口 正保 21 2:52.2	田畑 三郎 18 2:52.8
	調子 光二 3:03.7	藏尾 敏 3:00.4	安永 弘 2:59.8	葉室 鉄男 14 2:58.0	前田 信三 19 2:56.0	大崎卯藤久 17 2:54.5	山田 弘 20 2:54.2	栗本 巖 19 2:51.2	山口 正保 19 2:51.2	寺田 武実 18 2:52.6	小幡 令二 15 2:54.4	田口 実 21 2:55.0
	小山賢之助 3:03.8	小池 礼三 14 3:00.6	藤本 敏郎 3:00.6	前田 信三 18 2:59.4	中川 重雄 22 2:56.0	奥藤 修 20 2:54.6	錦織 晋 16 2:54.4	田口 実 17 2:51.6	田口 東 18 2:53.4	田口 実 18 2:53.9	吉村喜代造 17 2:54.4	石原 義輝 17 2:55.2
平均記録	2:59.54	2:57.12	2:56.40	2:55.15	2:52.86	2:51.76	2:49.32	2:47.73	2:48.36	2:40.09	2:49.52	2:49.90
平均年齢				18.5	18.1	19.1	18.9	18.8	19.5	19.0	18.7	18.4

200 米 平 泳

×印 バタフライ

16		17		18		21		22		23		24		25		26		27		28	
大浦 誠一郎 21 2:43.8	大浦 誠一郎 22 2:46.6	藤垣 亮太郎 19 2:45.0	藤垣 亮太郎 20 2:48.2	杉山 祐二 19 2:49.0	杉山 祐二 20 2:48.2	宇田 久寿秀 21 2:46.4	五味 茂雄 20 2:46.8	中沢 潔 16 2:49.4	中沢 潔 17 2:50.2	田中 守 20 2:42.8	藤垣 亮太郎 17 2:49.3	鈴木 重一 17 2:48.0	鈴木 重一 18 2:47.6	杉山 祐二 18 2:52.6	藤垣 亮太郎 21 2:50.6	藤垣 亮太郎 22 2:49.6	下坂 篤 18 2:47.6	下坂 篤 19 2:48.0	弘中 誠治 16 2:51.4	岩下 正気 21 2:52.0	堤川 孝義 18 2:44.4
古川 敏 20 2:51.4	藤垣 亮太郎 18 2:48.4	吉村 喜代造 21 2:48.0	佐東 元吉 17 2:57.0	関根 善次郎 17 2:51.8	宇田 久寿秀 20 2:50.2	関根 善次郎 19 2:48.2	梶川 孝義 15 2:48.8	大橋 秀之 19 2:52.0	下坂 篤 21 2:52.8	清池 健蔵 19 2:45.2	鈴木 重一 16 2:51.4	宮沢 正夫 15 2:50.8	宮沢 正夫 16 2:49.0	小池 礼三 30 2:57.6	宇田 久寿秀 19 2:51.8	匠 賢一 18 2:50.8	杉山 祐二 21 2:50.0	毛利 洋一 18 2:49.4	福江 喜一 18 2:53.0	小林 義和 15 3:53.4	古川 勝 17 2:45.6
堤 愛治 19 2:52.8	古川 敏 21 2:51.4	杉山 祐二 15 2:53.6	宇田 久寿秀 18 2:57.6	五味 茂雄 17 2:52.0	竹林 地文雄 24 2:52.0	清水 敏男 17 2:51.0	匠 賢一 20 2:49.8	佐藤 圭司 15 2:54.0	榊井 正人 18 2:53.6	胡麻 鶴 寿 21 2:45.8	小幡 令二 17 2:52.8	小幡 令二 18 2:53.0	堤 愛治 21 2:54.2	武井 廉平 21 2:58.6	安東 昭次郎 20 2:53.8	伊海 連作 18 2:53.6	宮沢 正夫 22 2:51.4	宇田 久寿秀 22 2:50.0	近藤 昇治 16 2:54.0	手塚 政一 18 2:54.2	板井 道生 21 2:46.0
吉村 喜代造 19 2:53.4	吉村 喜代造 20 2:53.4	木村 竜雄 20 2:56.4	伊海 連作 16 2:59.2	鈴木 重一 22 2:55.4	宮沢 正夫 21 2:54.0	五味 茂雄 19 2:51.8	杉山 祐二 22 2:50.2	中村 仁三 21 2:55.2	安達 登利 17 2:54.6	水貝 利重 22 2:46.6	吉崎 久米郎 20 2:54.2	田畑 三郎 20 2:53.4	岩崎 久米郎 22 3:00.0	竹林 地文雄 22 3:00.0	武井 廉平 22 2:55.4	関根 善次郎 18 2:54.0	梶川 孝義 14 2:50.4	関根 善次郎 20 2:50.4	今井 国雄 24 2:55.2	宇田 久寿秀 24 2:55.0	大谷 勝 18 2:46.6
大林 嗣生 21 2:56.0	安東 昭次郎 15 2:53.4	竹林 地文雄 19 2:57.6	小幡 令二 22 3:00.0	伊海 連作 17 2:55.6	五味 茂雄 18 2:54.2	手塚 政一 15 2:53.2	中村 仁三 20 2:51.4	阪東 純之祐 24 2:55.4	伊藤 漸 18 2:55.4	戸上 雅雄 19 2:48.2	木下 重徳 21 2:57.0	三輪 嘉一 21 2:54.2	小幡 令二 19 2:57.8	葉室 鉄男 28 3:00.0	加藤 久男 24 2:56.6	下坂 篤 17 2:54.8	高柳 昌弘 16 2:53.8	寺崎 博之 17 2:53.0	松永 辰一 16 2:55.4	藤井 賢 20 2:55.4	藤家 衛 20 3:48.2
2:52.26	2:51.26	2:52.66	2:57.08	2:53.20	2:52.14	2:50.64	2:49.78	2:53.50	2:53.66	2:45.94	18.8	18.9	18.8	21.4	18.5	20.0	18.2	19.3	17.1	18.9	19.5

200 米 バタフライ

昭和25年	昭和26年	昭和27年
萩原 孝男 19 2:38.4	山本 正雄 19 2:37.0	古川 勝 16 2:34.6
梶川 孝義 15 2:39.0	梶川 孝義 16 2:37.8	長沢 二郎 20 2:36.4
清水 敏夫 18 2:41.8	宇田久寿秀 23 2:40.6	藤家 衛 19 2:36.8
宇田久寿秀 22 2:42.6	平山 綽保 18 2:42.4	梶川 孝義 17 2:37.4
長沢 二郎 18 2:42.8	田中 守 18 2:43.4	田中 守 19 2:37.4
山田 芳美 19 2:44.8	萩原 孝男 20 2:44.0	平山 綽保 19 2:37.4
水貝 利重 19 2:46.0	水貝 利重 20 2:44.6	水貝 利重 21 2:39.0
山本 正雄 18 2:46.8	長沢 二郎 19 2:44.6	萩原 孝男 21 2:40.0
飯田俊太郎 19 2:47.4	毛利 洋一 19 2:44.8	竹内 允 20 2:40.6
下坂 篤 19 2:51.8	清水 敏夫 19 2:45.0	山本 正雄 20 2:41.0
平記 均録 2:44.14	2:42.42	2:38.05
平年 均令 18.6	19.1	18.2

“日本競泳100傑表”

(昭和29年1月1日現在)

島田 桃一郎

私はこの100傑表を昭和13年頃から作っている。毎年、毎年新しい選手と新しい記録とに書き改めてゆくことは、何ともいえない楽しいものである。記録表をズーッと見渡すと、いろいろな思い出が湧き、時が経つのも忘れてしまう。

ラップ・タイムも調べ、選手の生年月日も調べている。生年月日を調べているうちに慾がでて、確実な水泳年令を算出して、何かの結論を出して見たいと思ったのは、2、3年前からのことである。

昔の選手の生年月日を調べることは大変面倒でまだ判らない人が多い。判った選手だけで平均して見たら、一応次のような結果がでた。

100傑の平均年令

種目	男子 平均	女子 平均
100米自由形	20.25 才	16.10 才
200米 〃	19.67	
400米 〃	19.12	16.10
1500米 〃	18.41	
100米背泳	19.23	16.25
200米平泳	18.41	15.96

男子では鶴田(200平)が28才で最高記録を出して(オリンピック2回連続優勝)いるのは例外中の例外で、100自の宮崎(15才ロス・オリンピック優勝)は病気で、北村(15才同じく1500優勝)は学業のため水泳を止めたのと、浜口、真木、西、太田、村山、川口、西野、黒佐(年)等が最盛期を戦争で中断し、機会を逸した以外は、大体19才から20才で最高記録を出していることがわかる。

小学生の頃から本格的な猛練習を経て、中学の初期から既に世界水泳界にその名を喧伝されていた牧野、小池、遊佐、葉室、新井、古橋の諸選手は、数年間24、5才まで世界の第一人者と目されていたが、やはり最高記録はみな19才から20才である。

又戦後の田中(寧)、田中(武)、本山、川畑、杉浦(貞)、上村、宮田等々、高校に入ってから選手でも、最高記録は19才から20才である。即ち10才から競泳を始めても、16才から始めても、最高の力は19才から20才で頂点に達するもので、理由はよくわからないが、水泳的の体力が20才で最も充実し、以後は技がいくら円熟しても、体力的に衰えて

しまつて、記録は進歩しないということがわかったのである。この点他の競技と全然趣きを異にし、水泳競技の特殊性が認められる。

日本の競泳はロサンゼルスとベルリンの両オリンピック大会に優勝し、名実共に世界の覇者であったが、ヘルシンキ大会では一個の金メダルも獲得することができなかつた。100傑表を見ると、戦後相当な進歩をしているのであるが、遺憾ながらアメリカとヨーロッパに追越されてしまった感がある。ヘルシンキで負けた時は、日本水泳連盟が相当に非難され、報道関係でも負けた理由がいろいろ論議されたのであるが、私はその最大の原因は、戦後、文部省通牒による小学生の競泳禁止と中学生の競泳制限、即ち全国中学校水泳大会開催の禁止にあると思う。

何才から競泳の練習を始めても、19才—20才が体力的にも記録的にも最高である以上、昔のように少年時代から大競技会に出場させ、刺戟と経験とを与え、17、8才までに泳ぎを完成させなければ到底世界に伍して水泳日本の力を誇示して行くことはできない。現在のように高校生になってから、いくら頑張っても、基礎ができないし、技がまだまだ熟さないうちに水泳体力が衰えてしまつて、このままでは、今後余程の天才が現われない限り、世界の覇者となることは至難といわなければならない。

オリンピックでの優勝が国民の多数の要望であるならば、先決問題は全国中学校水泳大会の開催にあるので、その禁止理由もいろいろあるろうが、開催期日も夏期休暇中の問題であるし、水連は健康管理にも充分気を付けているので、開催を許可してほしいと心から切望し、申入れもしているのである。

世界各国でも水泳は、特に少年に力を入れており、今回ハワイに遠征した牧野監督の土産話によると、ハワイでも素質のある少年達を、組織的に訓練をしているということで、誠に美しい限り。世界的選手の続出も又むべなるかなと思われるのである。

次に女子は16才が最高になっているが、これはオリンピック代表となることを目標に練習をした選手は、20才位まで強くなっているもので、早く泳ぎを止めてしまうのがこの結果となったものと思うし、強くないのもこの原因だと思ふ。

◎ 記録はいずれも日本水泳連盟公認の長水路プールにおいて作られたもののみを収録した。

男子の部

100米自由形

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名	順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名
1	遊佐 正憲	日	大 20	57.2	神 宮	10	全国学生	28	片岡寅次郎	稲 泳 会	20 22	1:00.0	神 宮	10 12	日本選手権
2	鈴木 弘	日	本 18	57.4	ヘルシ ンキ 神 宮	27	オリンピッ ク 日本学生 (4回)		細間 輝喜	東 京 都	17	1:00.0	高 知	28	国体高校 (2回)
3	田口 正治	日	本 20	57.5	ベルリ ン	11	オリンピッ ク		片山 兼吉	明 大	19	1:00.0	神 宮	7	全国学生
4	新井 茂雄	日	20	57.7	・	・	・		松岡 信義	慶 大	21	1:00.0	甲子園	28	兵庫選手権
5	浜口 喜博	日	23	57.8	ホノル ル (100m)	24	ハワイ招待	32	上杉 猛	・	22 24	1:00.2	芸陽高 神 宮	23 25	広島選手権 日本学生
6	宮崎 康二	日	15	58.0	ロサン ゼルス	7	オリンピッ ク		本田 武次	立 大	21	1:00.2	神 宮	16	東京選手権 (2回)
	古賀 学	福 岡 県	18	58.0	高 知	28	国体高校		杉本 盛	日 大	19	1:00.2	・	9	全国学生
8	後藤 暢	浮 羽 高 大	17 19	58.2	神 宮	27 28	日本選手権 日本学生		太田 光雄	立 大	25	1:00.2	・	22	日本選手権
9	谷 諒	早 大	19	58.4	・	・	・		浜島 明	中 大	19	1:00.2	・	28	関東学生
	谷川禎治郎	日 大	20	58.4	・	・	・	37	横山 隆志	高 知 高 大	16 20	1:00.4	・	5 9	東西中等 全国学生
11	河石 達吾	日 本	20	58.6	ロサン ゼルス	7	オリンピッ ク		吉村 健三	明 大	19	1:00.4	・	26	日本学生 (2回)
	志村 義久	早 大	22	58.6	神 宮	10	全国学生		吉岡 清吉	慶 大	20	1:00.4	・	27	・ (2回)
	佐々木 猛	日 大	19	58.6	振 甫	13	日大対東海		豊田 久吉	日 大	20	1:00.4	・	7	全国学生
14	山本 新吾	関 大	21	58.8	大 阪	27	関西選手権		仲村 武平	立 大	21	1:00.4	・	25	日本学生
15	丸山 茂幸	東 大	22	59.1	ロサン ゼルス	24	全米選手権		青山 幸郎	三 水 会	18	1:00.4	中 大	26	東京選手権
	真木 昌	日 大	24 25 26	59.2	神 宮	23 24 25	日本学生 (4回)		井原 孜	聖 ポール	18	1:00.4	神 宮	27	日本選手権
	高橋 成夫	日 本	20	59.2	ロサン ゼルス	7	オリンピッ ク		寺田 大策	同 志 大	21	1:00.4	大 阪	28	大阪選手権
	杉浦 重雄	日 本	19	59.2	ブタベ スト	11	ブタベス ト招待		竹内 允	白 水 会	21	1:00.4	神 宮	・	日本選手権
	古橋広之進	日 大	20	59.2	芸陽高	23	日大招待		金谷 雅弘	和 歌 山 県	17	1:00.4	高 知	・	国体高校
20	高石 勝男	早 大	18 20	59.4	芝 大	14 2	全国学生	47	長谷川卯佐美	修 道 中 高 松 高 商	18 19 21	1:00.6	大 阪 神 宮	8 9 11	西部中等 歓迎会 オリンピック 予(3回)
	野間 隆彦	東 大	23	59.4	神 宮	27	日本選手権		井上 茂	国 大	20 21	1:00.6	神 宮	10 11	日米予選 関東学生 (3回)
22	田中 武	立 大	20 21	59.6	・	・	・		五十嵐伊市郎	早 大	23	1:00.6	・	11	日本学生
	阪上安太郎	早 大	21	59.6	・	・	・		本山 昌平	桜 泳 会	20	1:00.6	・	27	全国予選会
24	平野 亮	日 大 三 中	17	59.8	・	・	・	51	牧野 兵庫	日 大	18	1:00.8	・	16	東京選手権
	西 拡	駿 台 大	24	59.8	大 阪	26	日本選手権		坂本 幸盛	八 幡 製 鉄	24	1:00.8	山 口	27	西部実業団
	田中 純夫	早 大	23	59.8	神 宮	28	日本学生		二宮 節夫	同 志 大	21	1:00.8	大 阪	・	関西学生
	堂崎 治好	明 大	19	59.8	・	・	・		清光 雄二	早 大	20	1:00.8	神 宮	28	日本学生
								55	浜川 広海	神 経 大	20 23	1:01.0	東 伏 見 大 阪	23 26	日本選手権
									鶴岡 栄	立 大	21	1:01.0	神 宮	11	三大学対抗
									茶畑 大	日 大	22	1:01.0	・	27	日本学生
								58	林田 義人	同 志 大	21	1:01.1	宝 塚	11	関西学生
								59	大崎 定兼	立 大	21	1:01.2	神 宮	14	日本学生 (2回)
									梅田利兵衛	文 理 大	20	1:01.2	・	8	日本選手権
									樋口 栄一	京 都 大	22	1:01.2	・	10	神宮青年

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名
	鷺谷 光明	日大専	21	1:01.2	神宮	14	全国高専
	杉田 芳郎	早大	19	1:01.2	〃	〃	日本選手権
	吉田 喜一	〃	22	1:01.2	〃	16	早慶対抗
	安藤 実	〃	20	1:01.2	〃	25	日本学生
	佐坂 宏夫	日大	19	1:01.2	〃	26	〃
	清水 健	高崎高	17	1:01.2	天理	27	東西高校
	粕谷 保	中大	18	1:01.2	神宮	28	関東学生(2回)
	木村 正	立大	19	1:01.2	〃	〃	日本学生
	南 佳恵	中大	20	1:01.2	〃	〃	〃
71	佐田 徳平	明大		1:01.4	玉川神宮	4 5 6	明大同志社 全国学生 日米予選
	氏原 靖純	高知		1:01.4	大谷高知	23 25	団体実業 高知選手権
	野田 一雄	慶大	22	1:01.4	神宮	6	早慶対抗
	宮本 武夫	早大	21	1:01.4	〃	7	オリンピック ク予選
	小倉弥太郎	〃	18	1:01.4	〃	16	東京学生
	小柳 清志	稲泳会	26	1:01.4	〃	22	日本学生
	鳥居 昌夫	北大		1:01.4	〃	23	日本選手権
	村山 修一	早大	25	1:01.4	甲子園	24	早慶対抗
	樋口 清治	関学大	18	1:01.4	神宮	25	日本学生
	杉原 満弘	早大	19	1:01.4	大阪	26	日本選手権
	浪花 欣吾	〃	22	1:01.4	神宮	27	日本学生
	岡田 義明	法大	18	1:01.4	〃	〃	〃
83	林田 陸夫	日大	21	1:01.6	〃	16	東京学生(2回)
	小池 哲夫	慶大	22	1:01.6	〃	24	日本学生(2回)
	木下 善一	ナタシオン		1:01.6	築港	10	大阪予選
	山下 欣一	浜一中	17	1:01.6	神宮	11	東部中等
	高尾 竜実	慶大	21	1:01.6	〃	14	日本学生
	上藤 憲三	三次中	18	1:01.6	〃	15	神宮中等
	白山 勝三	立大	18	1:01.6	〃	16	東京学生
	伊藤 輝	中京商	19	1:01.6	浜一中	17	東海中等
	平野 亮平	日大	20	1:01.6	神宮	18	神宮一般
	塚本利三郎	新潟県	17	1:01.6	高知	28	団体高校
	沢村 正一	京都府	18	1:01.6	〃	〃	〃
94	竹村 公良	早大	21	1:01.8	神宮	10	関東予選
	富樫 誠助	法大	20	1:01.8	〃	〃	日本選手権
	串田 正夫	関学大	20	1:01.8	宝塚	11	関西学生
	藤田 貞男	法大	20	1:01.8	神宮	〃	日本学生
	児島 泰彦	慶大	22	1:01.8	〃	16	早慶対抗
	木本 彰	桜泳会	23	1:01.8	〃	25	日本選手権
	岩合 伝	京都大丸	26	1:01.8	野沢	26	全国勤労者
	中崎 善夫	勝村建設	25	1:01.8	呉市	27	全国勤労者
	秋永 修	横浜ゴム	30	1:01.8	〃	〃	〃
	庄司 嘉宏	安房一高	17	1:01.8	天理	〃	東西優勝高

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名
	宝木 昭	関学大	21	1:01.8	大阪	28	関西学生
	武藤 薫	愛知県	22	1:01.8	高知	〃	団体実業
	田口 利寛	郡山高	17	1:01.8	郡山	〃	奈良選手権

200米自由形							
1	鈴木 弘	日大	18	2:06.8	神宮	27	日本学生
2	古橋広之進	大同毛織	22	2:07.6	大阪	26	日本選手権
3	後藤 暢	浮羽高	17	2:08.0	神宮	27	〃
4	谷 訪	早大	19	2:09.2	〃	28	日本学生
5	新井 茂雄	立大	22 23	2:09.6	〃	13 14	関東選手権 日本
6	谷川禎治郎	桜泳会	19	2:09.8	〃	27	日本選手権
7	浜口 喜博	日本鋼管	23 23 26	2:11.0	ロサンゼルス 神宮	24 25 27	全米選手権 三大学対抗 日本選手権
8	遊佐 正憲	日本	20	2:11.2	神宮	10	日米対抗
	細間 輝喜	聖ポール	17	2:11.2	〃	28	日本選手権
	山下 勝次	早大	18	2:11.2	〃	〃	日本学生
11	西 拡	駿台ク	25	2:11.4	〃	27	日本選手権
12	杉原 満弘	早大	21	2:11.8	〃	28	日本学生
13	田中 純夫	稲泳会 早大	21 22	2:12.0	大阪 大神宮	26 27	日本選手権 日本学生
	東 昇	日本	22	2:12.0	振甫	25	国際名古屋
	堂崎 治好	明大	19	2:12.0	神宮	28	日本学生
16	吉村 健三	駿台ク	21	2:12.2	大阪	〃	国際
17	村山 修一	稲泳会	26	2:12.4	神宮	24	日本選手権
	田中 寧夫	早大	21	2:12.4	〃	28	日本学生
19	丸山 茂幸	桜泳会	23	2:12.6	〃	25	日本選手権
20	本山 昌平	日大	20	2:13.2	〃	27	日本学生
	浅野 満	稲泳会	20	2:13.2	浜松	28	浜名予選
22	山本 新吾	関大	21	2:13.4	神宮	27	日本選手権
	吉岡 清吉	慶大	20	2:13.4	〃	〃	日本学生
24	宮本 茂	稲泳会	19	2:13.6	〃	14	日本選手権
25	杉浦 重雄	〃	20	2:13.8	〃	12	〃
	津田 国男	日大	22	2:13.8	〃	18	日本学生
27	田口 正治	立大	19	2:14.0	〃	10	全国学生(2回)
	松岡 信義	慶高	18	2:14.0	呉市	25	日本高校
	古賀 学	伝習館高	17	2:14.0	天理	27	東西高校
30	青山 幸郎	慶大	19	2:14.2	神宮	〃	日本学生
	高橋 勝	〃	20	2:14.2	〃	28	早慶対抗
32	鷺谷 光明	日大	21	2:14.4	〃	14	全国高専
	岩合 伝	立大	21	2:14.4	日大	21	日本学生
34	大横田 勉	明大	19	2:14.6	神宮	7	オリンピック ク予選
	牧野 正藏	早大	18	2:14.6	〃	8	日本選手権
	真木 昌	日大	24	2:14.6	〃	23	〃

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名	順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名	
37	根上 博	立大	23	2:14.8	立教	10	立同対抗	76	坂上安太郎	早大	21	2:17.4	神宮	8	日本選手権	
38	石原田 愿	明大	20	2:15.0	神宮	11	日米予選		杉田 芳郎	17	2:17.4	甲子園	13	早関対抗		
	太田 光雄	立大	19	2:15.0	16	東京学生		白山 勝三	立大	18	2:17.4	神宮	16	東京学生		
40	横山 隆志	早大	18	2:15.2	7	全国学生		浜島 明	白水会	19	2:17.4	28	日本選手権			
	香川 義英	中野高	17	2:15.2	呉市	26	国体3部		粕谷 保	中大	18	2:17.4	日本学生			
42	寺田 登	日本	18	2:15.3	ロンドン	11	グアンウアレ-招待	81	宮崎 康二	浜一中	15	2:17.6	7	オリンピック予選		
43	新聞 六炳	早大	19	2:15.4	神宮	9	全国学生		田端 三郎	慶大	18	1:17.6	10	日米予選会		
	杉本 盛	日大	18	2:15.4	神宮	8	日本選手権		牧野 兵庫	日大	17	2:17.6	15	日本学生		
	佐々木 猛	19	2:15.4	13	三大学対抗				堀内 良治	20	2:17.6	28				
	安岡 信雄	桜泳会	21	2:15.4	27	日本選手権		85	田中 一男	早大	21	2:17.8	9	全国学生		
	森 文太郎	三水会	19	2:15.4	28				鶴藤 俊平	立大	20	2:17.8	14	三大学対抗		
48	高橋 弘	慶大	18	2:15.6	13	早慶対抗			田中 武	18	2:17.8	25	日本学生			
	南 佳恵	中大	20	2:15.6	28	日本学生			広重 俊一	桜泳会	18	2:17.8	大	26	日本選手権	
50	井原 孜	聖ポール	18	2:15.8	27	全国予選会 日本選手権			久保田 認	白杵高	17	2:17.8	天理	27	東西高校	
	平野 亮	日本	17	2:15.8	10	日米対抗		90	佐田 徳平	明大	2:18.0	ハワイ 100m	5	ハワイ国際		
	仲村 武平	立大	20	2:15.8	24	日本学生			北村久寿雄	高知商	15	2:18.0	築港	8	東西中等	
	橋爪 四郎	日大	21	2:15.8	25	三大学対抗			島本 信美	慶大	21	2:18.0	神宮	14	早慶対抗	
54	樋口 清治	関学大	18	1:16.0	日本学生 (2回)				小倉弥太郎	早大	18	2:18.0	16	東京学生		
	片岡寅次郎	早大	20	2:16.0	10	全国学生			横田 宣明	伝習館高	17	2:18.0	26	東西優勝高		
56	天野 富勝	日大	23	2:16.2	18	関東選手権			川口 義和	民生ジー ゼル	28	2:18.0	呉市	27	全国勤労者	
	寺田 大策	同志大	21	2:16.2	天理	28	関西選手権		田造 勝美	早大	22	2:18.0	神宮	日本学生		
58	藤田 貞男	法大	20	2:16.6	神宮	11	関東学生		和田 豊司	聖ポール	19	2:18.0	28	日本選手権		
	柳本 隆	早大	21	2:16.6	24	日本学生			森口 昇	中大	20	2:18.0	中大	日本学生 中大対立命		
	鷹野 強	磐田農	17	2:16.6	25	日本選手権		99	市野 重治	立大	19	2:18.4	神宮	10	関東選手権	
	坂本 幸盛	八幡製鉄	23	2:16.6	大	26	日本選手権		宮木 利彦	合湾	22	2:18.4	マニラ	14	台北対抗	
	東野 賢二	高知商高	18	2:16.6	振甫	28	日本高校		徳重 里司	日大	20	2:18.4	神宮	25	日本選手権	
63	高石 勝男	日本	19	2:16.8	玉川大	15	日米対抗		二宮 節夫	同志大	21	2:18.4	大	27	関西学生	
	後藤 竜美	明大	18	2:16.8	神宮	15	日本学生		400米自由形							
	佐坂 宏夫	日大	19	2:16.8	大	26	日本選手権		1	古橋広之進	日大	19	4:33.0	甲子園	23	日本学生
	木村 正	聖ポール	19	2:16.8	神宮	28			2	山下 勝次	早大	18	4:38.2	神宮	28	
67	武村 清明	大	20	2:17.0	7	オリンピック 予選			3	橋爪 四郎	A.I.U	23	4:40.2	27	日本選手権	
	五十嵐伊市郎	早大	23	2:17.0	11	日本学生			4	田中 寧夫	稲泳会	19	4:40.4	大	26	
	藤野 健三	21	2:17.0	25					5	浅野 満	早大	20	4:41.8	神宮	28	日本学生
70	志村 義久	20	2:17.2	8	日本学生 (3回)				6	細間 輝喜	聖ポール	17	4:43.0	東京都高		
	庄司 嘉宏	安房一高	16	2:17.2	館山	26	千葉高校		7	田中 純夫	稲泳会	22	4:43.2	27	日本選手権	
	河村 甚平	三水会	17	2:17.2	神宮	17	日本選手権		8	東 昇	日本	22	4:43.4	25	日米対抗	
	安藤 実	稲泳会	20	2:17.2	大	26			9	杉原 満弘	早大	20	4:45.0	27	日本学生	
	青木 行義	鹿本高	16	2:17.2	神宮	日本高校			10	根上 博	立大	23	4:45.2	10	日米対抗 全国学生	
75	野田 芳郎	高知県	17	2:17.3	高知	28	国体高校		11	牧野 正藏	早大	20	4:45.4	全国学生		
									安岡 信男	桜泳会	20	4:45.4	大	26	日本選手権	

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名	順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名
13	鷗藤 俊平	日本	17	4:45.5	ベルリン	11	オリンピック	55	石丸 宗介	明大	18	4:53.2	大阪	26	日本選手権
14	吉村 健三	明大	21	4:46.2	神宮	28	日本学生		鷹野 強	〃	19	4:53.2	神宮	27	三大学対抗
15	高橋 勝三	水会	19	4:46.4	〃	27	日本選手権	57	和田 豊司	立大	19	4:53.4	〃	〃	日本学生
16	宮本 茂	早大	21	4:46.6	〃	16	東京学生	58	大野 司	伊都高	17	4:53.8	〃	〃	日本選手権
	村山 修一	東大	26	4:46.6	ロサンゼルス	24	全米選手権	59	竹内 定夫	明大	20	4:54.0	〃	16	東京学生
18	石橋 明	日大	18	4:46.8	神宮	27	日本学生		庄司 政雄	安房一高	17	4:54.0	大阪	26	日本選手権
	足立 達	駿台	18	4:46.8	〃	28	日本選手権	61	後藤 竜美	明大	18	4:54.2	神宮	15	日本学生
20	新井 茂雄	立大	22	4:47.0	甲子園	13	〃	62	太田 光雄	立大	19	4:54.4	〃	16	東京学生
	北村 康雄	早大	19	4:47.0	神宮	27	日本学生		坂本 幸盛	八幡製鉄	21	4:54.4	〃	24	日本選手権
	庄司 嘉宏	明大	18	4:47.0	〃	28	〃		浜田 芳夫	同志大	24	4:54.4	〃	〃	日本学生
23	天野 富勝	日大	18	4:47.4	甲子園	13	日本選手権	65	青山 幸郎	慶大	19	4:54.6	〃	27	関東学生
24	田造 勝美	早大	21	4:47.8	大阪	26	〃	66	川口 友平	伊東高	18	4:54.8	神宮	25	日本選手権
25	高橋 弘	慶大	18	4:48.0	神宮	13	全国学生		堀 勝美	岐阜高	17	4:54.8	神宮	9	東西中等
	石原田 愿	明大	20	4:48.0	〃	10	日米予選		本田惣一郎	立大	21	4:54.8	〃	10	全国学生
	横田 宣明	稲泳会	19	4:48.0	大阪	28	国際	69	黒田 清略	〃	19	4:55.4	〃	23	日本選手権
	金谷 雅弘	田辺高	17	4:48.0	〃	〃	近畿高校		吉岡 清吉	三水会	18	4:55.4	大阪	26	〃
29	田中 英作	稲泳会	20	4:48.4	神宮	14	日本選手権	71	宇田 守栄	早大	18	4:55.6	神宮	15	〃
	青木 行義	桜泳会	18	4:48.4	〃	28	〃		酒井 孝一	立大	19	4:55.6	〃	18	三大学対抗
31	川畑 弥	日大	19	4:48.8	振甫	26	日大対東海		神川 裕康	瀬戸田高	17	4:55.6	振甫	25	東西高校(2回)
32	北村久寿雄	高知商	15	4:49.6	神宮	8	日本選手権	74	片山 崇	三水会	18	4:55.8	神宮	14	日本選手権(2回)
33	津田 国男	日大	22	4:49.8	〃	18	三大学対抗		永井 武治	桜泳会	21	4:55.8	〃	28	〃
	岩合 伝	立大	21	4:49.8	日大	21	日本学生	76	杉本 盛	日本	17	4:56.1	ロサンゼルス	7	オリンピック
35	野田 芳郎	高知商	16	4:50.0	天理	27	東西優勝高	77	山本 新吾	関大	21	4:56.6	大阪	27	関西三大学
36	後藤 暢	浮羽高	17	4:50.2	大阪	26	日本選手権		新宅 七郎	五条高	16	4:56.6	〃	28	近畿高校
37	大横田 勉	明大	19	4:50.4	神宮	7	オリンピック予選	79	広重 俊一	桜泳会	18	4:56.8	〃	26	日本選手権
	本山 昌平	桜泳会	18	4:50.4	〃	25	日本選手権	80	武村 寅雄	明大	17	4:57.0	神宮	6	〃
	杉浦 貞夫	慶大	19	4:50.4	〃	25	日本学生		浅野 俊雄	桜泳会	20	4:57.0	神宮	16	東京選手権(2回)
40	横山 隆志	稲泳会	18	4:50.6	〃	7	オリンピック予選		中山 順一	〃	21	4:57.0	〃	23	日本選手権(2回)
41	寺田 登	慶大	17	4:50.8	〃	10	全国学生		栗原 徹	日大	19	4:57.0	甲子園	14	四大学対抗
	香川 義英	中野高	17	4:50.8	呉市	26	国体3部		西 拔	駿台	23	4:57.0	神宮	25	日本選手権
43	本間 俊夫	立大	20	4:51.0	神宮	14	日本学生		平井 研吾	法大	18	4:57.0	〃	27	関東学生
	藤野 健三	早大	20	4:51.0	〃	24	〃	86	小島 幸晴	和商高	19	4:57.2	高知	〃	西部高校
	川口 義和	駿台	26	4:51.0	〃	25	日本選手権	87	田端 三郎	慶大	18	4:57.4	神宮	10	日米予選
46	松岡 信義	三水会	19	4:51.4	大阪	26	〃		茶畑 大	日大	19	4:57.4	〃	24	日本選手権
	杉浦 重雄	稲泳会	20	4:51.4	神宮	12	〃		上本 正義	広島県	16	4:57.4	高知	28	国体高校
48	久保田 認	白杵高	16	4:51.6	大阪	26	〃	90	田中 一男	早大	22	4:57.6	神宮	11	オリンピック予選
49	松山 正一	明大	19	4:51.8	神宮	16	東京学生		田所善五郎	中大	18	4:57.8	〃	28	日本学生
50	林 法生	〃	19	4:52.0	振甫	25	国体3部		池尻 月男	熊本県	16	4:57.8	高知	〃	国体高校
51	森 文太郎	三水会	19	4:52.4	神宮	28	日本選手権(2回)	93	越戸 優一	日大	18	4:58.2	神宮	13	日本学生
	鷺谷 光明	桜泳会	21	4:52.4	〃	14	日本選手権		粕谷 保	安房一高	15	4:58.2	館山	25	国体千葉
53	新聞 六炳	日本	18	4:52.7	マニラ	9	極東オリンピック	95	河村 甚平	慶大	19	4:58.4	神宮	17	日本選手権
54	森口 昇	中大	19	4:53.0	神宮	27	関東学生								

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名
95	徳重 里司	桜泳会	20	4:58.4	〃	25	〃
97	永見 達明	稲泳会	21	4:58.6	〃	11	オリンピック予選(2回)
	鈴木 弘	日大三高	17	4:58.6	東伏見	26	東京憲法
	中西 理雄	三水会	19	4:58.6	大阪	〃	日本選手権
	永見 演広	関学	21	4:58.6	〃	28	関西学生

1500米自由形

1	古橋広之進	東	20	18:19.0	ロサンゼルス	24	全米選手権
2	山下 勝次	稲泳会	18	18:27.4	神宮	28	日本選手権
3	橋爪 四郎	東	20	18:32.6	ロサンゼルス	24	全米選手権
		A. I. U.	23		神宮	27	日本選手権
4	東 昇	日本	22	18:47.2	神宮	25	日米対抗
5	足立 達	駿台	18	18:51.4	〃	28	日本選手権
6	青木 行義	鹿本高	17	18:52.0	〃	27	〃
7	北村 康雄	稲泳会	19	18:52.2	〃	〃	〃
8	天野 富勝	日大	18	18:58.8	〃	13	関東選手権
9	田中 寧夫	日本	18	18:59.6	〃	25	日米対抗
10	浅野 満	稲泳会	19	19:04.2	〃	27	日本選手権
11	北村久寿雄	高知商	15	19:08.0	〃	8	〃
12	田造 勝美	稲泳会	21	19:08.2	大阪	26	〃
13	石原田 愿	日本	20	19:12.0	神宮	10	日米対抗
14	川口 義和	駿台	27	19:12.4	大阪	26	日本選手権
15	根上 博	立大	23	19:13.2	神宮	10	日米予選会
16	寺田 登	日本	18	19:13.7	ベルリン	11	オリンピック
17	牧野 正藏	〃	17	19:14.1	ロサンゼルス	7	〃
18	石橋 明	稲泳会	19	19:15.2	神宮	28	日本選手権
19	田中 純夫	稲泳会	19	19:15.4	〃	24	〃
20	庄司 嘉宏	駿台	18	19:18.0	〃	28	〃
21	金谷 雅弘	田辺高	16	19:18.4	大阪	27	近畿高校
22	久保田 認	白杵高	17	19:19.0	神宮	〃	日本選手権
23	横田 宣明	稲泳会	19	19:24.0	〃	28	〃
24	川畑 弥	桜泳会	18	19:24.2	〃	25	〃
25	村山 修一	稲泳会	24	19:27.2	〃	22	〃
26	津田 国男	日大	19	19:31.6	〃	15	〃
	田中 英作	稲泳会	21	19:31.6	〃	〃	〃
28	新宅 七郎	五条高	15	19:32.2	大阪	28	近畿高校
29	本田惣一郎	立大	21	19:33.0	神宮	10	日本選手権
30	本間 俊夫	〃	20	19:34.4	〃	14	〃
	藤野 健三	稲泳会	20	19:34.4	〃	24	〃
32	鶴藤 俊平	日本	17	19:34.5	ベルリン	11	オリンピック
33	大野 司	伊都高	16	19:34.6	天神	26	西部高校
			17		理宮	27	日本選手権
34	野田 芳郎	高知商	16	19:37.0	高知	27	西部高校
35	酒井 孝一	立大	18	19:37.2	神宮	17	日本選手権
36	川口 友平	伊東高	17	19:37.6	〃	24	〃
37	高橋 弘	三水会	17	19:37.8	〃	12	〃
38	本山 昌平	桜泳会	18	19:39.6	東伏見	25	〃
39	竹内 定夫	明大	21	19:39.8	神宮	17	〃
40	安岡 信男	桜泳会	22	19:40.0	〃	28	〃
41	黒田 清略	立大	19	19:40.8	〃	23	〃
	池尻 月男	山鹿高	16	19:40.8	振甫	28	日本高校
43	高橋 勝	慶大	19	19:41.6	神宮	27	早慶対抗
44	片山 崇	三水会	18	19:41.8	〃	14	日本選手権
45	小島 幸晴	和商高	19	19:42.8	大阪	27	近畿高校
46	宇田 守栄	稲泳会	17	19:43.8	神宮	14	日本選手権
47	長島 務	豊山高	16	19:46.6	振甫	28	日本高校
48	野々下耕司	鶴城高	17	19:47.0	大谷	〃	九州高校
49	越戸 優一	日大	19	19:47.6	神宮	14	関東選手権
50	鷹野 強	駿台	18	19:48.4	館山	26	千葉選手権
51	栗原 徹	日大	21	19:50.0	甲子園	16	四大学対抗
52	松山 正一	明大	19	19:53.8	神宮	〃	東京選手権
53	庄司 政雄	白水会	18	19:54.4	〃	27	日本選手権
54	永見 達明	稲泳会	21	19:59.4	〃	11	オリンピック予選
55	浅野 俊雄	日大	20	20:00.4	〃	16	東京選手権
	森 文太郎	慶大	19	20:00.4	〃	28	早慶対抗
57	杉浦 貞夫	〃	19	20:01.0	東伏見	25	日本選手権
58	武村 寅雄	明大	17	20:02.0	神宮	6	〃
	石丸 宗介	強台	19	20:02.0	〃	27	全国予選会
60	横山 隆志	高知商	16	20:03.4	〃	5	極東オリンピック
61	野並 伝	立大	17	20:05.2	〃	17	日本選手権
	近藤 国男	伊東高	17	20:05.2	浜松	23	中部高校
63	田野 仁	朱雀高	15	20:06.0	高知	27	西部高校
64	中西 理雄	神戸高	18	20:08.0	甲子園	25	近畿高校
65	永井 武治	桜泳会	21	20:09.2	神宮	28	日本選手権
	野村 幸司	立教高	16	20:09.2	振甫	〃	日本高校
67	浜田 芳夫	同志大	23	20:11.4	甲子園	24	近畿選手権
68	山下 文夫	磐田農	16	20:13.0	浜松	27	静岡西部高
	田所善五郎	白水会	18	20:13.0	神宮	28	日本選手権
70	黒沢佑一郎	立大	20	20:15.0	〃	18	神宮一般
71	金谷 修作	田辺高	15	20:15.8	大阪	28	近畿高校
72	杉本 盛	日大	17	20:16.6	神宮	7	オリンピック予選
73	林 法生	明大	19	20:19.6	東伏見	25	日本選手権
74	中山 順一	桜泳会	21	20:20.2	〃	24	〃
75	横山 清一	高知商	16	20:21.0	神宮	8	〃
76	粕谷 保	安房一高	15	20:21.2	呉市	25	日本高校

氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名	順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名
77 寺石 延也	踏水会	19	20:21.4	振甫	11	全国大会	14	大久保憲二	聖ポール	20	1:10.4	神宮	28	日本選手権 (2回)
78 河野 隼明	大	18	20:22.0	神宮	11	オリンピック予選		坂本 响一	立大	20	1:10.4	〃	13	関東選手権
神川 裕康	瀬戸田高	17	20:22.0	呉市	25	日本高校		山下 栄隆	浜北高	16	1:10.4	浜松	28	中部高校
80 岩切 主立	大	19	20:22.4	神宮	14	関東選手権	17	待島 啓三	早大	19	1:10.8	神宮	24	日本学生
茶畑 大	桜泳会	19	20:22.4	東伏見	24	日本選手権	18	宮田 春雄	日本	19	1:11.0	呉	25	国際呉
82 石田 敏彦	修猷館	20	20:22.8	大谷	26	九州選手権		黒佐 清	早稲泳会	19	1:11.0	神宮	27	早慶対抗 日本選手権
83 河村 甚平	三水会	19	20:23.0	神宮	17	早慶対抗		河野 通広	日大	19	1:11.0	〃	14	日本学生
松岡 信義	〃	18	20:23.0	中大	25	東京高校		21 明 文一	日立鉾山	19	1:11.2	〃	11	オリンピック予選
85 堀 勝美	岐阜商	18	20:23.4	神宮	10	日米予選		黒佐 年明	八幡製鉄	25	1:11.2	〃	25	日本選手権
86 奥田 行男	観音一高	17	20:23.8	呉市	25	日本高校		野末 俊夫	立大	20	1:11.2	〃	27	日本学生
87 石田 賢一	津島中	17	20:24.8	振甫	10	中部中等	24	中野 太郎	稲泳会	19	1:11.4	〃	15	日本選手権
88 菅 哲政	鶴城高	17	20:25.2	天理	26	西部高校		赤峯 実	日大	20	1:11.4	〃	18	三大学対抗
89 山本 新吾	芦泳会	18	20:27.0	甲子園	24	近畿選手権		中島 雅好	稲泳会	19	1:11.4	大谷	26	九州選手権
90 平井 研吾	観音一高	16	20:27.2	呉市	25	日本高校	27	藤井敬次郎	三水会	24	1:11.6	神宮	22	日本選手権 (3回)
91 寺崎 一夫	関東学	19	20:29.4	神宮	10	日米予選		木部 俊之	明大	22	1:11.6	館山	26	千葉選手権
92 加藤 岩夫	一宮高	18	20:29.6	野毛山	26	東部高校	29	平賀 孟	立大	19	1:11.8	神宮	14	三大学対抗 (2回)
93 岩田 務	岐阜商	15	20:30.0	振甫	11	全国大会		秋吉 竜二	日大	19	1:11.8	〃	10	全国学生
94 佐竹 慶信	高知商高	20	20:31.0	栗林	28	四国高校		鷺谷 光明	〃	24	1:11.8	〃	17	全国高専
95 田中 辰次	三本松高	20	20:31.4	〃	〃	〃	32 鈴木 政雄	明大	18	1:12.2	〃	7	オリンピック予選	
96 木村 成男	日大	18	20:31.6	振甫	11	全国大会		妙中 要造	三水会	20	1:12.2	〃	17	日本選手権
97 金子 豊	早大	17	20:31.8	神宮	10	日米予選		元村 昭夫	鹿本高	16	1:12.2	天理	26	西部高校
98 高橋 誠	誠之館	20	20:32.4	山口	28	中国高校	35 山田 薫	明大	19	1:12.4	神宮	10	全国学生	
99 鈴木 重孝	明大	20	20:33.4	神宮	6	日米予選		鳥居 高雄	和高商	20	1:12.4	甲子園	17	全国高専
平田 大六	新潟高	17	20:33.4	野毛山	26	東部高校		川口 清	沼津中	16	1:12.4	〃	17	全国中等

100米 背 泳

1 清川 正二	日本	23	1:07.2	ベルリン	11	オリンピック		41 勝久 重隆	早大	22	1:12.6	〃	9	全国学生
2 吉田 喜一	早大	21	1:08.0	神宮	15	日本学生		赤樫 卓爾	慶大	21	1:12.6	甲子園	23	近畿選手権
3 児島 泰彦	慶大	21	1:08.2	〃	14	〃		野上 脩	弦泳会	19	1:12.6	〃	26	兵庫選手権
4 梶浦 昇	愛知県	18	1:08.4	高知	28	国体郷土		高森 知之	駿台	18	1:12.6	神宮	28	日本選手権
5 谷口 利弘	日大	20	1:09.0	神宮	14	日本学生	45 幸村 甫	日大	21	1:12.8	〃	18	三大学対抗	
6 西野 泰正	日大	23	1:09.4	〃	23	日本選手権		鈴木 進	稲泳会	20	1:12.8	〃	28	日本選手権
		26		呉市	26	国体3部 (3回)		佐藤 忠	神奈川県	18	1:12.8	高知	〃	国体実業
長谷 景治	大阪府	18	1:09.4	高知	28	国体高校	48 田中 令吉	慶大	19	1:13.0	神宮	26	日本学生	
8 山本 速水	日本	20	1:09.6	振甫	25	国際名古屋			20			27	日本学生 (4回)	
倉橋 範彦	〃	18	1:09.6	パリ	27	日仏対抗		門屋 桂	立大	18	1:13.0	〃	11	〃
10 芦田 拓郎	早大	20	1:09.8	神宮	〃	日本学生 (2回)		山本恭之介	早大	17	1:13.0	〃	12	〃
								松本 進	松山商	17	1:13.0	甲子園	13	日本選手権
入江 稔夫	日本	20	1:09.8	ロサンゼルス	7	オリンピック		本間 竹志	文理大	22	1:13.0	神宮	15	関東学生
上村 稔	日大	20	1:09.8	神宮	27	三大学対抗		鳥居章次郎	京大	1:13.0	宝塚	22	近畿選手権	
13 河津憲太郎	日本	17	1:10.0	ロサンゼルス	7	オリンピック		白井 孝	慶大	20	1:13.0	神宮	25	早慶対抗

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名	順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名
48	宮部 修	日大	18	1:13.0	神宮	7	日本選手権	91	山田 実	和高商		1:14.2	宝塚	12	西部高商
	浜岡 昭八	京都大丸		1:13.0	大阪	26	〃		大古 敬宣	中大		1:14.2	神宮	24	日本学生
	中川 満	大手前高	17	1:13.0	天理	27	東西高校		近藤久仁正	中京商		1:14.2	振甫	25	愛知高校
	青山 欣旦	郡山高	16	1:13.0	〃	28	奈良選手権		金森 克行	立大	20	1:14.2	観音高	26	広島選手権
59	秋吉十九男	日大	20	1:13.2	神宮	8	全国学生		石井 文男	明大	19	1:14.2	神宮	27	日本学生
	豊田 久吉	〃	21	1:13.2	〃	9	全国学生		浜崎 健	愛媛県	17	1:14.2	高知	28	日本学生
	角野 二郎	関太		1:13.2	宝塚	10	関西学生		阿部 仁	徳島県	17	1:14.2	〃	〃	〃
	服部 義治	津島中		1:13.2	振甫	13	中部日本中								
	大野木 戈	明大	17	1:13.2	神宮	15	日本選手権								
	町野 和男	日大	20	1:13.2	大阪	26	〃								
	住井 雅義	天王寺高	18	1:13.2	〃	28	近畿高校								
	井本 吉郎	中大	18	1:13.2	神宮	〃	日本学生								
67	福留 弘明	高知商		1:13.2	高知	16	高知中等								
						22									
68	榎谷 周二	日大	19	1:13.4	東伏見	23	日本選手権								
			20			24									
	谷口 辰三	早大	18	1:13.4	神宮	10	全国学生								
			19			11	日本学生								
	井口 敏彦	高工芸	21	1:13.4	〃	12	関東学生								
	谷口 五郎	早大	19	1:13.4	〃	16	東京学生								
	清野 満平	桜泳会	19	1:13.4	〃	27	日本選手権								
	山口 定市	安房一	16	1:13.4	野沢	28	関東高校								
74	野島 宏	静岡	25	1:13.6	黒毛山	24	国体教員								
			26		振甫	25									
	児玉 秀彦	佐伯中	15	1:13.6	神宮	11	日本中等								
	目代 勝巳	川崎水		1:13.6	甲子園	15	兵庫予選								
	清水 功	日大	20	1:13.6	神宮	18	三大学対抗								
	正村 孝司	早大	19	1:13.6	〃	25	日本学生								
	近藤 英幾	福岡	19	1:13.6	高知	28	国体実業								
80	山本 正尊	立大	21	1:13.8	神宮	18	神宮一般								
	川野 英隆	熊本高	17	1:13.8	呉市	26	中国対九州								
	中村 学	明治学	18	1:13.8	大阪	〃	日本選手権								
	和気 寿彦	慶応高		1:13.8	野毛山	〃	東部高校								
	中島 常弘	伝習館	17	1:13.8	大谷	28	九州各県対								
	青山 昌三	中京商	15	1:13.8	振甫	〃	日本高校								
	指尾 進治	明大	18	1:13.8	神宮	〃	日本学生								
		広島	20		振甫	25	国体実業								
87	竹本 剛	八幡製鉄	21	1:14.0	振甫市	26	国体実業								
	大宮 敏男	岐薬専	17	1:14.0	神宮	11	日本学生								
	奥田精一郎	早大	19	1:14.0	〃	14	日本選手権								
	飯田 旭	明大	18	1:14.0	〃	16	東京学生								
91	笹原 利郎	台北中		1:14.2	台南	14	台湾中専								
		台北高商				17	台湾選手権								
	杉村 了	日大	19	1:14.2	甲子園	23	日本学生								
						(2回)									
	佐藤 哲男	白杵向		1:14.2	神宮	11	日本中等								

200米 平 泳

1	葉室 鉄夫	日大	19	2:40.4	神宮	12	日本選手権
			21			14	
2	小池 礼三	慶大	19	2:41.2	〃	10	日米予選
3	田中 守	早大	20	2:42.8	〃	28	日本学生
4	大浦誠一郎	立大	20	2:43.8	立神	15	立大記録会
			21		大宮	16	三大学対抗
5	梶川 孝義	稲泳会	18	2:44.4	神宮	28	日本選手権
						(2回)	
6	藤垣亮太郎	早大	19	2:45.0	〃	18	関東選手権
7	野田 務	明大	19	2:45.2	〃	12	日本選手権
	清池 健藏	中大	18	2:45.2	〃	28	日本学生
9	鶴田 義行	明大	28	2:45.4	ロサン	7	オリンピック
					ゼルス		
10	伊藤 三郎	日本	21	2:45.5	ベルリ	11	〃
					ン		
11	古川 勝	橋本高	17	2:45.6	大阪	28	国際高校
					大振		
12	胡麻鶴 寿	中大	20	2:45.8	神宮	〃	日本学生
13	板井 道生	日大	20	2:46.0	〃	〃	〃
14	宇田久寿秀	〃	21	2:46.4	〃	24	日本選手権
15	林田 睦夫	〃	16	2:46.6	〃	11	日本学生
	大谷 勝	法政二高	17	2:46.6	振甫	28	日本高校
	水貝 利重	早大	22	2:46.6	神宮	〃	日本学生
18	五味 茂雄	日大	20	2:46.8	〃	25	日本選手権
19	吉村喜代造	〃	18	2:47.2	〃	15	関東選手権
20	右川 敏	早大	18	2:47.6	〃	14	日本学生
	鈴木 重一	法大	18	2:47.6	〃	18	関東選手権
	下坂 篤	日大	18	2:47.6	〃	24	日本学生
23	杉山 祐二	立大	22	2:48.2	〃	23	三大学対抗
	関根善次郎	早大	19	2:48.2	〃	24	日本選手権
	戸上 雅雄	日大	18	5:48.2	〃	28	日本学生
						(2回)	
	藤原 衛	聖ポール	20	2:48.2	〃	〃	日本選手権
27	中川 重雄	振甫	23	2:48.8	〃	9	〃
						(2回)	
28	山口 正保	明治商	18	2:49.0	〃	11	オリンピック
							予選

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名
29	宮沢 正夫	安房中	16	2:49.0	神宮	18	関東選手権
30	広 達夫	白水会	20	2:49.2	〃	28	日本選手権
31	毛利 洋一	日大	18	2:49.4	東伏見	25	〃
	中沢 潔	国泰寺	17	2:49.4	天理	26	西部高校
	平山 綽保	日大	20	2:49.4	神宮	28	日本学生(2回)
34	安達 登利	〃	18	2:49.8	〃	〃	日本選手権 日本学生
	長久 俊三	慶大	20	2:49.8	〃	11	日本学生
	匠賢 一	早大	20	2:49.8	〃	25	日本選手権
	仙葉 元昭	東京都	16	2:49.8	高知	28	国体高校
38	柳沢栄三郎	法大	21	2:49.9	振甫	11	全国競泳
39	石井 弘	安房一高	18	2:50.0	〃	28	国体高校
40	大崎卯藤久	弦泳会	18	2:50.4	神宮	8	日本選手権
41	手塚 政一	関学大	19	2:50.6	大阪	28	関西学生
	窪 昭博	五条高	15	2:50.6	天理	〃	国体奈良
43	寺田 武実	早大	17	2:50.8	神宮	12	日本学生
	小林 義和	同志高	16	2:50.8	大阪	28	近畿高校
45	清水 敏夫	慶高	17	2:51.0	東伏見	24	早慶対抗
	中村 仁三	八幡製鉄	23	2:51.0	高知	28	国体実業
47	栗本 巖	岐薬専	19	2:51.2	振甫	11	全国競泳
	耕井 正人	呉同好	19	2:51.2	神宮	28	日本選手権
49	堤 愛治	立大	18	2:51.4	〃	15	関東選手権
	弘中 誠治	袋井商	16	2:51.4	浜松	26	静岡西部高
51	田口 実	日大	17	2:51.6	振甫	11	全国競泳
52	田畑 三郎	京二商	17	2:51.8	神宮	14	日本選手権
	岩下 正気	O.S.C	22	2:51.8	〃	28	日本選手権
54	大橋 秀之	津島高	19	2:52.0	岐阜	26	東海四県
55	堤 勳	桜宮中	〃	2:52.2	大阪	28	近畿中学
56	奥藤 修	明大	19	2:52.4	神宮	8	日本選手権
	高島 秋介	甲陽中	16	2:52.4	甲子園	8	西部中等
	錦織 晋	安房中	17	2:52.4	神宮	11	日本中等
	三浦 英規	和歌山県	16	2:52.4	大阪	28	近畿高校
60	小幡 令二	慶大	16	2:52.8	神宮	16	神宮中等
61	寺崎 博之	三潞高	17	2:53.0	大谷	25	中国対九州
	福江喜与一	福岡県	18	2:53.0	呉市	26	国体青年団
63	中島 毅	日大三高	17	2:53.4	呉市	25	日本高校 東西高校
	安東昭次郎	白杞中	15	2:53.4	〃	17	〃
65	岡田 達男	日大	22	2:53.6	神宮	9	三大学対抗 (3回)
	伊海 連作	明大	18	2:53.6	〃	23	〃
	林 慶輔	筑陽高	19	2:53.6	大谷	28	九州高校
	平井 牧	山城高	〃	2:53.6	大阪	〃	近畿高校
	原 讓良	同大	20	2:53.6	〃	〃	関西学生
70	高柳 昌弘	浜西高	16	2:53.8	振甫	24	東西高校

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名
71	坂東純之祐	同大	19	2:53.8	大阪	28	関西学生
72	坂本 幸男	関学大	21	2:54.0	甲子園 神宮	24	甲関対抗 日本選手権
	加藤 久男	袋井商	14	2:54.0	振甫	12	中部中等
	高原 豊	山口高商	〃	2:54.0	宝塚	13	全国高商
	佐藤 圭司	慶応高	15	2:54.0	野毛山	26	東部高校
	近藤 昇治	向陽高	16	2:54.0	振甫	〃	国体愛知
77	山田 弘	日本	19	2:54.1	マニラ	9	極東オリン ピック
	苗村 六郎	大阪高	〃	2:54.2	宝塚	13	関西学生
	岩崎久米郎	慶大	20	2:54.2	神宮	16	早慶対抗
	箕輪 嘉一	静商	16	2:54.2	甲子園	17	全国中等
	萩原 孝男	日大	18	2:54.2	神宮	24	日本選手権
	鈴木富士夫	愛知	15	2:54.2	〃	28	日比国際
	土方 正記	中国海運	〃	2:54.2	若松	〃	全国勤労者
84	葉室 貞男	福岡商	16	2:54.4	神宮	11	日本中等
85	田口 正之	西部中	16	2:54.6	築港	8	東西中等
	筒井八男治	立大	19	2:54.6	神宮	9	三大学対抗
	松原 正次	耐久中	16	2:54.6	甲子園	13	日本選手権
	太田 勝	佐賀県	17	2:54.6	大谷	28	九州対県
89	仲村渠盛栄	明大	20	2:54.8	神宮	10	全国学生
	伊藤 広三	早大	19	2:54.8	〃	11	日本学生
	原田 悦治	八幡製鉄	16	2:54.8	大谷	25	国体福岡
92	古荘 次平	早大	19	2:55.0	神宮	9	早慶対抗
	加藤 俊夫	立大	18	2:55.0	〃	12	日本学生
94	石原 義輝	中京商	17	2:55.2	甲子園	15	中部中等
	今井 国雄	下関東高	〃	2:55.2	山口	26	山口選手権
96	川澄 仲三	沼津高	17 18	2:55.4	神宮	9 10	東西対抗 東部中等
	大本 昌彦	早大	20	2:55.4	〃	10	早慶対抗
	大林 嗣生	〃	20	2:55.4	〃	15	〃
	武井 廉平	水戸高	〃	2:55.4	〃	22	〃
	右手 康雄	関学高	18	2:55.4	甲子園	24	兵庫高校
	松永 辰一	慶応高	16	2:55.4	野毛山	26	東部高校
	伊藤 漸	津島高	18	2:55.4	振甫	27	愛知体育
	藤井 賢	藤井商店	〃	2:55.4	呉市	〃	国体広島
	伊野家聰次	関西高	15	2:55.4	山口	28	中国高校

女子 の 部

100米自由形

1	山下 貞子	東洋レ ヨン	19	1:10.0	神宮	27	日本選手権
2	新子 富子	奈良県	21	1:10.4	高知	28	国体女子

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名	順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名	
3	小島 一枝	日本	19	1:11.0	ベルリン	11	オリンピック	44	横井 キヌ	京都	17	1:16.8	神宮	8	神宮競技	
4	宮部シズエ	奈良県	16	1:11.8	高知	28	国体女子(2回)		桜井 愛	東二条女	17	1:16.8	〃	10	日本選手権	
	田村美佐子	伊都高	18	1:11.8	神宮	27	日本選手権		井上 三代	名古屋	17	1:16.8	振甫	14	名京對抗	
6	大石 康子	天理大	20	1:12.4	神宮	27	日本選手権		井手 弘子	愛媛県	16	1:16.8	〃	15	国体女子	
	長田 久子	奈良県		1:12.4	高知	28	国体女子		青木 暉子	天理大	19	1:16.8	神宮	27	日本選手権	
8	新子 節子	小川ボンブ	16	1:12.8	神宮	28	日本選手権		石井久美子	山口県	17	1:16.8	高知	28	国体女子	
9	坂口 文子	五条高	18	1:13.6	〃	27	〃	50	福島ヒロ子	東府四女	16	1:17.0	神宮	11	オリンピック予選	
10	古田つね子	中泉女	15	1:13.8	〃	11	オリンピック予選		小山 道子	台北女	17	1:17.0	〃	12	日本女子中	
11	小牧 順子	鹿児島県	15	1:14.0	高知	28	国体女子		成清 静子	福岡県		1:17.0	呉市	26	国体女子	
12	小枝 蔦子	津山女		1:14.2	振甫	13	日本女子一般		江浜 敦子	桜泳会	19	1:17.0	神宮	27	全国予選会	
	簗野 富美	東府四女	16	1:14.2	神宮	17	神宮女子中		安部佐和子	愛知県	19	1:17.0	宇都宮	27	国体女子	
14	竹村 令	日本	17	1:14.6	ベルリン	11	オリンピック	55	鈴木美代子	淑徳女	15	1:17.2	振甫	12	中部日本中	
	立松 京子	名古屋	14	1:14.6	振甫	13	名京對抗		岡 照子	伊都高	16	1:17.2	〃	28	日本高校	
	宮崎 亮子	五条高	17	1:14.6	神宮	27	日本選手権		渡辺こまつ	淑徳女	14	1:17.4	神宮	8	神宮競技	
17	木村 繁子	名古屋	15	1:14.8	振甫	11	名京對抗		安富磨瑩江	京都		1:17.4	〃	15	神宮中等	
	谷口美代子	京二条女	16	1:14.8	神宮	12	日本女子中		森下美奈子	尚絅高	16	1:17.4	大阪	26	日本選手権	
	宅間 美恵	羽衣女	16	1:14.8	振甫	13	〃		塚本千賀子	東京都	18	1:17.4	呉市	26	国体女子	
20	荒田 雪江	京二条女	18	1:15.0	神宮	8	日本選手権	61	坂口 よし	中泉女	16	1:17.6	振甫	13	日本女子中	
	飯島 富子	東府六女	17	1:15.0	〃	13	関東選手権		森 あき子	愛知県	18	1:17.6	〃	25	国体女子	
	新井 恵子	東府四女	15	1:15.0	〃	18	神宮一般		上杉富貴子	東洋レーヨン	16	1:17.6	呉市	27	全国勤労者	
	佐藤 喜子	五条高	15	1:15.0	天理	28	国体奈良	64	加藤 愛子	東府四女	15	1:17.8	神宮	17	神宮中等	
24	松沢 初穂	日体女専	17	1:15.4	神宮	6	日本選手権		大宮 涼子	淑徳中	15	1:17.8	振甫	28	愛知中等	
	神野 眸	淑徳高	16	1:15.4	〃	28	〃	66	松井 和子	台湾	17	1:17.9	マニラ	14	台北對抗	
26	江間 絢子	台北二女		1:15.6	台南	14	台湾女子中		進藤 玲子	第6ワカ	15	1:18.0	神宮	15	神宮一般	
	前 佳子	和歌山県	16	1:15.6	高知	28	国体女子		大森 富子	土肥女	16	1:18.0	広二中	17	西日本女子	
	端谷八重子	石川県	16	1:15.6	〃	〃	〃		永瀬美代子	五条高	17	1:18.0	天理	27	日本高校	
29	塩見 梅子	椛山女	13	1:15.8	神宮	8	神宮競技		上田 香	〃	17	1:18.0	〃	〃	〃	
	松村 昶子	山口女	17	1:15.8	山口	12	山口中等	71	中島 芳子	愛知県	16	1:18.2	神宮	16	神宮女子中	
	天野 貴子	土肥女	14	1:15.8	神宮	12	日本女子中		滝口三恵子	桐蔭高	17	1:18.2	大阪	26	近畿高校	
	斎藤 道子	土佐女高	18	1:15.8	〃	27	日本選手権		田中 玲美	九州		1:18.2	大谷	27	中国対九州	
	西野 数美	高知県	17	1:15.8	高知	28	国体女子		田吹千鶴子	福岡県		1:18.2	宇都宮	27	国体女子	
34	三鬼百合子	土肥女	14	1:16.0	神宮	12	日本女子中		75	三浦 ハナ	ゆかり会	16	1:18.4	振甫	13	一般女子
	藤田 佳子	高知		1:16.0	〃	15	神宮女子中				18		甲子園	15	朝日女子	
	今井 一子	土佐女高	15	1:16.0	〃	27	全国予選会(2回)		河村 静子	横浜水	15	1:18.4	神宮	8	女子東部予	
37	守岡 初子	茨木水	20	1:16.2	〃	11	オリンピック予選		立松 品子	椛山女	13	1:18.4	振甫	10	名古屋市民	
	梅村 米江	椛山女	14	1:16.2	〃	12	日本女子中		菅野 和江	京都	14	1:18.4	京二高	15	名京對抗	
	藤田 陽子	鹿児島県	16	1:16.2	高知	28	国体女子		山本 光枝	新潟県	15	1:18.4	高知	28	国体女子	
40	吉田ミチ子	呉精華	16	1:16.4	神宮	16	神宮中等	80	岩橋佐和子	椛山女	14	1:18.6	振甫	13	名古屋市民	
	芦田富貴子	東京都	18	1:16.4	高知	28	国体女子		村井 陸子	土佐女		1:18.6	高知	14	高知女子	
42	横田みさを	京武	15	1:16.6	神宮	7	オリンピック予選		頼 関仔	相愛高	17	1:18.6	神宮	27	日本選手権	
	高橋 美代	伊東小	13	1:16.6	大浜	13	静岡水上		岡林 綾子	高知県	16	1:18.6	高知	28	国体女子	
								84	増山 ちせ	平塚女	15	1:18.8	神宮	8	東部女子	
									牧尾 弘子	美作高		1:18.8	野毛山	24	国体女子	
								86	永田喜奴子	苦津女	17	1:19.0	神宮	14	日本選手権	
									奥野 峯子	藤枝高	15	1:19.0	〃	14	神宮女子中	

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名	順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名
88	太田 教子	都四高	16	1:19.0	神宮	24	日本選手権	25	立松 品子	名古屋	16	6:05.0	振甫	13	名京対抗
	米岡 幸美	広島県	15	1:19.0	呉市	26	国体女子	26	井手 弘子	今治二高	17	6:06.0	神宮	26	日本高校
	松崎 綾子	神奈川	15	1:19.0	宇都宮	27	〃	27	小牧 順子	鹿児島	17	6:07.4	高知	28	国体女子
91	秋山 幸子	久留米女	15	1:19.2	神宮	12	日本選手権	28	松原 弘子	東府四女	17	6:07.9	神宮	15	日本選手権
	吉富 敏子	台北女		1:19.2	台北	16	台北市民	29	梅村 米江	梶山女	14	6:08.4	振甫	12	中部日本中
	高橋美枝子	白木屋	19	1:19.2	大阪	26	日本選手権		神野 眸	愛知県	16	6:08.4	高知	28	国体女子
	北芝美恵子	五条高	17	1:19.2	振甫	28	日本高校	31	秋山 幸子	久留米女	15	6:08.6	神宮	12	日本選手権
95	小木曾治子	淑徳女	14	1:19.4	神宮	8	日本選手権		鈴木美代子	淑徳女	15	6:08.6	振甫	12	中部日本中
	佐野のぶ子	東府四女	16	1:19.4	〃	15	〃	33	岡 照子	和歌山県	16	6:09.0	高知	28	国体女子
	滝本 弘子	土佐女		1:19.4	広二中	17	広島歓迎会	34	北島 静子	梶山女	17	6:09.8	神宮	12	日本女子中
	定森 桂子	岡山県	16	1:19.4	宇都宮	27	国体女子		鈴木 和子	浜市高	15	6:09.8	天理	27	日本高校
99	神谷 春子	愛一女	17	1:19.6	清洲	5	名古屋女子中	36	梶田 宏子	淑徳女	15	6:10.0	神宮	14	日本選手権
	須藤 光代	横水	17	1:19.6	神宮	11	オリンピック予選		高山 玲子	呉精華	15	6:10.0	〃	25	〃
	山田八重子	日泳会		1:19.6	〃	11	関東選手権	38	田辺 和子	都四高	15	6:10.4	東伏見	23	〃
	梶田 宏子	淑徳女	15	1:19.6	甲子園	14	日本女子中	39	大森 富子	土肥女	16	6:10.6	広中	17	東京選手権
	庄司 米子	千葉県	18	1:19.6	呉市	26	国体女子	40	小沢ハツ子	東府四女	16	6:11.0	神宮	16	日本女子中

400米自由形

1	篠野 富美	東府四女	16	5:40.0	神宮	26	東京女子中	43	森下美奈子	熊本	16	6:12.6	神宮	26	〃
2	新子 富子	天理水	19	5:40.6	大阪	26	日本選手権		松田 昌子	佐敷中	15	6:12.6	〃	28	日本選手権
3	田村美佐子	天理水	19	5:41.8	神宮	28	〃	45	中島 芳子	淑徳女	16	6:12.8	振甫	16	愛知女子
4	宮崎 亮子	五条高	17	5:42.0	振甫	28	日本高校	46	立松 京子	梶山女	12	6:13.0	清洲	12	名古屋女中
5	小島 一枝	日本	19	5:43.1	ベルリ	11	オリンピック	48	細野 嬉子	麴町女	14	6:13.0	神宮	18	神宮一般
6	山下 貞子	東洋レ	19	5:44.8	大阪	28	大阪選手権		内藤富美子	東府四女	14	6:13.4	〃	18	〃
7	安部佐和子	伊東高	16	5:47.8	神宮	25	日本選手権		上田 香	五条高	15	6:13.4	甲子園	25	近畿高校
8	守岡 初子	日本	21	5:49.1	ベルリ	11	オリンピック		宮部シズエ	野原中	14	6:13.4	天理	26	奈良選手権
9	佐藤 喜子	五条高	15	5:50.8	振甫	28	日本高校	51	赤木 宣子	美作高	17	6:13.6	大阪	26	日本選手権
10	前 佳子	伊都高	16	5:51.8	〃	28	〃	52	村岡 雪壱	大阪十会		6:13.8	甲子園	13	〃
11	新井 恵子	東府四女	15	5:53.0	神宮	18	神宮一般	53	吉田ミチ子	美精華	15	6:14.4	広二中	15	広島選手権
12	森 あき子	伊東高	17	5:53.4	野毛山	24	東西高校		北芝美恵子	五条高	16	6:14.4	天理	27	日本高校
13	滝本 弘子	土佐女		5:54.2	神宮	17	全国女子中	55	岸田 静枝	京都		6:14.6	振甫	12	名京対抗
14	江浜 敦子	桜泳会	20	5:57.6	〃	28	日本選手権		池田 久子	伊都高	17	6:14.6	天理	27	日本高校
15	斎藤 道子	土佐女高	17	5:58.4	大阪	26	〃	57	古田つね子	中泉女	14	6:15.0	神宮	10	日本選手権
	塚本千賀子	東京都	18	5:58.4	呉市	26	国体女子		松井 和子	台湾	17	6:15.0	マニラ	14	台比対抗
17	宅間 美恵	羽衣女	16	5:58.6	振甫	13	日本女子中	59	坂口 よし	中泉女	16	6:15.8	振甫	13	日本女子中
18	吉田せつ子	佐敷中	14	5:59.6	大阪	26	日本選手権		吉富 敏子	台湾		6:15.8	マニラ	14	台比対抗
19	滝口三恵子	桐蔭高	16	5:59.8	〃	〃	〃	61	藤田 利子	土肥女		6:16.4	広二中	17	西日本女子
	今井 一子	土佐女高	15	5:59.8	天理	27	日本高校	62	米岡 幸美	清水丘高	17	6:17.0	高知	28	国体女子
21	三鬼百合子	土肥女	14	6:00.6	神宮	12	日本選手権	63	木村 繁子	名古屋	18	6:17.2	振甫	14	名京対抗
22	三浦 ハナ	横水	16	6:01.4	甲子園	13	〃	64	福島ヒロ子	東府四女	16	6:17.4	神宮	11	オリンピック予選
23	青木 暉子	天理水	18	6:03.2	大阪	26	〃		上村 淳子	長崎女		6:17.4	〃	17	日本女子中
24	天野 貴子	土肥女	14	6:04.4	神宮	12	日本女子中		藤田 陽子	鹿児島県	16	6:17.4	高知	28	国体女子
								67	古閑 久子	中京女	18	6:17.8	神宮	10	日本選手権
								68	井上 三代	愛知女		6:18.6	清洲	13	愛知女子中
								69	保見 紀子	武蔵高	17	6:19.4	呉市	25	日本高校

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名	順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名
70	永井 峯子	豊島ク		6:20.8	豊島園	5	日本女子	11	佐竹富美子	滋賀	19	1:25.2	呉市	26	国体女子
71	永井美智子	筑紫高	17	6:21.0	神宮	28	日本選手権	12	伊藤さとし	中泉女	16	1:26.0	甲子園	13	日本選手権
72	佐藤タマキ	久留米女	16	6:21.2	大阪	10	三地方予選		園部 梅子	東府四女	14	1:26.0	神宮	18	神宮一般
	成清 静子	伝習館		6:21.2	大谷	26	国体福岡	14	山本 うた	淑徳女	15	1:26.2	振甫	12	中部日本中
	大宮 凉子	淑徳高	15	6:21.2	振甫	28	愛知選手権	16			16			13	名京対抗
75	菅野 和江	京都	14	6:21.8	京二商	15	名京対抗		金森志都子	広島県	16	1:26.2	神宮	16	神宮女子中
76	竹村 令	京武	16	6:22.0	築港	10	三地予選		朝井美枝子	東京府	14	1:26.2	〃	17	〃
77	田中 栄子	伝習館		6:22.8	天理	27	日本高校	17	飯島 富子	古川電工	18	1:26.8	〃	14	日本選手権
78	須藤 光代	横浜水	17	6:23.2	神宮	11	オリンピック予選		吉村美津子	土肥女	14	1:26.8	広二中	16	西日本総合
	伊藤 二支	土佐女高	16	6:23.2	高知	28	高知高校	19	三浦 ヒデ	都四高	18	1:27.0	神宮	23	日本選手権
80	井上 敦代	宿毛高	16	6:23.7	〃	〃	〃		高山 玲子	広島県	16	1:27.0	呉市	26	国体女子
81	後藤 貞子	淑徳高	15	6:23.8	振甫	28	愛知選手権	21	畝川 澄江	土肥女	17	1:27.4	広二中	13	西日本総合
82	時田 静子	〃	15	6:24.0	〃	9	中部日本中		小椋とし子	成徳高	18	1:27.4	神宮	25	日本選手権(2回)
83	井上 恭子	広島		6:24.5	大濠	15	西日本対県		坪井查雅子	五条高		1:27.4	天理	28	国体奈良
84	太田 紀子	筑紫高		6:24.6	大谷	25	国体福岡	24	曾田 昌子	広島女	17	1:27.8	広二中	13	西日本総合
85	佐々木玲子	三次高	17	6:24.8	観音高	24	広島選手権	25	泉 百合子	京都		1:28.0	清洲	10	名京対抗
86	渡辺こまつ	淑徳女	13	6:25.0	振甫	8	中部日本中		北島 静子	嵯山女	17	1:28.0	振甫	12	中部日本中
87	柴田 節子	〃	15	6:25.4	〃	15	〃		佐藤喜美子	鴨浜会		1:28.0	東伏見	25	日本選手権
88	片本 妙子	土肥女		6:25.8	広二中	17	西日本女子	28	可児 令子	松蔭高		1:28.2	大谷	23	国体高校
	久保田豊子	東府四女	15	6:25.8	神宮	18	関東選手権	29	加藤 好子	淑徳女	17	1:28.4	神宮	6	全国女子
90	帯谷 恭子	山口県	18	6:26.2	高知	28	国体女子	30	佐野 慶子	東府四女	15	1:28.6	〃	16	日本選手権
	岡村 佳子	兵庫県		6:26.2	〃	〃	〃		下司 ミサ	台湾		1:28.6	〃	16	神宮中等
92	丸山 朝子	下田北	15	6:26.6	東伏見	25	日本選手権		前原ともゑ	筑紫高	18	1:28.6	呉市	26	国体女子
	橋本美代子	大阪府	17	6:26.6	呉市	26	国体女子	33	河村遊津美	京都府	18	1:28.8	〃	26	〃
94	綿貫 秀子	広島女		6:26.8	広二中	15	西日本女子	34	吉田 文子	愛一女	14	1:29.0	神宮	6	日本選手権
	富安 律子	福岡県	16	6:26.8	高知	28	国体女子	35	岩本 茂子	広島県	16	1:29.1	大濠	15	西日本対県
96	渡辺 貞子	呉精華女	16	6:27.0	広二中	15	西日本女子	36	青島 博子	中泉女	16	1:29.2	神宮	15	日本選手権
97	斎藤 光代	久留米女		6:27.2	〃	15	日本女子中		安藤 清子	香川県	17	1:29.2	高知	28	国体女子
	西村 弘子	香川県	17	6:27.2	高知	28	国体女子	38	加納 照子	鴨浜高		1:29.4	大阪	26	日本選手権
99	市口 房子	日本女商	16	6:27.8	玉川	4	神宮競技		服部 法子	淑徳高	16	1:29.4	振甫	28	東海高校
	上村登志子	土佐女		6:27.8	大濠	15	日本女子中	40	山崎いく子	愛一女	15	1:29.6	〃	10	中部女子中
									小田アイ子	筑紫女		1:29.6	大濠	12	福岡女子中
								42	菱木 ふさ	京武		1:29.8	大阪	10	三地方予選
									保手浜政子	土肥女		1:29.8	広二中	15	西日本女子
									兵頭かの子	高知県	18	1:29.8	高知	28	国体女子
								45	大沢 ふさ	東府四女	15	1:30.0	神宮	16	東京女子中
											16			17	東京選手権
									小木曾治子	淑徳女	15	1:30.0	〃	9	日本選手権
								47	松村 清子	高知		1:30.2	〃	15	神宮女子中
								48	宮井 良子	京府一女		1:30.4	〃	12	日本選手権
									稲葉チズエ	大分県		1:30.4	呉市	26	国体女子
									松崎 弘子	向陽高		1:30.4	浜松	28	中部高校
									能瀬 郁子	高知県	17	1:30.4	高知	28	国体女子
								52	新見美佐子	名古屋	15	1:30.8	振甫	13	名京対抗
									松村 吏子	鳥取県	16	1:30.8	高知	28	国体女子
								54	広田喜久子	神戸二女		1:31.0	神宮	14	日本選手権
									佐々木信子	平塚女	16	1:31.0	〃	14	〃

100米 背 泳

1	森前みどり	伊都	17	1:21.6	神宮	28	日本選手権
	新井 里子	静岡県	15	1:21.6	高知	28	国体女子
3	野口 幸子	相愛高	16	1:22.8	大阪	26	近畿高校
	定森 桂子	岡山県	17	1:22.8	高知	28	国体女子
5	多田 悦子	天理水	19	1:23.2	神宮	28	日本選手権
6	片岡 澄子	天理大	18	1:24.0	天理	26	奈良選手権
			19		神宮	27	日本選手権
7	小椋とみ子	成徳高	18	1:24.6	呉市	28	日本高校
8	永瀬美代子	天理水	18	1:24.8	天理	28	関西選手権
	平尾 静子	横学園	17	1:24.8	振甫	28	日本高校
10	横田みさを	日本	15	1:25.1	ロサンゼルス	7	オリンピック

順位	氏名	所 属	年令	時間	場 所	年 度	会 名
56	山田喜代江	京一女		1:31.0	神 宮	17	全国女子中
	国沢 幸代	高知水	14	1:31.0	大 阪	26	日本選手権
58	亀田 佳子	松蔭中		1:31.2	"	28	近畿中学
59	新実 里美	竜海中	14	1:31.4	振 甫	28	愛知中学
60	山根 歌路	楠泳会	18	1:31.6	神 宮	15	神宮一般
	猪子 道子	長 崎		1:31.6	"	16	神宮中学
	平野 雅子	群馬県	19	1:31.6	呉 市	26	国体女子
63	勝見 他見	紫錦台中	15	1:31.8	松 任	27	石川選手権
	南 きみ	石川県	16	1:31.8	高 知	28	国体女子
		京二条女		1:31.8	神 宮	10	日本選手権
65	北畑 文枝	梶山女	14	1:32.0	清 洲	12	日本女子中
			15			13	愛知女子
	尾久 千松	台 湾		1:32.0	マニラ	14	台比对抗
	西田 泰子	愛 知	15	1:32.0	神 宮	14	神宮女子中
68	高野 菊枝	淑徳女		1:32.4	"	7	日本選手権
	初田 久子	京 都	16	1:32.4	"	8	神宮女子中
	山内 次子	静 岡		1:32.4	"	15	"
71	包行 豊子	福 岡		1:32.5	大 濠	15	西日本対県
72	金村那美子	台北女		1:32.6	筑 港	11	日本女子中
73	迫田 倫代	三原一中		1:32.8	観音高	26	中国少女
74	有賀 吉	京 都		1:33.0	神 宮	14	神宮女子中
	菊池 貞子	東家政		1:33.0	"	18	神宮一般
	桜井美恵子	成徳高	17	1:33.0	振 甫	28	日本高校
77	河村 静子	横市女	17	1:33.2	横 浜	10	神宮神奈川
	時田 静子	淑徳女	16	1:33.2	神 宮	10	日本選手権
	熊岡 光枝	梶山女		1:33.2	振 甫	15	神宮愛知
	久保久仁子	鹿児島県		1:33.2	宇都宮	27	国体女子
81	北村 文子	熊 本		1:33.3	大 濠	15	西日本対県
82	生田美代子	台北一女	15	1:33.4	神 宮	6	日本選手権
83	守岡 初子	茨木水	18	1:33.6	大 阪	8	近畿予選
	渡辺 貞子	呉精華	16	1:33.6	広二中	15	日本女子中
	中野 歌代	伊都高		1:33.6	大 阪	27	近畿高校
86	竹村 令	京府一女	14	1:33.8	宝 塚	8	女子オリンピック
	井上 欣子	土佐女		1:33.8	神 宮	15	日本女子中
	宮井スミエ	土肥女		1:33.8	広二中	17	西日本女子
	熊沢 保子	南多摩高		1:33.8	天 理	27	日本高校
90	巽 英子	五条高	15	1:34.0	呉 市	25	"
	杉元 丸美	宮之城高	15	1:34.0	大 谷	28	九州各県対
92	富永 豊子	佐賀高		1:34.2	大 湊	14	西日本女子
	兼松 淳子	長崎県		1:34.2	神 宮	15	神宮女子中
	片山佐智子	伊東女		1:34.2	大 浜	16	神宮静岡
	増井 静子	兵庫県		1:34.2	神 宮	16	神宮女子中
	山川 和弥	滋賀県		1:34.2	振 甫	25	国体女子
	福原 市子	鴨浜高	16	1:34.2	大 阪	27	近畿高校
	大岡 晴美	千葉県		1:34.2	宇都宮	27	国体女子
	中村 夫美	岩手県	16	1:34.2	高 知	28	"

順位	氏名	所 属	年令	時間	場 所	年 度	会 名
100	上田 香	五条高	16	1:34.4	神 宮	26	日本高校
	平野 富子	群馬県	17	1:34.4	高 知	28	国体女子

200米 平 泳							
1	坂本 和子	五条高	16	3:01.4	神 宮	27	日本選手権
2	前畑 秀子	日 本	22	3:01.9	ベルリ ン	11	オリンピック
3	青木 政代	伊都高	17	3:02.0	天 理 大 阪	28	関西選手権 国際
4	井豆 信子	五条高	16	3:08.6	神 宮	27	日本選手権
5	中田 澄子	土佐女	15	3:11.2	天 理	27	日本高校
6	大野 敦子	南多摩	ク	3:12.8	大 阪	26	日本選手権
7	中本 英子	五条高	16	3:14.2	天 理	27	国体奈良
8	壺井宇乃子	京 都	19	3:14.5	振 甫	12	名京对抗
9	豊谷 良子	武庫川高		3:15.2	東伏見	24	日本選手権
10	村尾 充子	長崎女	19	3:15.4	神 宮	12	神宮一般
	河野 典子	京府二女	13	3:15.4	西京極	16	東都選手権
12	山田 金野	愛一女	13	3:16.0	神 宮	6	日本選手権
	秋田チズ子	福岡県		3:16.0	呉 市	26	国体女子
13	矢野 迪子	佐敷中	14	3:16.2	大 阪	28	国 際
15	永田 隆子	広市女		3:17.0	広二中	17	西日本女子
16	浦畑チズ子	伊都高	16	3:17.2	大 阪 高 知	27	近畿高校 国体女子
	天野 主子	広 島	13	3:17.2	大 濠	14	西日本対県
	大石 康子	山城高	17	3:17.2	神 宮	24	日本選手権
	小田初紀子	福岡県	15	3:17.2	高 知	28	国体女子
20	後藤 久子			3:17.4	台 北	15	台湾選手権
	川内 公子	士肥女	13	3:17.4	広二中	15	広島選手権
22	福井 栄	松蔭中		3:17.6	神 宮	24	日本選手権
23	中山 絹子	徳島女出	17	3:17.8	振 甫	13	日本一般女子
	杉浦 一子	浜市高	18	3:17.8	宇都宮	27	国体女子
25	南里千瑳子	神戸二女	11	3:18.0	甲子園	14	日本女子中
26	中村 芳江	京二女	15	3:18.4	神 宮	8	日本選手権
27	後藤 光子	名古屋	13	3:18.5	振 甫	12	名京对抗
28	横田 吟子	高知水	18	3:18.6	大 阪	26	日本選手権
	榎本千恵子	九度山中		3:18.6	"	28	近畿中学
30	野中喜美子	東府四女	16	3:19.0	神 宮	16	東京女子中
	鈴木 文代	稻生沢中	13	3:19.0	中 大	25	全国ジュニア
32	大川喜美子	京府一女	16	3:19.6	西京極	16	京都選手権
33	山沢 春江	台中女	16	3:20.0	神 宮	12	日本女子中
	宮坂 ノブ	愛 知	18	3:20.0	"	14	神宮女子中
35	小川 康子	桐蔭高	15	3:20.4	大 阪 呉 市	26	近畿高校 国体女子
	高野 博子	伏見高		3:20.4	甲子園	25	近畿選手権
37	馬田 貞	台北一女		3:20.5	台 中	17	台湾選手権

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名
38	梶岡 広江	広島	17	3:20.6	広二中	13	台広対抗
	山本 葛枝	土肥女		3:20.6	〃	17	西日本女子
40	村尾 康子	長崎県		3:20.7	大濠	15	西日本対県
41	市成 豊子	台北二中		3:21.0	台中	17	台湾中等
	角南千鶴子	南海高		3:21.0	大阪	26	日本選手権
43	真下 京子	京二条女	14	3:21.2	宝塚	8	女子オリンピック
	平谷 銀子	野原中	14	3:21.2	大阪	28	近畿中学
	高松 好子	妙寺中	15	3:21.2	〃	28	〃
46	久原 菊子	京武	15	3:21.4	神宮	8	日本選手権
47	芦沢 輝	山梨県		3:21.8	呉市	26	国体女子
48	小野キマ子	福岡		3:21.9	大濠	15	西日本対県
49	三枝美貴子	日本女	14	3:22.2	神宮	15	日本選手権
50	浅井 品子	愛一女	14	3:22.4	築港	6	第8回女子
	吉田 寿子	横浜女	15	3:22.4	神宮	12	日本選手権
	諸星美枝子	東府四女	12	3:22.4	〃	17	全国女子中
53	蔭山美佐子	東府六女	15	3:22.6	〃	15	関東女子中
	芳川 順子	松蔭女		3:22.6	甲子園	24	国体兵庫
	村上 桂子	中国	17	3:22.6	大谷	27	中国対九州
	黒田多鶴子	伝習館	17	3:22.6	天理	27	日本高校
57	原日 出子	東府四女	18	3:22.8	神宮	13	関東選手権
58	村田三千子	羽衣女		3:23.0	築港	11	全国女子中
	藤田恵美子	船入高	16	3:23.0	呉市	27	広島秋季高
60	加藤 順子	広市女		3:23.1	大濠	14	西日本対県
61	山元 幸子	高雄女		3:23.2	台中	17	台湾女子中
	池田 禎子	山口県	16	3:23.2	呉市	26	国体女子
63	和田 町子	台北一女		3:23.3	台北	15	台湾選手権
64	飯村 昌子	文華女	14	3:23.4	大連	2	大連競技
	吉宗 玲子	台北一女		3:23.4	台北	15	台湾選手権
66	山崎 慶子	京都府	17	8:23.6	宇都宮	27	国体女子
67	吉田アイ子	大阪		3:23.8	神宮	14	神宮女子中
	太田はるみ	立野高	17	3:23.8	大阪	26	日本選手権
69	小川 孝子	京一女		3:24.4	甲子園	23	京阪神対抗
70	木梨 あさ	愛知県	18 19	3:24.6	振甫 呉市	25 26	国体女子
	大保 安枝	高雄女		3:24.6	台中	17	台湾中等
	浜田多喜枝	静岡県	18	3:24.6	上野市	27	東海選手権
	若林 睦子	八日市高		3:24.6	大阪	28	近畿高校
74	根岸 絹子	彦根高		3:25.2	甲子園	25	〃
	榎本 隅江	中広中		3:25.2	呉市	27	国体広島
76	杉倉 愛子	椋山女	17	3:25.5	振甫	9	日米国際
77	平石富美子	長崎女		3:25.6	神宮	12	日本女子中
	小川 栄子	東京都	15	3:25.6	高知	28	国体女子
79	佐々木玲子	広島大	19	3:25.8	大阪	26	日本選手権
80	鈴木富美子	名古屋		3:26.0	振甫	13	名京対抗
	伊藤 桂子	淑徳	16	3:26.0	神宮	17	神宮中等
	余語 和枝	愛知県		3:26.0	振甫	25	国体女子

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	会名
83	西谷美智子	京府一女		3:26.4	西京極	16	京都選手権
	大島 京子	長崎女		3:26.4	神宮	17	全国女子中
	小竹加代子	同志高	17	3:26.4	大阪	27	近畿高校
86	奥田 明子	京府一女		3:27.0	振甫	13	名京対抗
87	玉置加代子	椋山女		3:27.2	〃	14	名古屋予選
	堀部ツヤ子	淑徳女	15	3:27.2	〃	15	神宮愛知
89	牟田 律子	台北一女		3:27.3	台北	15	台湾選手権
90	海部 緑	徳島		3:27.4	神宮	17	神宮中等
91	榎 マサノ	土肥女		3:27.5	広二中	11	西日本女子
92	井原 佳子	伊東高		3:28.0	浜北高	24	静岡選手権
93	八井田澄子	土佐女		3:28.2	広二中	15	日本女子中
	菅 操子	滝川高		3:28.2	甲子園	24	日本高校
95	飯沢須賀子	中泉女	13	3:28.4	神宮	12	日本選手権
	高瀬 和子	中京女		3:28.4	振甫	16	愛知神宮
97	北邨 正子	北野高	16	3:28.6	大阪	28	近畿高校
98	坂口 輝子	香師中高		3:28.8	天理大	25 26	近畿中学校 近畿高校
	町井 貞子	名古屋		3:28.8	振甫	14	名京対抗
	木村 寿子	長崎		3:28.8	大濠	14	西日本対県

この100傑表は、本年1月1日現在のもので、紙面の都合で主なる種目のみを選び掲載したものであるが、本年は一段と躍進のきざしを見せ、この表の種目のみを見ても、男子100米自由形の谷訥君が57秒0、100米背泳で長谷君が1分6秒9で、ともにトップに立ち、女子400米自由形では、田村嬢が5分32秒2、続いて佐藤、前、宮崎4嬢が、1位旗野嬢を凌ぐ好記録を出し、誠に心強い限りである。

終りにこの表を作って特に感じたこと、永年の見聞によって得た「選手に望みたいこと」を述べる。

① 先づ練習に熱心であること。

あの選手は強いけれども、練習が嫌いですね、といわれる選手は必ず消えてしまう。練習の嫌いな選手は意味がないから、さっさと選手生活を切上げた方がよい。

② 若い選手は事情の許す限り多くの競技会に出場し、必ず全力をつくして泳ぐこと。

記録を作るには好調な時、競技会の大、小を問わず、全力を尽して泳がりたい。何時何処で大記録が出ぬとも限らない。

③ スタートから飛ばすくせをつけられたい。

ラップ・タイムを調べて見るとよくわかることであるが、大選手となった選手は、例外なく若い時から、スタートより飛ばしている。

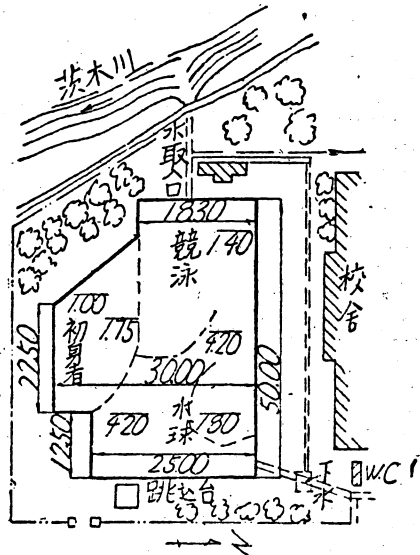
先輩の方々に聞いて見ると、みんな、もう少し機会を捉えて記録を残しておけばよかったと後悔しておられる。選手諸君のチャンスは今であることを御忘れなく。

プー ル 4 0 年

深 谷 俊 明

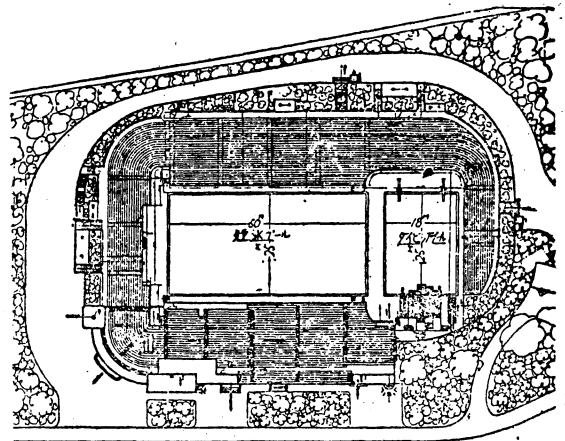
我が国における最初のプールは、旧大阪府立茨木中学校のプール（大正4年：1915）であって、その後、大阪市立運動場プール、（1923）、東京芝公園プール（1923）、東京 Y.M.C.A. プール（1923）、

東京玉川プール（1924）、小樽商業学校プール（1924）、東京小石川磯川小学校プール（1924）盛岡下橋プール（1925）等のプールが建設され水連の組織強化とともに、その数は次第に増加し、特に東京、静岡、大阪、愛知等の府県でそ



図一 旧大阪府立茨木中学校プール

の傾向が強く見られるようになった。その後1930年（昭和6年）には世界を驚かせた明治神宮プールが、水泳人による、水泳人の、そして水泳人のためのプールとして完成された。すなわち、このプールは、水連会長であった末弘巖太郎博士が中心となって、プール建設資金を集め、その設計、計画は飯田光太郎、松沢一鶴氏が心血を注いで建設したものであって、自来。このプールは、水泳日本のメッカと化し、このプールで行われた数々の大会の印象は走馬燈のように連想され、このプールの生い立ちは、水泳日本の発展の過程を物語っている。また、このプー



図二 明治神宮プール

ルにおける競技大会は、観衆、選手、そしてプールが一体化し、独特のフニキを生み、これは世界のどのプールにも見られない情景とされている。年ごとに繰りひろげられる真夏の夜の興奮は、神宮プールの魅惑的な水の色とともに、我々に生きる喜びを与えている。



写真一 真夏の夜の興奮（明治神宮プール）

また、その頃、石川県松任町営プール、名古屋清洲プール、名古屋振甫プール、甲子園プール、日本大学プール、宝塚プール、福岡大濠公園プール、立教大学プール、横浜元町プール、神戸御大典記念運動場プール、奈良公園プール等のプールが50米プールとして各地に建設されたが、25米プールが学校プールとして多くつくられた時代であった。その間の状況を物語るものとして、1933年文部省大臣官房体育課から、プール数を次のように発表している。

小・中学校	309	}	361
高等学校	21		
専門学校	19		
大学	12		
会社、個人、公共団体	117		
計			478

その後、ロスアンゼルス大会における我が水上軍の活躍に刺激されて、50米プールが多く建設されるようになった。すなわち、高知商業学校の3年生だった北村久寿雄選手の優勝を記念して、高知市営プールが北村優勝記念プールとして完成されたのを始めとし(1934)、八幡大谷プール、秋田将軍野プール、長岡悠久山プール、長岡中島プール、松本市営プール、長野市営プール、広島二中プール、静岡大浜公園プール、高松栗林公園プール、大分県臼杵中学校プール、高崎市営プール、愛媛県松山中学校プール、早稲田大学東伏見プール、大津旭ペンベルグ・プール、和歌山県妙寺小学校プール、浜松一中プ

ール、浜松商業学校プール、大阪真田山公園プール、高崎市営栄町プール、台南プール、台北プール等がベルリン大会を頂点として相ついで完成された。また、室内プールとして、東京帝大プール、京都府立第一高女プール、甲子園室内プール、東京九段中学校プール等が時を同じく建設された。その後、太平洋戦争に突入してからのプールは、鹿屋、霞ヶ浦、土浦、谷田部、筑波、大村、高尾、厚木、宇佐美、鈴鹿、大分等の海軍航空基地や、川崎航空各務ヶ原工場、中島飛行機、川崎造船、東京電気無線、日本鉱業等の軍需工場に建設された。また、防火池としてプールの利用が着眼されてから、無筋コンクリートの防火池兼用の簡易プールが、学校プール、または、工場プールとして相当築造された。

戦後は、明治神宮プールを初め多くのプールが占領軍に接収され、自分たちのプールで泳げない敗戦の事実を多くの水泳人は身をもって体験した。しかし、たゆまざる努力によって、これらのプールは遂次、返還させるようになったが、記録的には食糧難とともに、図-3に示すような結果となった。また戦争によって昭和17、18、19、20年(1942、1943、1944、1945)は、水連史上の悲しい空白時代となってしまった。

筆者は、昭和21年に再開された日本選手権大会ほど、複雑な気持ちで神宮プールに接したことはなかった。それは、神宮プールが無事であった歎びとともに、大切なプールが米軍によって、どのように管理されているかが心配であった。数年振りに見るプールには、昔に変わらぬ清い水がたたえられてはいたが筆者には、なぜかプールの涙のように感ぜられた。赤いペンキで必要以上に大きく書かれたNO RUNNINGや、スタート台の所には誰の断りなく布設された急速濾過用の8吋管が濃いアイ色に塗られているのを見て、独り悲しんだ。こんな配管は、20年も前に、松沢一鶴氏が埋設すみで、水泳日本を馬鹿にするなど叫ばずにはおられなかった。しかし、プール・サイドのスタンドを埋めつくした水泳ファンの顔、顔！選手も、競技役員も、ファンも互に無事を祝福した。この大会を開催するためには、取りはづさ

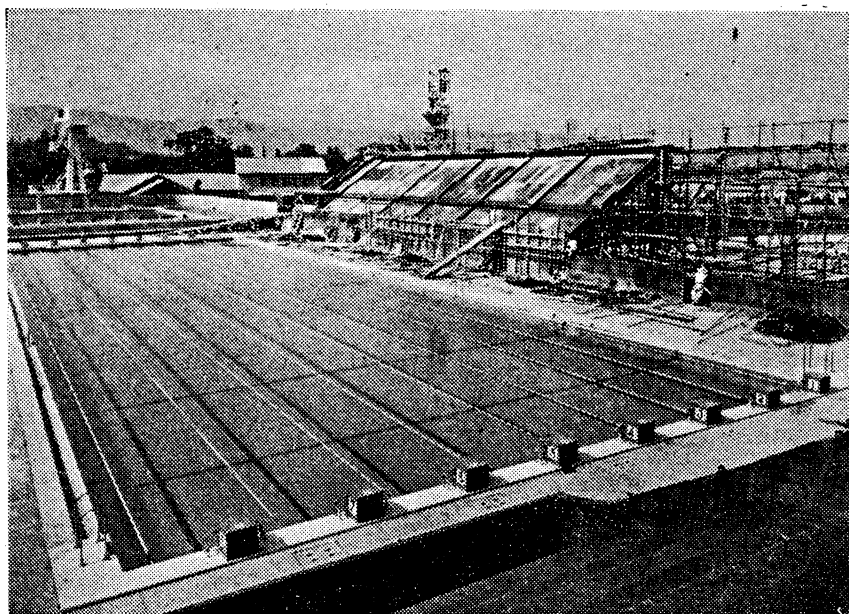


写真 2 北村優勝記念高知市営プール

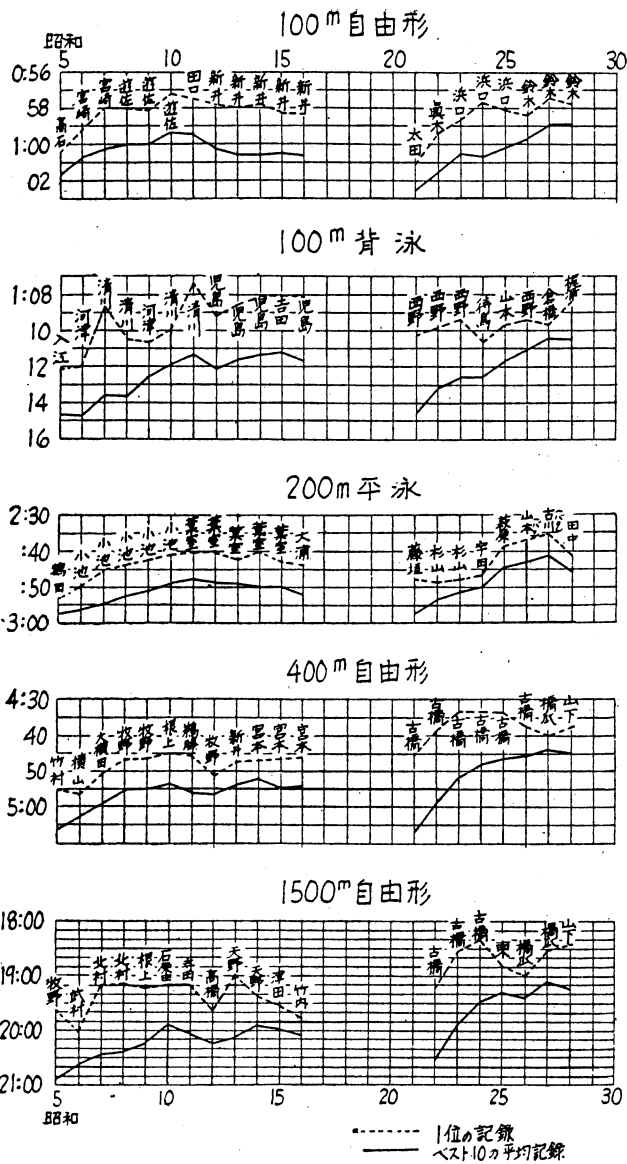


図 - 3

れた競技施設の復旧、電燈、拡声器、そしてトイレ・ペーパーに至るまで、細々と準備した小池礼三理事の努力は並々ではなかった。あらゆる困難を克服して、ただ神宮プールで日本選手権大会が開催できる欲びがすべてであった。この大会で古橋選手が400米自由形で4分53秒8の記録を出し、ここに水泳日本の前途に明るい光明が投げられた。なおこの大会では、食糧難を考え1500米レースはなく、800レースが行われたことも当時を物語る一資料である。

その後、1947年には、爆弾をうけた名古屋振甫プール、および一方が沈下していた甲子園プールの修理が

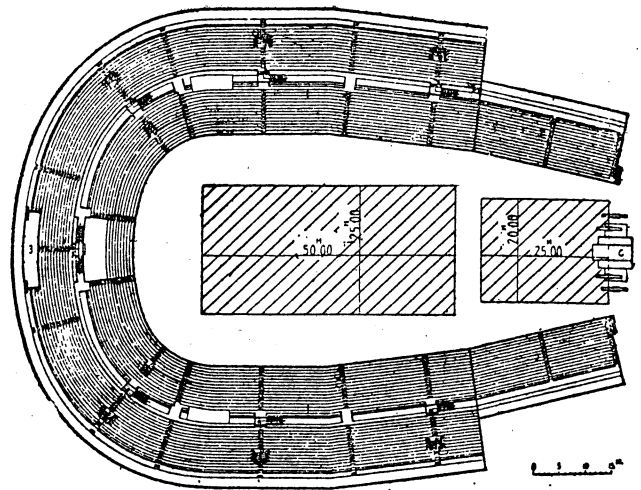


図 - 4 大阪プール

行われ、これらのプールは1949年には公認プールとして立派に更生し、ここに東京、大阪、名古屋における競技会開催の準備が完了した。これはプール管理者の並々ならぬ努力の賜であって、水泳施設の復旧は、かくして他の競技施設をリードすることができた。やがて、大谷プールの改造、呉市営プール、横浜野毛山プール、浜松市営プール、福井三秀プール、大阪プール、天理プール、千葉県館山プール、栃木県営プール、野沢温泉プール、会津若松プール大宮プール等のプールが建設された。住宅難、食糧難、思想動揺の時代にありながら、プール建設には何等反対する声もなく、各地で建設されたのは、水泳日本の基盤の広さを語るものであり、また、古橋橋爪両選手の活躍によって敗戦のウップンを晴らしたい国民心理の現れでもあったのであろう。しか

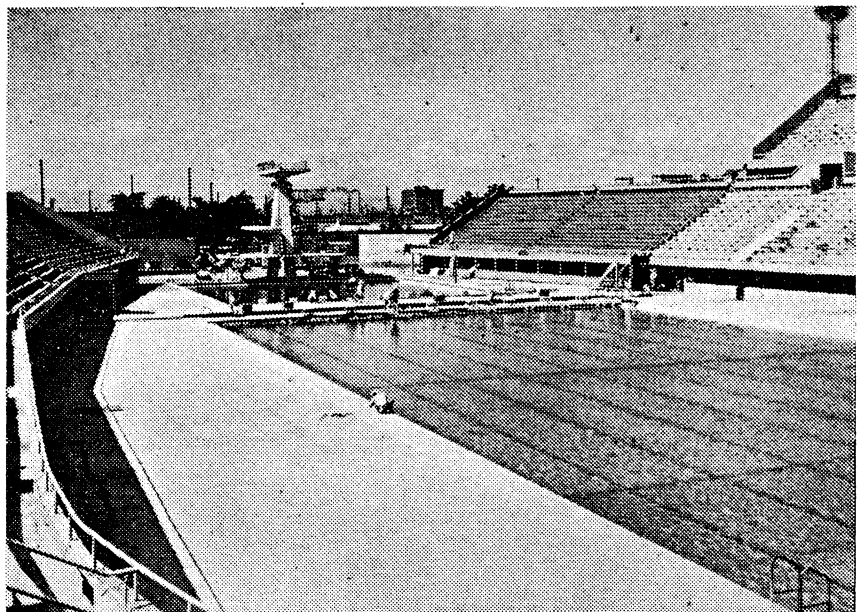
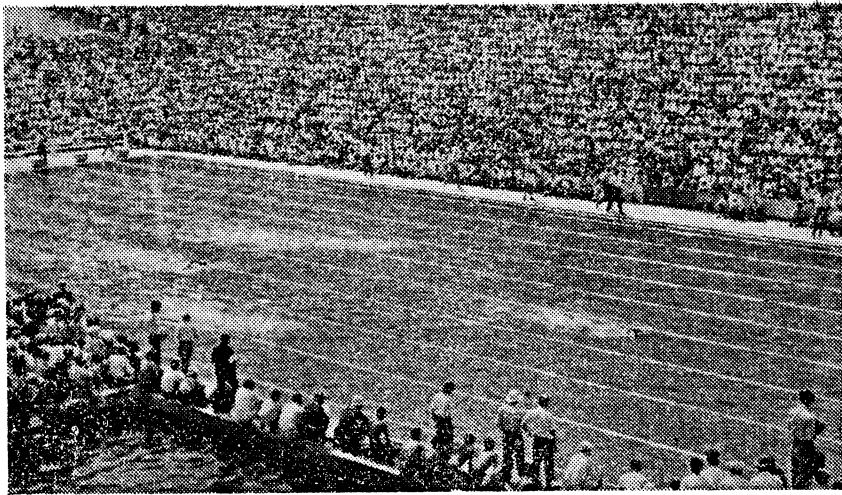
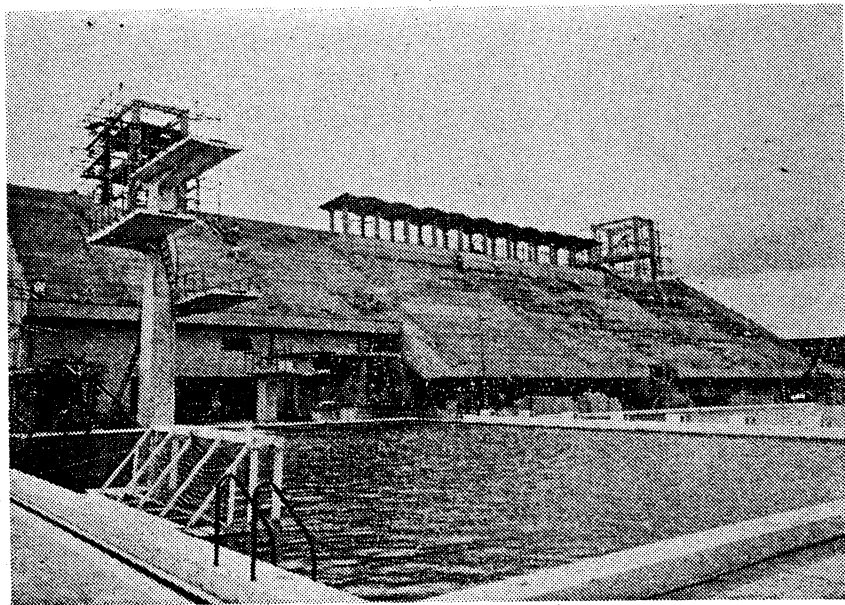
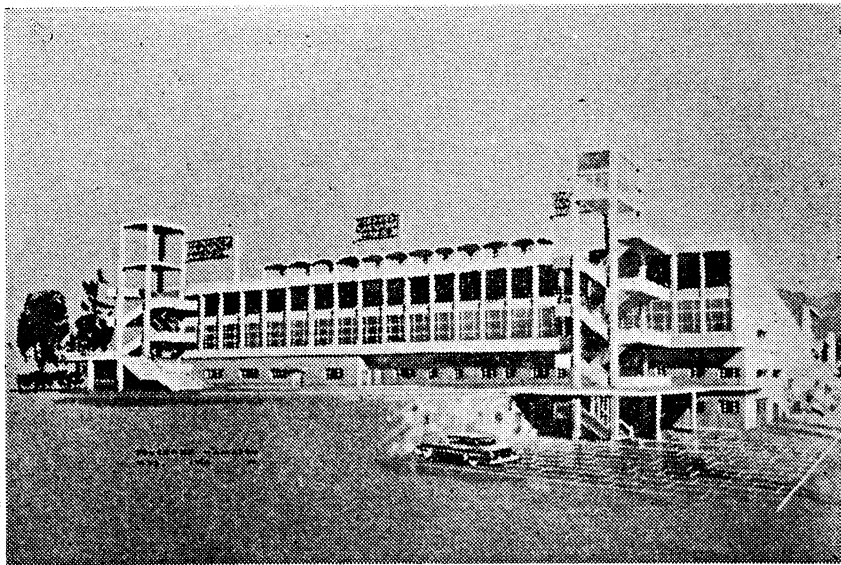


写真 - 3 大阪プール



写真一四 大阪プール（第3回国民体育大会）

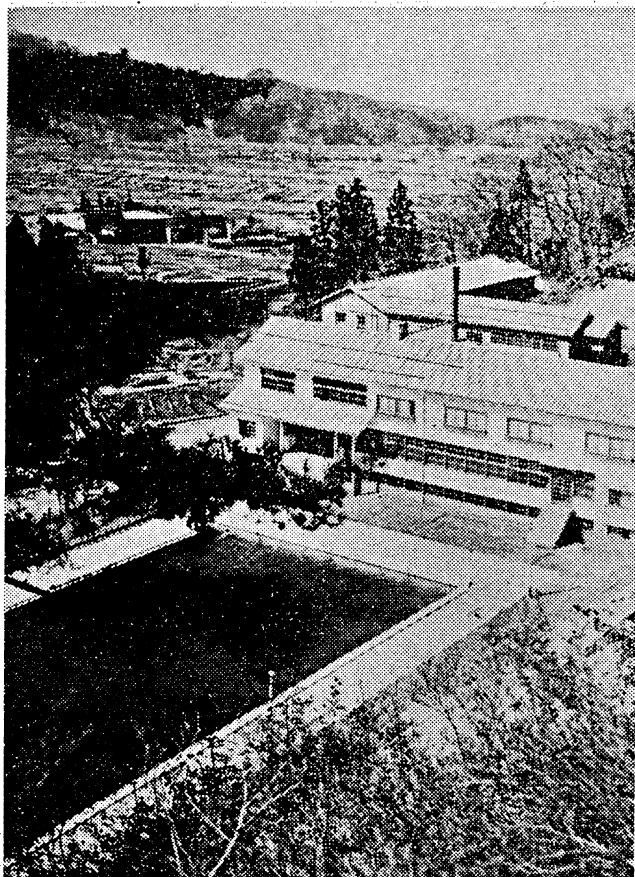


写真一五 天理プール

の苦勞は相当なものであった。その点、大谷プールと松本隆重氏、吳プールと望月明氏、野毛山プールと国富忠寛氏、振甫プールと杉戸清氏、福井三秀プールと熊谷太三郎氏、浜松市営プールと田畑政治氏、館山プールと川名正義氏、大阪プールと高石勝男氏、天理プールと中山正善氏、宇都宮プールと成田県総務部長、野沢温泉プールと神津藤平氏、若松プールと君島与一氏、大宮プールと大野元美氏学の組合わせを忘れてはならない。これらのプールは50米プールとして一応完備したプールであって、その多くは飛込プールを有し、世界のベスト10に入るものがある。これらのプールが、戦災復興の中で完成されたのも極めて印象的であった。これらの人々の努力を詳しく記すべきであるが、本文では紙数の関係で割愛し、ただ、建設当時を偲ぶここに敬意を表する者である。いまこれらのプールのうちで大阪プールについては、当時筆者が“水泳”誌上で“高石プール”と述べたほど、同氏の努力は筆紙に尽し難いものがあった。同プールの収容人員は25,000で、世界一の収容力を持ったプールであるが、卵形スタンドは水泳プールとしては新機軸であって、また、このようなプールが122日間で大阪の心臓部に完成したことも、特筆大書すべきことである。天理プールは、戦後初めて急速濾過装置を有するプールとして、デビューしたものであって、第9回国民体育大会会場に決定するや、4,000人収容のスタンドを築造し、そのスタンド機能には劃期的なものがあり、今後の利用に期待されている。また、野沢温泉プールは山深い信州高原の中に設けられたプールであって、最近では飛

し、実際の建設にあたり、その予算措置、木材、セメント、および鉄筋等の統制資材の手配等の舞台裏

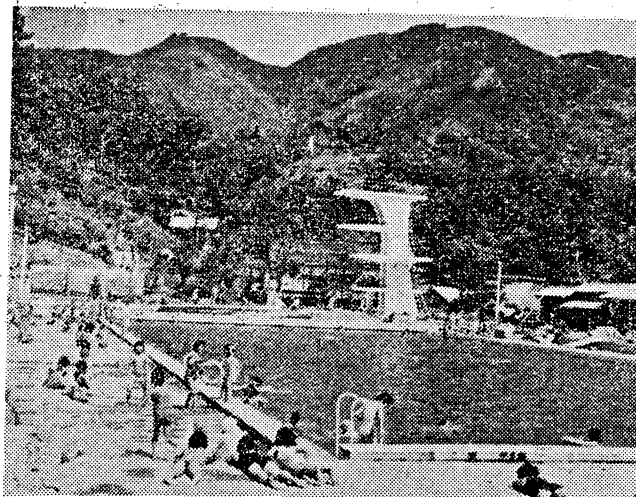
込プールが完成し、完備したホテルとともに環境のよさは、他にその例を見られないものがある。



写真一六 野沢温泉プール

戦後は、50米プールばかりでなく、25米プールの立派なものが各地につくられた。その例をあげると岩手水泳協会の瀬川政雄氏の尽力で完成した志戸平温泉プールを初めとし、千葉県松戸一中プール、東京目白プール、銚子プール、伏木小学校プール、行田市営プール、太田市営プール、大阪消防局プール富士小学校プール等のプールがモデル・プールとして建設された。ことに、最近では、プールの普及度の低いといわれていた青森、岩手、栃木、埼玉、富山、島根、鳥取等の諸県に多く設置されているのは、水泳人口の増加を図る水連には欲ばしい限りである。

現在プールが普及されているのは、東京、大阪、静岡、福岡、愛知、広島、高知、千葉、長野等の都、府、県であるが、全国にあるプールの総数は、小学校、工場にある簡易プールを含んで、筆者は3,000~3,500と推定している。このプールを平均400万円と仮定する場合、その総額は、



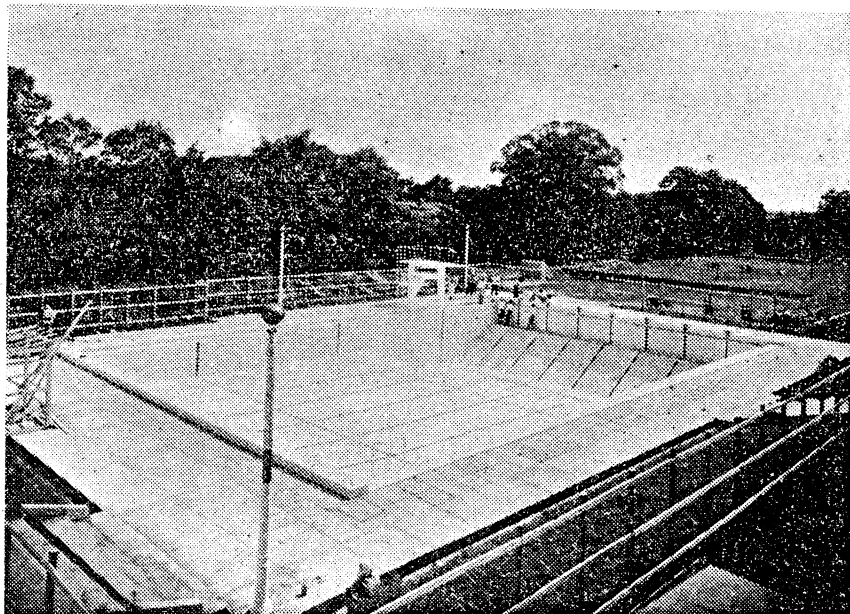
野沢温泉プール

$$(3,000 \sim 3,500) \times 400 \text{ 万円} \\ = 120 \text{ 億円} \sim 140 \text{ 億円}$$

となる。これは事実上、本連盟の管理財産であって、本連盟の責任もまた大といわなければならない。プールの建設を筆者が報告する度毎に、相好をくずして飲んでくれる田畑会長、藤田理事長、小池専務理事も、水連30年で蓄積されたこの連盟資産に感慨無量であろう。しかし、現在の学校数を文部省調査、及び調査課の報告によると、

小学校	22,036校
中学校	12,650〃
高等学校	3,257〃
短期大学	252〃
大 学	227〃

計 38,422校



写真一七 神戸一中プール

であり、1校1プール主義の夢なお遠く、市、町、村営プール、府県庁所在地における地方の中央的プール、および工場、会社プール等を考える場合、プールの普及には、なお余地あることを知らなければならぬ。

ここに、プール40年を回顧すれば、プールは明るく、広く、そして泳ぎやすく改良され、競泳プールについては松沢一鶴氏の指導のもとに一応の結論が得られ、目下、公認プールは全国で、

25米プール 40

50米プール 43

が数えられているが、今度は衛生的なプールとして、環境濾過装置を有するプールの普及、地域的配

置を考慮し、同飛込用プール、および水球用プールの建設を考えたい。

1958年のアジア・オリンピック大会、また、1964年のオリンピック大会の東京開催を予定して、水連では、水泳日本の名に恥じないオリンピック・プールの建設計画を樹ている。このプールは完全な環境濾過装置を有し、50米×22米の競泳プール、25米×22米の飛込プール、スタンド下には待望の50米×18米の明るい室内プールがあり、スタンド収容人員は35,000人で、水泳日本の象徴として、世界一を誇るものである。1日も早く、このオリンピック・プールが建設されることを念じつつプール50年を期待する。(1954・8・1)

“アンケート”

…… 加盟団体の聲 ……

- ① 水泳教室に対する意見と希望
- ② 県水連と高体連の関係
- ③ 水泳誌に対する希望と購読者増加対策

群馬県水泳連盟

① 現在計画されて居る方法を可とするも、予算、指導者、日時等の関係、及び日本中学校大会に連結させる将来への発展策に反する憂いもあるが、関東(東京、又は近接県)をも会場として、天理と同様な方法で開設すれば、参加者の立場から最大の量を集められるのではないかと思う。

② 両者が対立すべき関係のものでなく、学校教育の立場から存在する高体連と、スポーツ振興の立場から愛好団体として組織されている県水連とが、立場、立場における正しい有り方、歩み方を持寄り、相助けて行って、始めて県内の水泳が発展するのだと思う。

役員組織、行事の設立、会場の使用、プール使用

等に至っては、当然両者が一体となった形において審議され、運行されるべきものであると思う。

群馬県においては県水連発足以来、高体連は勿論、中体連との間においてトラブルが起きたことは一度もない。主催校の問題でも、中学校大会は中体連、高校大会は高体連であり、県水連は審判長以下、競技役員として常々参加しておる現況で、両者共感謝し、感謝されて行事を遂行して、おる状況である。

③ 加盟団体で開催した競技会記録に関して、従来のようにできるなら毎度発行の都度掲載していただいた方が、中央より離れた地方団体としては望ましいと思う。水泳指導者資格取得者、強化委員、普及部委員、測定委員等の地方と直接関係のある者の氏名を年1回一括して掲載していただきたい。

千葉県水泳連盟

① 水泳教室について、28年度第1回(奈良)の折、関東以北では、東京、千葉、神奈川、岩手の都県以外は参加しませんでした。これは経費の点で参加したくてもできなかった所(栃木その他)が多かったよしに聞いております。水泳日本の次代にならうべき第二陣の養成に目標をおいて、この企てを始められた日本水連が、少しでも経済的援助を(せめて旅費の半額でも)されれば、遠隔地からの参加も多くなり、内容の充実化ができると思います。

② 高体連とは連絡充分です。

③ 千水連として現在で充分です。

なお本県では中学水泳のレベルが高いため、50米

背泳10傑6位星野，同9位竜崎等の優秀選手が参加できませんでした。定員外でも10傑以内の実力（公式記録）を持つものは、特別参加を認めて頂きたいものです。

神奈川県水泳連盟

① 強化の一つの重点は、高校、中学校に献身的な先生、又は先学がいて指導することである。

連盟としてはそのような人を奨励する方向へ持って行くことが必要である。

② 県水連と高体連，県水連は、重点を高校に置くべきである。県毎に事情が違うから、実情に応じて県水連と高体連が実質的に一体となるよう努めること。(イ) 県連内に高校部を造り，高体連水泳部員を全部入れること。(ロ) 県連と高体連共同主催で高校競技を行う。(ハ) 高体連だけで高校競技を行い協力する。(神奈川県)

③ 各地水連から「水泳」誌を購読しそうな人の住所氏名を水連へ通報させ，日水連から直接送り，直接日水連より購読料を徴収する。

内容をポピュラーにして，店頭で売れるようにできないか。

山梨県水泳連盟

① 水泳教室について，できるだけ新しい地域において，なお且つ集合し易い会場を選定して頂くこと。各選手の多少なりとも必要とする経費の捻出を，一様に各県教育委員会に配慮して頂きたい。

② 県水連と高体連との関係は，本県におて，別に取り上げて申すことなし。お互いの理解の範囲を拡げることにより難なくまとまると思います。

③ 現在購読者が少ないのですが，本年より各学校に購読するよう重ねて頼みましたので，昨年より一段と増加致します。

静岡県水泳連盟

① 中学校は地区別に開催し，参加人員増加を希望いたします。なお高等学校の水泳教室も地区が，又は全国的に開催してほしいと思います。参加者は高等学校1，2年生中より推薦する。

② 本県は高体連理事中に水泳関係者が入っていますので，連絡等大変によく協力的です。意見として各県の中体連に日本水泳連盟として働きかけてほしいと思います。

③ 購読希望書を印刷の上，学校（小・中・高）及び会員に配布して，部数を確認した上印刷したらよいと思う。

豊橋水泳協会

① 当分現行の方針を認めるも，国際標準的記録に有するものの全日本選手権大会参加を容易ならしめるため，期間を7月中に実施し，優秀者を水連にて推薦し，予選会を兼ねたものとして参加せしめては如何。

② 当協会においては理事長，理事が高体連役員がなっており，理事長は水連代議員となり，いさかも支障なく，全く一体となり運営しております。

愛知水連にも理事を送り，県内に水連の協調を得ている。

③ 発行時がシーズンより遅れることが多いため，実際的成功を得ていない。20傑はできるだけシーズン終了後早く出して貰いたい。

なお20傑バッチの発行は，生徒の好刺戟となり，又中学校において校長以下関係教育の熱意に拍車を入れたものと思われま。20傑証ができれば幸いです。

愛知水泳連盟

① 中学標準記録を定め，以内の選手を推薦，指導記録会を従来通り開催を希望し，また同時に女子部も同方法にて始めて載き度く希望します。

② 当地は非常にスムーズに進んでおります。指導権は勿論水連にて一切を相談を受けて行っております。

③ 皆様の熱心な編集に感謝します。末だ水泳人にて「水泳」誌を知らない人が多いので，各地方大会にて販売するようにしたら如何でしょう。

石川県水泳協会

① 水泳教室に対して現行の実行を喜んでおりますが，全国的に広く実施できるよう考慮を求める。講師派遣か，又は一定実施要項に基いて，加盟団体で実施できるよう督例し，本部より具体的な援助方法を講じてもらいたい。

(県教育委員会等への懇願等)

② 当県は県協会と高体連とは万事協調して円滑に行っているが，北陸高体連協会等では，富山，福井県では加盟団体と高体連との関係が絶縁されてお

るようであるが、この点は全国的に注意の要があると思われる。

③ 水泳誌の内要については、今後次第に改良されると思われるが、各地水泳界の情况等も少し盛り込んでほしい。中央の報告ばかりのようなことになっている。購読者増加は大体の県宛の予定部数を示されれば、加盟団体で積極的に努力するが、ただ会では送本されただけの消化をしているにすぎない。

富山県水泳協会

① 水協と文部省が共催で行って頂いた方が、地方において参加すること始都合です。昨年のような状況では教育委員会で許可がないため出席不能となるためです。

② 本県においては高体連は協力的でよい。

③ 水泳誌に対しては、現在は記録集のような感がしてなりません。世界的な水泳日本としては余りにも貧弱である。月刊位にして年間まとめた記録誌位があってもよいと思う。協会にて購読者を募集すること。

福井県水泳協会

① 各県の希望により講師のを派遣願いたい。

② 本県の場合は高体連水泳部が加盟しておりますので、何等支障がない。

③ 「水泳」誌に対して、技術指導面の記事を多くしてもらいたい。購読者の希望はない。

三重県水泳連盟

① 引続き開催を希望。できれば各種目とも増員されたい。

② 高体連水泳部長を常任理事とし、理事長と緊密な連絡を取ると共に、大会は全て共催、(但し高校大会の場合のみ)とする。殊に地方に於ては凡ゆる大会の主力が高校選手なるに鑑み、高体連を中心とした考え方が必要と思われる。

③ 「水泳」誌は一般書店扱いも考えられるが、収支が予めつかぬ危険があるので、矢張り水連組織を通じ運動(販売)を進める外なし。

琵琶湖水泳協会

① 誠に結構な計画と存じます。ただ経済的な裏打がなされることに努力すべきで、参加生徒に負担をかけないこと。女子の参加もでき得よう研究さ

れたい。

生徒の経費については、地方協会としても捻出に努力いたしますが、県への交渉等に有力な背景として、御協力御工夫を願います。

② 県高体連より有な方を本協会の理事として入って戴き、協会としての計画、運営の一切に参加してもらい、又高体連の行事、計画は一切まかし、協会としてこれに全福の応援をすることになっていきますので、最も理想的にいらっていると信じています。

③ 単なる記録の報導等より指導法、泳法理論、プール建設と管理普及法、優秀選手を育てた人の経験等、広く水泳の基礎応用に涉って御紹介下さるよう希望いたします。又毎年世界記録を整理して発表(新記録のみでなく全種目)していただければ、利用の機会が多く便利だと考えます。

奈良県水泳連盟

① 水泳教室に参加する生徒に選ぶ日時が足りなかった本年は、開講の2週間位前をメ切にしていたきたい。教室できたえるというより、練習の方法を指導することに重点をおき、記録会はよいコンディションで受けられるようにしていただきたい。

② 本県では高校生が中心で行事が行われているので、両者の関係は切っても切れない関係にあり、高体連の大会は12,000円の事業費をもらって水泳が管している日本高校も高体連(共催)になれば万事好都合です。

③ 水泳誌が最近報告書になっているくらいが好ましいと思います。指導誌となるよう御配慮願いたい。それには優秀大学、高校、中学の練習の実情など、次々に発表されたり、プールが建設された時は、その工事の模様、経費捻出の方法など紹介されたり、スポーツ医学(紺野義雄氏の御意見は傾聴すべきものがあると思う)記事など、定説でなくとも、どしどし泳法に対する御意見など掲載され、読者の参考になるようにして頂きたい。購読者の増加には高校、中学校組織を利用され、1000部位は困難でないと思います。

大阪水泳協会

① 人数をもっと増し、できれば女子も加えていただきたく、費用がかかり過ぎる。もう少し安く参加できるよう配慮下されれば、……

② 当協会では協調態勢にあり、目下トラブルな

し。

③ 水泳誌のほしい希望者は多いのですが、名案なし。一定部数御送付あれば売れる見込です。

和歌山水泳連盟

① 水泳教室参加人員を以て水泳熱を計る尺度と考える如き思想は、先ずなくして貰いたい。それより先ず費用の解決を計られたい、なお莫大な費用と学校のチーム・ワークを無にして出場する学校にとって、それに優る効果の点に留意されたい。即ち「水泳教室に参加するより、学校で指導した方が効果が上る」との意見のある点を充分考え、コーチの指導力を重視されたい。

② 特別に意見なし。

③ 水泳専門的、技術的内容を盛られたい。今までの「水泳」は記録、会議等の報告のみである。これも必要であるが、「陸上マガジン」に教えられる点が多い。水泳技術の科学的研究、指導上の科学的方法等の論文等を主たる内容であってほしい。

兵庫県水泳連盟

① 中学生の全国大会実現の一課程として実施された水泳教室であるが、現在諸種の事情からして致し方ないと思う。然し文部省としても、もっと水泳の特殊性を認識して積極的に支持してくれてもよいと思う。文部省が各府県が教育委員会へ流される、この水泳教室の開校趣旨よりみて、なんとなく割り切れぬものが底流しているように思われる。成程中学校が義務教育の最終段階であるので、当局としてもこれが扱い方について慎重な態度で臨むことも致し方ないが、今一層積極的に地方に対し、派遣経費の点にしても、生徒の負担を軽減することは可能であり、参加数も増し、教室の将来性も前途洋々たること疑いなしです。今一層の文部当局の支援を希望する。

② 本県に於ては、水連と高体連との関係は理想的といってもよい程うまく行っていると思います。まづ本水連の組織の方面からいえば、水連組織の中に高校委員会があって、県下高校を地区別に分割して、その地区代表校の水泳部長、又は監督の先生を理事として高校委員を委嘱し、その委員長を水連の常務理事とし、高校に関する一切の事項はこの委員会が処理しております。

なお委員長には、高体連の水泳部長たる学校の水

泳部長にお願いしております。従って高体連の会合にはその先生が水連の代表者を兼ねて二重性格会議に出席し、水連の会議に於ては高体連の水泳部の代表として諸種の会議に出席して貰っており、非常にスムーズに事が運んでおります。

又競技会に於ては競技役員の殆んどを高校の水泳部長にお願いし、水連の競技委員会からはほんの4、5人が手伝う程度で参加し、高校先生方の自主的運営の実現に努力しております。

従って高体連と水連との相互信頼の度合は、他の競技団体に見られぬ程深く、諸種の事情遂行にも万事好都合です。もっともこれには高体連水泳部長が水泳連盟を非常によく理解してくれ、水連も高体連の組織、及び性格を充分理解しての組織を造っているためと思う。又その衝に当る人に人物を得たことも大きな理由の一つで、現在の委員長は私立灘高校の松尾焔一氏に御願しておりますが、この人はもともと柔道畑の人で、最初高校委員長となられた時は、水泳に関しては殆んど無知識といってよい位でしたが、熱意と努力で、6年の間に水泳人以上の理解者となり、競技会に際しても、プログラムの編成から記録の整理まで1人でやってくれるという状態で、こんな点に於ても水連と高体連との融和が愈々深くなる原因だと大いに誇りに思っております。

なお中体連との関係も、右と同様の行き方で進んでおり、中体連の会合には出来る限り水連側からも出席して、意志の疎通を図っております。

何れにしても学校体育連盟と競技団体間の融和については、教育委員会の体育課が大いに力瘤を入れて斡旋してくれているので、本県に於てはスムーズに行っていると思う。

③ 各方面から既に要望もあり、今一層指導面に力を入れてほしいと思う。なお発行度数も年4回を厳守してほしいと思う。合併号を出す場合は、臨時号として発行しては如何。指導面も初級、中級向きも多分に加味してほしい。これは強化委員会の事業の一つとして取上げては如何。

購読者増加の一方法として、各加盟団体の意向も加味した割当数を定めるか、店頭販売(委託販売)を考えられては如何。

大分県水泳連盟

① 文部省を通じて経費の件、負担。

地区的開催、コーチ充実。(コーチ1人当り選手数

過多にならぬよう)

東京都水泳協会

- ② 本県は連結良好。全国大会を共催希望。
- ③ 「水泳」記載事項は、誌上コーチ、たとえば放課後練習方法、有名選手の比較等。購読者増加はやります。

- ① 現在としては最上の方法と思う。年と共に人数も増えると思うが、できれば全国を幾つかの地域に分けて参加可能人員をふやすように希望する。
- ② 高体連との関係は円満。
- ③ 高校、中学生向きの記事をのせられたい。

編	集	後	記
---	---	---	---

◎3月に30周年記念号を出す予定で、原稿も手筈も殆んど整っていたが、急に昨年以來ペンディングになっていた「水泳年鑑」を先に出版することになった。結局記念号は5ヶ月遅れて、又々代議員会に漸く間にあった。こんな訳で御多忙中を無理にお願いした執筆者や、投稿者の方々には、御期待に反したことをお詫び致します。と同時に5ヶ月も待ったのに、引受けた原稿や投稿を間に合せなかった方々には、今後の御協力を切にお願いします。

◎記念号と銘うったので、水連の報告、日誌、競技会記録、外国記録等は除いたが、90頁の殆んどがボリュームのある読物ばかりなので、今までにない読み出のある本になった点を、30周年の記念として戴きます。キチョウ面とは凡そ縁遠い編集者なので、写真を撮ったり、あの原稿も欲しい、この原稿も等と、世間並のことは到底望めないで、読物一本に纏ったことだけでお許し願います。

◎田畑会長の日本選手権大会を、水泳の世界選手権大会に等しいものにしたい御意向、全く同感。

◎宮畑氏の研究発表は、水泳の科学的研究として好資料、自らオリンピックに泳ぎ、又監督として外征に加わり、多年育英にたづさわっているだけに、表現方法が至妙。

◎安部氏の世界水泳界の人物批評は、裏話をもっと聞かせて貰いたかった。キツ腹を抱える笑話が多かった筈。

◎水連の機関誌が年に2回しか出せないのは、洵にナサケない有様で、これは万難を廃して、尠くとも年4回は出さなければならない。そのためにはよい編集者、各加盟団体、及び水泳愛好者各位の熱心な参画を得て、皆に喜ばれるものに育成し、購読者数の増加を計らなければならないと思う。連盟の会計に余り大きな負担をかけないで、立派な本が、定期に年4回出せるようにしたいものだ。皆様の御指導と御後援をお願い致します。
(川田)

日本水泳連盟 機関誌 <b style="font-size: 1.2em;">水 泳 第 101・102 倍 大 号	昭和 29 年 8 月 10 日 印刷 昭和 29 年 8 月 14 日 発行 日本水泳連盟 編集兼 藤 田 明 発行人 印刷所 株式会社 成島印刷所 東京都中央区日本橋本石町 3-4 電話日本橋(24)1701・6509・7082	定価 100 円 (年 4 回発行予定) 4 回分 ¥200.- (予約申込者に限り頒布す) 1 年前金予約は郵送料不要。 東京都千代田区丸ノ内 2-2 丸ビル 722 区 発行並 日本水泳連盟 申込所 電話和田倉 (20) 3090・4885番
--	---	---

昭和29年度

水 泳 年 鑑

1954

目 次 案 内

日本水泳連盟規約

日本水泳連盟規約細則

1. トロフィー、優勝旗規則
2. 役員派遣に関する規定
3. 委任状書式
4. 欠席届書式

日本水泳連盟加盟団体事務所、及び代議員住所
氏名

日本水泳連盟役員名簿

本連盟の加盟せる団体、及びそれに対する代表
者

日本水泳連盟学生部会規約

日本水泳連盟学生部会支部役員、及び加盟校
日本水泳連盟学生部会役員

日本水泳連盟競技規程

第1編 競 泳 規 則

第2編 飛 込 競 技 規 則

- 飛 込 表
- 飛込競技図解表
- 飛込得点計算表

第3編 水 球 競 技 規 則

日本水泳連盟競技規程附則

1. 競泳池公認規則
公認競泳池表
公認測量者表
2. 記録申請書式
3. 記録証、及び最高記録に関する規程
4. 水上競技10傑選考規程
5. 日本水球代表軍選考規程
6. 飛込競技申込、及び審判用紙書式
7. 飛込規格

標 準 泳 法

水泳指導者資格検定規則

男子競泳日本記録

女子競泳日本記録

日本記録更新表

競泳世界記録

オリンピック記録

日本選手権大会

日本選手権保持者表

オリンピック優勝者表

アジア大会優勝者表

極東選手権保持者表

~~~~~  
A 5 判 240 頁 頒 価 ¥250.— 送 料 ¥50.—  
~~~~~

並 行 發 行 所
申 込 所

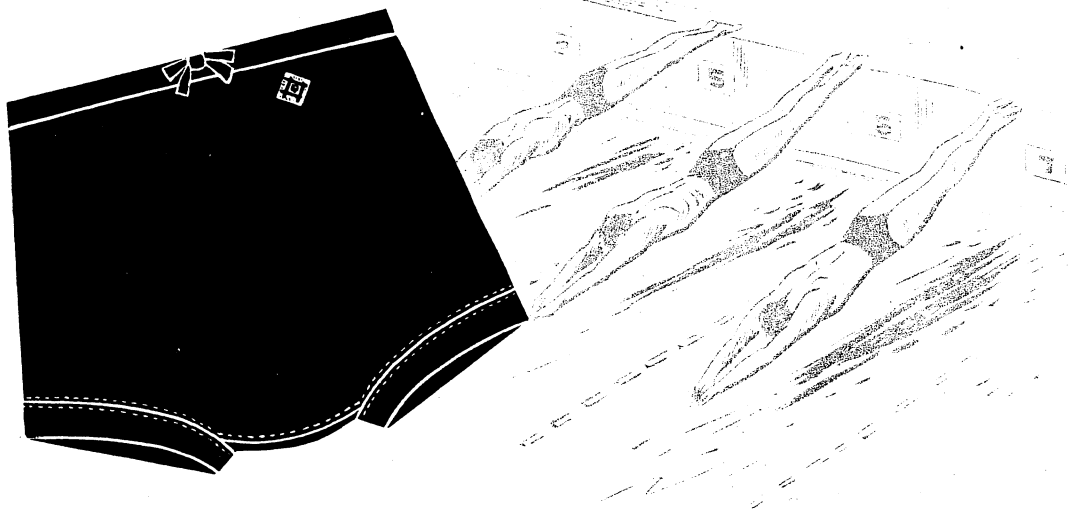
日 本 水 泳 連 盟

登 録 商 標

オリンピック 競泳着

全 國 有 名 運 動 具 店
デパート運動具部で販売

(水泳シヨーツ)



第 2 回 ア ジ ア 大 会 出 場 選 手 御 愛 用

日 本 水 泳 連 盟 御 推 奨



美 津 濃

本 社 大 阪 ・ 淀 屋 橋 東 京 支 店 神 田 ・ 小 川 町 工 場 { 大 阪 ・ 福 島
岐 阜 ・ 養 老